

兵庫県立 こども病院 年報 2021 VOL.52



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 21 VOL.52

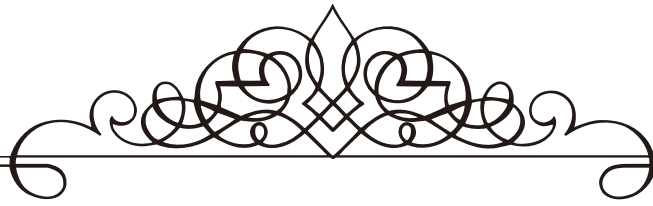


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

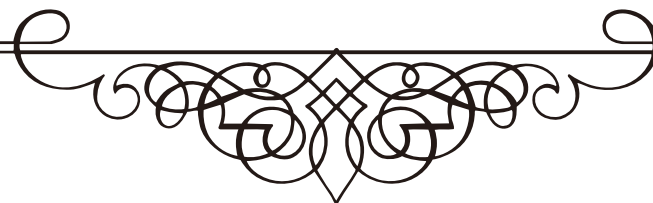


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



ご挨拶

兵庫県立こども病院 院長 飯島 一誠

2021年度の年報をお届けします。

平素より当院の運営や診療について、多くのご支援ご指導をいただいておりますことに厚く御礼申しあげます。本年報にて、当院の診療活動・学術研究活動・広報啓発活動の状況を皆様にご高覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。

2022年の年明けから始まった新型コロナウイルスオミクロン株の大流行（第6波）と、その第6波を上回る勢いで7月から始まった第7波で、兵庫県立こども病院も非常に大きな影響を受けました。

第6波、第7波では、その感染力の強さから、第5波までとは桁違いの患者数となり、兵庫県立こども病院にも多くの中等症及び重症の新型コロナウイルス感染症の患者さんが入院しました。2021年1月1日から2022年9月27日までに、計249名の新型コロナウイルス感染症の患者さんが入院しましたが、第6波以前の入院は27名だったのに対し、第6波では103例が、第7波では9月27日までで119例が入院し、今や、新型コロナウイルス感染症は、小児の病気になったと言っても過言ではないと思います。

当院は、救命救急センターであり、第6波、第7波では、新型コロナウイルス感染症を中心として、多く患者さんが救急外来に押し寄せる状況になり、内科系の医師が中心となって救急外来診療をサポートしました。さらに、入院患者数の急激な増加のために、急遽、新型コロナウイルス感染症対応病床を増やし、集中治療室での受け入れ数も最大限に増やして、何とか第6波、第7波を乗り切ることができましたが、これは、新型コロナウイルス感染症の診療にあたった医師、看護師らの頑張りのおかげであることはもちろんのこと、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦としての役割を果たす”という強い使命感のもとに、病院職員全員が一丸となって頑張ってくれたおかげだと考えています。

また、手術制限や入院制限、院内クラスター発生防止のための面会制限の強化等を行わ

ざるを得ない状況になり、患者さんやそのご家族にも多大なご負担を強いることになりましたが、当院では、この間も院内クラスターを起こすことなく診療を継続することができました。

今後もしばらくは、“新型コロナウイルス感染症と共存しつつ、これまでどおりの診療を続けていく”という難しい状況が続くと考えていますが、新型コロナウイルス感染症だけでなく、近い将来流行するであろう未知の感染症にも、しっかりと対応できるように体制を整備しつつ、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦”として、皆様のご期待に沿えるよう、また、難病に苦しむ子どもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるような研究を行い、積極的に情報発信していくことで、全国や世界から、より一層信頼される病院となることを目指して、全力を尽くす所存です。

最後になりましたが、本年報に企画・作成にご尽力をいただいた広報委員会の皆様に感謝いたします。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設内容	9
7 委員会等一覧	10

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

1 総合診療科	31
2 救急科	33
3 代謝・内分泌内科	35
4 リウマチ科	37
5 アレルギー科	38
6 神経内科	39
7 血液・腫瘍内科	41
8 循環器内科	45
9 腎臓内科	47
10 感染症科	49
11 臨床遺伝科	50
12 精神科	54
13 小児外科	58
14 心臓血管外科	62
15 脳神経外科	66
16 形成外科	69

17	整形外科	70
18	リハビリテーション科	72
19	眼科	75
20	耳鼻咽喉科	77
21	泌尿器科	80
22	小児歯科	81
23	麻酔科	82
24	新生児内科	84
25	産科	87
26	放射線診断科／放射線治療科	91
27	小児集中治療科	93
28	病理診断科	95
29	看護部	96
30	薬剤部	109
31	検査・放射線部（検査部門）	113
32	検査・放射線部（放射線部門）	116
33	栄養管理部	120
34	家族支援・地域医療連携部	125
35	ME室	129
36	医療安全管理室	130
37	感染対策室	132
38	褥瘡管理室	137
39	がん相談支援室	138
40	院内学級	139
41	医師事務作業補助者（医師クラーク）	140

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	141
2	雑誌発表	145
3	学会発表	184
4	報道	205
5	実習生・研修生受け入れ状況	206
6	院外合同研修	212

V	ボランティア	213
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
 - (2) 小児に関する医療相談機関であること。
 - (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
 - (4) 小児医療従事者の育成研修機関であること。
- などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年4月には小児救命救急センターに指定されました。

2. 沿革

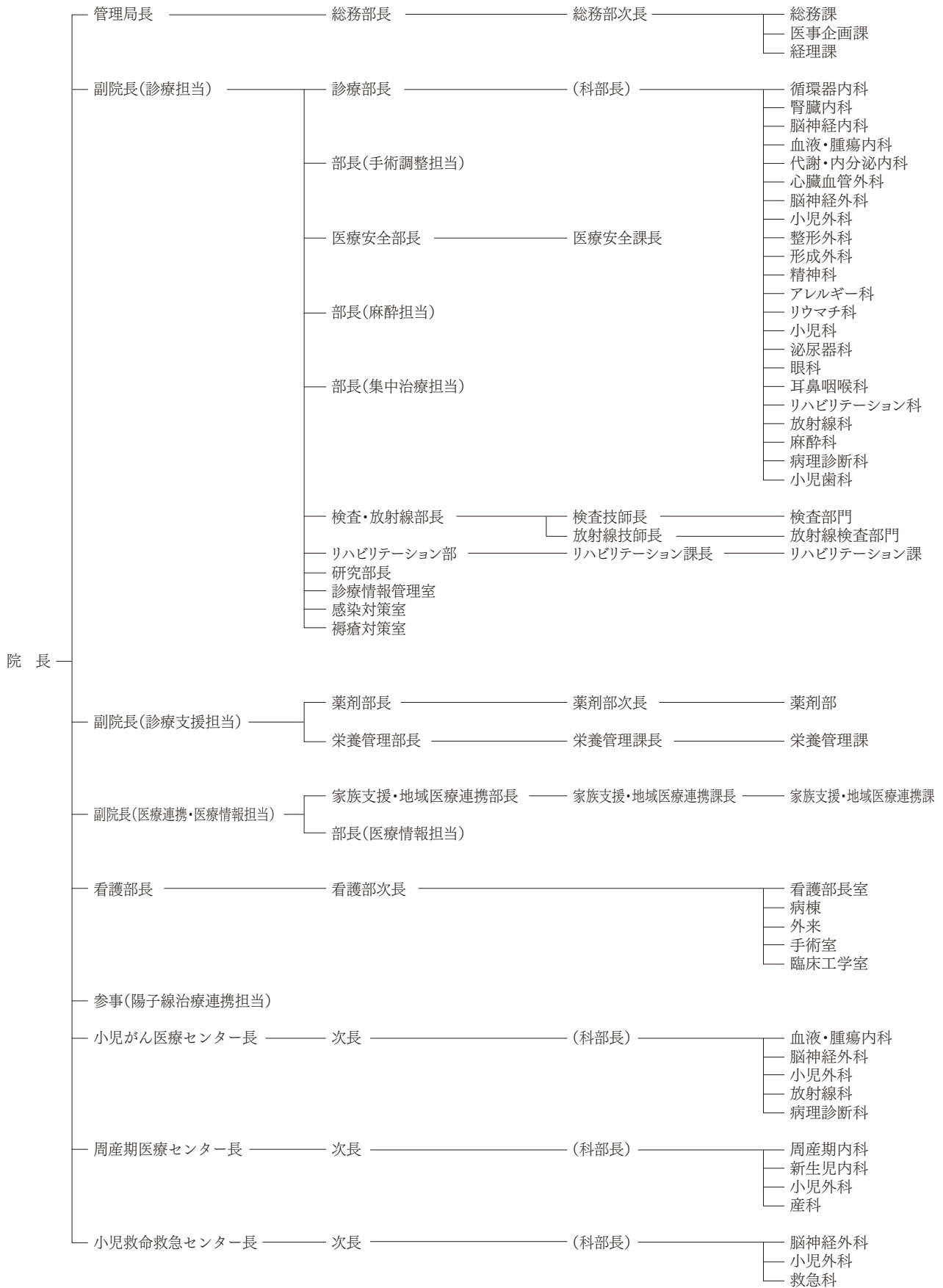
- | | | |
|-------|---|---------------------------------------|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 飯島 一誠） |
| (3) 所 | 在 | 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300（代表） |
| (4) 診 | 療 | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科 |
| | 科 | 周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科 |
| | 目 | 整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科 |
| | | 泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 |
| | | 麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 | 床 | 数 一般290床（稼働282床） |
| (6) 沿 | 革 | |
| | | 昭和45年4月1日 病院開設（管理者 平田 美穂） |
| | | 昭和45年4月30日 病院本館完成 |
| | | 昭和45年5月8日 診療開始 |
| | | 昭和45年7月23日 基準寝具実施（寝第295号） |

昭和 45 年 9 月 17 日	基準給食実施（食第 307 号）基準看護実施（看第 130 号）
昭和 46 年 12 月 28 日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和 47 年 2 月 1 日	基準看護一般特類変更承認（険第 98 号）
昭和 47 年 12 月 1 日	基準看護精神特類変更承認（険第 219 号）
昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日 兵庫県条例第 11 号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 6 7 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置

平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月 17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床 260 床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005 号 -511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007 号 -330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266 床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年 4月 1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年 5月 1日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加
平成29年 4月 1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人） 小児救命救急センターとして指定される
平成30年 2月 1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
令和2年 1月 1日	がんゲノム医療連携病院として指定される
令和3年 4月 1日	管理者変更（管理者 飯島 一誠）

3. 業 務 図

(1) 機構一覧表 (2022.3.31 現在)



(2) 担当医師表 (2022.3.31 現在)

- (1) 総合診療科 中岸保夫、水田麻雄、石田悠介、南川将吾
(2) 救急科 田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕
(3) 感染症内科 笠井正志
(4) 臨床遺伝科 森貞直哉
(5) 新生児内科 芳本誠司、三村仁美、岩谷壮太、玉置祥子、松井紗智子、
生田寿彦、大山正平、武岡恵美子、片岡大、泉絢子
(6) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作
(7) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、富永健太、小川禎治、亀井直哉、
松岡道生、三木康暢
(8) 腎臓内科 飯島一誠、貝藤裕史、稲熊洋祐
(9) 代謝内分泌内科 尾崎佳代、三星アカリ
(10) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、森健、石田敏章、岸本健治、齋藤敦郎、
神前愛子、中村さやか、植村優
(11) 集中治療科 長谷川智巳、黒澤寛史、青木一憲、制野勇介、長井勇樹、宮下徳久、
潮見祐樹
(12) アレルギー科 田中裕也
(13) リウマチ科 中岸保夫、水田麻雄
(14) 小児外科 畠山理、横井暁子、森田圭一、河原仁守、竹内雄毅
(15) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介
(16) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
(17) 形成外科 小野田素大、井手恵里子
(18) 整形外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉、森昭嘉
(19) リハビリテーション科 小林大介
(20) 泌尿器科 杉多良文、神野雅、春名晶子
(21) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香
(22) 眼科 野村耕治、中野由美子
(23) 精神科 関口典子、持田啓、玉岡文子
(24) 小児歯科 曾根由美子
(25) 産科 船越徹、平久進也、松本培世、荻野美智、窪田詩乃、金子めぐみ
(26) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典、乘本周平
(27) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、上嶋江利、
末田グリンドロド彩、廣瀬徹也、藤原孝志、田中康智、小西麻意、
神頭彩、南遼平
(28) 病理診断科 吉田牧子
(29) フェロー 佐藤聖子、松村治、上月愛瑠、合田由香利、仲嶋健吾 (総合診療科)
宮脇康輔、吉井拓眞 (救急科)
大竹正悟 (感染症内科)
西崎泰隆 (新生児内科)
本郷裕斗、上田拓耶 (脳神経内科)
永尾宏之、近藤亜耶、豊島由佳、広田幸穂 (循環器内科)
矢谷和也、大竹結衣 (腎臓内科)
洪聖媛 (代謝内分泌内科)
東條龍之介、井上翔太郎、西村明紘、藤川朋子 (血液・腫瘍内科)
市坂有基、糸数大吾、先瀨大、村田慧、伊藤由作、
當間圭一郎、藤原絢子、村田剛士、高橋裕人、時岡孝平、
石田貴裕 (小児集中治療科)
百々菜月 (アレルギー科)
合田由香利 (リウマチ科)
中谷太一、宮内玄德、黒田靖浩、高成田祐希、矢下博輝 (小児外科)
和田侑星、川端良 (心臓血管外科)
北澤大也 (整形外科)
松崎和炯、高瀬雄太 (泌尿器科)
河原佳奈 (眼科)
内山美穂子 (産科)
林大貴、三田村侑紀 (麻酔科)
(30) 専攻医 青木萌子、岡崎沙也香、太田亮、池谷紀衣子、遠藤理紗、小林孝生、
玉城倫、松本泰右、藪下広樹、真鍋修司、後藤弘樹、長谷部匡毅、
西藤知城、原田晋二、夏木茜、柏坂舞、田中陽菜、中田悠、
植松綾乃、沖野礼一、松木泰典、河合恵、牧仁美、
岡綾乃、大場祥平、中井愛理、黒木円花、鶴房里彩、徳永友里

(3) 外来診療スケジュール (2021.12.31 現在)

科目	曜日	月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	救急総合診療	◎南川	◎担当医	1.3週 ◎水田 2.4週 ◎佐藤	1.3週合田 2.4週上月 在宅外来 (三村)	◎松村	担当医 在宅外来 (南川)	◎中岸	仲嶋 在宅外来 (芳本)	◎石田	◎担当医	
	アレルギー		◎田中(裕) /百々	◎田中(裕) /百々	◎田中(裕) /百々		田中(裕) /百々		◎田中(裕) /百々	田中(裕) /百々	◎田中(裕) /百々	
	リウマチ			中岸	◎水田	中岸	水田		◎合田			
	感染症内科						◎笠井(正)					
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞			
	神経	◎豊嶋	丸山		豊嶋			◎本郷		◎丸山		
		担当医	本郷		石田			担当医		上田		
	循環器	田中(敏)		◎田中(敏)	田中(敏)	城戸		◎城戸	城戸	◎富永	富永	
		◎亀井	亀井	◎松岡		◎三木	三木			1.3.5週◎松岡 2.4週◎小川	1.3.5週松岡 2.4週小川	
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD不整脈)			田中 (カテーテル)	担当医(シナス) 1.3.5週松岡 2.4週小川 ベ-スメーカー			
	腎臓	◎貝藤	担当医	◎貝藤	◎貝藤	◎田中(亮)	担当医			◎貝藤	◎田中(亮)	
		◎担当医	担当医	◎稲熊	担当医	◎稲熊					1.3.5週担当医 2.4週◎稲熊	
代謝内分泌		検査 1.3週坊	◎三星	三星	◎尾崎/ 松本	尾崎/松本	◎洪/永井	洪/永井	◎尾崎	尾崎 三星長期フォロー		
新生児				◎玉置 三村		◎三村 岩谷		◎芳本 生田		◎大山 片岡		
血液・腫瘍	◎小阪	植村		◎小阪 化学療法のみ	長谷川 森	がんゲノム	◎石田	齋藤	◎長谷川 中村 化学療法のみ	森 岸本		
	長谷川	神前										
	神前(長期フォロー)											
外科	小児外科	◎森田	森田 横井	◎竹内	竹内	◎河原	河原	◎島山	島山	横井	横井	
	ヘルニア外来	1.3.5週◎島山 2.4週◎横井						1.3.5週◎森田 2.4週◎河原				
	特殊外来				在宅/ストマ 担当医/森田							
	心臓		◎大嶋 松久 日隈				◎大嶋 日隈				◎大嶋 松久	
	脳神経	◎小山 ◎頭の形外来	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎	
	形成			◎小野田 ◎井手 言語療法				◎小野田 ◎井手 言語療法				
	整形		◎小林	◎薩摩	◎小林	◎薩摩			◎衣笠	◎河本	二分脊椎	
放射線治療科		出水						副島				
眼科	◎野村 河原 牧 中野			コンタクト 外来	◎野村 河原 牧 柳沢	検査	◎野村 河原 牧 中野	検査				
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 ◎神野 ◎松崎 高瀬	検査	◎担当医			検査	(杉多) ◎神野 ◎松崎 高瀬	二分脊椎		
耳鼻咽喉科	◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼			◎大津	大津	◎勝沼	◎勝沼		
	1週・3週 補聴器		3週・4週 補聴器									
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根				◎曾根	曾根	◎田村	田村		
精神科	関口	関口	小笠原		◎持田	持田	◎関口	関口	◎関口	関口		
	◎持田	持田		◎玉岡	玉岡	◎玉岡	持田	◎持田	玉岡	◎玉岡		
産科	◎船越 金子/窪田	超音波 検査	◎船越 平久/金子	超音波 外来	◎平久 松本/金子	超音波 検査	◎船越 松本/窪田	超音波 外来	◎平久 松本/窪田	超音波 検査		

* 急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日9時~16時まで再診、9時~17時まで初診)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（令和4年3月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【初・再診料】

オンライン診療料 (オン診)第177号

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)
(一般入院)第1099号

【入院基本料等加算の施設基準】

臨床研修病院入院診療加算(協力型) (臨床研修)第95号
救急医療管理加算 (救急医療)第125号
妊産婦救急搬送入院加算 (妊産婦)第41号
診療録管理体制加算2 (診療録2)第255号
医師事務作業補助体制加算2(20対1) (事補2)第166号
急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上)
(急性看補)第194号

療養環境加算 (療)第183号
無菌治療室管理加算1 (無菌1)第26号
緩和ケア診療加算 (緩和)第29号
医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1含む)
(医療安全)第515号

感染防止対策加算1
(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算含む)
(感染防止1)第78号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第238号
褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア)第54号
ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第116号
ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第68号
入退院支援加算1 (入退支)第259号
入退院支援加算3 (退支)第259号
せん妄ハイリスク患者ケア加算 (せハイ)第121号
精神疾患診療体制加算 (精疾診)第34号
地域医療体制確保加算 (地医確保)第47号
呼吸ケアチーム加算 (呼吸チ)第39号
データ提出加算2 (データ提)第180号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料2
(※経皮的大動脈遮断術、ダメージコントロール手術)
(集2)第2号

(早期離床・リハビリテーション加算含む)
総合周産期特定集中治療室管理料 (※一酸化窒素吸入療法)
(周)第7号

小児入院医療管理料1 (プレイルーム加算を含む)
(小入1)第8号

食事療養費1 (食堂加算を含む) (食)第119147号

【医学管理等】

心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)
(遠隔ベ)第39号

がん性疼痛緩和指導管理料 (がん疼)第429号
がん患者指導管理料イ (がん指イ)第69号
がん患者指導管理料ロ (がん指ロ)第55号
外来緩和ケア管理料 (外緩)第19号
移植後患者指導管理料(臓器移植後) (移植管臓)第10号
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
(移植管造)第10号

小児運動器疾患指導管理料 (小運指管)第91号
乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア)第37号
院内トリアージ実施料 (トリ)第75号
開放型病院共同指導料 (開)第72号
ハイリスク妊産婦連携指導料1 (ハイ妊連1)第27号
ハイリスク妊産婦連携指導料2 (ハイ妊連2)第11号
薬剤管理指導料 (薬)第485号
医療機器安全管理料1 (機安1)第170号

【在宅】

在宅経肛門的自己洗腸指導管理料 (在洗腸)第9号

【検査】

持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
(持血測)第51号

持続血糖測定器加算
(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器をもちいる場合)

遺伝学的検査 (持血測2)第11号
(遺伝検)第9号
骨髓微小残存病変測定 (骨残測)第2号
がんゲノムプロファイリング検査 (がんプロ)第7号
抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査)
(抗HLA)第5号

ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 (ウ細多同)第4号
先天性代謝異常症検査 (先代異)第8号
検体検査管理加算(IV) (※造血器腫瘍遺伝子検査)
(検IV)第51号

国際標準検査管理加算 (国標)第8号
遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ)第6号
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
(血内)第32号

胎児心エコー法 (胎心エコー)第28号
ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第54号
脳波検査判断料1 (脳判)第3号
神経学的検査 (神経)第146号
補聴器適合検査 (補聴)第42号
小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第120号
CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)
(※大腸CT撮影加算) (C・M)第898号
冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第80号
心臓MRI撮影加算 (心臓M)第64号
小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M)第15号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第145号
無菌製剤処理科 (菌)第520186号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(II)
[※廃用症候群リハビリテーション料(II)]
(脳II)第475号
運動器リハビリテーション料(I) (運I)第356号
呼吸器リハビリテーション料(I) (呼I)第231号
障害児(者)リハビリテーション料 (障)第33号
がん患者リハビリテーション料 (がんリハ)第82号
集団コミュニケーション療法料 (集コ)第77号

【精神科療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専)第6号

【手術】

頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。) (頭移)第5号
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
(※植込型心電図検査) (ペ)第211号
(※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法) (大)第101号
胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第2号
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
(胃瘻造)第217号
(輸血I)第276号
(コ体充)第5号
(造設前)第77号
(凍保組)第1号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第261号
麻酔管理料(II) (麻管II)第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第90号

【病理診断】

病理診断管理加算1 (病理診1)第47号
悪性腫瘍病理組織標本加算 (悪病組)第29号

【歯科関係】

歯科矯正診断料 (矯診)第164号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医特殊修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系） 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本てんかん学会研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	シアトル小児病院（アメリカ合衆国） パース小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）

7. 委員会等一覧（2021年4月～2022年3月）

	委員会等名	会長・委員長	庶務担当	2021開催回数	2021活動内容と結果
1	幹部会	飯島院長	総務	毎月第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
	(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	飯島院長	総務	毎月第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
	(2)保険診療対策委員会	大嶋副院長	医事	12回 (毎月第4水曜日)	減点内容の精査、返戻に対する対応の検討
	①DPC コーディング部会	薩摩副院長	医事	4回	①部位不明・詳細不明コードの減少へ向けた取組検討 ②適切な傷病名コーディングについて報告と検証
	②在宅医療部会	畠山家族支援・ 地域医療連携部長	医事	0回	活動なし
2	医療事故防止対策委員会	田中医療安全部長	医事	12回 (毎月第4月曜日)	リスクマネジメント部会からの報告、重点目標の進捗状況等
	(1)リスクマネジメント部会	田中医療安全部長	看護	毎月第2火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
	(2)医療事故対策部会	大嶋副院長	医事	2回(随時)	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
	(3)MET 部会	田中医療安全部長	看護	7回 隔月第2火曜日	①起動症例の検討とフィードバック
	(4)医療機器安全管理部会	田中医療安全部長	看護	5回 隔月第3水曜日	①より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図る
3	倫理委員会	小阪副院長	総務	7回	詳細は別紙のとおり
	(1)臨床研究専門部会	長谷川小児がん医療 センター次長	総務	106回	106件の迅速臨床研究倫理審査を施行した
	(2)利益相反部会	森貞臨床遺伝科部長	総務	0回	
4	臓器提供に関する委員会	大嶋副院長	総務	0回	
	(1)臓器提供 院内コーディネイト部会	制野集中治療科医長	総務	10回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
5	脳死判定委員会	小山脳神経外科部長	総務	0回	
6	虐待防止委員会	関口精神科部長	地域	定例3回 事例発生 時73回	年間事例の報告 処遇検討
7	衛生委員会	薩摩副院長	総務	4回	職員の健康障害の防止対策等について審議
8	防災対策委員会	薩摩副院長	総務	2回	防災訓練の実施
9	医師及び看護師の 負担等軽減推進委員会	飯島院長	総務	2回	負担軽減計画の策定
10	職務発明審査会	飯島院長	総務	0回	
11	広報委員会	貝藤腎臓内科部長	総務	8回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行(年4回) ②2020年報の発行 ③診療のご案内2021の発行 ④病院ホームページの更新
12	研修教育委員会	中岸総合診療科部長兼 リウマチ科部長	総務	3回	①症例検討会、院内研修会の実施状況について ②各部会からの報告
	(1)臨床研修病院部会	中岸総合診療科部長兼 リウマチ科部長	総務	0回	
	(2)小児科専門医 研修プログラム部会	中岸総合診療科部長兼 リウマチ科部長	総務	毎月 第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価 見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
13	図書委員会	貝藤腎臓内科部長	総務	3回	①2022年度の電子ジャーナル、購入図書の検討 ②図書室本棚の雑誌類の保存期間、処理方法について
14	省エネルギー推進委員会	飯島院長	経理	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
15	国際交流推進委員会	田中救命救急センター長	看護	0回	
16	患者サービス向上等 推進委員会	安木総務部長	看護	6回	①ハートメッセージの検討 ②接遇研修の企画・実施・評価 ③きょうだいルーム運用の検討
17	治験審査委員会	杉多診療部長	薬剤	6回	詳細は別紙のとおり
18	受託研究審査委員会	杉多診療部長	経理	0回	
19	共同研究審査委員会	小阪副院長	総務	0回	
20	臨床研究支援室運営委員会	長谷川小児がん医療 センター次長	経理	3回	①こども病院・理研ジョイントシンポジウム及びサテライトセミナーについて ②診療科横断的包括同意システムの導入について
21	医療の質向上委員会	小阪副院長	医事	0回	活動なし

22	診療材料委員会	杉多診療部長	経理	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
23	医療用ガス安全管理委員会	高辻麻酔科部長	経理	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
24	情報システム管理委員会	大津部長 (医療情報担当)	医事	11回	①情報システムに関する要望についての審議と対応 ・電子カルテ端末故障時の対応について ・電子カルテ端末の調達について ・情報系インターネットの接続について ②情報システムの運用状況、障害状況の確認 ③ヘルプデスク対応実績報告
25	診療記録等管理委員会	芳本周産期医療センター次長	医事	6回	①災害時等における紙カルテの運用について ②質的監査(カルテ監査)の実施について ③量的監査(入院診療計画書及び退院サマリー不備件数)の実施状況について
26	院内感染対策委員会	笠井感染症内科部長	検査	毎月 第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
	(1)感染対策チーム(ICT)	笠井感染症内科部長	検査	毎週 木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
	(2)抗菌薬適正使用 支援チーム(AST)	垣尾薬剤部次長	薬剤	毎月1回 チーム会議 月2回 コアメンバー会議 週3回ケース カンファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研究会を2回開催 ③抗菌薬供給制限への対応 ④薬剤耐性菌対策の推進 ⑤抗菌薬の使用状況と耐性に関する国際調査(G-PPS)参加 ⑥ウイルス、抗菌薬投与量一覧表改訂
27	外来運営委員会	田中循環器内科部長	医事	5回	①当院かかりつけ患者への新型コロナウイルスワクチン接種について ②新型コロナウイルスワクチンの接種状況について ③院外処方箋調剤薬局送付のためのFAXサービスについて ④外来枠(集中治療科・臨床遺伝科)の新設について
	(1)遠隔診療検討部会	田中循環器内科部長	医事	0回	活動なし
28	病棟運営委員会	松本看護部長	医事	7回 (隔月第3木曜日)	①病床利用状況の報告 ②夏休み期間中の病床運営検討 ③COVID-19患者対応に係る病床調整 ④HCUの運用について ⑤コロナ病床等について
29	手術室運営委員会	野村部長 (手術調整担当)	看護	11回 臨時3回	①手術件数報告 ②手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討 ③効率的な手術室運営について ④安全、感染について ⑤機種保守点検、更新について
30	集中治療室運営委員会	香川部長 (集中治療担当)	医事	11回 (毎月第3火曜日)	①病床運用状況について ②特定集中治療室の運用について ③新型コロナウイルス対応について ④ヒヤリハット報告について
31	リハビリテーション 運営委員会	小林リハビリテーション部長	リハ	8回 (内早期離床WG3回、 喀痰吸引WG4回)	早期離床WG:早期離床プロトコルの見直し検討 プロトコル実施者へのアンケート アンケート集計および検討 喀痰吸引WG:こども病院版リハ職による 喀痰吸引マニュアル作成 リハ職喀痰吸引研修の実施 病棟でのリハ職による患児への 喀痰吸引研修実施
32	薬事委員会	小阪副院長	薬剤	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③新規採用医薬品(5品目)、中止医薬品(12品目)、後発医薬品への切替え(9品目)
	(1)化学療法レジメン部会	長谷川小児がん医療センター次長	薬剤	4回	①新規化学療法レジメンの承認等について ②作成レジメン報告について ③レジメンシステムの体表面積計算式について ④がん化学療法レジメン管理マニュアルの改訂について
33	放射線安全委員会	赤坂検査・放射線部長	放射	1回	①診療放射線安全管理部会活動について ②放射線業務従事者管理状況について ③漏洩線量測定結果について
34	臨床検査委員会	赤坂検査・放射線部長	検査	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望

35	栄養給食委員会	小阪副院長兼栄養管理部長	栄養	2回	①令和2年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②院内約束食事基準の改定について(日本食品標準成分表の改訂に伴う) ③食物アレルギー患者様の食事調査兼確認書様式変更(食物追加)について ④NST部会からの審議依頼・報告事項
	(1)栄養給食委員会 栄養サポートチーム (NST)部会	森田小児外科医長	栄養	7回	①NSTマニュアル(小児栄養管理の基礎知識)作成 ②トランスサイレチン(プレアルブミン)の院内測定の申請 ③乳化剤添加MCTオイル採用変更申請
36	輸血療法委員会	長谷川小児がん医療センター次長	検査	隔月 第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
37	褥瘡対策委員会	小野田形成外科医長	看護	11回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
38	クリニカルパス委員会	田中アレルギー科医長	看護	10回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②新規クリニカルパス作成・承認 ③電子パス適応に関する運用決定・マニュアル改訂
39	在宅推進委員会	丸山神経内科部長	地域	7回	①在宅療養支援に関する各システムの検討・修正 ②地域医療機関との連携 施設訪問・在宅医療者研修(5回/年)
40	呼吸療法委員会	香川部長(麻酔担当)	医事	12回	①呼吸ケアサポートチームからの活動(ラウンド・勉強会)報告 ②呼吸障害ケア部会からの活動(ヒヤリハット等)報告 ③気管切開用マジックテープの取扱マニュアルについて
	(1)呼吸器ケアチーム	青木集中治療科医長	麻酔	第1,3 金曜日	人工呼吸器装着者に対する ①診療支援 ②医療安全の向上および環境整備、マニュアル作成 ③勉強会などを通じた教育
41	小児がん医療センター 運営委員会	小阪副院長兼 小児がん医療センター 長	医事	5回	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②ひょうご県民がんフォーラムの開催案内・報告 ③小児がん拠点病院再審査に向けての取り組み検討 ④キムリア施設認定について ⑤小児がんQIの指標作成について
	(1)緩和ケア部会	池島麻酔科部長	医事	3回	①緩和ケアチーム チーム会議検討事項の報告 ②事例検討会の開催報告 ③緩和ケアマニュアルの改定について ④緩和ケア講演会開催について
	(2)アピアランスケア部会	長谷川小児がん医療 センター次長	医事	0回	活動なし
42	総合周産期母子医療センター 運営委員会	船越周産期医療センター 長	医事	12回 (毎月第1月曜日)	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会について ③産科入院患者のCOVID-19対応について
43	小児救命救急センター 運営委員会	田中小児救命救急センター 長	医事	12回	①救急患者受付状況(応需率・患者動向等)報告 ②ゴールデンウィーク・年末年始期間中の勤務体制検討 ③救急外来の整備検討 ④新型コロナウイルス患者受け入れ対応の検討 ⑤神戸市医師会急病患者診療実態調査への協力 ⑥小児救命救急センターでのヒヤリハット事例の検討
44	小児心臓センター運営委員会	大嶋副院長	医事	0回	活動なし
45	予防接種センター運営委員会	笠井感染症内科部長	医事	6回	①予防接種要注者に対する接種件数報告 ②医療相談(電話相談)の実施状況報告 ③予防接種外来の運営状況報告 ④予防接種基礎講座の開催準備検討
46	小児アレルギー疾患センター 運営委員会	小阪副院長	医事	2回	①アレルギー疾患医療従事者等研修会について ②兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会(報告)
47	ゲノム医療センター 運営委員会	森貞臨床遺伝科部長	医事	2回	①マイクロアレイ染色体検査の運用について ②全国遺伝子医療部門連絡会議について ③遺伝子関連症例検討について
48	移行期医療対策委員会	小阪副院長	医事	2回	①移行期医療センター設置に向けての検討 ②移行期医療支援ワーキング会議結果報告
49	地域医療支援病院委員会	(外部有識者)	総務	1回	地域医療連携実績等の報告

50	病院運営懇話会	(外部有識者)	総務	1回	運営状況等についての報告
51	ハラスメント防止委員会	種池管理局長	総務	0回	
52	仕様策定委員会	飯島院長	経理	8回	医療機器購入の為の仕様条件を審議

II 医事経理関係

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	小阪嘉之	5月12日 9:00～	3階総務前会議室	8	1 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症に対するバルガンシクロピルの投与(未承認薬の使用)
倫理委員会	小阪嘉之	6月9日 9:00～	3階総務前会議室	12	1 食物経口負荷試験で出現した腹痛に対するβ2刺激薬吸入の効果と安全性の検討 2 ステロイド抵抗性消化管GVHDに対するベドリズマブ治療 3 ステロイド抵抗性消化管GVHDに対するブデソニド腸溶性顆粒充填カプセル治療
倫理委員会	小阪嘉之	10月13日 9:00～	3階総務前会議室	12	1 難治性ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群患者に対するリツキシマブの投与(保険適応外治療) 2 高リスク髄芽腫の再発例に対するテモゾロミド、イリノテカン、ペバシズマブ併用療法による治療 3 再発・難治性ランゲルハンス細胞組織球症に対するクラドリピン+シタラピン併用治療 4 S.Y.様における、小児の症候性慢性心不全患者へのイバブラジン投与 5 出生後の新生児に対する治療中断について 6 無頭蓋症の早産分娩誘導と出生時の積極的蘇生を行わないことについて
倫理委員会	小阪嘉之	11月10日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 高アンモニア血症に対する安息香酸ナトリウムの投与 2 兵庫県立こども病院における臓器提供に関わる承認 3 再発ユーイング肉腫に対する維持療法としてのエリブリンメシル酸塩(以下エリブリン、商品名:ハラヴェン®)の投与 4 遺伝性疾患の出生前診断の流れについて 5 重篤な慢性肺疾患(CLD)の進行がみられる児に対する一酸化窒素吸入療法(iNO) 6 重篤な慢性肺疾患(CLD)の進行がみられる児に対する一酸化窒素吸入療法(iNO) 7 全身性エリテマトーデス症例に対するJAK阻害薬の適応外使用 8 高安動脈炎女児に対するJAK阻害薬の適応外使用 9 医療的ケア児における低血糖症の頻度ならびに臨床的特徴の解明
倫理委員会	小阪嘉之	12月18日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 超難治性けいれん重積状態に対するプロポフォールの投与について 2 超難治性けいれん重積状態に対する吸入麻酔薬の投与について 3 アトピー性皮膚炎罹患児へのデルゴシチニブ外用剤による皮膚バリア機能の検討
倫理委員会	小阪嘉之	2月9日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 横紋筋肉腫頭蓋内播種に対するTopotecan 髄腔内投与 2 オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群に対するリツキシマブ投与について
倫理委員会	小阪嘉之	3月9日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 難治性緑膿菌性肺炎に対するトブラマイシン吸入療法 2 治療抵抗性のIgA腎症に対するミコフェノール酸モフェチルの投与(保険適応外治療) 3 乳糜腹水疑いに対するインドシアニングリーン検査
治験審査委員会	杉多良文	4月16日	総務部前会議室	9	emapalumabの実施の適否について審議、また、現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。
治験審査委員会	杉多良文	6月18日	総務部前会議室	9	現在進行中の治験5課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。
治験審査委員会	杉多良文	8月13日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験3課題の継続について審議した。
治験審査委員会	杉多良文	10月15日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験4課題の継続について審議した。
治験審査委員会	杉多良文	12月17日	総務部前会議室	8	現在進行中の治験2課題の継続について審議した。
治験審査委員会	杉多良文	2月25日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験5課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した。

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別 患者統計

区 分				29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
外 来	a	診 療 日 数	日	244	244	240	243	242
	b	新 患 者 数	人	10,498	13,019	13,487	11,320	14,085
	c	一日平均新患者数	人	43.0	53.4	56.2	46.6	58.2
	d	延 患 者 数	人	93,614	99,518	103,384	97,305	110,330
	e	一日平均延患者数	人	383.7	407.9	430.8	400.4	455.9
	f	平均通院日数	日	8.9	7.6	7.7	8.6	7.8
入 院	g	稼 働 日 数	日	365	365	366	365	365
	h	稼 働 病 床 数	床	269	275	275	275	275
	I	入 院 患 者 数	人	6,478	6,213	6,814	6,139	6,704
	j	一日平均入院患者数	人	17.7	17.0	18.6	16.8	18.4
	k	退 院 患 者 数	人	6,505	6,202	6,793	6,161	6,689
	l	一日平均退院患者数	人	17.8	17.0	18.6	16.9	18.3
	m	延 入 院 患 者 数	人	85,354	79,417	87,299	80,604	80,935
	n	一日平均延患者数	人	233.8	217.6	238.5	220.8	221.7
	o	病 床 利 用 率	%	86.9	79.1	86.7	80.3	80.6
	p	病 床 回 転 数	回	24.1	22.6	24.7	22.4	24.4
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	415	393	393	511	560
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	824	797	894	907	935
	t	平均在院日数	日	12.1	11.8	11.8	12.1	11.1
	u	外 来 入 院 比 率	%	109.7	125.3	118.4	120.7	136.3
v	入 院 率	%	61.7	47.7	50.5	54.2	47.6	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m / (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

令和3年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来	a	診 療 日 数	日	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242
	b	新 患 者 数	人	1,098	1,162	1,239	1,455	1,300	1,117	1,124	1,129	1,209	1,170	938	1,144	14,085
	c	一日平均新患者数	人	52.3	64.6	56.3	72.8	61.9	55.9	53.5	56.5	60.5	61.6	52.1	52.0	58.2
	d	延 患 者 数	人	9,079	7,932	9,042	9,739	11,230	8,912	9,084	8,870	9,591	8,697	7,721	10,433	110,330
	e	一日平均延患者数	人	432.3	440.7	411.0	487.0	534.8	445.6	432.6	443.5	479.6	457.7	428.9	474.2	455.9
	f	平均通院日数	日	8.3	6.8	7.3	6.7	8.6	8.0	8.1	7.9	7.9	7.4	8.2	9.1	7.8
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275	275
	I	入 院 患 者 数	人	545	530	562	625	622	572	600	552	551	534	428	583	6,704
	j	一日平均入院患者数	人	18.2	17.1	18.7	20.2	20.1	19.1	19.4	18.4	17.8	17.2	15.3	18.8	18.4
	k	退 院 患 者 数	人	557	505	564	612	635	567	612	533	617	496	444	547	6,689
	l	一日平均退院患者数	人	18.6	16.3	18.8	19.7	20.5	18.9	19.7	17.8	19.9	16.0	15.9	17.6	18.3
	m	延入院患者数	人	6,269	6,397	6,767	7,377	7,288	6,863	7,214	6,835	6,828	6,647	5,675	6,775	80,935
	n	一日平均延患者数	人	209.0	206.4	225.6	238.0	235.1	228.8	232.7	227.8	220.3	214.4	202.7	218.5	221.7
	o	病 床 利 用 率	%	74.1	73.2	80.0	84.4	83.4	81.1	82.5	80.8	78.1	76.0	71.9	77.5	80.6
	p	病 床 回 転 数	回	2.0	1.9	2.0	2.2	2.3	2.1	2.2	2.0	2.1	1.9	1.6	2.1	24.4
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	50	24	41	46	73	56	52	43	48	41	33	53	560
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	78	75	84	93	77	85	80	83	85	71	38	86	935
	t	平 均 在 院 日 数	日	10.4	11.4	11.0	10.9	10.6	11.1	10.9	11.6	10.6	11.9	12.0	11.0	11.1
	u	外 来 入 院 比 率	%	144.8	124.0	133.6	132.0	154.1	129.9	125.9	129.8	140.5	130.8	136.1	154.0	136.3
v	入 院 率	%	49.6	45.6	45.4	43.0	47.8	51.2	53.4	48.9	45.6	45.6	45.6	51.0	47.6	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = m / (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

令和3年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	40	34	64	57	53	42	34	49	43	41	27	49	533
	再来患者数	855	678	813	853	1,168	872	822	778	906	768	730	1,122	10,365
	延患者数	895	712	877	910	1,221	914	856	827	949	809	757	1,171	10,898
腎臓内科	新患者数	16	10	6	21	36	20	10	8	10	10	8	11	166
	再来患者数	219	181	230	258	368	282	224	215	273	243	216	345	3,054
	延患者数	235	191	236	279	404	302	234	223	283	253	224	356	3,220
神経内科	新患者数	13	10	15	14	18	12	16	15	15	10	14	13	165
	再来患者数	384	337	359	365	445	286	385	419	356	375	336	356	4,403
	延患者数	397	347	374	379	463	298	401	434	371	385	350	369	4,568
血液内科	新患者数	9	3	9	4	2	9	7	5	9	6	1	10	74
	再来患者数	439	355	378	457	575	433	436	417	514	428	402	527	5,361
	延患者数	448	358	387	461	577	442	443	422	523	434	403	537	5,435
代謝・内分泌内科	新患者数	28	20	22	34	44	24	32	27	23	17	26	41	338
	再来患者数	594	544	599	621	738	660	606	599	659	605	579	783	7,587
	延患者数	622	564	621	655	782	684	638	626	682	622	605	824	7,925
新生児内科	新患者数	1	1	2	2	3	0	1	1	1	2	0	0	14
	再来患者数	170	129	142	187	176	176	180	174	171	178	181	179	2,043
	延患者数	171	130	144	189	179	176	181	175	172	180	181	179	2,057
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	114	98	111	90	106	117	107	97	96	107	64	93	1,200
	延患者数	114	98	111	90	106	117	107	97	96	107	64	93	1,200
脳神経外科	新患者数	38	30	41	51	63	54	51	68	90	56	47	54	643
	再来患者数	434	288	275	380	466	337	317	354	364	308	281	454	4,258
	延患者数	472	318	316	431	529	391	368	422	454	364	328	508	4,901
小児外科	新患者数	39	37	35	53	59	43	42	38	27	29	31	29	462
	再来患者数	414	353	393	434	559	436	396	387	442	391	356	525	5,086
	延患者数	453	390	428	487	618	479	438	425	469	420	387	554	5,548
整形外科	新患者数	76	69	90	80	90	73	62	73	101	64	49	87	914
	再来患者数	665	502	567	627	915	564	599	556	666	573	445	760	7,439
	延患者数	741	571	657	707	1,005	637	661	629	767	637	494	847	8,353
形成外科	新患者数	28	31	40	35	34	36	26	33	40	41	38	41	423
	再来患者数	278	203	281	272	340	291	275	276	306	294	237	377	3,430
	延患者数	306	234	321	307	374	327	301	309	346	335	275	418	3,853
精神科	新患者数	22	19	19	15	18	15	20	14	12	15	21	18	208
	再来患者数	350	341	357	352	398	342	422	405	423	357	339	409	4,495
	延患者数	372	360	376	367	416	357	442	419	435	372	360	427	4,703
アレルギー内科	新患者数	18	10	14	13	22	15	14	18	16	8	9	17	174
	再来患者数	362	312	393	426	480	356	406	412	409	385	368	474	4,783
	延患者数	380	322	407	439	502	371	420	430	425	393	377	491	4,957
リウマチ科	新患者数	5	2	7	4	3	3	3	1	0	3	3	6	40
	再来患者数	88	86	95	97	124	86	105	73	99	92	86	117	1,148
	延患者数	93	88	102	101	127	89	108	74	99	95	89	123	1,188

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	3	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	7
	再来患者数	4	4	14	3	13	3	6	4	7	7	6	4	75
	延患者数	7	4	15	4	13	3	7	5	7	7	6	4	82
臨床遺伝科	新患者数	13	4	6	6	10	11	4	7	8	3	6	2	80
	再来患者数	86	77	101	84	102	89	97	102	84	70	60	114	1,066
	延患者数	99	81	107	90	112	100	101	109	92	73	66	116	1,146
泌尿器科	新患者数	64	41	57	43	68	41	52	61	52	71	58	64	672
	再来患者数	435	313	415	425	521	444	416	394	419	416	374	483	5,055
	延患者数	499	354	472	468	589	485	468	455	471	487	432	547	5,727
産科	新患者数	22	20	28	15	18	17	9	16	25	13	13	16	212
	再来患者数	317	309	419	392	349	295	261	289	289	239	207	238	3,604
	延患者数	339	329	447	407	367	312	270	305	314	252	220	254	3,816
眼科	新患者数	34	34	46	46	46	52	42	44	45	49	39	52	529
	再来患者数	609	578	686	716	755	662	720	661	696	637	579	756	8,055
	延患者数	643	612	732	762	801	714	762	705	741	686	618	808	8,584
耳鼻咽喉科	新患者数	38	30	33	38	38	38	38	36	38	36	23	35	421
	再来患者数	401	296	356	380	434	340	366	360	370	328	286	408	4,325
	延患者数	439	326	389	418	472	378	404	396	408	364	309	443	4,746
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	延患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	54	43	54	51	70	61	59	47	55	49	28	47	618
	延患者数	54	43	54	51	70	61	59	47	55	49	28	47	618
総合診療科	新患者数	20	20	21	27	24	24	19	21	27	23	14	15	255
	再来患者数	223	215	264	261	318	296	286	286	320	260	256	324	3,309
	延患者数	243	235	285	288	342	320	305	307	347	283	270	339	3,564
救急科	新患者数	503	683	583	812	563	514	560	514	544	592	439	486	6,793
	再来患者数	333	440	371	434	376	276	348	309	354	335	282	285	4,143
	延患者数	836	1,123	954	1,246	939	790	908	823	898	927	721	771	10,936
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	新患者数	68	54	100	84	88	74	81	79	83	81	72	98	962
	再来患者数	152	88	130	119	134	91	121	127	104	82	85	108	1,341
	延患者数	220	142	230	203	222	165	202	206	187	163	157	206	2,303
合計	新患者数	1,098	1,162	1,239	1,455	1,300	1,117	1,124	1,129	1,209	1,170	938	1,144	14,085
	再来患者数	7,981	6,770	7,803	8,284	9,930	7,795	7,960	7,741	8,382	7,527	6,783	9,289	96,245
	延患者数	9,079	7,932	9,042	9,739	11,230	8,912	9,084	8,870	9,591	8,697	7,721	10,433	110,330

3. 月別科別入院患者数

令和3年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	30	30	36	43	40	33	36	31	37	33	26	42	417
	退院患者数	39	28	39	44	42	41	44	28	53	35	32	42	467
	延患者数	396	412	507	652	537	584	509	492	535	448	416	523	6,011
腎臓内科	新規入院患者数	9	4	6	8	7	6	5	8	6	2	2	9	72
	退院患者数	8	6	6	7	12	6	6	9	9	4	2	9	84
	延患者数	131	138	121	127	177	124	120	154	119	77	39	155	1,482
神経内科	新規入院患者数	15	8	13	8	10	7	10	11	10	8	8	14	122
	退院患者数	21	11	23	11	11	13	17	16	15	12	9	15	174
	延患者数	192	155	234	211	260	191	128	169	148	182	115	142	2,127
血液内科	新規入院患者数	91	108	80	98	99	93	99	108	94	91	94	86	1,141
	退院患者数	88	111	81	103	98	90	109	102	108	87	86	87	1,150
	延患者数	1,345	1,474	1,467	1,500	1,395	1,342	1,550	1,542	1,479	1,441	1,360	1,571	17,466
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	6	5	9	12	10	7	7	6	6	8	6	7	89
	退院患者数	8	7	9	12	11	8	7	7	9	6	6	9	99
	延患者数	84	56	50	65	52	35	43	31	43	30	29	36	554
新生児内科	新規入院患者数	42	38	43	48	38	47	42	43	45	37	20	45	488
	退院患者数	32	31	36	41	35	33	41	34	45	34	27	26	415
	延患者数	892	1,092	1,180	1,155	1,289	1,211	1,366	1,186	1,302	1,296	884	1,189	14,042
心臓血管外科	新規入院患者数	14	8	10	14	17	9	10	10	11	9	6	7	125
	退院患者数	13	13	10	17	19	10	12	8	16	8	8	6	140
	延患者数	205	189	135	159	136	115	152	166	160	127	119	76	1,739
脳神経外科	新規入院患者数	9	10	14	13	13	12	9	15	13	10	7	11	136
	退院患者数	16	12	9	13	14	16	15	15	17	12	9	9	157
	延患者数	130	82	68	155	158	119	80	94	117	86	51	79	1,219
小児外科	新規入院患者数	42	45	36	45	72	51	51	37	41	43	36	58	557
	退院患者数	44	40	44	42	75	58	57	40	36	45	35	57	573
	延患者数	373	363	319	395	598	393	418	310	382	475	452	502	4,980
整形外科	新規入院患者数	21	22	19	26	34	26	29	22	25	22	19	29	294
	退院患者数	31	24	23	23	43	22	36	23	34	18	27	24	328
	延患者数	270	203	223	332	353	344	331	225	254	278	278	248	3,339
形成外科	新規入院患者数	21	15	25	21	24	25	21	21	23	28	15	28	267
	退院患者数	27	19	23	21	25	23	24	22	27	24	22	25	282
	延患者数	144	92	108	114	138	173	177	149	141	112	98	162	1,608
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	49	29	57	59	57	54	59	52	58	45	44	58	621
	退院患者数	49	29	58	60	58	56	59	53	58	45	43	59	627
	延患者数	51	31	73	67	73	59	72	67	58	47	46	65	709
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	30	19	30	24	35	27	31	25	21	26	17	23	308
	退院患者数	31	18	29	28	31	32	29	21	27	24	16	25	311
	延患者数	127	79	120	106	134	112	146	133	96	93	86	114	1,346
産科	新規入院患者数	22	38	40	39	31	36	39	28	33	29	16	26	377
	退院患者数	29	32	37	40	37	32	36	31	35	29	14	32	384
	延患者数	496	556	619	635	544	578	649	620	580	512	494	565	6,848
眼科	新規入院患者数	26	26	21	26	30	31	27	24	28	26	21	23	309
	退院患者数	24	27	21	23	33	31	25	25	31	23	21	22	306
	延患者数	101	101	84	97	128	116	100	93	120	92	77	87	1,196
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	11	2	10	8	9	8	9	11	9	6	4	13	100
	退院患者数	12	1	8	9	8	10	7	13	10	7	4	11	100
	延患者数	58	9	55	58	57	40	59	70	56	43	22	77	604
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	89	104	95	106	69	82	94	74	74	92	70	84	1,033
	退院患者数	82	86	96	104	69	79	78	82	80	77	81	81	995
	延患者数	735	836	879	963	705	723	691	752	582	707	674	719	8,966
救急科	新規入院患者数	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1	1	7
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1	2	8
小児集中治療科	新規入院患者数	18	19	18	26	26	18	21	24	17	19	16	19	241
	退院患者数	3	10	12	14	14	7	10	4	7	6	2	8	97
	延患者数	539	529	525	585	553	604	622	580	656	601	434	463	6,691
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	545	530	562	625	622	572	600	552	551	534	428	583	6,704
	退院患者数	557	505	564	612	635	567	612	533	617	496	444	547	6,689
	延患者数	6,269	6,397	6,767	7,377	7,288	6,863	7,214	6,835	6,828	6,647	5,675	6,775	80,935

4. 年度別科別外来患者数

科名	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
循環器内科	新患者数	621	501	504	494	533
	再来患者数	8,924	8,983	9,048	9,442	10,365
	延患者数	9,545	9,484	9,552	9,936	10,898
腎臓内科	新患者数	159	176	168	170	166
	再来患者数	3,141	3,019	3,087	2,798	3,054
	延患者数	3,300	3,195	3,255	2,968	3,220
神経内科	新患者数	139	144	142	135	165
	再来患者数	3,289	3,707	3,884	3,837	4,403
	延患者数	3,428	3,851	4,026	3,972	4,568
血液内科	新患者数	71	90	108	77	74
	再来患者数	4,156	4,656	4,941	4,999	5,361
	延患者数	4,227	4,746	5,049	5,076	5,435
代謝・内分泌内科	新患者数	219	191	205	274	338
	再来患者数	6,013	6,297	6,709	6,775	7,587
	延患者数	6,232	6,488	6,914	7,049	7,925
新生児内科	新患者数	29	30	23	19	14
	再来患者数	2,271	2,272	1,981	1,880	2,043
	延患者数	2,300	2,302	2,004	1,899	2,057
心臓血管外科	新患者数	1	2	2	1	0
	再来患者数	1,097	925	847	951	1,200
	延患者数	1,098	927	849	952	1,200
脳神経外科	新患者数	308	340	390	512	643
	再来患者数	3,803	3,832	3,991	3,918	4,258
	延患者数	4,111	4,172	4,381	4,430	4,901
小児外科	新患者数	543	496	543	396	462
	再来患者数	5,144	5,027	5,291	4,914	5,086
	延患者数	5,687	5,523	5,834	5,310	5,548
整形外科	新患者数	1,023	1,061	1,074	885	914
	再来患者数	6,617	7,205	7,605	6,997	7,439
	延患者数	7,640	8,266	8,679	7,882	8,353
形成外科	新患者数	374	403	344	332	423
	再来患者数	3,006	3,396	3,595	3,428	3,430
	延患者数	3,380	3,799	3,939	3,760	3,853
精神科	新患者数	133	199	206	168	208
	再来患者数	3,879	3,985	4,243	3,837	4,495
	延患者数	4,012	4,184	4,449	4,005	4,703
アレルギー内科	新患者数	64	62	214	125	174
	再来患者数	1,203	1,430	3,039	3,663	4,783
	延患者数	1,267	1,492	3,253	3,788	4,957
リウマチ科	新患者数	28	39	37	23	40
	再来患者数	1,171	1,291	1,319	1,131	1,148
	延患者数	1,199	1,330	1,356	1,154	1,188

科名	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
感染症内科	新患者数	9	14	9	12	7
	再来患者数	121	101	120	107	75
	延患者数	130	115	129	119	82
臨床遺伝科	新患者数	52	73	73	70	80
	再来患者数	437	702	830	945	1,066
	延患者数	489	775	903	1,015	1,146
泌尿器科	新患者数	757	776	671	600	672
	再来患者数	4,982	5,182	5,308	4,641	5,055
	延患者数	5,739	5,958	5,979	5,241	5,727
産科	新患者数	196	147	172	184	212
	再来患者数	1,950	2,006	2,186	2,960	3,604
	延患者数	2,146	2,153	2,358	3,144	3,816
眼科	新患者数	499	505	615	501	529
	再来患者数	8,843	8,635	7,806	7,326	8,055
	延患者数	9,342	9,140	8,421	7,827	8,584
耳鼻咽喉科	新患者数	457	472	484	353	421
	再来患者数	4,932	4,908	5,040	4,071	4,325
	延患者数	5,389	5,380	5,524	4,424	4,746
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	550	59	40	5	1
	延患者数	550	59	40	5	1
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	10	1	0	1	1
	延患者数	10	1	0	1	1
麻酔科	新患者数	4	2	2	1	0
	再来患者数	836	771	695	547	618
	延患者数	840	773	697	548	618
総合診療科	新患者数	215	256	221	189	255
	再来患者数	2,082	2,698	2,863	2,649	3,309
	延患者数	2,297	2,954	3,084	2,838	3,564
救急科	新患者数	3,789	6,241	6,416	4,872	6,793
	再来患者数	3,142	3,792	4,127	2,983	4,143
	延患者数	6,931	10,033	10,543	7,855	10,936
小児集中治療科	新患者数	0	0	1	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	1	0	0
歯科	新患者数	808	799	863	927	962
	再来患者数	1,517	1,619	1,302	1,180	1,341
	延患者数	2,325	2,418	2,165	2,107	2,303
合計	新患者数	10,498	13,019	13,487	11,320	14,085
	再来患者数	83,116	86,499	89,897	85,985	96,245
	延患者数	93,614	99,518	103,384	97,305	110,330

5. 年度別科別入院患者数

科名	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
循環器内科	新規入院患者数	397	445	443	379	417
	退院患者数	456	484	503	457	467
	延患者数	5,941	6,134	6,032	5,907	6,011
腎臓内科	新規入院患者数	92	70	87	78	72
	退院患者数	109	86	104	87	84
	延患者数	1,481	1,141	1,155	1,305	1,482
神経内科	新規入院患者数	101	128	115	109	122
	退院患者数	173	178	181	141	174
	延患者数	2,577	1,982	2,464	1,818	2,127
血液内科	新規入院患者数	954	873	1,086	1,101	1,141
	退院患者数	965	885	1,106	1,122	1,150
	延患者数	14,642	16,099	18,124	17,392	17,466
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	50	30	81	71	89
	退院患者数	60	42	87	76	99
	延患者数	546	271	510	491	554
新生児内科	新規入院患者数	439	410	447	475	488
	退院患者数	404	357	396	415	415
	延患者数	14,185	11,568	13,582	13,652	14,042
心臓血管外科	新規入院患者数	133	119	104	117	125
	退院患者数	149	141	119	118	140
	延患者数	2,554	2,361	1,570	1,649	1,739
脳神経外科	新規入院患者数	202	176	156	163	136
	退院患者数	234	193	177	169	157
	延患者数	1,985	1,815	1,599	1,558	1,219
小児外科	新規入院患者数	764	707	752	497	557
	退院患者数	793	743	772	548	573
	延患者数	6,143	5,312	6,379	5,980	4,980
整形外科	新規入院患者数	296	296	324	316	294
	退院患者数	331	317	347	337	328
	延患者数	4,639	4,331	4,527	3,478	3,339
形成外科	新規入院患者数	221	238	225	225	267
	退院患者数	229	247	234	240	282
	延患者数	1,448	1,572	1,603	1,586	1,608
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	119	117	375	480	621
	退院患者数	122	118	392	486	627
	延患者数	205	149	606	601	709
リウマチ科	新規入院患者数	16	24	6	0	0
	退院患者数	17	25	6	0	0
	延患者数	195	317	35	0	0

科名	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	2	0	0	0	0
	退院患者数	2	0	0	0	0
	延患者数	4	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	337	314	318	276	308
	退院患者数	342	317	322	285	311
	延患者数	1,695	1,728	1,629	1,417	1,346
産科	新規入院患者数	345	230	276	342	377
	退院患者数	359	225	274	341	384
	延患者数	7,870	4,657	6,448	7,179	6,848
眼科	新規入院患者数	426	410	349	286	309
	退院患者数	426	410	348	290	306
	延患者数	1,805	1,685	1,419	1,154	1,196
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	136	147	171	98	100
	退院患者数	136	147	169	108	100
	延患者数	924	982	1,073	706	604
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	926	1,174	1,178	893	1,033
	退院患者数	1,043	1,203	1,148	840	995
	延患者数	8,773	9,723	10,721	8,466	8,966
救急科	新規入院患者数	206	25	13	7	7
	退院患者数	39	4	1	3	0
	延患者数	323	27	13	12	8
小児集中治療科	新規入院患者数	316	280	308	226	241
	退院患者数	116	80	107	98	97
	延患者数	7,419	7,563	7,810	6,253	6,691
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	6,478	6,213	6,814	6,139	6,704
	退院患者数	6,505	6,202	6,793	6,161	6,689
	延患者数	85,354	79,417	87,299	80,604	80,935

6. 年齢別患者状況

令和3年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	3,840	9.7%	1,031	20.5%
1歳以上～3歳未満	6,363	16.0%	921	18.3%
3歳～6歳未満	7,712	19.4%	864	17.2%
6歳～13歳未満	13,502	34.0%	1,293	25.7%
13歳以上～16歳未満	4,338	10.9%	354	7.1%
16歳以上	3,985	10.0%	561	11.2%
合 計	39,740	100.0%	5,024	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

地域区分	2年度		3年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	16,467	57.5%	18,483	58.5%
	姫路市	1,017	3.6%	1,089	3.4%
	尼崎市	344	1.2%	379	1.2%
	明石市	2,191	7.7%	2,393	7.6%
	西宮市	1,068	3.7%	1,124	3.6%
	洲本市	178	0.6%	196	0.6%
	芦屋市	429	1.5%	579	1.8%
	伊丹市	239	0.8%	244	0.8%
	相生市	47	0.2%	55	0.2%
	豊岡市	254	0.9%	266	0.8%
兵 庫	加古川市	651	2.3%	665	2.1%
	赤穂市	107	0.4%	107	0.3%
	西脇市	141	0.5%	152	0.5%
	宝塚市	353	1.2%	380	1.2%
	三木市	318	1.1%	330	1.0%
	高砂市	212	0.7%	201	0.6%
	川西市	94	0.3%	117	0.4%
	小野市	194	0.7%	184	0.6%
	三田市	567	2.0%	627	2.0%
	加西市	117	0.4%	115	0.4%
兵 庫	篠山市	116	0.4%	93	0.3%
	養父市	70	0.2%	65	0.2%
	丹波市	246	0.9%	246	0.8%

(2) 入院

地域区分	2年度		3年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	2,272	54.0%	2,516	55.0%
	姫路市	149	3.5%	172	3.8%
	尼崎市	53	1.3%	62	1.4%
	明石市	302	7.2%	326	7.1%
	西宮市	184	4.4%	176	3.8%
	洲本市	38	0.9%	38	0.8%
	芦屋市	71	1.7%	80	1.7%
	伊丹市	20	0.5%	27	0.6%
	相生市	5	0.1%	9	0.2%
	豊岡市	38	0.9%	47	1.0%
兵 庫	加古川市	91	2.2%	113	2.5%
	赤穂市	11	0.3%	16	0.3%
	西脇市	20	0.5%	20	0.4%
	宝塚市	37	0.9%	36	0.8%
	三木市	51	1.2%	57	1.2%
	高砂市	36	0.9%	36	0.8%
	川西市	12	0.3%	12	0.3%
	小野市	23	0.5%	32	0.7%
	三田市	85	2.0%	97	2.1%
	加西市	19	0.5%	20	0.4%
兵 庫	篠山市	15	0.4%	14	0.3%
	養父市	16	0.4%	8	0.2%
	丹波市	40	1.0%	48	1.0%

地域区分		2年度		3年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	177	0.6%	184	0.6%
	朝来市	107	0.4%	106	0.3%
	淡路市	245	0.9%	270	0.9%
	宍粟市	58	0.2%	68	0.2%
	加東市	165	0.6%	187	0.6%
	たつの市	164	0.6%	159	0.5%
	猪名川町	30	0.1%	20	0.1%
	多可町	54	0.2%	64	0.2%
	稲美町	100	0.3%	93	0.3%
	播磨町	100	0.3%	123	0.4%
	市川町	18	0.1%	25	0.1%
	福崎町	39	0.1%	43	0.1%
	神河町	20	0.1%	21	0.1%
	太子町	83	0.3%	83	0.3%
	上郡町	22	0.1%	18	0.1%
	佐用町	24	0.1%	27	0.1%
	香美町	43	0.2%	48	0.2%
	新温泉町	24	0.1%	22	0.1%
	その他	56	0.2%	124	0.4%
計	26,949	94.1%	29,775	94.3%	
近畿圏		938	3.3%	990	3.1%
近畿圏外		747	2.6%	809	2.6%
総 計		28,634	100.0%	31,574	100.0%

地域区分		2年度		3年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比
兵 庫 県	南あわじ市	31	0.7%	24	0.5%
	朝来市	41	1.0%	47	1.0%
	淡路市	17	0.4%	21	0.5%
	宍粟市	6	0.1%	10	0.2%
	加東市	31	0.7%	45	1.0%
	たつの市	22	0.5%	17	0.4%
	猪名川町	3	0.1%	3	0.1%
	多可町	10	0.2%	15	0.3%
	稲美町	11	0.3%	11	0.2%
	播磨町	11	0.3%	17	0.4%
	市川町	2	0.0%	0	0.0%
	福崎町	8	0.2%	7	0.2%
	神河町	5	0.1%	4	0.1%
	太子町	8	0.2%	12	0.3%
	上郡町	2	0.0%	5	0.1%
	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	13	0.3%	9	0.2%
	新温泉町	4	0.1%	3	0.1%
	その他	16	0.4%	36	0.8%
計	3,829	91.0%	4,248	92.9%	
近畿圏		190	4.5%	167	3.6%
近畿圏外		191	4.5%	160	3.5%
総 計		4,210	100.0%	4,575	100.0%

※実患者数

8. 公費負担患者状況

令和3年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,611	48.5%
2. 育成医療	64	1.9%
3. 養育医療	228	6.9%
4. 児童福祉（措置）	39	1.2%
5. 特定疾患	45	1.3%
6. 生活保護	82	2.5%
7. 精神保健	45	1.3%
8. 自 費	1,211	36.4%
合 計	3,325	100.0%

9. 時間外患者状況

令和3年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	2	3	2		3		2	1	2	5	1		21
	入院								1	1			1	3
	計	2	3	2	0	3	0	2	2	3	5	1	1	24
腎臓内科	外来										2			2
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
神経内科	外来					1		4	1	1		3		10
	入院			2		1	1	1	1					6
	計	0	0	2	0	2	1	5	2	1	0	3	0	16
血液内科	外来		1		3		5			2	1			12
	入院			2			1		2	1		1	1	8
	計	0	1	2	3	0	6	0	2	3	1	1	1	20
代謝・内分泌内科	外来													0
	入院					1								1
	計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
新生児内科	外来											1		1
	入院	11	19	21	15	16	24	14	12	16	17	11	19	195
	計	11	19	21	15	16	24	14	12	16	17	12	19	196
心臓血管外科	外来		2	3		1	1	2	1		1		1	12
	入院													0
	計	0	2	3	0	1	1	2	1	0	1	0	1	12
脳神経外科	外来						1					2		3
	入院			1										1
	計	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	4
小児外科	外来	3	2		2	4	3		2	1	6	1	1	25
	入院	3	4	1	1	1	2	2	2	2	2	2	4	26
	計	6	6	1	3	5	5	2	4	3	8	3	5	51
整形外科	外来	1	4	1	5	1			1	1				14
	入院		1		1	1	1	4		3	2			13
	計	1	5	1	6	2	1	4	1	4	2	0	0	27
形成外科	外来	1							1			1		3
	入院	1				1			1					3
	計	2	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	6
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来					1						1		2
	入院							1						1
	計	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
リウマチ科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来									1	2			3
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
臨床遺伝科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	3	2	2	1	1	4			1	4	1	4	23
	入院	2	1					1	1	1	1		1	8
	計	5	3	2	1	1	4	1	1	2	5	1	5	31
産科	外来	3	6	4	3	7	4	2	3	3	2	4	3	44
	入院	4	9	2	3	2	5	3	3	3	4	1	2	41
	計	7	15	6	6	9	9	5	6	6	6	5	5	85
眼科	外来						1			1	1	1		4
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	4
耳鼻咽喉科	外来			1										1
	入院													0
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
リハビリテーション科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来				2		1					2		5
	入院	18	25	21	22	16	26	23	16	20	25	15	22	249
	計	18	25	21	24	16	27	23	16	20	25	17	22	254
救急科	外来	587	866	621	916	618	548	619	557	612	643	489	537	7,613
	入院							1	1					2
	計	587	866	621	916	618	548	620	558	612	643	489	537	7,615
小児集中治療科	外来										0			0
	入院	5	6	1	8	8	9	4	10	3	7	8	6	75
	計	5	6	1	8	8	9	4	10	3	7	8	6	75
歯科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	600	886	634	932	637	568	629	567	625	667	507	546	7,798
	入院	44	65	51	50	47	69	54	50	50	58	38	56	632
	計	644	951	685	982	684	637	683	617	675	725	545	602	8,430

10. 小児がん患者入院延べ日数

令和3年度【総計】17,326日

経理状況

区 分		単 位	R2 年度 決 算	R3 年度				決算評価				
				最終予算	決 算	予算対比	前年対比	予算対比	前年対比			
業務量	入院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0				
		稼 働 病 床 数	床	282	282	282	0	0				
		病 床 利 用 率	%	78.3	79.4	78.6	△ 0.8	0.3	×	○		
		延 入 院 患 者 数	人	80,604	81,698	80,935	△ 763	331	×	○		
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	221	224	222	△ 2	1	×	○		
		新 規 入 院 患 者 数	人	6,139	6,340	6,704	364	565	○	○		
		平 均 在 院 日 数	日	12.1	11.9	11.1	△ 0.8	△ 1.0	○	○		
	外来	入 院 単 価	円	100,943	104,235	104,245	10	3,302	○	○		
		延 外 来 患 者 数	人	97,305	110,951	110,330	△ 621	13,025	×	○		
		1 日 当 たり 患 者 数	人/日	400	458	456	△ 2	56	×	○		
		外 来 単 価	円	18,150	17,452	17,811	359	△ 339	○	×		
		新 規 外 来 患 者 数	人	11,320	14,621	14,085	△ 536	2,765	×	○		
		紹 介 率	%	87.6	87.8	87.7	△ 0.1	0.1	×	○		
	手 術 件 数	件	3,075	3,267	3,201	△ 66	126	×	○			
	救 急 車 搬 送 患 者 数	人	1,467	2,082	2,082	0	615	×	○			
収 支	入 院 収 益	百万円	8,136	8,516	8,437	△ 79	301	×	○			
	外 来 収 益	百万円	1,766	1,936	1,965	29	199	○	○			
	そ の 他 医 業 収 益	百万円	149	150	132	△ 18	△ 17	×	×			
	* 医 業 収 益 *	百万円	10,051	10,602	10,535	△ 67	484	×	○			
	医 業 外 収 益	百万円	209	268	358	90	149	-	-			
	コ ロ ナ 空 床 補 償	百万円	229	217	250	33	21	○	○			
	長 期 前 受 金 戻 入 額	百万円	663	715	717	2	54	○	○			
	* 経 常 収 益 計 ① *	百万円	11,152	11,608	11,860	252	708	○	○			
	給 与 費	百万円	8,046	8,129	8,176	47	130					
	(うち退職給与金)	百万円	164	164	173	9	9					
	(うち退職給付引当金)	百万円	259	220	229	9	△ 30					
	(うち賞与引当金)	百万円	439	438	438	0	△ 1					
	材 料 費	百万円	2,277	2,410	2,438	28	161					
	(うち薬品費)	百万円	1,404	1,463	1,518	55	114					
	(うち診療材料費)	百万円	795	869	847	△ 22	52					
	経 費	百万円	2,117	2,127	2,147	20	30					
	減 価 償 却 費	百万円	1,195	1,252	1,247	△ 5	52					
	そ の 他 の 医 業 費 用	百万円	54	76	58	△ 18	4					
	* 医 業 費 用 *	百万円	13,689	13,994	14,067	73	378					
	医 業 外 費 用	百万円	191	156	156	0	△ 35					
	* 経 常 費 用 計 ② *	百万円	13,880	14,150	14,223	73	343					
	繰 入 前 経 常 損 益 ③ (① - ②)	百万円	△ 2,728	△ 2,542	△ 2,363	179	365			×	○	
	特 別 利 益 ④	百万円	125	194	200	6	75			-	-	
特 別 損 失 ⑤	百万円	424	157	157	0	△ 267	-			-		
純 損 益 (繰 入 前) ⑥ (③ + ④ - ⑤)	百万円	△ 3,027	△ 2,505	△ 2,321	184	706	×			○		
一 般 会 計 繰 入 金 ⑦	百万円	2,360	2,226	2,227	1	△ 133	-			-		
経 常 損 益 ⑧ (③ + ⑦)	百万円	△ 368	△ 316	△ 136	180	232	×			○		
当 期 純 損 益 ⑨ (⑥ + ⑦)	百万円	△ 667	△ 279	△ 93	186	574	×			○		
経 営 指 標	医 業 収 益 比 率	給 与 費 比 率	%	80.1	76.7	77.6	0.9			△ 2.4	×	○
		材 料 費 比 率	%	22.7	22.7	23.1	0.4			0.5	×	×
		(うち薬品費比率)	%	14.0	13.8	14.4	0.6			0.4	×	×
		(うち診療材料費比率)	%	7.9	8.2	8.0	△ 0.2	0.1	○	×		
		経 費 比 率	%	21.1	20.1	20.4	0.3	△ 0.7	×	○		
	経 常 収 支 比 率	%	97.4	99.1	99.0	△ 0.1	1.7	×	○			

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		(単位:床、%、人、千円)
	決算	算	決算	算	決算	算	決算	算	
入院日数	365	365	366	365	365	365	365	365	
外来日数	243	244	240	243	243	243	243	243	
稼働病床数	床	269	100.7	275	102.2	275	100.0	282	100.0
病床利用率	%	86.9	110.4	79.1	91.0	86.7	109.6	78.3	100.4
平均在院日数	日	12.1	96.8	11.8	97.5	11.8	100.0	12.1	91.6
延入院患者数	人	85,354	111.2	79,417	93.0	87,299	100.9	80,604	100.4
(1日当り)	人	234	111.4	218	93.2	239	109.6	222	100.5
新規入院患者数	人	6,478	114.0	6,213	95.9	6,814	109.7	6,704	109.2
延外来患者数	人	93,614	111.3	99,518	106.3	103,385	103.9	110,330	113.4
(1日当り)	人	385	111.3	408	106.0	431	105.6	456	114.0
新規外来患者数	人	10,498	142.9	13,019	124.0	13,487	103.6	14,085	124.4
入院収益	千円	8,041,629	81.8	8,008,664	99.6	8,139,808	80.6	8,136,380	81.0
(1日1人)	円	94,215	103.4	100,843	107.0	93,241	92.5	100,943	108.3
外来収益	千円	1,658,986	16.9	1,728,093	104.2	1,816,334	18.0	1,766,075	17.6
(1日1人)	円	17,722	96.5	17,365	98.0	17,569	101.2	18,150	103.3
その他医業収益	千円	127,805	1.3	135,282	105.9	145,252	1.4	148,526	1.5
* 医業収益計*	千円	9,828,420	100.0	9,872,039	100.4	10,101,394	102.3	10,050,981	100.0
医業外収益	千円	3,224,922	32.8	954,753	29.6	147,033	1.5	891,928	8.9
** 収益合計**	千円	13,074,336	133.0	14,139,696	143.2	11,006,392	77.8	11,151,861	111.0
給与費	千円	7,733,508	78.7	7,636,742	98.7	7,784,452	77.1	8,045,788	80.0
うち退職給与金	千円	(346,383)	3.5	(224,814)	64.9	(410,083)	4.1	(163,942)	1.6
うち退職給与引当金	千円	(140,353)	1.4	(81,196)	57.9	(144,067)	1.4	(258,546)	2.2
材料費	千円	2,091,234	21.3	2,110,350	100.9	2,153,370	21.3	2,277,197	22.7
経費	千円	1,944,053	19.8	2,060,295	106.0	2,021,656	20.0	2,117,082	21.1
減価償却費	千円	1,330,259	13.5	1,300,645	97.8	1,231,559	94.7	1,194,835	11.9
資産減耗費	千円	5,916	0.1	6,710	113.4	6,219	92.7	17,541	0.2
研究研修費	千円	50,180	0.5	50,370	100.4	53,070	0.5	36,324	0.4
* 医業費用計*	千円	13,155,151	133.8	13,208,354	100.5	13,250,327	131.2	13,688,767	136.2
医業外費用	千円	265,818	2.7	224,842	84.6	201,464	2.0	190,774	1.9
** 費用合計**	千円	13,451,850	136.9	13,411,141	99.7	13,556,429	101.1	13,879,541	138.1
差引損益	千円	△ 3,326,730	△ 33.8	△ 3,293,073	△ 33.4	△ 2,550,037	△ 25.2	△ 2,727,680	△ 27.1
一般会計繰入金	千円	2,321,662	23.6	2,454,642	105.7	2,385,617	23.6	2,360,494	23.5
経常損益	千円	△ 367,626	△ 3.7	△ 108,520	△ 1.1	△ 62,533	△ 0.6	△ 367,186	△ 3.7
当期純損益	千円	△ 377,513	△ 3.8	826,581	8.4	△ 164,420	△ 1.6	△ 666,088	△ 6.6

経常収支比率	%	114.6	-	123.6	-	101.9	-	99.5	-	85.2	-	97.9	-	101.6	-
医業収支比率	%	74.7	-	103.6	-	100.0	-	76.2	-	102.0	-	96.3	-	74.9	-

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

1. スタッフ

新たに水田医師、仲嶋医師、合田医師が入職した。

科長 中岸保夫（リウマチ科兼務）

医長 石田悠介（神経内科兼務）、水田麻雄（リウマチ科兼務）、南川将吾

フェロー 佐藤聖子、松村 治、上月愛瑠、合田由香利、仲嶋健吾

専攻医 余田愛香・松尾 進・儀間香南子・玉城 倫（4-6月）

齋藤 麗・朝貝芳貴・須藤徳子・岡崎沙也香（7-9月）

遠藤理紗・小林孝生・池谷紀衣子（9-12月）鈴木裕実子（9月）

松本泰右・簗下広樹・太田 亮・真鍋修司（1-3月）

2. 診療活動

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者も多い。総合診療科はこのような多様な医学的問題をもつ患者に対して多角的に診療を行うことを目的とした診療科である。具体的には、基礎疾患の有無に関わらず小児救命救急センターから入院となった患者（外傷などの外因性疾患から内因性疾患まで）の入院対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者やリウマチ科系患者の内科的管理、集中治療管理後の一般病棟管理、在宅医療の推進などを担っている。当科スタッフはリウマチ学会専門医・腎臓学会専門医・小児神経学会専門医などの様々なキャリアをもった医師集団であり、さらにはリハビリテーション科を含めた各診療科、看護部、栄養管理部、家族支援・地域医療連携部とも密に協力してチームとしての診療を行い、こどもにとって最善の医療を提供することを目標としている。

また、専攻医教育の充実も当科における重要な使命である。教育としては、週3回専攻医を対象としたスタッフによるレクチャーと専攻医主体の症例検討会を行い、積極的に学会発表や論文作成も指導している。また、当科スタッフ・フェロー指導の下で積極的に業務を行ってもらうことで On the job training の充実にも力を入れており、当院専攻医が必修となっている当科6か月研修の間に、総合的な小児診療が出来る小児科医育成を目指している。

コロナウイルス感染症患者の入院対応も当科が中心となって行っている。成人と比較して患者数と重症度は低いものの、患者には低月齢児や重篤な基礎疾患を有する児も含まれるため、丁寧な診療を心がけている。また、院内感染拡大による病院機能低下が起これば兵庫県小児医療全体に影響するため、感染症科と協力して感染防御にも注力している。

3. 総合診療科患者数

総入院患者数（2021年1月1日-2021年12月31日） 1091人

4. 主要疾患内訳 (DPC 主病名)

Covid-19 感染症	22
下気道感染症 (気管支炎、細気管支炎、肺炎など) (Covid-19 以外)	133
上気道感染症 (鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など)	42
気管支喘息	63
急性呼吸不全 (ARDS、急性 I 型 / II 型呼吸不全、慢性呼吸不全急性増悪など)	31
消化管感染症 (細菌性、ウイルス性)	40
腸重積症 (非観血的整復症例)	12
熱性けいれん (単純型、複雑型)	140
中枢神経感染症 (無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、脳膿瘍、急性脳炎 / 脳症など)	4
尿路感染症 (急性巣状細菌性腎炎を含む)	60
川崎病	52
ケトン性・非ケトン性低血糖症	10
化膿性リンパ節炎 (頸部、腋窩、鼠経など)	9
骨折	47
脳震盪	24
熱傷	7
薬物中毒	9

その他疾患

VIP 産生神経芽腫による下痢症、ADEM、横紋筋融解症、坐骨神経障害、高 IgE 症候群、緑膿菌性脂肪織炎、壊血病、GBS 髄膜炎、肺塞栓を伴う潰瘍性大腸炎、急性壊死性脳症 など

2. 救急科

1. 診療活動

小児救命救急センターは、すべての救急患者さんに対応するため、救急外来を担当する部門、救急外来から入院する比較的軽症の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用されてきた。そしてこれまでの三次救急医療の実績を踏まえて平成29年4月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。救急外来部門（救急科）に関しては、小児救命救急センター長の田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕、吉井拓真（フェロー）、宮脇康輔（フェロー）、鮫島智大（県立淡路医療センター併任）の計9名が担当した。救急患者の受け入れをより積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、毎年救急外来受診者数と救急車による搬送件数は増加してきた。しかし2020年は、予想もしなかった新型コロナウイルス感染症の拡大により、総受診者数は9697人、救急車による搬送件数は1293件に減少した。2021年引き続きコロナ禍の中で、感染症室でコロナ患者の外来診療を行い、総受診者数は、11888件、救急車による搬送件数は1603件に増加した。救急からの入院患者も1561件であった。救急外来患者の約40%を占める外因系疾患に対しては、外科系各科からの指導を受けながらできるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するようにした。また神戸市の救急隊からの応需率は98.9%と以前と変わりなく高い水準であった。近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度依頼件数も減少した。今後も病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、with/post コロナの時代の体制整備を進めたい。またWebも利用しながら、毎週1回7時30分から専攻医向けの勉強会や月1回科内で半日の勉強会を継続し、専攻医が中心となって救急診療に必要な実技トレーニングも定期的で開催している。また総合診療科や集中治療科とは定期的なカンファレンスを開催している。対外的には、兵庫県小児科医会の小児救急対策委員会の事務局を務めた。

2. スタッフ

救急科：田中亮二郎（センター長）、林卓郎（部長）、松井鋭（医長）、竹井寛和（医長）、
谷澤直子（医長）、大西康裕（医長）、吉井拓真（フェロー）、宮脇康輔（フェロー）、
鮫島智大（県立淡路医療センター併任）

専攻医：小林孝生（2021年2月）
池谷紀衣子（2021年3月）
青木萌子（2021年1、5、6、9月）
真鍋修司（2021年7月）
後藤弘樹（2021年8月）
松本泰右（2021年11、12月）

兵庫県立加古川医療センター救急科 森山直紀（2020年11月-2021年1月）

兵庫県災害医療センター救急科 安本圭秀（2021年9月-11月）

神戸市立西神戸医療センター小児科専攻医 宇治田風紗（2021年4月）

神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医 中田悠（2021年10月）

他の県立病院初期研修医の研修（1～2ヶ月）

藤谷健太郎（県立丹波医療センター）

向田諭史（県立淡路医療センター）

また神戸大学医学部の学生研修も受け入れた。

3. 診療統計

小児救命救急センター診療統計 2021年1月～12月

(1) 救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	714	650	842	960	1,268	1,078	1,403	1,071	910	1,045	941	1,006	11,888
救急入院患者数	103	102	112	142	160	140	167	137	121	135	126	116	1,561
救急車搬送数	96	96	109	154	164	135	159	127	130	160	142	131	1,603

(2) 平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平日	378	352	584	595	613	745	799	643	538	646	573	584	7,050
休日	336	298	258	365	655	333	604	428	372	399	368	422	4,838
合計	714	650	842	960	1,268	1,078	1,403	1,071	910	1,045	941	1,006	11,888

(3) 時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0:00～8:45	82	77	88	113	158	142	194	124	97	103	98	102	1,378
8:45～17:30	345	306	412	460	614	483	638	557	441	533	466	512	5,767
17:30～24:00	287	267	342	387	496	453	571	390	372	409	377	392	4,743
合計	714	650	842	960	1,268	1,078	1,403	1,071	910	1,045	941	1,006	11,888

(4) 地域別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	572	516	694	827	1,062	909	1,193	848	742	883	771	836	9,853
(東灘区)	90	91	102	115	178	143	202	129	91	132	102	120	1,495
(灘区)	81	71	81	112	109	122	131	98	83	96	104	104	1,192
(中央区)	80	74	111	128	154	161	168	113	108	136	111	118	1,462
(兵庫区)	47	36	67	83	108	79	105	88	60	89	69	79	910
(北区)	67	56	74	91	127	104	142	102	103	116	67	100	1,149
(長田区)	36	26	59	51	87	66	86	75	75	80	66	74	781
(須磨区)	57	55	83	78	93	97	129	94	89	86	86	94	1,041
(垂水区)	72	58	60	85	126	80	131	95	81	77	101	90	1,056
(西区)	42	49	57	84	80	57	99	54	52	71	65	57	767
阪神南地域	38	41	39	29	56	53	74	61	49	50	52	40	582
阪神北地域	11	13	14	15	17	16	10	25	13	11	15	17	177
東播磨地域	47	33	40	42	74	32	50	60	35	42	47	42	544
北播磨地域	15	12	20	15	26	23	25	17	25	20	11	15	224
中播磨地域	8	10	7	7	11	11	4	13	11	5	9	7	103
西播磨地域	3	3	1	4	2	5	1	1	0	2	1	0	23
但馬地域	1	3	2	4	2	6	2	1	3	4	1	3	32
丹波地域	2	2	5	3	4	0	7	6	4	5	7	4	49
淡路地域	3	2	3	1	7	6	8	8	10	7	1	5	61
兵庫県外	14	15	17	13	7	17	29	31	18	16	26	37	240
合計	714	650	842	960	1,268	1,078	1,403	1,071	910	1,045	941	1,006	11,888

3. 代謝内分泌科

1. 人事異動

部長（科長）	尾崎 佳代
医長	永井 正志（8月まで、その後非常勤） 松本 真明（淡路医療センターより週2日）
フェロー	三星 アカリ（9月より医長へ） 洪 聖媛（10月より）
非常勤	坊 亮輔（神戸大学より月2回外来応援）

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療を行った。淡路医療センターから週2回 松本 真明医師が診療応援に入っている。永井 正志医師の退職に伴い、三星 アカリ医師が9月より医長となった。10月からフェローとして神戸大学から洪 聖媛医師が赴任した。

また、専攻医数名が1ヶ月間のサイクルで研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟に関わる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は491名と103名増加した。全ての分野でまんべんなく増加していた。入院患者数も96名と1名増加した。地域の専門病院として今後もその役割を果たしていく所存である。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

糖尿病の治療においては、多職種によるカンファレンスを定期的開催して、すべての職種において知識・技術の向上に務めた。今年度も引き続き、社会的背景及び家庭環境の劣悪な家庭、精神状態の不安定な家庭など、多職種カンファレンスに精神科にも加わっていただき適時アドバイスをいただいた。その様な症例は増加の一途をたどっているため、今後も定期的開催予定である。

外来では先天代謝異常症に特化した代謝外来を開設した。神戸大学から坊医師が赴任し、月2回外来を行い、代謝異常症の患者様にも対応した。

当科は、患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度は昨年度に引き続きSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLongGH治療の治験に参加した。臨床研究としてXLH(低リン血症性くる病)の研究に参加した。XLHの新薬が発売され、治療を導入することにより、QOLが改善した。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者の生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。本年はGNAS遺伝子異常の偽性副甲状腺機能低下症関連疾患の詳細な症例報告の論文発表を行った。学会報告として、鞍上部胚細胞腫瘍治療前後のデスマプレシン補充量の変化は血液腫瘍科が行う化学療法、放射線療法中のDDAVP必要量を分析することで治療によってDDAVP分泌が回復する可能性を報告した。第2の研究は、小児2型糖尿病患者の肥満有無別の治療予後では肥満がある患者のリスクが浮き彫りとなる結果であった。Mini-pubertyの遷延を認めた新規SF-1遺伝子変異を有する男児の1例と尿中有機酸分析がHMG-CoA合成酵素欠損症の発症早期診断に有用であった乳児の一例はどちらも診断をすることにより、今後の治療方針が明確となった。最後に脳弓下器官特異的抗体反応陽性のROHHAD症候群の一例は、県立広島病院宇都宮先生に脳弓下器官特異的抗体の測定を依頼することにより、自己免疫の関与が

示唆された貴重な症例報告となった。当科は今後も計画的に5年後10年後を見据えた臨床研究を立ち上げていく予定である。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	148
甲状腺疾患	27
性腺疾患	173
副腎	7
糖代謝異常	14
肥満	22
マスキング	0
先天性甲状腺機能低下症	23
先天代謝異常症	0
先天性副腎過形成	2
その他	70
計	491

入院患者

	患者数
低身長症	34
糖代謝異常	21
性腺疾患	11
甲状腺疾患	3
副腎疾患	12
その他	15
計	96

4. リウマチ科

1. 人事異動

本年は総合診療科兼務の水田麻雄医師、合田由香利医師がそれぞれ4月から赴任し、計3名体制で診療を担当した。

2. スタッフ

部長（科長）	中岸 保夫
医長	水田 麻雄
フェロー	合田 由香利

3. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、ベーチェット病、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として協力して診療を行っている。また遠方の患者さんは地域の小児科の先生方、眼科の先生方、移行期においては成人リウマチ科の先生方との連携を積極的に行うなど、他施設との良好な協力関係の構築に努めている。

治療に関しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。また小児リウマチ性疾患は依然として病態が不明な部分が多いため、全国の小児リウマチ専門医と協力して病態解明や新たな診断・治療法の開発を目的とした基礎研究、臨床研究を積極的に行っており（当院HP参照）、若手の教育や患者さん向けの講演会、厚生労働省の難治性疾患等政策研究事業などにも尽力している。

4. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍しており、患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。また患児それぞれに合わせた移行期に向けた支援も積極的に行っている。

5. 診療実績

外来初診 242名（うち初診 58名）

主な疾患

全身型若年性特発性関節炎	18名（1名）
全身型以外の若年性特発性関節炎	80名（9名）
全身性エリテマトーデス	12名（3名）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	12名（1名）
全身性強皮症・限局性強皮症	2名
シェーグレン症候群	6名（3名）
高安動脈炎	5名
川崎病（冠動脈病変なし）	57名（急性期は総合診療科入院）
ベーチェット病	4名（4名）
自己炎症性疾患	7名（2名）

他の初診患者

関節痛・レイノーなど

入院患者 全例総合診療科管理

川崎病、全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など

5. アレルギー科

1. 人事異動

変更はない。

【スタッフ】

科長	田中 裕也 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本小児科学会専門医・指導医
フェロー	百々 菜月 日本小児科学会専門医

2. 小児アレルギー疾患センター

センター長	小阪 嘉之
副センター長	田中 裕也

3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定され、診療以外の事業として2021年度はアレルギー相談事業や医療者に向けたアレルギー講習会を主催した。

4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来受診後のフォローなど、基礎疾患を有しない軽症例にも対応している。新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり外来患者数は増加した。食物負荷試験は外来・入院両方で行っており、本年度も昨年度に引き続き実施件数が増加した。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

3. 診療実績（1月～12月）

- 食物負荷試験 621件
- ダニ・スギ舌下免疫療法 431名
- アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 44名（12月時点での累計）
- 新規外来患者 101名（12月時点）

6. 神経内科

1. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	豊嶋 大作
	石田 悠介（総合診療科兼務）
フェロー	本郷 裕斗
	上田 拓耶（2021年4月から）

本年は2021年4月に上田がフェローとして赴任したことで、専任スタッフ2名、フェロー2名の4名体制となり、各診療科からの神経に関するコンサルトが、迅速に対応可能となった。児玉荘一先生に月2回、神戸大学小児科の永瀬裕朗先生と西山将広先生に月1回ずつ、診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

2021年診療活動は、神経内科外来初診421名、入院新規患者数は111名と、コロナ禍の影響を受けた2020年に比較して、外来入院患者数ともに増加した。頭痛、拒食などの心身症状をきたす患者数は68例と、年々紹介が増えている。児童精神科と連携をとりながら身体管理を行うことができるのは当院の強みであり、今後も近隣の医療機関からの紹介は、積極的に受け入れたい。

けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、昨年と同様に、休日夜間を問わずオンコール体制でコンサルトを受けた。PICUのみならず救急外来初療室でも、速やかに脳波モニタリングが出来る体制を整えており、当科で重点的に取り組んでいる救急集中治療領域における持続脳波モニタリングは205件に行った。引き続き、救急総合診療科や集中治療科と連携しながら、神経救急疾患の充実した急性期管理に尽力していきたい。

てんかん診療については、本年は長時間ビデオ脳波が50件と前年までと同様に、コンスタントに実施し、診療の質の向上に役立てた。今後も近隣の施設への情報発信を行っていきたい。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、2021年は豊嶋がてんかん専門医、石田が小児神経専門医を所得した。今後もサブスペシャリティの育成にも引き続き取り組んでいきたい。

学術活動については、昨年に引き続き急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行っており、2021年は学会発表8件、論文発表6件であった。また急性脳症に関しては多施設共同臨床研究も進行中である。

神経内科初診患者数 421 例

(疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

神経内科外来（新患者）	421 例	検査及び治療	
てんかん・失神などの発作性疾患	97 例	脳波	541 件
精神遅滞・発達障害	36 例	持続脳波モニタリング	205 件
熱性けいれん・急性脳症	85 例	長時間ビデオ脳波	50 件
自己免疫性神経疾患	8 例	末梢神経伝導検査	11 件
頭痛・摂食障害・その他心身症	68 例	脳平温療法	10 件

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

正規医師については、2021年3月末に宮本真知子医長（愛媛大学附属病院）、田村彰広医長（神戸大学附属病院）が転出し、岸本健治医長（京都大学大学院）、植村優医長（神戸大学附属病院）が転入した。フェロー医師の野口隼医師（大阪大学大学院）が転出し、藤川朋子医師（神戸大学附属病院）、西野裕貴医師（くしもと町立病院）が入職し、小阪副院長以下14名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
科長（部長，小児がん医療センター次長）	長谷川大一郎
部長	森健
部長	石田敏章
医長	岸本健治
医長	神前愛子
医長	齋藤敦郎
医長	中村さやか
医長	植村優
フェロー	東條龍之介
フェロー	井上翔太郎
フェロー	西村明紘
フェロー	藤川朋子
フェロー	西野裕貴

【診療活動】

小児がん拠点病院として県内10施設を小児がん連携病院として指定し、地域医療圏における診療連携・患者集約化が進んでいる。新型コロナウイルスの流行が持続したことに伴い患者紹介動向に影響がみられたものの、悪性腫瘍／非悪性血液疾患の新規診断患者数は堅調に推移している。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数であり、平均稼働病床も47.5人/日と高水準を維持している。また、神戸陽子線センターとの診療連携に伴う陽子線治療照射実績は開設以来初の減少傾向となったが、単年度症例数ベースでは小児腫瘍領域では全国最多規模である。新型コロナウイルス感染症の流行拡大により医療圏を跨ぐ患者紹介動向に抑制傾向がみられたことが一因と考えられる。また、4床の無菌室増床を精力的に稼働させ難治例に対する難易度の高い造血幹細胞移植症例も増加している。移植数も2021年移植数19例であり、同種造血幹細胞移植に本格的に取り組みを始めた2003年以降の造血幹細胞移植数は340件となった。その他、小児がん拠点病院として新規治療開発にも力を入れており、次年度中のCAR-T細胞療法の施設認定を目指して取り組みを開始した。

患者集約化に対応し、且つ人材育成のために科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医10名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医9名（指導医5名）、日本小児血液・がん学会専門医5名（指導医2名、暫定指導医1名）、日本造血細胞移植学会移植認定医5名、がん治療認定医6名、日本血栓止血学会認定医1名の体制となった。2022年度4月から日本小児血液・が

ん学会研修制度が大きく変更されることに伴い、新制度における研修親施設として研修施設群を形成し人材育成に取り組むこととなった。安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていけるよう体制を整えていく。

入院患者に占める思春期・若年成人（AYA）の占拠率の増加に伴い、多角的に療養環境の整備に取り組んでいる。特に、兵庫県教育委員会高等教育課の支援により長期療養中の高校生患者に対するインターネット通信を利用した遠隔授業を開始した。神戸市教育委員会の Wi-Fi の一部共用により病棟内の ICT 環境が改善された。本年度教育支援を行なった複数名の受験生が希望の大学に合格を果たすなど実績が得られつつある。県教育委員会の主導で、入院生徒に対する教育機関と医療機関の連携の在り方検討会が設置され医療機関側を代表して当院も参加しており、県内の小児がん連携病院を含めて地域全体としての教育支援の格差是正にも取り組んでいる。一方、AYA がん患者の妊孕性保存に対しては、兵庫県がん生殖医療ネットワークと連携して、精子保存や卵巣組織凍結保存に対する取り組みも継続している。兵庫県においても AYA 世代がん患者の妊孕性温存に対する助成制度が始まっており、がん相談支援室と連携して若年者がん患者に対する妊孕性温存に関する情報提供に係る努力を今後も続けていく。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。日本血栓止血学会教育研修施設に指定された。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）等の委員会活動・研究活動等に従事した。小阪センター長が神戸大学客員教授／JCCG 運営委員、長谷川大一郎部長が JCCG-AML 委員会／ユースティング肉腫委員会／JACLS-ALL 委員会、森健部長が JCCG リンパ腫委員会、石田敏章部長が JCCG 神経芽腫委員会／JCCG 横紋筋肉腫委員会、齋藤敦郎医長が JCCG 移植・細胞療法委員会、中村さやか医長が JCCG 脳腫瘍委員会、植村優医長が JACLS ALL 委員会に所属し、臨床試験の計画・実施に携わっている。成果として JCCG 等の臨床試験の結果が報告されたほか、神戸大学や理化学研究所等の近隣研究施設と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでいる。特に植村優医長が本年度より新たに理化学研究所客員研究員を拝命し、理化学研究所との共同研究で神戸医療産業都市研究開発助成金を受賞した。今後益々の活躍が期待される。研究成果の誌上発表にも取り組んでおり、本年の研究成果は英文誌 20 編が掲載された。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

2021年1月から12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病 (ALL)		
	BCP	20	
	乳児 ALL	2	
	成熟 B	1	
	T	0	
	急性骨髄性白血病 (AML)	4	
	混合表現型急性白血病 (MPAL)	0	
	慢性骨髄性白血病 (CML)	0	
	悪性リンパ腫		
	HL	3	
	LBL	2	
	DLBCL / Burkitt	3	
	ALCL	0	
	形質細胞腫	1	
	濾胞性リンパ腫	1	
	骨髄異形成症候群 (MDS)	3	
	若年性骨髄単球性白血病 (JMML)	1	
	Down 症 TAM	3	
	ランゲルハンス組織球症 (LCH)	3	
	血球貪食性リンパ組織球症 (HLH)	2	
	黄色肉芽腫	1	
		50	
	固形腫瘍性疾患	脳脊髄腫瘍	
		頭蓋内胚細胞腫瘍	3
		髄芽腫	1
		非定型奇形腫瘍 / ラブドイド腫瘍 (AT/RT)	4
上衣腫		4	
神経膠腫		4	
神経膠芽腫		3	
その他		13	
神経芽腫		12	
網膜芽細胞腫		10	
肝芽腫		4	
腎腫瘍		3	
ユーイング肉腫		6	
横紋筋肉腫		8	
骨肉腫		1	
その他の骨軟部腫瘍		4	
頭蓋外胚細胞腫瘍			
成熟奇形腫		6	
未熟奇形腫		1	
未分化胚細胞腫		1	
卵黄嚢腫瘍		4	
性腺芽細胞腫		1	
その他		16	
		109	
非腫瘍性疾患		特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)	11
		自己免疫性好中球減少症 (AIN)	7
	好中球減少症	3	
	遺伝性球状赤血球症 (HS)	2	
	再生不良性貧血	1	
	自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)	2	
	ダイヤモンド・ブラックファン貧血 (DBA)	3	
	サラセミア (疑い含)	2	
	血友病 A	0	
	血友病 B	2	
	フォンヴィルブランド病	3	
	カサバツハ・メリット症候群	0	
	抗リン脂質抗体症候群	2	
	その他の凝固異常	3	
	組織球性壊死性リンパ節炎 (SNL)	3	
	免疫不全症	4	
	ドナー (候補含む)	27	
	その他	80	
		155	
	セカンドオピニオン	7	
	合計	321	

造血細胞移植一覧

番号	疾患	年齢	性別	病期	移植種別	転帰
1	急性骨髄性白血病	11	男	第一寛解期	非血縁者間末梢血幹細胞移植	死亡
2	混合表現型急性白血病	2	女	第一寛解期	非血縁者間骨髄移植	無病生存
3	急性リンパ性白血病	13	女	第一寛解期	非血縁者間骨髄移植	無病生存
4	神経芽腫	4	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
5	急性リンパ性白血病	18	男	第二寛解期	非血縁者間骨髄移植	無病生存
6	神経芽腫	4	女	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
7	悪性リンパ腫	16	女	第二寛解期	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
8	骨髄異形成症候群	13	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
9	慢性骨髄性白血病	11	男	非寛解	非血縁者間骨髄移植	無病生存
10	網膜芽腫	4	女	第二寛解期	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
11	髓芽腫	14	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
12	慢性肉芽腫症	14	男	—	血縁者間末梢血幹細胞移植	無病生存
13	急性骨髄性白血病	8	女	第二寛解期	非血縁者間骨髄移植	無病生存
14	軟部肉腫	11	男	第一寛解期	自家末梢血幹細胞移植	有病生存
15	ユーイング肉腫	13	女	第二寛解期	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
16	先天性赤芽球癆	2	男	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
17	神経芽腫	2	男	非寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
18	急性リンパ性白血病	7	男	第二寛解期	血縁者間骨髄移植	死亡
19	悪性リンパ腫	14	男	第一寛解期	血縁者間骨髄 / 末梢血幹細胞移植	無病生存

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	フェロー	堀口 祥(3月まで)
	田中 敏克		永尾 宏之
	富永 健太		近藤 亜耶
	小川 禎治		広田 幸穂(4月から)
	亀井 直哉		豊島 由佳(4月から)
	松岡 道生		
	三木 康暢		

非常勤 則武 加奈恵

スタッフ7名、フェロー4名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は731名で昨年に比べ大幅に増加した。新患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(99)、心房中隔欠損(45)、肺動脈狭窄(20)、動脈管開存(28)、川崎病(既往含む)(10)、ファロー四徴症(8)、不整脈(35)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD・不整脈外来(火曜午後、担当：小川)、ペースメーカー外来(木曜午後、担当：小川・松岡)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センター、加古川中央市民病院などでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は525名で、COVID-19流行下であるにもかかわらず、昨年と比べ横ばいであった。6西病棟だけでは収容しきれず、救急HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、PICU, HCU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数4615件、Master負荷心電図件数1494件、Holter心電図件数413件、トレッドミル負荷心電図は208件で、昨年と比べ120%程度増加しており、COVID-19の影響はほぼないと考えられた。心エコーも8139件と昨年より増加した。胎児心エコーは197件(担当：亀井医師 主として木曜日)で、昨年より減少傾向であった。また、2016年に新たに心肺機能検査(CPX)を導入し、

2021年は13件施行した。COVID-19の影響を大きく受けた結果と考えるが、その分、来年度は大幅な増加が予想される。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数325件と大幅に増加し、カテーテル治療の件数は156件と、過去最高の件数であった。麻酔科のマンパワー不足から金曜日の検査枠が1日2件から1件に減ったこと、また、急ぎではないフォローアップの検査はCOVID-19の影響で延期されたが、治療を要する患者では必要時に遅滞なく行われた結果と考える。今後も治療件数は増加すると予想され、現在検査の待機期間が約3か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、昨年同様、木曜日に脳外科がアンギオ室を使用しない時の有効利用を行っていききたい。
- (5) 心臓MRI: 毎週火曜日の午後に行っている。総件数は45件で昨年と同等であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。検査枠の拡大が今後の課題である。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日夕方と木曜日朝に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、木曜日にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。また、昨年度より成人先天性心疾患学会専門医連携修練施設に認定された。

【入院患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数	感染性心内膜炎	1
(カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	525	不整脈	15
フォンタン型手術関連疾患		エプスタイン奇形	1
(いわゆる単心室型心臓)	143	総動脈幹症	5
ファロー四徴症	40	僧帽弁閉鎖不全	2
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	35	肺動脈弁欠損	1
心室中隔欠損	28	肺高血圧	0
心房中隔欠損	34	大動脈・肺動脈窓	2
動脈管開存	22	修正大血管転位	9
両大血管右室起始	38	その他	25
大動脈弓離断・大動脈縮窄	20	カテーテル治療(カテーテル総数件 263)	156
房室中隔欠損	15	弁形成(大動脈弁・肺動脈弁)	20
大血管転位	21	血管形成	55
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	11	ステント留置術	2
肺動脈狭窄	12	コイル塞栓術(動脈管開存)	0
心膜・心筋疾患	4	コイル塞栓術(側副血管・動静脈瘻その他)	30
大動脈弁疾患(狭窄・逆流)	12	バルーン心房中隔裂開術	8
川崎病・冠動脈後遺症	9	心房中隔欠損閉鎖術(Amplatzer, FF-II)	23
総肺静脈環流異常	25	動脈管開存閉鎖術(Amplatzer)	18
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0	その他	0

9. 腎臓内科

【人事】

2021年3月末日をもって永井貞之医師が転出し、4月1日から矢谷和也医師が兵庫県立西宮病院から、大竹結衣医師が当院総合診療科から腎臓内科フェローとして着任した。2021年度の腎臓内科員は貝藤、稲熊、大竹、矢谷と、田中亮二郎（小児救命救急センター長）の5名体制であった。

【診療活動】

入院患者数は年度により多少の増減はあるものの、外来紹介患者数は年々増加の一途をたどっている。本年の腎生検は35例で例年なみであったが、維持腹膜透析については新たな導入が3例と多くみられ、これにより当院での管理を継続している在宅腹膜透析患児は5名（2021年12月末日現在）となった。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少している。一方、周産期の集学的治療や小児がんの治療技術の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させうる腹膜透析が選択される機会が多い。それぞれの児に適した腎代替療法が選択できるよう、当科が中心となってあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在10名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

【研究・学術活動】

貝藤医長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として医療安全・倫理・災害対応・COI委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきたが、昨年から引き続き複数の多施設共同臨床研究（医師主導治験）に参加している。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係部署に多大なご協力をいただいております。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げますとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

2021 年の入院患児内訳

疾患名	人数 (人)
急性糸球体腎炎	1
慢性腎炎症候群	19
IgA 腎症	(14)
紫斑病腎炎	(2)
Alport 症候群	(2)
微小糸球体変化	(1)
ネフローゼ症候群	41
尿路感染症	2
慢性腎臓病	27
腹膜透析管理症例	(10)
溶血性尿毒症症候群	1
腎臓移植後	4
ループス腎炎	2
シェーグレン症候群	2
計	99

10. 感染症内科

・スタッフ

科長 笠井正志、フェロー大竹正悟の2名体制であった。

・主な業務内容

1. 感染症診療支援
2. 感染対策に関するチーム医療（ICT、AST など）
3. 県予防接種センター業務

1. 感染症診療支援

コンサルテーションと外来を行っている。24時間365日体制で各診療科からコンサルテーションを受ける診療スタイルで、院外からも多数コンサルテーションを受けている。2021年1月～12月は605件であった。診療科開設以降のコンサルテーション件数推移は下記の通りである。尚、新型コロナウイルス感染症に関する感染対策のコンサルテーションは含まれていない。

コンサルテーション数推移	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
数(件)	518	697	714	847	605	594	605

感染症外来では、不明熱、繰り返す発熱・感染症、先天感染症、渡航前後相談、ワクチン接種を行っている。外来入院担当ナースより発疹相談も直接受け付けている。

小児科医として重要な小児感染症に関する教育を院内外で実践し、後期研修医を10名受け入れ、昨年度の研修生7名から増加した。院外向けの教育機会として、小児感染症ウェブ勉強会（毎週水曜日夕方）、姫路赤十字病院小児科臨床カンファレンス（第2火曜日午後）、県立尼崎医療センター小児感染症科・感染症科合同web勉強会（第3火曜日夕方）を実施してきた。

2. 感染対策チーム医療（感染症のすべてに関わるチーム：KPIC）

Kobe Prevention and control of Infection for Children and family (KPIC) という病院組織図上には存在しない仮想の機能的組織である。

なお兵庫県庁病院局より指示を受け新型コロナウイルス感染対策支援のため兵庫県立こころの医療センターで感染対策支援、県立病院新型コロナウイルス感染症対策に関わるワーキンググループ活動や診療コンサルテーションを受けている。ICTとAST活動詳細は感染対策部や薬剤部の頁をご参考いただきたい。

県予防接種センター業務

相談、接種（接種困難者対応）、教育（予防接種基礎講座）を行っている。

相談件数の推移	2016年 (9月～)	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
予防接種相談件数	5	34	46	38	33	33

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医1名（森貞直哉、臨床遺伝専門医）が診療を担当している。また、認定遺伝カウンセラー®（洪本加奈）が診療を補佐している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理：ダウン症候群、神経線維腫症1型、Noonan症候群など
- ・ 臨床診断されている患者の原因遺伝子解析：結節性硬化症、Marfan症候群など
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析：神戸大学、慶應義塾大学（BIRTHDAY project）、未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）などとの共同研究
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明：染色体異常、心筋症家系など
- ・ 次子再発率、発症前診断、出生前診断などの遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさDNA研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする国内の研究機関との共同研究として行っている。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導するIRUDの地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。また慶應義塾大学とは新生児を対象に全ゲノム解析を用いてゲノム情報を診療に役立てるBIRTHDAY projectを行なっている。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行なっている。詳細は別項参照。

【院外講演】

- ・ 日本小児科学会 教育講演（2021年4月、京都市）
- ・ 日本腎臓学会 シンポジウム（2021年6月、Web）
- ・ 日本小児腎臓病学会 教育講演（2021年7月、高知市）
- ・ 日本腎臓学会東部大会 教育講演（2021年9月、Web）
- ・ Dysmorphologyの夕べ 講演（2021年11月、Web）
- ・ Noonan症候群 講演（2021年12月、Web）
- ・ 小児腎セミナー in 浜松（2021年、Web）
- ・ IRUD全体会議（2021年12月、Web）

【今後の展望】

IRUD や出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても遺伝診療の重要性が高まっており、当科は兵庫県および関西圏のゲノム医療を支える診療科として引き続き活動していく所存である。

【別表：症例】

先天異常症候群

疾患名	症例数
Aarskog-Scott 症候群	1
Adams-Oliver 症候群	1
Angelman 症候群	2
Beckwith-Wiedemann 症候群	1
Bosch-Boonstra-Schaaf optic atrophy syndrome	1
CFC 症候群	2
CHARGE 症候群	1
Coffin-Siris 症候群	2
EEC 症候群	1
Genitopatellar 症候群	1
Goldenhar 症候群	1
Kabuki 症候群	11
Kagami-Ogata 症候群	1
Langer-Giedion 症候群	1
Larsen 症候群	1
LEOPARD 症候群	3
Nail-Patella 症候群	2
Nicolaides-Baraitser 症候群	1
Noonan 症候群	22
Opitz G/BBB 症候群	2
Pitt Hopkins 症候群	1
Prader-Willi 症候群	4
Rasopathies	2
Silver-Russell 症候群	1
Smith-Magenis 症候群	3
Snijders Blok-Campeau 症候群	1
Sotos 症候群	10
Treacher-Collins 症候群	1
VATER 連合	1
口顔指症候群	1
コルネリア・デ・ランゲ症候群	2
Bardet-Biedle 症候群	1
シリオパチー	2
全前脳胞症	1
多指・合指 十二指腸閉鎖	1
ルビンシュタイン・ティビ症候群	1
過成長症候群	1
軟口蓋裂	1
アントレー・ビクスラー症候群	1

染色体異常症

疾患名	症例数
1q21.1 重複	2
2q 欠失	1
4q25 欠失	1
4q 欠失	1
5p- 症候群	4
5p トリソミー	1
7p 部分欠失	2
9p 欠失	1
10 番染色体部分トリソミー	1
11p13 微細欠失症候群	1
13q 欠失	1
13q 中間部欠失症候群	1
13 トリソミー	1
13 番染色体長腕部分トリソミー・モノソミー	1
13 番部分トリソミー	1
14q 欠失	1
15q11.2 欠失症候群	1
18p- 症候群	1
18 番染色体腕間逆位	1
19 番染色体短腕微小欠失	1
22q11.2 欠失症候群	8
22q11.2 重複	1
22q13 重複	1
Ewing 肉腫、染色体転座	1
FBN1 を含む領域の染色体微細欠失症候群	1
Jacobsen 症候群	1
Kleefstra 症候群	1
PCS 形質	1
Williams 症候群	8
クラインフェルター症候群	6
クラリーノ症候群	1
染色体均衡型転座	1
その他の染色体異常	7
ターナー症候群	4
ダウン症候群	18
トリプル X 症候群	2
マーカー染色体	2

神経筋疾患

疾患名	症例数
筋強直性ジストロフィー	2
筋緊張低下	6
常染色体優性型脊髄性筋萎縮症	2
Bainbridge-Ropers syndrome	1
DDX3X 神経発達異常症	1
Dravet 症候群	3
DRPLA	3
GRIN1 異常	1
HECW2 異常	1
Joubert 症候群	4
KIF1A 異常症	1
MECP2 重複症候群	1
MED12 関連疾患	1
MEF2C 遺伝子変異	1
NAA10 遺伝子異常	1
PPP2R5D 関連神経発達症	1
Rett 症候群	3
SMA	3
SYNGAP1 関連知的障害	1
WASF1 異常症	1
X 連鎖型水頭症	2
アテトーゼ型脳性麻痺	1
オブソクローヌス・ミオクローヌス症候群	1
滑脳症	4
急性脳症	1
自閉症	3
シャルコー・マリー・トゥース病	2
小頭症	2
脊髄小脳変性症 29 型	1
知的障害	15
てんかん	9
てんかん性脳症	13
発達障害	3
発達遅滞	14
ポリニューロパチー	1
小脳失調	1
水頭症	1
脊髄小脳変性症	2
先天性中枢性低換気症	1
二分脊椎、脊髄空洞症	1
CDKL5 異常症	1

腎・泌尿器疾患

疾患名	症例数
ADPKD	1
ARPKD	3
CAKUT	3
結節性硬化症、多発性嚢胞腎	1
腎性低尿酸血症	1
アルポート症候群	1
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群	1
家族性血尿	1
左多嚢胞性異形成腎	1
先天性腎尿路異常	2

循環器・呼吸器疾患

疾患名	症例数
Brugada 症候群	2
QT 延長症候群	14

腫瘍

疾患名	症例数
Cowden 症候群	1
NF1	46
NF2	2
Sturge Weber 症候群	1
Von-Hippel-Lindau 病	2
網膜芽細胞腫	17
リ・フラウメニ症候群	2
家族性多発性軟骨腫症	1
脳幹部腫瘍	1

耳鼻科疾患

疾患名	症例数
Waaedenburg 症候群	3

骨・結合織疾患

疾患名	症例数
II型コラーゲン異常症	1
Frontometaphyseal dysplasia	2
Loeys-Dietz 症候群	2
MacCune Albright 症候群	2
Marfan 症候群	18
MCTO	1
エーラス・ダンロス症候群	4
家族性内反足	1
脚長差	1
結合織疾患疑い	1
骨形成不全症	1
骨端異形成	2
小顎	1
側弯症	1
多趾症	1
低身長	12
無汗性外胚葉異形成症	1
伊藤白斑、側弯症	1
遺伝性頭蓋骨早期癒合症	2
右尺骨列欠損	1
右手根骨融解	1
白蓋形成不全	1
下顎顔面骨遺骨症	1
家族性関節拘縮	1
関節弛緩	1
股関節脱臼	1
四肢短縮型低身長	1
上顎骨劣成長	1
進行性骨化性線維異形成症	1
軟骨無形成症	7
両側垂直距骨	2

血液・凝固・免疫不全

疾患名	症例数
IFAP 症候群	1
血友病 A	1
高 IgE 症候群	1
高 IgM 症候群	2
骨髄不全	1
SLE、シェーグレン症候群	1
ダイヤモンドブラックファン貧血	1
メンデル遺伝型マイコバクテリア易感染症	1
繰り返す好中球減少	1
無γグロブリン血症	1

眼科疾患

疾患名	症例数
Bardet-Biedle 症候群	3
朝顔症候群	1
無虹彩症	2
レーベル黒内障	1
家族性滲出性硝子体網膜症	1
眼裂狭小症候群	2
前眼部形成異常、角膜ぶどう腫	1
黄斑形成不全	1

代謝疾患

疾患名	症例数
シトリン欠損症	1
甲状腺機能低下症	1
Barth 症候群	1
BPAN	2

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	弓場 洋之 沖村 心 観音堂 千仁
非常勤心理士	4名
精神保健福祉相談員	岩崎 志野

常勤医師は3名、非常勤医師は2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）が週1回半コマ、小笠原（火曜日）が月1回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。昨今の児童精神科医療の需要増加を反映して初診予約待ちは3か月程度で昨年度よりも2か月程延長した。急を要する院内紹介には随時対応している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科とのより細やかに緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、心理学大学院生の実習の受け入れを行った。コロナ禍のため医学部の学生実習の受け入れは中止となった。
- 5) 兵庫県の子どもの心の診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和3年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	
									計
F0	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害	2	2		2	1		7
	F07	脳の疾患、損傷および機能不全による人格および行動の障害	1						1
F1	F19	多剤使用および他の精神作用物質使用による精神および行動の障害					3		3
F2	F21	統合失調症					1		1
	F24	感応性妄想性障害					1		1
F3	F32	うつ病エピソード						1	1
	F34	持続性気分 [感情] 障害					1		1
F4	F41	他の不安障害			3	5	4		12
	F42	強迫性障害		1		3	3		7
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応] および適応障害		3	8	11	42	3	67
	F44	解離性 [転換性] 障害		1	6	9	7		23
	F45	身体表現性障害		1	4	12	20		37
	F48	その他の神経症性障害					1		1
F5	F50	摂食障害					10		10
	F51	非器質性睡眠障害		1		3	3	1	8
	F54	他に分類される障害及び疾患に関連した心理的および行動的要因					1		1
F6	F63	習慣および衝動の障害				1	1		2
	F64	性同一性障害				1			1
F7	F70	軽度精神遅滞 [知的障害]		2	8	9	3		22
	F71	中度 [中等度] 精神遅滞 [知的障害]		1	1	2			4
	F72	重度精神遅滞 [知的障害]		1	1		1		3
	F73	最重度精神遅滞 [知的障害]					2		2
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害		1					1
	F81	学力の特異的発達障害				1			1
	F84	広汎性発達障害		16	23	29	22		90
F9	F90	多動性障害			10	4	7		21
	F91	行為障害		1		3	2		6
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害			4	1			5
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		1	1				2
	F95	チック障害		1	2	2			5
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		2	1	3			6
他		その他	2	2	6	7	20	1	38
計			2	2	6	7	20	1	390

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉相談員は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉相談員でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携を密に行っている。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、精神保健福祉に関する様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

項目 診療科	アセスメント			本人				家族		その他	新患
	知能 発達	性格	その他	プレイ セラピー	カウ ンセリ ング	心理 サポ ート	小児ガ ンフォ ロー	相談	結果 報告		
救急総合診療科	50		1			7		3			30
代謝内分泌科	116		54								15
神経内科	32		8					14	1		22
血液腫瘍科	28						2342	89	7	1	37
循環器科	4										3
腎臓内科	3										1
臨床遺伝科	17		1								13
新生児科	71								2		33
精神科	254	189	155	69	59	18		8	1		152
脳神経外科	30		1					2	1		19
救急集中治療科						24		18			6
整形外科											
耳鼻咽喉科	18	8									18
その他の科	1					2		3			2
合計	624	197	220	69	59	51	2342	137	12	1	351

精神保健福祉相談員

相談内容／対象	本人・ 家族	院内	保健福祉 機関	こども 家庭 センター	学校・ 園・ 教育関係	訪問 看護	児童福祉 施設	その他	計
福祉・経済問題	97	64	18	20	5	4	19	28	255
療養問題	19	25	0	0	1	13	4	3	65
教育問題	47	9	0	7	104	0	0	1	168
家庭問題	34	13	2	0	0	0	0	2	51
心理情緒的問題	21	2	0	0	0	0	0	3	26
養育問題	46	209	16	29	3	0	1	11	315
受診援助	282	211	3	42	13	0	17	218	768
その他	6	9	0	0	1	0	0	16	32
計	552	542	39	98	127	17	41	282	1698

支援方法別

面接	296	308	1	22	17	0	1	9	564
電話	237	198	35	54	101	17	37	162	841
文書	19	36	3	22	9	0	3	111	203
計	552	542	39	98	127	17	41	282	1698

初回相談依頼者	
総合診療科	3
集中治療科	0
代謝内分泌科	4
腎臓内科	0
精神神経科	111
小児外科	0
脳神経外科	1
整形外科	0
院内その他	180
本人・家族	72
学校	11
児童相談所	7
市	4
その他	6
計	399

13. 小児外科

小児外科スタッフ

畠山理（科長・家族支援・地域医療連携部長兼務）
横井暁子（部長）
津川二郎（部長）（3月まで）
森田圭一（医長）
河原仁守（医長）
竹内雄毅（4月から医長、3月までチーフフェロー）

フェロー

中谷太一（フェロー、4月からチーフフェロー）
宮内玄徳（フェロー）（4月から）
藤枝悠希（フェロー）（3月まで）
黒田靖浩（フェロー）
高成田祐希（フェロー）
矢下博輝（フェロー）
植松綾乃（フェロー）（4月から）

【人事異動】

2020年4月に人事異動があった。

スタッフでは3月末に津川医師が退職、高槻病院に異動となった。4月からそれまで当科チーフフェローであった竹内医師がスタッフに昇格した。

フェローでは3月末で藤枝医師が高知大学に異動となった。4月から中谷医師がチーフフェローに着任、宮内医師（姫路赤十字病院）、植松医師（明石医療センター）が赴任した。

【診療活動】

入院手術は676件、日帰り手術163件、総手術件数は839件であった。新生児外科手術例は40件であった。

カンファレンスについては、科内のカンファレンスは例年通り1)病棟カンファレンス（毎日朝・夕）、2)抄読会（週1回・毎週金曜日朝）を開催し、多職種カンファレンスでは、1)術前カンファレンス（週1回・毎週水曜日朝 放射線科診断医師参加）、2)術後カンファレンス（週1回・毎週火曜日朝 放射線診断科医師・病理診断科医師参加）、を開催、その他ICUカンファレンス（毎日朝）、腫瘍カンファレンス（週1回）、循環器カンファレンス（適時）に参加した。また5月以降新生児内科とともに周産期外科カンファレンス（週1回）を開始した。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ・小児呼吸器外科：気管狭窄症・声門下腔狭窄症の手術に関しては日本で最多の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携、チーム医療を推進し、西日本を中心に全国から症例が集まっている。

2. 新生児外科

- ・総合周産期母子医療センターも一翼を担い、出生前診断症例治療にも積極的に参画している。
- ・3名の新生児認定外科医を中心に、新生児外科症例にも常に万全の体制で対応できるようにしている。

3. 小児救急医療

- ・小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、救急要請には100%対応できているようにしている。
- ・外傷を含めた小児の救急疾患に対して、救急診療科、集中治療科と連携し、いつでも対応できる体制をとっている。

4. 小児がん医療

- ・小児がん拠点病院として多数例の固形腫瘍手術を行っている。3名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科とチームを組んで最善の治療が提供できるように心がけている。隣接する神戸陽子線センター関連の難治性症例も年々増加している。

5. 日帰り手術

- ・鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力のもと、できる限り日帰り（1日入院）手術を推奨している。

6. 障がい児に対する外科治療

- ・障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

7. 内視鏡外科手術の推進

- ・内視鏡外科手術をはじめとした低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。1名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせたもっともよい治療を選択できるように取り組んでいる。

手術症例

頭頸部	頸部リンパ管腫	0
	頸部嚢胞摘出術	0
	甲状舌管嚢胞摘出術	1
	側頸嚢胞摘出術	1
	梨状窩嚢胞摘出術	1
	経口の梨状窩嚢胞摘出術	0
気道	喉頭気管食道裂手術	0
	声帯外方移動術	0
	声門下腔狭窄症	
	PCTR	1
	バルーン拡張	0
	レーザー焼却	1
	その他	0
	気管狭窄症	
	スライド気管形成術	5
	縫合不全・再形成	0
	その他の気管形成	0
	気管バルーン拡張術	0
	レーザー焼却	1
	後天性気管狭窄 端々吻合	
	気管軟化症	
	気管つり上げ術	0
	喉頭嚢胞切除	0
	気管切開術	20
	気管切開孔形成術	0
	気管切開孔閉鎖術	0
	喉頭気管分離術	2
	腕頭動脈離断術	1
	腕頭動脈胸骨固定術	
	血管輪手術	
	ヒデオ喉頭鏡下処置	
肺	肺部分切除	0
	肺葉切除	1
	胸腔鏡下肺葉切除	1
	肺区域切除術	0
	胸腔鏡下肺生検	0
	肺剥皮術	0
胸壁・縦隔	漏斗胸	
	Nuss bar 挿入術	2
	Nuss bar 抜去術	2
	Ravitch その他	0
	鳩胸手術	
	胸骨裂手術	
	(胸腔鏡下) 縦隔腫瘍摘出術	1
	乳び胸手術	0
	臈胸手術	0
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア	
	開腹直接閉鎖	5
	胸腔鏡下直接閉鎖	
	外傷性横隔膜ヘルニア	1
	横隔膜弛緩症	
	胸腔鏡下縫縮術	1
	腹腔鏡下縫縮術	1
食道	食道閉鎖症	
	TEF 離断 食道食道吻合術	2
	食道食道吻合術	2
	TEF 離断 胃瘻造設術	2
	食道バンディング+胃瘻	
	胸壁外食道延長術	1
	その他	
胃	先天性食道狭窄症	
	胃瘻造設術	
	開腹胃瘻造設術	1
	腹腔鏡下胃瘻造設術	9
	胃瘻再造設	
	胃瘻閉鎖術	1
	噴門形成術	
	開腹	2
	腹腔鏡下	11
	肥厚性幽門狭窄症手術	5
	胃軸捻転に対する胃固定術	0
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	4
小腸・大腸	腸回転異常症手術	1
	小腸閉鎖・狭窄症根治術	1
	観血的腸重積整復術	0
	メッケル憩室切除術	2
	腸閉塞解除術・腸管切除術	14
	腸管膜嚢腫摘出術	0
	腸管重複症手術	1
	H 病 / 類縁疾患	
	腹腔鏡補助下 Swenson 手術	
	腹腔鏡補助下 Duhamel 手術	
	腹腔鏡補助下 Soave 手術	1
	経肛門 Soave 手術	1
	開腹 Swenson 手術	
	直腸・結腸生検	
	人工肛門造設・再造設術	0
	腸瘻造設・閉鎖・吻合	
	臍腸瘻遺残	
	特発性消化管穿孔	9
	壊死性腸炎	
	胎便性腸閉塞	
	内ヘルニア手術	
	腸間膜裂孔ヘルニア	
	外傷性消化管穿孔縫合閉鎖	
	腹腔鏡下虫垂切除術	30
	開腹虫垂切除術	
	人工肛門ポリリーブ切除	

	消化管ポリリーブ切除	2
	臍腸瘻手術	1
直腸・肛門	直腸肛門奇形 / 鎖肛	
	LAARP	4
	PSARP	2
	仙骨会陰式鎖肛根治術 (SP)	
	肛門移動術 (Potts)	
	カットバック	2
	直腸前庭痔瘻閉鎖術	
	人工肛門造設術	2
	人工肛門閉鎖術	3
	人工肛門再造設	
	人工肛門ポリリーブ切除	
	根治術後再肛門形成術	
	総排泄腔遺残症根治術	
	腫形成	
	便失禁に対する肛門管形成術	
	痔核・痔瘻手術	
	肛門粘膜脱切除・Gant 三輪法	4
	直腸脱手術	
	腹腔鏡	2
	肛門括約筋形成術	
	肛門周囲膿瘍手術	
	摘便	3
	肛門ポリリーブ切除	
肝胆脾臓	先天性胆道拡張症	
	開腹	0
	腹腔鏡	2
	胆嚢瘻造設	
	腹腔鏡下胆嚢瘻造設	
	胆道閉鎖症	0
	逆行性門脈造影・肝生検	
	腹腔鏡下 / 開腹胆嚢摘出術	1
	門脈圧亢進症手術	
	Rex シヤント手術	1
	肝部分切除術	
	肝外傷開腹止血術	
	腹腔鏡下脾臓摘出術	
	脾尾部切除術	1
	大網切除術	
腹壁	臍帯・臍帯内ヘルニア	
	一期的閉鎖	1
	腹壁破裂	
	腹壁閉鎖術	0
	鼠径ヘルニア	
	鼠径法	92
	LPEC	96
	腹腔鏡補助下内鼠径	
	臍ヘルニア	25
	ポリリーブ切除	
	腹壁・白線ヘルニア	1
	精巣固定術	
	陰唇癒合剥離術	
	尿管造設残摘出術	
泌尿・生殖器	膀胱拡大術	2
	卵巣腫瘍	2
	腫瘍摘出術 / 付属器切除術	
	腫瘍核出術	3
	卵巣腫瘍再発に対する核出術	
	その他	
腫瘍	肝芽腫	3
	開腹腫瘍生検	2
	腫瘍摘出術	
	神経芽腫	4
	腫瘍生検	3
	腫瘍摘出術	
	腎芽腫	2
	腫瘍摘出術	
	胚細胞腫瘍	5
	生検	1
	肉腫	1
	縦隔腫瘍生検	1
	リンパ節生検	4
	その他の腫瘍生検	
	その他の腫瘍切除	
	リンパ管腫硬化療法	4
	リンパ管腫切除	1
	皮膚・皮下腫瘍摘出術	
処置・検査	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	
	縦隔洗浄ドレナージ	
	切開排膿・デブリードメント	
	試験開腹術	
	開腹止血術	
	長期留置型 CV カテーテル留置	129
	長期留置型 CV カテーテル抜去	100
	中心静脈ポート留置 抜去	5
	テノコフカテーテル留置 / 抜去	4
	ドレナージ手術	3
	V-P シヤント	
	気管支鏡検査・処置	101
	気管支鏡下肉芽切除・レーザー焼却	
	気管支鏡下異物摘出	0
	上部消化管内視鏡検査	39
	上部消化管異物摘出	5
	食道バルーン拡張	13
	ERCP	
	下部消化管内視鏡	16
	下部消化管ポリペクトミー	2
	その他	

新生児外科症例

病名	治療
新生児仮死	緊急気管切開術
先天性気管狭窄症	硬性気管支鏡検査
先天性気管狭窄症	硬性気管支鏡検査
先天性気管狭窄症	硬性気管支鏡検査
先天性 C 型食道閉鎖症	先天性食道閉鎖症根治術
先天性 C 型食道閉鎖症	先天性食道閉鎖症根治術
先天性 C 型食道閉鎖症	TEF 離断・胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症	二期的根治術
先天性 C 型食道閉鎖症	TEF 離断・胃瘻造設術
先天性 C 型食道閉鎖症	二期的根治術
先天性 C 型食道閉鎖症	食道バンディング・胃瘻造設術
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
先天性横隔膜ヘルニア	経腹的根治術
臍帯ヘルニア	臍帯ヘルニア手術
臍腸管遺残	臍腸管遺残切除術
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
先天性十二指腸閉鎖術	ダイヤモンド吻合術
先天性十二指腸閉鎖術	ダイヤモンド吻合術
先天性十二指腸閉鎖術	膜切除術
先天性十二指腸閉鎖術	膜切除術
先天性小腸閉鎖症	小腸閉鎖症手術
新生児壊死性腸炎	腸瘻造設術
特発性小腸穿孔	腸瘻造設術
特発性小腸穿孔	腸瘻造設術
特発性小腸穿孔	腸瘻造設術
特発性小腸穿孔	腸瘻造設術
特発性小腸穿孔	腸瘻造設術
癒着性腸閉塞	腹腔ドレナージ
癒着性腸閉塞	癒着剥離、腸瘻造設術
低位鎖肛	カットバック
低位鎖肛	カットバック
中間位鎖肛	人工肛門造設術
総排泄腔遺残症	人工肛門造設術
総排泄腔外反症	腸瘻造設術
仙尾部奇形腫	腫瘍摘出術
仙尾部奇形腫	腫瘍摘出術
多発性嚢胞腎	腹膜透析カテーテル挿入

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（副院長兼心臓センター長）	大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、 神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、 心臓血管外科専門医、同 修練指導者
部長	松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医、 同 修練指導者 循環器学会専門医
部長	日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医 松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）心臓血管外科専門医 同 修練指導者
フェロー（心臓血管外科修練医）	和田 侑星（平成 26 年富山大卒）日本外科学会専門医 心臓血管外科修練医 川端 良（平成 28 年神戸大卒）日本外科学会専門医 心臓血管外科修練医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進み、数年後を目途に移行期医療の県の中心施設としての準備を整えている。人事では、長谷川 翔大が神戸大学へ転出、明石医療センターから神戸大学院生、川端 良がフェローとして赴任。

症例数は、総数で 278 例（前年度 246 例）と増加、体外循環を用いた手術は 175 例（新生児 15 例）、体外循環非使用の心臓手術は 49 例（新生児 29 例）、その他 54 例で、人工心肺症例は増加した。術後 30 日未満の開心術手術死亡 1 例は、体重 2kg 台の Norwood 術後、循環虚脱で ECMO 装着。離脱困難で、sepsis から MOF で術後 36 日目に死亡。体外循環非使用例では在院死 3 例、内訳は MD twin の供血児、超低出生体重児が NEC 併発、PDA 術後 7 日目に死亡、18 trisomy, VSD 例が PA banding 後 10 か月後に腸閉塞、MOF で在院死、SV, AV block、胎児水腫症例が生当日に PA banding, Pacing するも難治性の乳び胸から sepsis, DIC で術後 83 日目に在院死。毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。また、ICT を中心とした SSI サーベイランス活動に加え、縦隔炎合併時に症例検討を含む対策会議を行っている。心臓センターとして、地域連携強化の一環として、紹介元施設を対象として online による勉強会を開催している。

学会活動：Spring 8 における他施設共同研究では、全国学会や海外発表に続き複数の英文掲載など成果を上げている。その他、英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて主に online による発表を行った。

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)															
+VSD	1			2											3
+DORV															
+AVSD	1														1
+TGA															
+SV															
+others															
IAA (sinmple)															
+VSD	1			1											2
+DORV															
+Truncus															
+TGA				2											2
+SV															
+others															
Vascular ring															
PS															
PPA or critical PS	1			1			1								3
TAPVR	5														5
asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD							21								21
Cor triatriatum				1											1
AVSD (partial)															
AVSD (complete)				6			1								7
+TForDORV															
+others															
VSD (I)							8								8
VSD (II or IV)				17			10								27
VSD (III)				2											2
VSD+PS															
DCRV ± VSD				2			1								3
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				6			1								7
(shunt)				6											6
PA+VSD (Rastelli)				1			2								3
(shunt)				2			1								3
(UF ± shunt)							1								1
DORV				5			3								8
TGA (simple)	5														5
+VSD															
+VSD+PS	1			1											2
corrected TGA															
Truncus arteriosus															
SV (shunt)				2											2
(BDG)				4											4
(Fontan)							9								9
TA (shunt)															
(BDG)				2											2
(Fontan)															
HLHS (Norwood)				2		1									2
(BDG)				3											3
(Fontan)							2								2
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換 [Ross])							3[1]								3[1]
SAS															
supraAS				1											
Mitral valve lesion (MR形成)							5								5
(MR 弁置換)							1								1
(MS形成)															
(MS 弁置換)															
Ebstein				1											1
Coronary disease							(1)重複								(1)重複
その他															
再手術															
VSD 再閉鎖							2								2
PS 解除															
RV-PA 導管再置換				3			9			4					3
(PVRを伴う)										1					13
再弁置換術															1
肺静脈狭窄				1			1								2
その他															
総数	15			74		1	78			5					175
															1

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	10	1	1	7			1						18	1	1
CoA (simple) +VSD +DORV +AVSD +TGA +SV +others	2												2		
IAA (sinmple) +VSD +DORV +Truncus +TGA +SV +others	1												1		
Vascular ring				4									4		
PS															
PPA or critical PS				1									1		
TAPVR asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD															
Cor triatriatum															
AVSD (partial)															
AVSD (complete) +TForDORV +others	1			1									2		
VSD (I)															
VSD (II or IV)	3			2	1								5	1	
VSD (III)															
VSD+PS															
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				1									1		
PA+VSD															
DORV	5			2									7		
TGA (simple) +VSD +VSD+PS															
corrected TGA															
Truncus arteriosus															
SV (shunt) (PAB)	1		1										1		1
TA (shunt) (PAB) (BDG) (Fontan)	1												1		
HLHS (bil.PAB) (SPshunt追加)	2												2		
Aortic valve lesion (形成) (弁置換) SAS supraAS															
Mitral valve lesion(MR形成) (MR 弁置換) (MS 形成) (MS 弁置換)															
Ebstein															
Coronary disease															
その他	2			1									3		
再手術 VSD 再閉鎖 PS 解除 RV-PA 導管再置換 (PVR を伴う) その他															
総数	29	1	2	19	1		1			0			49	1	3

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	5		
ペースメーカー植え込み	9		
ペースメーカー電池交換	8		
心嚢ドレナージ	5		
胸腔ドレナージ	4		
ECMO 装着 (ショック)	3	1	1
ECMO 装着 (呼吸不全)	3	1	1
ECMO 装着 (気管形成術)	1		
横隔膜縫縮	0		
腕頭動脈離断術	1		
縦隔炎手術	2		
大動脈 / 肺動脈吊上げ	1		
気胸手術	1		
血腫除去	5		
その他	6		
総計	54	2	2

15. 脳神経外科

当施設は2017年11月より日本こども病院神経外科医会事務局を設置し、全国の小児医療施設、あるいはこれに準ずる施設に現在在籍している、または過去に在籍経験のある小児脳神経外科医間の円滑な情報交換を担う基幹施設となっている。

2021年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史(小児がん医療センター次長 診療科長兼任)、小山淳二(部長)、阿久津宣行(医長)の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師2名と診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、神戸大学脳神経外科より2020年9月1日—2021年3月31日に梶本裕人先生、2021年1月1日—6月30日に斧渕夏那先生、2021年4月1日—2021年9月30日に東野真志先生、2021年9月1日に松木泰典先生がフェローまたは専攻医として着任した。また神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科から4月に堀井 亮先生、7月に朝倉健登先生、9月に梶浦晋司先生、12月に重安将志先生が研修に従事した。2020年より産業医科大学脳神経外科教室から派遣されている長坂昌平先生も引き続き見学医師として小児神経外科の研修を行っている。

診療活動では2021年は昨年から続くCOVID-19の全国的な波及により、地域的に県外移動の自粛があり、昨年に引き続き他府県からの新規紹介患者数など減少したが、外来新規患者数、再診患者数は維持出来ており、非常事態宣言などがあってもかわらず比較的堅調であったと言える。当施設脳神経外科の特色は、複数科との時間的、空間的緊密な連携によるチーム医療であり、特に小児がん拠点病院として血液腫瘍内科・放射線診断科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・育児内科との密な連携が必要な二分脊椎例や、整形外科と合同の環軸椎脱臼や側弯例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

特に小児脳・脊髄腫瘍に関しては小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、入院・外来で安心して頂けるよう診療に従事している。更に外来では、青年期AYA世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援、移行期医療を担っている。また3歳未満の症例も含めて、他施設からの陽子線治療希望症例を随時、受け付けている。また広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。

先に述べた陽子線治療は、小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晩期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、2021年は他施設からの症例も増加して、27例の脳脊髄腫瘍に対して照射を行った。治療は隣接する神戸陽子線センター小児専用の照射室で照射を行うが、当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院入院のままで化学療法を受けながら照射が可能であり、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による治療も可能となっている。現在は、ブロード照射に加えて、緻密な照射の調整が可能で、全脳全脊髄照射にも有利なスキャン照射が可能である。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねてい

く所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなど、最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、
随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加；学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、
日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、
日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、
日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会などへの参加

脳神経外科的手術の総数

件数

脳神経外科的手術の総数		件数	
1	脳腫瘍	4	その他
	摘出術		0
	開頭生検術		奇形
	定位的生検術	16	頭蓋・脳
	経蝶形骨洞手術	3	脊髄・脊椎
2	脳血管障害	0	5
	バイパス手術	6	水頭症
	破裂動脈瘤	0	脳室シャント術
	開頭血腫除去術	1	内視鏡手術
	脳血管奇形手術	2	6
3	外傷	0	脊髄・脊椎
	急性硬膜外血腫	1	腫瘍
	急性硬膜下血腫	3	脊髄空洞症
	減圧開頭術	0	その他
	慢性硬膜下血腫	2	7
			その他
			8
			血管内手術
			9
			機能脳神経外科
			10
			陽子線治療
			27
			158

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 梶本 裕人
 研修期間 2020/09/01-2021/03/31 (2021/01/01-03/31 の半期分)
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		3
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		
開頭脳内血腫		
バイパス手術		1
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		5
脊椎・脊髄奇形		2
水頭症脳室シャント		4
神経内視鏡手術		1
脊椎・脊髄腫瘍		
脊髄空洞症		
その他		3
機能脳神経外科		
計		19
合計		19

専攻医 藤田 健嗣
 研修期間 2021/07/01-12/31
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		7
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		1
バイパス手術		1
急性硬膜外血腫	1	1
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		2
脊椎・脊髄奇形		5
水頭症脳室シャント	5	4
神経内視鏡手術		
脊椎・脊髄腫瘍		
脊髄空洞症		
その他	2	1
機能脳神経外科		
計	8	23
合計		31

専攻医 斧淵 夏那
 研修期間 2021/01/01-06/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		6
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		
開頭脳内血腫		
バイパス手術		1
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫	1	
頭蓋・脳奇形		3
脊椎・脊髄奇形		6
水頭症脳室シャント	2	5
神経内視鏡手術		1
脊椎・脊髄腫瘍		
脊髄空洞症		
その他	2	8
機能脳神経外科		
計	5	30
合計		35

専攻医 松木 泰典
 研修期間 2021/09/01-2022/03/31 (2021/09/01-12/31 の半期分)
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		1
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		1
バイパス手術	1	2
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		
慢性硬膜下血腫・水腫		
頭蓋・脳奇形		
脊椎・脊髄奇形		5
水頭症脳室シャント		5
神経内視鏡手術		
脊椎・脊髄腫瘍		
脊髄空洞症		
その他	1	3
機能脳神経外科		1
計	2	19
合計		21

専攻医 東野 真志
 研修期間 2021/04/01-09/30
 指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	助手
脳腫瘍摘出術		6
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1
開頭脳内血腫		
バイパス手術		
急性硬膜外血腫		
急性硬膜下血腫		1
慢性硬膜下血腫・水腫	1	
頭蓋・脳奇形		3
脊椎・脊髄奇形		7
水頭症脳室シャント	7	6
神経内視鏡手術		
脊椎・脊髄腫瘍		1
脊髄空洞症		
その他	1	2
機能脳神経外科		
計	9	27
合計		36

16. 形成外科

2021年は新潟大学より河合恵医師を、大阪警察病院より井手恵理子医師を迎えた。診療内容に大きな変更はなかったが周辺施設の手術件数の減少により、当科への手術依頼は増加した。当院での手術可能な件数が上限に近い待機症例が増加しつつあり、今後症例のトリアージが必要になっていくであろう。小耳症や唇裂二次修正などの学童後期から思春期にかけての年代の手術件数が徐々に増加してきており、キャリアオーバー対策を見据えて他施設との連携が重要になってくることが予想される。

年間の患者数及び手術件数 2021年1月1日～12月31日

手術内容区分

形成外科新患者数	245名	†
形成外科入院患者数	283名（延べ人数ではない）	

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	286件（合計286件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	0件
外来手術	全身麻酔	145件（合計335件）
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	190件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	15						15
II. 先天異常	180			50		3	233
III. 腫瘍	64			45		2	111
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	14			2			16
V. 難治性潰瘍	2						2
VI. 炎症・変性疾患	1			1			2
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	10			47		185	242
大分類計	286	0	0	145	0	190	621

17. 整形外科

2021年度の整形外科は3月末で山本哲也医師と尾ノ井勇磨医師が転出し、4月より新たに八尋俊輔医師と北澤大也医師が赴任した。これにより、薩摩眞一（部長）、小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）、に八尋医師（医長）、北澤医師（専攻医）を加えた6人体制にて診療を開始した。2021年10月で八尋医師に替わり、神戸大学より森昭嘉医師を迎え、診療を実施した。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。外来診療として月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前、金曜日午前の外来を稼働し、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術が困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行なっている。これまで小児先天疾患、慢性疾患などの疾患群の治療を中心に行ってきたが、新病院への移転以来、増加し続ける救急外傷診療に対応すべく救急診療部や麻酔科を含めた関連各科との連携を深め、チーム医療を推進してきた。本年も昨年を引き続きコロナ禍の中、大幅な診療、手術制限を行ったものの、年度末の集計としてはほぼ昨年、一昨年並みの実績となった。

これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行なう一方で、日本小児整形外科学会を中心とした学術研究を推進している。さらに、足の外科学会専門医研修施設としての認定を受け、小児足の外科治療の教育施設として、一層強力な診療体制を求めていく。

本年度の手術実績は、下記の通り346件であった。コロナウィルス感染が落ち着けば整形外科としての特性上、手術、救急症例の大きな増加が予想されるため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため今後も様々な面でのレベルアップを目指していく所存である。

2021年整形外科手術・検査内容区分

手術

	病名	術式	手術数	小計
体 幹	側 弯 症	矯正術	11	17
	斜 頸	切腱術	1	
	側 弯 症	その他（ロッド切除、除圧など）	4	
股 関 節	脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術 など	1	17
	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）	観血的整復術	4	
		大腿骨骨切り術	2	
		白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	0	
		ソルター骨盤骨切り術	2	
	ペ ル テ ス 病	大腿骨骨きり術	3	
	大 腿 骨 頭 す べ り	ピン入れ替え	0	
ピンニング		3		
麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り	0		
	骨盤骨切り術など（大腿骨切り合併含む）	3		
膝 関 節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	1	3
	関節炎、円板状半月板など	鏡視下手術など	2	
足 部	先 天 性 内 反 足	アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	11	44
		軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術など	14	
		足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	3	
	麻痺性変形（症候性）	軟部組織解離術 腱移行術など	11	
		それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	0	
	垂 直 距 骨	変形矯正術など	0	
下 腿 内 捻	下腿回旋骨切り	0		
尖 足	アキレス腱延長	5		
下 肢	脚 長 差 変 形 な ど	脚延長、変形矯正（創外固定使用）	2	36
		成長抑止術（8プレート）	10	
		変形矯正（創外固定使用以外）	1	
		ボトックス注射	20	
	足 根 骨 癒 合 症	癒合部切除	3	
外 脛 骨	摘出など	0		
下 肢 変 形	矯正、切断など	0		
上 肢	橈 骨 頭 脱 臼	観血的整復術	0	3
	上 肢 短 縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	1	
	内 反 肘	矯正骨切り術	2	
外 傷	上 肢 骨 の 骨 折 脱 臼 （顳上、外顳など）	整復固定術	65	84
	下 肢 骨 折	整復 固定	11	
	骨 折 後 偽 関 節	骨接合術など	0	
	骨 折 な ど	鋼線牽引	6	
炎 症 ・ 腫 瘍	腱 断 裂 ， 外 傷	腱縫合など	2	17
	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	3	
	腫瘍 骨髄炎、LCH、 病態不明など	生検術 病巣搔爬	3	
手 指 ・ 足 趾	多 ・ 合 指 （ 趾 ） 症	余剰指（趾）切除	8	20
		指（趾）間形成	8	
	手 指 （ 足 趾 含 む ） 変 形	矯正、骨切り術など	4	
そ の 他	癭 痕 拘 縮 先 天 性 拘 縮	形成術	0	87
	剛 直 母 指	腱鞘切開	8	
	そ の 他		79	

総数

年間手術件数		328	328
--------	--	-----	-----

検査

部位	方法		
股関節	アルトロ	9	18
股関節（先天性股関節脱臼）	牽引後、整復ギプス	9	
その他	アルトロ	0	
		18	18

18. リハビリテーション科

【スタッフ】

- ・平成28年5月こども病院移設とともに診療部リハビリテーション科として理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で開設。
- ・平成30年度理学療法士1名増員。
- ・平成31年度（令和1年度）診療部より独立。リハビリテーション部となり、整形外科医師小林大介リハビリテーション科・部 部長就任。
- ・令和2年度理学療法士1名増員。

令和3年度4月現在スタッフ数

	人員	備考
医師	1名	リハビリテーション科・部 部長
理学療法士	4名	
作業療法士	1名	
言語聴覚士	4名	

【診療活動】

- ・施設基準として開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ。
- ・平成28年度9月障害児リハビリテーション料取得。
- ・平成29年度がんのリハビリテーション料取得。
- ・平成29年運動器疾患リハビリテーション料Ⅰ取得。
- ・平成30年度早期離床リハビリテーション加算取得。

令和3年度 施設基準別単位数および前年度比較（令和3年1月～12月）

1. 理学療法

	施設基準	単位数	対前年比
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	2,618	123%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	1,572	271%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	2,891	162%
	がんリハ料	1,566	128%
	障害児リハ料6歳未満	2,025	155%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	109	49%
	障害児リハ料18歳以上	37	119%
	廃用症候群リハ料	204	77%
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	77	350%
	運動器疾患リハ料(Ⅰ)	73	31%
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	12	57%
	障害児リハ料6歳未満	800	149%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	156	122%
	障害児リハ料18歳以上	15	136%
計		12,155	143%

早期離床リハビリテーション加算

	件数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算(令和2年1月～12月)	2,516	1,258,000

2. 作業療法

	施設基準	単位数	対前年比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,108	64%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	50	75%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	20	65%
	がんリハ料	1,563	158%
	障害児リハ料6歳未満	410	133%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	109	74%
	障害児リハ料18歳以上	0	0%
	廃用症候群リハ料	52	93%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	43	358%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	34	97%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0%
	障害児リハ料6歳未満	289	482%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	67	0%
	障害児リハ料18歳以上	8	0%
計		3,753	148%

3. 言語聴覚療法

	施設基準	単位数	前年度比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,825	93%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	302	839%
	がんリハ料	94	36%
	障害児リハ料6歳未満	544	72%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	98	158%
	障害児リハ料18歳以上	36	58%
	廃用症候群リハ料	0	0%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	654	113%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0%
	障害児リハ料6歳未満	182	145%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	2	0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0%
計		3,744	99%

* 言語聴覚士による呼吸器疾患リハ料算定可能と診療報酬の変更があったことにより呼吸器疾患リハ料が大幅に増加

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	1,052
標準語音聴力検査	103
気道純音聴力検査	10
遊戯聴力検査	1,928
補聴器適合検査 1回目	50
補聴器適合検査 2回目以降	447
発達および知能検査	29
計	3,619

診療科別リハビリテーション科処方数

診療科	入院			外来		
	PT	OT	ST	PT	OT	ST
循環器内科	24	10	21	4	1	10
腎臓内科	6	2	7	1	1	2
神経内科	38	6	20	20	1	6
血液腫瘍内科	288	281	25	3	0	0
代謝・内分泌内科	4	0	0	0	0	0
新生児内科	60	33	49	19	12	9
心臓血管外科	26	1	23	4	0	2
脳神経外科	63	46	32	19	11	4
小児外科	36	11	22	2	1	2
整形外科	103	3	2	55	3	1
形成外科	2	0	2	2	2	12
精神科	0	0	0	1	1	3
リウマチ科	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	1	0	5	0	0	50
救急科総合診療科	107	15	51	59	4	26
集中治療科	556	24	551	0	0	1
臨床遺伝子科	1	0	0	0	0	0
産科	24	21	0	0	0	0
合計	1339	453	810	189	37	128

19. 眼 科

今年度の眼科医師の状況は以下の通り。3月末でフェローの松野裕樹が新長田眼科病院に、専攻医の橋本祐子が神戸医療センターに異動。代わりに河原佳奈が神戸医療センターからフェローとして、牧仁美が神戸大学病院から専攻医として赴任した。またフェローの中野由美子が医長に昇格、同医師は子育て時短のため水曜日は出務がなく、代わりに同日の午前診察に昨年同様、柳沢翠芳医師に診療応援して貰っている。

新型コロナウイルス感染症の影響について、外来診療はコロナ以前と変わらない状況であったが、眼科で大半を占める予定手術が麻酔医の人員減により制限を受け、各手術日とも1例減となった。もともと手術待機期間が延びる傾向にあり、9ヶ月先まで手術枠が埋まっていたことから、スタッフに手術対象を厳選する旨の指示を出した。

対外的には依然、学会や講演会の多くがリモートであり、学術面に影響が出ない様に努めたものの、人的交流が少なく学問的刺激を受ける機会が減ったことは専攻医などにとって残念なことであった。

2021年 眼科 新患統計 患者総数 714名

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	0	30	39	269	192	128	71	39	768
弱視	0	2	5	47	34	11	4	0	103
斜視及び疑い	0	14	41	159	99	54	34	43	444
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	4	0	2	2	0	0	0	8
眼瞼疾患	2	11	18	58	66	40	18	13	226
涙器疾患	0	2	0	25	2	3	2	1	35
結膜疾患	0	0	4	23	5	9	1	9	51
角膜・強膜疾患	2	9	5	11	15	8	4	4	58
ブドウ膜疾患	0	5	1	5	0	3	0	0	14
網膜・硝子体疾患	0	10	6	8	9	7	7	9	56
水晶体疾患	1	10	1	14	9	5	0	1	41
眼窩疾患	0	0	0	1	0	1	1	1	4
遺伝疾患	0	0	0	0	0	2	0	1	3
視神経・視路疾患	2	2	0	12	5	10	12	11	54
眼振	0	0	4	7	2	0	0	0	13
緑内障	6	7	4	12	10	4	4	2	49
外傷	0	0	2	1	2	5	5	0	15
症候群	0	1	5	8	3	2	2	0	21
心因性視力障害	0	0	0	0	2	1	1	0	4
腫瘍	0	1	4	13	0	1	1	0	20
その他	0	5	1	9	0	6	6	1	28
小計	13	113	140	684	457	300	173	135	2015

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	1	1	8	43	54	35	48	190
内反症	0	0	0	3	20	7	13	6	49
眼瞼下垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼瞼・眼窩疾患	0	0	0	8	13	2	6	2	31
結膜疾患（腫瘍）	0	0	0	1	0	0	0	0	1
角膜疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	1
網膜疾患（腫瘍）	0	0	0	1	2	0	0	0	3
硝子体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	3	2	0	2	1	8
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	0	1	0	0	0	0	1	2
白内障	0	3	0	3	2	3	1	0	12
未熟児網膜症	0	3	0	0	0	0	0	0	3
眼球振盪症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・検査・その他	0	2	1	1	5	4	4	2	19
合計	0	9	3	28	88	70	61	60	319

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
検査	0	0	1	6	24	12	13	8	64
抜糸	0	0	0	0	3	0	1	0	4
鼻涙管チューブ抜去	0	0	1	5	13	5	3	4	31
合計	0	0	2	11	40	17	17	12	99

2021年 訓練及び検査人数（合計 1471名）

PAT（プリズム検査）	91名
視野検査（GP）	225名
視野検査（ハンフリー）	95名
PL検査・TAC	380名
OCT	600名
ヘス（眼球運動検査）	16名
色覚検査	34名
合計	1471名

実習生受け入れ状況 なし

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

常勤医 2 人体制は変わらず、月曜・木曜が天津、火曜・金曜は勝沼が終日担当している。週一回言語聴覚士・認定補聴器技能者とともに補聴器外来を行っている。新患者数は 837 名、延べ患者数は 4798 人であった。前年度後半と同様、特に中耳炎、扁桃肥大・アデノイドの紹介数が減っていた。これは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染対策の徹底から、上気道感染の頻度・程度が減少したことが一因ではないかと推察している。一方、難聴精査のため受診する人数は著変なく、初診全体における紹介割合としては増加していた。

2. 手術・入院診療

例年通り、扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜チューブ挿入術が多い（下表参照）が、昨年度に比較しその数は減少した。前述のように、新型コロナウイルス感染症の流行に伴うものと推察している。3 歳未満の重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群に行う扁桃摘出術・アデノイド切除術は、周術期管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することも多い。当院では、麻酔科、集中治療科、総合診療科ならびに集中系病棟看護スタッフの協力により、手術適応を厳選して行っている。

学術活動としては日本小児耳鼻咽喉科学会などで発表を行った。地域貢献としては、兵庫県新生児聴覚検査専門家会議の委員として会議に参加した。また兵庫県立神戸、姫路、こばと（西宮市）、豊岡の各聴覚特別支援学校と補聴器装用児の検討会を開催して、連携を図っている。月 1 回補聴器カンファレンスを行った。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	60
アデノイド切除術	62
鼓膜チューブ挿入術	27
鼓膜穿孔閉鎖術	3
鼻・副鼻腔内視鏡手術	2
舌小帯形成術	2
異物摘出術	2
その他	7
合計症例数（他科入院 20 名含）	104

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	96
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	12
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	12
舌小帯形成術	1
異物摘出術	3
その他	4
合計症例数	120

3. 言語聴覚療法について

【人員】

リハビリテーション部所属の言語聴覚士が予約状況に応じて外来業務に従事した（1～4 名）。1 月から 12 月は正規職員 4 名であったが、12 月半ばからは産休により 1 名減となり、3 名で対応した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科の ST 処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来へつなげている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装用が増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めていなかった軽度の難聴や、一側難聴であっても学習面での困難さや学校生活での不自由さから補聴器を求めるケースが

表1【2021年聴力検査件数】
 増え、患者は増加傾向にある。補聴器を装用すれば聞こえの問題がすべて解決されるわけではなく限界もあることなどを保護者や本人に説明し、効果判定を含め支援を行っている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、保護者への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

2021年1月－12月	件数
標準純音聴力検査	1052
標準語音聴力検査	103
気導純音聴力検査	10
遊戯聴力検査	1928
補聴器適合聴力検査1回目	50
補聴器適合聴力検査2回目以降	447
発達および知能検査	29
計	3619

4. 病院開設半世紀が経過し、これまでの耳鼻咽喉科診療について簡単に記載しておく。当科は1970年の開院時、医長と研修医の2人体制で発足した。1974年から1985年は常勤医不在となり、1986年から1人医長体制となったが、空席になる期間もあった。2003年からの2年間再び常勤医不在となり加古川病院医師が週3日兼務した。2005年に1人医長が赴任し兼務医師と合わせて1.4人体制となった。2016年新病院移転時からは常勤医2人体制となり現在に至る。開院以来の外来患者数、手術症例数の推移をグラフとして下に示す。

言語聴覚士は当初2名であったが1974年異動し、2004年の非常勤S T採用までの30年間は医師が乳幼児聴力検査を行っていた。常勤S Tの採用は2006年からである。乳幼児難聴を担当できる医師・言語聴覚士は少なく、継続的な人材の確保、育成が今後も重要である。歴代の耳鼻咽喉科医師は次のとおりである；木村照、岡曄邦、福辻範彦、堀井勝、福田郁夫、岸本麻子、武田典子、増谷康則、寺本典代、佐古田美佳、佐藤友厚、阪本浩一、大津雅秀、勝沼紗矢香。



2021年新患

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	93	27	40	13		10	2	1	
構音障害	50	9	18	13		7		3	
耳介奇形・小耳症	13	6	1	4	2				
外耳道閉鎖・狭窄	17	6	4	4	3				
急性乳様突起炎	0								
副耳/耳介腫瘍	4	2	2						
先天性耳ろう孔	10	2	4	2	2				
外耳道異物	2	1		1					
外耳道損傷	2	2							
外耳炎	8	6		1				1	
耳垢栓塞	29	21	3	2	2	1			
急性中耳炎	26	18	8						
反復性中耳炎	32	24	7	1					
滲出性中耳炎	144	34	97	10		2	1		
慢性中耳炎	9	3	6						
真珠腫性中耳炎	3	1	2						
癒着性中耳炎	1		1						
先天性難聴(疑い含む)	105	36	25	23	18	2	1		
ムンプス難聴(疑い含む)	0								
心因性難聴	32	4	27			1			
突発性難聴	4		4						
高音障害型難聴	1		1						
低音障害型難聴	5	2	3						
難聴	206	41	130	24	2	5	4		
難聴(疑い含む)	179	104	48	10	1	12	1	3	
後迷路性難聴	5	4	1						
内耳奇形	14		10	2	2				
中耳奇形	1		1						
側頭骨骨折/耳小骨離断/鼓室内血腫	3	3							
聴覚過敏	10	2	6	2					
耳鳴	12	5	7						
めまい	18	9	8	1					
顔面神経麻痺/顔面痙攣/口唇麻痺	11	5	3	3					
慢性鼻・副鼻腔炎	77	46	20	10				1	
急性鼻・副鼻腔炎	18	7	4	5		2			
アレルギー性鼻炎	130	25	69	29		4	1	2	
鼻出血	11	7	2	2					
鼻腔異物	0								
鼻咽腔閉鎖不全/粘膜下口蓋裂	19	14	3	1		1			
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	4	3		1					
鼻腔腫瘍	1		1						
アデノイド肥大	182	29	111	38		3	1		
扁桃肥大	126	26	71	27		1	1		
扁桃炎/PFAPA症候群	16	2	6	8					
睡眠時無呼吸症候群	112	17	64	28		2	1		
咽・喉頭外傷/口腔内損傷	11	10	1						
口腔腫瘍	3	2	1						
舌腫瘍	1	1							
口腔内炎	0								
口唇粘液のう胞	0								
舌小帯短縮症	7	1	3	2		1			
唾石	2	1		1					
がま腫	1			1					
耳下腺炎/顎下腺炎	7	3		4					
耳下腺腫瘍/顎下腺腫瘍	2			2					
頸部膿瘍/咽後膿瘍/扁桃周囲膿瘍	3	3							
咽・喉頭炎/声門下喉頭炎/声門下浮腫等	4	3						1	
喉頭蓋のう胞	0								
咽・喉頭異物	8	6	2						
喉頭軟化症/声門下狭窄症	63	53	4	5	1				
反回神経麻痺	44	42	1	1					
声帯ポリープ/喉頭肉芽	4	1	2	1					
嚥下障害	49	39	3	6	1				
正中顎のう胞/側顎のう胞/甲状舌管瘻	1	1							
頸部腫瘍/咽頭腫瘍	5	2	3						
頸部リンパ節炎	15	8	5			1		1	
顔面外傷/鼻骨骨折	5	4	1						
サイトメガロウイルス感染症	1				1				
その他	3	2	1						
(感染症チェック) 36		36							
(新スク後精密検査) 75						75			
(健診) 51						51			
(学校・園健診) 56						56			
新患数(重複除く) 837	1984								

21. 泌尿器科

2021年3月に三田淑恵が退職し、4月に高瀬雄太が入職したので、2021年度も引き続き5人体制（杉多、神野、春名、松崎、高瀬）で診療を行ったが、春名が5月から産休となり、以降は4人体制となった。

COVID-19の第5波までは小児がCOVID-19に罹患することは少なく、昨年と比較して新規・再診患者数、入院患者数、手術件数は増加した。

尿道下裂は近畿以外の中国・四国・九州地方からも紹介された。腎盂尿管移行部通過障害（水腎症）を有する年長児は腹腔鏡下腎盂形成術を行っている。技術を要する手術であるが、基本的な手技は確立できたと考えている。経尿道的尿路結石破碎術は原泌尿器科病院の井上貴昭先生のご協力により、徐々に件数が増えている。

学術活動は1月（2020年のずれ込み）および7月の日本小児泌尿器科学会学術集会、1月の腎泌尿器予防医学研究会、10月の日本泌尿器科学会中部総会、11月の日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会（旧名称：日本泌尿器内視鏡学会）学術集会、12月の日本泌尿器科学会総会において、当科の手術成績などを発表した。

2021年度も引き続き、安心・安全な小児泌尿器科疾患の診療を行い、保護者・患児に満足して頂けるよう努力したい。また、学術活動においても引き続き当科の治療成績などを発表し、当科をアピールしたい。（杉多記）

2021年手術実績【入院/320 外来/137】

【尿路系】

VUR手術（開腹）	35
VUR（気膀胱）	5
デフラックス注入	5
尿管尿管吻合	4
膀胱尿管新吻合	4
膀胱自己拡大術	2
尿管カテーテル抜去	27
開腹腎盂形成	7
腹腔鏡下腎盂形成	5
腎摘出	3
内尿道切開	4
腎瘻造設	5
膀胱鏡（ステント留置含む）	25
膀胱結石摘除	1
尿管瘤切除	1
その他	17
合計	143

【性器系】

尿道下裂形成	76
陰莖形成外	36
精巣固定	108
精巣捻転	7
停留精巣摘除	15
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	2
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	1
陰嚢水腫根治術	17
ヘルニア手術	2
包皮形成術	7
包茎手術	26
陰嚢形成	1
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	10
膣切開	1
外陰部腫瘍切除	2
その他	4
合計	315

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。

本年度もコロナ禍の影響が続いたが、外来患者数は例年と変わりなかった。しかしながら、手術件数は昨年度に続き減少していた。

また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は、ここ数年新患数の内訳のトップを占めている（年間67例）、毎週火曜日に、歯科衛生士による7階病棟ラウンドを引き続き行っている。

人事面においては、昨年度と変わりなく、常勤歯科医師1名（曾根由美子）の体制ではあるが、非常勤歯科医師として、田村あゆみ歯科医師が引き続き、毎週金曜日の外来診察を担当した。

新患内訳 (2021)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	51	3	1	0	55
	齲蝕	15	56	0	0	71
	乳歯晚期残存	3	4	1	0	8
	先天性歯	0	1	3	0	4
	その他	2	1	0	0	3
矯正歯科関連	不正咬合	9	2	0	0	11
	術前顎矯正	5	1	0	0	6
口腔外科関連	外傷	7	1	0	0	8
	埋伏歯・過剰歯	1	16	0	0	17
周術期口腔機能管理		67	0	0	0	67
その他（小児歯科以外）		2	0	0	0	2
計		162	85	5	0	252

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	4	4
外来手術	17	0	17
計	17	4	21

23. 麻酔科

1. 2021年の人事異動

医師の異動としては、鹿原医師が八戸市民病院に転出した。長年、当院の小児麻酔や医療安全面に多大な貢献をしていただいたことに感謝したい。神戸大学からは中井医師、鶴房医師、盛房医師、三田村医師が転入した。大阪市大から黒木医師、大阪医大から徳永医師、兵庫医大から宮本医師、中央市民病院から林医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として、石田貴裕医師、村田剛士医師、時岡医師、先濱医師を迎えた。他、短期研修として、兵庫県所属医師から青戸医師、当院小児科から池谷医師、太田医師、吉井医師を迎えた。

2021年12月末の時点では香川、高辻、大西、池島、上嶋、末田、廣瀬、藤原、田中、小西、神頭（育休）、南、岡、中井、鶴房、三田村、宮本、黒木、徳永、林、時岡（集中治療科）が従事している。

2. 活動状況

- (1) 新型コロナウイルスへの対応：気管挿管や人工呼吸管理はエアロゾルを発生させる医療行為であり、麻酔科医を含めた医療従事者がウイルスに暴露されることのないよう、昨年に続いて対応を継続した。入院時の麻酔科診察では発熱等が見られる場合は慎重に対応し、手術延期、あるいは抗原検査、PCR検査施行等の対応を取り、患者、家族、各診療科には様々な協力をお願いすることとなった。麻酔科医自身も標準予防策に加えてゴーグルやN95マスクを装着して麻酔業務を行うに至った。
- (2) 麻酔業務および件数：昨年は一時的に手術制限を行ったが、今年は制限を行うことなく、当院で手術を必要とする患者に対応することができた。麻酔件数は昨年より若干増加し、4330件となった。業務内容としては平日1日当たり、小児手術7列（入院4列＋日帰り手術＋アンギオ＋病棟麻酔）、産科手術、術前診察、術後回診、慢性痛や緩和ケアへの対応、および麻酔科統括の業務を行っている。また、静脈路確保困難児に対して、病棟での点滴確保や手術室でのPICカテーテル挿入に対応しており、その件数は増加傾向にある。
- (3) 学術活動：複数の麻酔関連学会で当院での経験を発表した。また末田医師が韓国麻酔学会（Web開催）で当院の日帰り手術について講演する機会があった。

3. 展望

当院麻酔科の使命として、①患者様に安全・快適な麻酔を提供すること、②手術・麻酔を必要とする患者様をいつでも受け入れるような体制を維持していくこと、③若手麻酔科医に対する教育や、よりよい麻酔に向けての研究を継続して行い、安全・快適な小児麻酔を提供することができる医師を育成すること、の3点が重要であり、継続して取り組んでいきたい。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4330件です。

麻酔法の内訳としては全身麻酔(主に小児)が4168件、脊椎麻酔・硬膜外麻酔(主に産科)が155件、伝達麻酔・その他が7件でした。

年齢の区分では、新生児症例(生後4週未満)が108件、乳児症例(生後4週以上1才未満)が485件と全体の14%を占めています。

診療統計

【総麻酔件数】（麻酔科管理症例数） 2021.1.1 ~ 12.31

4330 件

【ASA PS】（米国麻酔学会による麻酔のリスク分類）

予定手術 1	2	3	4	5	合計
1833	1796	347	5	0	3981
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	合計
127	125	80	17	0	349

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	98	h.頭頸部・咽喉部	977
b.胸腔・縦隔	31	k.胸壁・腹壁・会陰	685
c.心臓・血管	403	m.脊椎	37
d.胸腔+腹部	4	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	405
e.上腹部内臓	112	p.検査	847
f.下腹部内臓	297	x.その他	273
g.分娩	161	合計	4330

【麻酔法による内訳】

A.全身麻酔(吸入)	1777
B.全身麻酔(TIVA)	1790
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	115
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	486
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	4
F.硬膜外麻酔	1
G.脊髄くも膜下麻酔	150
H.伝達麻酔	7
X.その他	0
合計	4330

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
～ 4 週未満	54	54	108
～ 1 歳未満	277	208	485
～ 6 歳未満	1068	690	1758
～ 10 歳未満	483	343	826
～ 15 歳未満	476	276	752
～ 20 歳未満	100	93	193
～ 30 歳未満	13	68	81
～ 40 歳未満	4	106	110
～ 50 歳未満	0	17	17
～ 60 歳未満	0	0	0
合計	2475	1855	4330

24. 新生児内科

1. 医師の異動

1994年の周産期医療センター開設時から当センターを統括してきた中尾秀人院長が3月に退任した。前年より引き続き大山正平、片岡 大、玉置祥子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、が在任した。4月よりフェローの泉絢子が正規スタッフに加わった。10月より松井紗智子、武岡恵美子が産休、留学から復帰した。フェローの平山健太郎は3月に研修を終え和歌山県立医大に帰局した。4月から西崎泰隆がフェローとして、7月から萩元慎二が鳥取県からの国内留学として研修を開始した。ローテート専攻医（後期研修医）として、藪下広樹、広田幸穂、須藤徳子、朝貝芳貴、斎藤 麗、余田愛香、儀間香南子、松尾 進、真鍋修司、岡崎沙也香、青木萌子各医師が3か月ずつ研修をおこなった。NICU21床、GCU24床を管理する総合周産期母子医療センターとして内科系スタッフ、専攻医の協力により常時2名新生児専任医師体制を維持している。女性医師も活躍できる診療体制をめざしており、時短勤務、夜間宿直免除などライフワークバランスを保ちながら勤務を継続している。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。新型コロナウイルス感染拡大による一時的な出生数減少後の回復とともに、病的新生児入院数が増加した。特に合併疾患、複合疾患児は当センターが県内最終施設であるため満床であっても入院を引き受ける状況が複数回発生した。結果的に全入院依頼に応需することはできなかったが、県内の病的新生児の安全な診療の維持のためにはスタッフ増員を含めた新生児病棟の増床が必要と考えられる。

ドクターカーによる新生児迎え搬送可能施設は2020年から神戸市内では当センターのみとなっている。搬送要請から契約運転手の到着に約30分を要しており迅速な出動体制の整備が必要である。淡路、豊岡など遠隔地からの搬送について兵庫県・神戸市防災ヘリによる当院スタッフピックアップ迎え搬送は9件であった。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会で発表、および論文化しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2021 年新生児内科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
35	29	36	43	38	43	48	38	49	43	44	45	491

2) 診療科別入院数

新生児内科入院	490	新生児科からの転科	61
循環器内科	1	集中治療科	33
		循環器内科	20
		小児外科	2
		総合診療科	6

3) 新生児内科入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	194	150	10	1	14	3	0	0	0	4	0
一次搬送	137	125	6	0	6	0	0	0	0	0	0
(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	57	25	4	1	8	3	0	9	0	4	3
院内出生	296	288	3	0	0	0	0	0	1	0	4
緊急母体	78	77	1	0	0	0	0	0	0	0	0
非緊急母体	218	211	2	0	0	0	0	0	1	0	4
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	433	413	9	0	6	0	0	0	1	0	4

II. 新生児科統計

対象：新生児内科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	2	2	100%	0	0
500-749 g	14	14	100%	0	0
750-999 g	13	13	100%	0	0
1,000-1,499 g	20	20	100%	0	0
1,500-1,999 g	49	42	85.7%	0	0
2,000-2,499 g	104	84	80.8%	3	7
2,500 g 以上	231	121	52.4%	15	50
計	433	296	68.4%	18	57

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	5	5	100%	0	0
24, 25	11	11	100%	0	0
26, 27	9	9	100%	0	0
28, 29	9	9	100%	0	0
30, 31	9	9	100%	0	0
32, 33	25	25	100%	0	0
34-36	119	102	85.7%	0	4
37以上	246	126	51.2%	18	53
計	433	296	68.4%	18	57

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	2	1	50.0%	1	50%
500-749 g	14	12	85.7%	8	57.1%
750-999 g	13	13	100%	10	77%
1,000-1,499 g	20	17	85.0%	10	50.0%
1,500-1,999 g	49	35	71.4%	20	40.8%
2,000-2,499 g	104	72	69.2%	16	15.4%
2,500 g 以上	231	99	42.9%	10	4.3%
計	433	249	57.5%	75	17.3%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	5	2	40.0%	2	40.0%
24, 25	11	11	100%	6	54.5%
26, 27	9	9	100%	6	66.7%
28, 29	9	7	77.8%	6	66.7%
30, 31	9	8	88.9%	6	66.7%
32, 33	25	17	68.0%	16	64.0%
34-36	119	97	81.5%	29	24.4%
37以上	246	98	39.8%	4	1.6%
計	433	249	57.5%	75	17.3%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	2	1	50.0%
500-749 g	14	2	86%
750-999 g	13	0	100%
1,000-1,499 g	20	0	100%
1,500-1,999 g	49	0	100%
2,000-2,499 g	104	0	100%
2,500 g 以上	231	0	100%
計	433	3	99.3%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	5	0	100%
24, 25	11	1	90.9%
26, 27	9	2	77.8%
28, 29	9	0	100%
30, 31	9	0	100%
32, 33	25	0	100%
34-36	119	0	100%
37 以上	246	0	100%
計	433	3	99.3%

4) 多胎割合 (品胎 1 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎	要胎
500 g 未満	2	1	50%	0	0
500-749 g	14	2	14.3%	0	0
750-999 g	13	2	15.4%	0	0
1,000-1,499 g	20	6	30.0%	1	0
1,500-1,999 g	49	19	38.8%	2	0
2,000-2,499 g	104	34	32.7%	0	0
2,500 g 以上	231	16	6.9%	0	0
計	433	80	18.5%	3	0

週数	患者数	多胎	率	品胎	要胎
22, 23	5	0	0.0%	0	0
24, 25	11	2	18.2%	0	0
26, 27	9	2	22.2%	0	0
28, 29	9	2	22.2%	0	0
30, 31	9	1	11.1%	0	0
32, 33	25	13	52.0%	3	0
34-36	119	57	47.9%	0	0
37 以上	246	3	1.2%	0	0
計	433	80	18.5%	3	0

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	2	2	100%	3	1
500-749 g	14	14	100%	12	10
750-999 g	13	11	84.6%	0	11
1,000-1,499 g	20	14	70.0%	1	15
1,500-1,999 g	49	22	44.9%	1	33
2,000-2,499 g	104	16	15.4%	2	29
2,500 g 以上	231	46	19.9%	2	48
計	433	125	28.9%	21	147

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	5	5	100%	5	4
24, 25	11	11	100%	5	8
26, 27	9	9	100%	4	7
28, 29	9	8	88.9%	1	9
30, 31	9	5	55.6%	3	7
32, 33	25	15	60.0%	0	23
34-36	119	30	25.2%	1	58
37 以上	246	42	17.1%	2	31
計	433	125	28.9%	21	147

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	20例 (二次搬送 5 例)	低体温療法	3例
NO 吸入療法	23例	生後ステロイド全身投与	30例
NICU 内手術	2例	在宅酸素療法	10例
ECMO	0例	ROP レーザー	0例
CHDF	0例	ROP 抗 VEGF	2例
PD	0例		

7) 新生児搬送出動回数 102 回

入院	91	(へリ 8 回)	分娩立合い	0
転院	11		時間外搬送	17

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
500 g 未満	1	1	0%	0	0
500-749 g	2	1	50%	0	0
750-999 g	2	0	100%	0	0
1,000-1,499 g	6	0	100%	1	0
1,500-1,999 g	19	0	100%	2	0
2,000-2,499 g	34	0	100%	0	0
2,500 g 以上	16	0	100%	0	0
計	80	2	97.5%	3	0

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎	要胎
22, 23	0	0	-	0	0
24, 25	2	1	50%	0	0
26, 27	2	1	50%	0	0
28, 29	2	0	100%	0	0
30, 31	1	0	100%	0	0
32, 33	13	0	100%	3	0
34-36	57	0	100%	0	0
37 以上	3	0	100%	0	0
計	80	2	97.5%	3	0

25. 産科

Covid-19（コロナ禍）で2021年の日本ならびに世界は引き続き大変でした。当科通院中の方がPCR検査で陽性や濃厚接触者となり、有症状の方は中央市民病院のお世話になりましたが、全員、治癒後また隔離解除後に当院で周産期管理ができました。

2018年春の医師の大量退職とその後の欠員状態が解消されていなかったため時間外の母体搬送受け入れを制限しておりましたが、2019年9月以降は常勤医師が当直をしていない時間外（月7日間の夜間と月2日間の休日日勤帯）以外は、空床がある限り受け入れておりますし、妊娠26週未満の単胎、妊娠29週未満の多胎の切迫早産や前期破水例、生後速やかに何らかのinterventionが必要な胎児形態異常例は産科病棟が満床であっても受け入れております。

今年も医師不足で厳しい状況でしたが大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。

2021年は、船越 徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、平久 進也病棟医長、松本 培世医長、荻野 美智医長（週3日勤務）、窪田 詩乃医長（週3日勤務）、金子 めぐみ医長（週3日勤務）の6人体制で始めました。千船病院産婦人科研修プログラムにより4月1日から大和 奈津子専攻医が6ヶ月間の研修を行いました。6月1日から内山 美穂子フェロー（週4日勤務）が入職しました。結果、7人体制となりました（ただし当直、オンコールを含めたフルワークが可能な者は3名のみです。総合周産期母子医療センター産科には当直が可能な医師が8人以上必要とされています）。

医師の補充については公募ならびに神戸大学産科婦人科医局にお願いしておりますが、全国的に産婦人科医師（特に分娩を取り扱う医師）が不足しており厳しい状況が続いております。私立病院に比べて国公立病院には制約があり医師募集や勤務継続に対する方策（24時間保育、病児保育）やincentive的施策がとりにくいため苦戦が続いております。

10月1日以降のスタッフは

船越 徹 周産期医療センター長、産科科長兼部長 昭和60年卒

平久 進也 医長、産科病棟医長 平成15年卒

松本 培世 医長 平成21年卒

荻野 美智 医長 平成23年卒

窪田 詩乃 医長 平成24年卒

金子 めぐみ 医長 平成24年卒

内山 美穂子フェロー 平成24年卒

となりました。

当科は「総合周産期母子医療センター」としてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて22床です。LDR 1室、侵襲的検査処置室（羊水穿刺、羊水除去、胎児胸水穿刺等を施行する処置室）1室、陣痛室1室、分娩室2室あり、外来と病棟が隣接しています。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が3台あります（2021年春に1台更新）。2人当直制（第1当直の20～25%と第2当直は院外医師が担当）です。染色体異常を含めた遺伝相談も行っております（出生前診断・遺伝相談外来）。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県

の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しております。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。

本邦の出生数の減少（2021年 84.3万人）、当院の須磨区からポートアイランドへの移転（2016年 5月）に伴う西区、垂水区、須磨区、長田区からの紹介患者の減少の上に、医師退職・欠員に伴い2018年 4月から産科病床数・看護師数が減少したため診療制限を行ってまいりましたが、2018年 10月より段階的に緩和したため、臨床統計は2018年以降毎年増加しております（表参照）。

分娩母体数（22週以降）262（正期産 125、早産 137：早産率 52.3%）、多胎分娩（22週以降）39（DD 双胎：16、MD 双胎：22、MM 双胎：0、品胎：1）、経膈分娩（22週以降）101、帝王切開術 161（帝切率 61.5%）（選択 63、緊急 98）、出産児数（22週以降、死産含む）302、正期産児 126、早産児 176、低出生体重児（2500g未満）181（率 59.9%）、22週未満死産児数 18、22週以降死産児数 3。

病床稼働率 1～12月 88.5%、緊急母体搬送の受け入れ 115件（受け入れ率 73.2%）でした。中央市民病院がコロナ禍で母体搬送受け入れ制限していた時期に当院への母体搬送が増加しました。

妊娠 25週未満の頸管短縮・胎胞形成例の治療的頸管縫縮術を行っております（10例）。また、小児救急から依頼された女兒外陰部裂傷縫合術が 5例ありました。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から 15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています。2021年の超緊急帝切は 10例でした。

当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり「周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）」を育成しています。

12月 11日に当院講堂で「令和 3年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を WEB 開催し、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部／倫理支援部 特定准教授の山田 崇弘先生から「これからの出生前遺伝学的検査の提供体制」の特別講演をいただきました。WEB 開催でしたが、多数の参加者を得ることができました。他府県からの WEB 参加者も数人おられました。

放射線科医師と胎児 MRI を撮影した症例の経過と MRI の読影、その後の経過を検討する「MRI カンファレンス」を 2月 12日、9月 30日に開催しました。新生児内科医師も参加しています。報告書からだけでは伺えない MRI の読み方について研修することができます。

英文雑誌の抄読会を行っています（2021年 18回開催）。

学会活動を奨励しています（研究業績参照）。医師不足にコロナ禍も加わり発表回数が減少しています。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2021年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は 200名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る常勤の専門医がおられませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターですが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行なっております。両院で「県立こども病院と神戸市立医療センター中央市民病院との連携会議」を年 4回開催しています。紹介患者の電子カルテも相互に閲覧可能なシステムが構築されています。

本年も「超緊急帝王切開シミュレーション」を産科、麻酔科、新生児内科、手術室が協力して行いました。超未熟児出生が予想される症例や生後児に何らかの加療（処置、手術）を受ける症例に対し「プレネイタルビジット（出生前小児保健指導）」の充実化を行っており、患者アンケートでも高評価を得ております。Covid-19 対策も感染症内科、感染対策室と協力して行っております。

1) 2021年産科診療状況

入院患者数*	384
うち緊急母体搬送によるもの	115
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	200
総分娩母体数	278
分娩母体数(22週以降)***	262
正期産	125
早産	137
過期産	0
多胎分娩(22週以降)	39
二絨毛二羊膜性(DD) 双胎	16
一絨毛二羊膜性(MD) 双胎	22
一絨毛一羊膜性(MM) 双胎	0
品胎	1
要胎	0
経膈分娩(22週以降)	101
うち吸引分娩	9
うち骨盤位牽出術	1
帝王切開術	161
選 択	63
緊 急	98
うち超緊急	10
出産児数(22週以降、死産含む)***	302
正期産児	126
早産児	176
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	181
巨大児(4,000g以上)	1
22週未満死産数	16
同 死産児数	18
22週以降死産児数	3
治療的頸管縫縮術	10
予防的頸管縫縮術	2
女児外陰部裂傷縫合術	5

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	1	0%	中播磨	姫路市	10	3%
	西宮市	18	5%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	17	4%		小 計	10	3%
	小 計	36	9%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	1	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小 計	0	0%		宍粟市	1	0%
神戸市	中央区	94	24%	但馬	小 計	2	1%
	西区	58	15%		豊岡市	2	1%
	須磨区	42	11%		美方郡	0	0%
	東灘区	23	6%		養父市	0	0%
	北区	16	4%	朝来市	0	0%	
	灘区	12	3%	小 計	2	1%	
	垂水区	7	2%	丹波	篠山市	0	0%
	長田区	7	2%		丹波市	4	1%
	兵庫区	3	1%		小 計	4	1%
	小 計	262	68%	淡路	洲本市	5	1%
東播磨	明石市	33	9%		淡路市	0	0%
	加古川市	4	1%		南あわじ市	1	0%
	高砂市	3	1%	小 計	6	2%	
	加古郡	0	0%	他府県	大阪	5	1%
	小 計	40	10%		鹿児島	2	1%
西脇市	1	0%	他		8	2%	
北播磨	三木市	0	0%	小 計	15	4%	
	小野市	5	1%	海外	0	0%	
	加西市	0	0%	院内紹介	1	0%	
	加東市	0	0%	なし	0	0%	
	多可郡	0	0%	計	384		
	小 計	6	2%				

救急隊はその所属地域にカウントした

* 入院患者数は2021.1-12入院したもの
 ** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む
 *** 分娩母体数、出産児数は2021.1-12に出産したもの

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	173	45%
胎児形態異常	151	39%
高齢妊娠(35歳以上)	121	32%
胎児発育不全	75	20%
多胎	47	12%
前期破水	45	12%
頸管無力症	40	10%
胎児機能不全	30	8%
既往帝王切開	29	8%
B群溶連菌保菌者	21	5%
胎位異常	21	5%
羊水過多	17	4%
羊水過少	16	4%
妊娠高血圧症候群	15	4%
羊水染色体検査	12	3%
弛緩出血	11	3%
胎児染色体異常	10	3%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	10	3%
甲状腺疾患	9	2%
胎児水腫	9	2%
子宮筋腫合併	9	2%
常位胎盤早期剥離	7	2%
心疾患	6	2%
切迫流産	6	2%
胎児死亡	5	1%
妊娠糖尿病	5	1%
胎児不整脈	5	1%
双胎胎児発育不均衡	5	1%
分娩停止	0	0%
前置・低置胎盤	0	0%
常位胎盤早期剥離	7	2%
その他	40	10%
計	957	

入院時、入院中に診断された疾患名
患者一人当たり2.5の疾患名を有した

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	281	73%
平日日勤帯		
時間外	103	27%
平日夜勤帯	56	15%
休日日勤帯	30	8%
休日夜勤帯	17	4%
計	384	

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	167	60%
平日日勤帯		
時間外	111	40%
平日夜勤帯	68	24%
休日日勤帯	22	8%
休日夜勤帯	21	8%
計	278	

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	16	6%	6%
22～24週	10	4%	9%
25～28週	22	8%	17%
29～32週	22	8%	25%
33～36週	83	30%	55%
37～41週	125	45%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	278	100%	

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	44	11%	11%
22～24週	36	9%	21%
25～28週	53	14%	35%
29～32週	59	15%	50%
33～36週	71	18%	68%
37週～	119	31%	99%
不明	0	0%	100%
産後	2	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	384		

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	116	72%
平日日勤帯		
時間外	45	28%
平日夜勤帯	22	14%
休日日勤帯	14	9%
休日夜勤帯	9	6%
計	161	

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	20	6%	6%
500～999g	29	9%	15%
1000～1499g	21	7%	22%
1500～1999g	42	13%	35%
2000～2499g	87	27%	62%
2500～2999g	70	22%	84%
3000～3499g	42	13%	97%
3500～3999g	8	3%	100%
4000～4499g	1	0%	100%
4500～4999g	0	0%	100%
計	320	100%	

26. 放射線診断科／放射線治療科

放射線診断科

1. 人事異動等

4月より乗本周平医師がスタッフとして採用となった。

放射線診断科のスタッフは今年度より赤坂好宣、杉岡勇典、乗本周平の3名で、いずれも放射線科診断専門医、放射線科専門医研修指導医である。

藤本雄介医師（月・木：超音波検査担当）による応援は昨年と同様。今年度から京都府立医大の中井義知先生に週1日超音波検査、読影の応援をしていただいている。

2. 診療業務の実績

放射線診断科ではCT、MRI、RIの読影（日本医学放射線学会の画像診断管理認証施設に認定）、心臓以外の超音波検査の施行、上部および下部消化管造影検査の施行が主な業務である。

2021年の各検査の読影（施行）件数は以下の通り。

超音波検査	7667（前年比109.5%）
CT	2438（97.1%）
MRI	3411（105.1%）
RI	256（113.8%）
消化管造影	197（97.0%）
合計	13969（105.9%）

読影（施行）件数の総計では新型コロナウイルス感染症による患者数の増減の影響下であるものの、前年数を若干上回った。

その中でも超音波検査は年々増加の割合が高い。簡便、低侵襲で小児診療の初期評価に最適な診断ツールとなっている。CTや消化管造影検査といった放射線被ばくを伴う検査が若干減少し、これら被ばくのない検査へ移行してきていると考えられる。

3. 学術・研修・その他

定期カンファレンス（小児外科術後：火曜、小児外科術前：水曜、腫瘍：水曜）、不定期開催カンファレンス（胎児MR、神経放射線）で画像解説を通じて診断や治療方針検討に貢献している。

小児科医の放射線科研修が院内から4名（小林孝生、太田 亮、玉城 倫：各2か月、吉野 豪：3ヶ月）、尼崎総合医療センターから3名（円山牧子、西森万里子、吉田龍平：各3ヶ月）あり、コンスタントに研修の需要がある。主に超音波検査の習得を基盤にした画像に基づく間違いのない小児診療体系の確立が彼らの目的となっている。

放射線科医の研修としては淡路医療センターから2名（岡崎仁志、小林大悟：週1日、各6か月）あり、苦手領域のない general radiologist の育成に貢献している。

赤坂医師が尼崎総合医療センターへ（木）、杉岡医師が加古川中央市民病院へ（月）出張応援を続け、主に読影や消化管造影、膀胱造影の施行を業務とするが、出張先の小児診療を下支えしている。

放射線治療科

1. 人事異動

放射線治療科のスタッフは、副島俊典、福光延吉、出水祐介、美馬正幸の4名で2018年1月に福光医師が加入して以降変化なし。4名とも、隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

2. 2021年の動向

副島医師と出水医師が放射線治療外来を担当しているが、陽子線センターでの小児治療開始（2018年3月）以降、従来は当院のリニアックで治療していた症例の多くを陽子線センターで治療することになったので、症例数は減っている。しかし、陽子線センターでは対応が難しい全身照射、また、対応が難しいことが多い全脳照射、全肺照射、全腹部照射といった照射範囲の広い治療法が必要な症例は一定数いるので、リニアックの必要性は損なわれていない。

4名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生が定期的に見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

放射線治療件数（2021年）：23例

（内訳）

全身照射	11例
局所照射	10例
全脳照射+局所照射	1例
全腹部照射	1例

【参考】

陽子線治療件数（2021年）：65例

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2021年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳（県立加古川医療センターへ応援診療）、青木一憲、制野勇介、長井勇樹、宮下徳久、潮見祐樹。フェローは市坂有基、糸数大吾、村田慧、先瀆大、伊藤由作、當間圭一郎、村田剛士、藤原絢子、石田貴裕、高端裕人、時岡孝平、吉田美苗（非常勤）、染谷真紀（非常勤）。集中治療の研修として、麻酔科への3ヶ月間の短期研修を行った。院内外から2～6ヶ月の短期研修を7名受け入れた。

【資格】

集中治療専門医5名、小児科専門医14名（指導医4名）、麻酔標榜許可、救急科専門医、呼吸療法専門医、血液浄化療法専門医、外科学会専門医・心臓血管外科専門医・循環器専門医・脈管専門医・移植認定医各1名

JPLS 講師1名、PALS インストラクター3名

【診療体制】

小児集中治療科はPICU 14床とHCU 11床の25床を専属医として担当し（Closed ICU）、関係各科と密に連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。平日日中は7～8名、夜間は3名体制。休日は日中6名、夜間3名体制。うち2床をCOVID-19対応陰圧個室として運用している。

【施設認定】

- 集中治療医学会専門医研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設

【勉強会等】

- ・蘇生シミュレーショントレーニング 25回（のべ220名参加）
- ・ECMOシミュレーショントレーニング 5回（のべ170名参加）
- ・リサーチカンファレンス 8回
- ・Morbidity & Mortalityカンファレンス 16回（18症例）
- ・救急科、集中治療科合同カンファレンス 10回（のべ125名参加）
- ・家族ケアグループ勉強会
 - 1月 『生命の危機状態にある児の家族へのインフォームドコンセント』 参加者23名
 - 3月 『こどもにとっての最善の看取りの形って？』 参加者17名
 - 7月 『そんなに大事？DNAR』 参加者23名
 - 10月 『面会制限は必要か』 参加者10名
- ・看護師向け勉強会
 - 5月 鎮痛・鎮静 参加者18名
 - 6月 HFNC/NPPV 参加者26名、気道管理/経口・経鼻挿管 参加者17名
 - 7月 気道困難への対応 参加者18名、小児ARDS 参加者27名

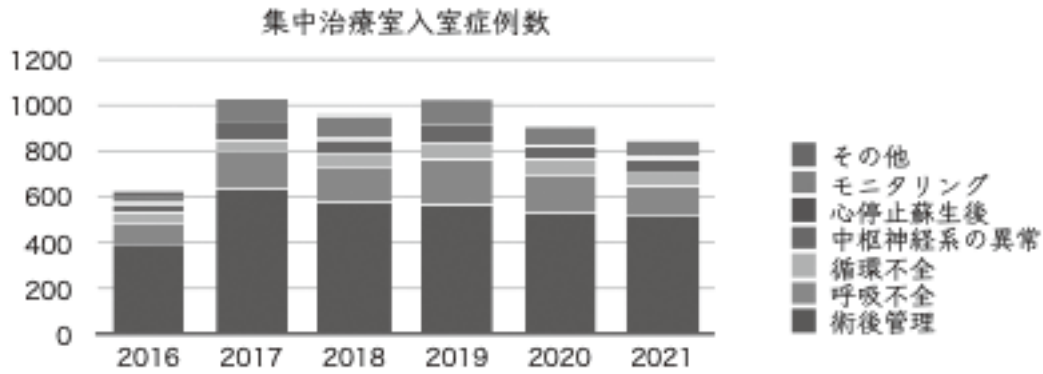
8月 吸入療法 参加者 12名

9月 脳平温療法 参加者 11名、ECMO 参加者 20名

10月 抗不整脈薬 / ペースメーカー 参加者 21名

11月 輸液療法 参加者 13名、電解質補正 参加者 14名

12月 頭部外傷 参加者 23名



	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
入室患者数	628	1,025	964	1,025	912	846	
月齢 (中央値, 平均)	29, 55	25, 57	24.5, 54	25, 60.4	25, 57.4	24.5, 57.3	
予測死亡率(%)	2.6	2.6	1.8	2.2	2.7	2.1	
実死亡率(%)	1.9	1.5	1.1	0.8	2.1	1.4	
コード99後入室	—	—	—	2	0	3	
METコール後入室	—	—	—	13	8	5	
滞在日数 (中央値, 平均)	4, 11	3, 7	4, 10	4, 8	4, 8	4, 8	
搬送手段	院内	494	800	733	764	732	674
	転院 (迎え搬送)	16	18	7	15	2	6
	転院 (他院同乗)	35	83	78	87	55	69
	救急車 (現場)	32	41	59	59	49	38
	ヘリコプター	20	19	21	19	15	14
	その他	31	64	66	81	59	45
入室理由	術後管理	387	640	570	565	532	525
	呼吸不全	88	158	162	200	153	119
	循環不全	53	53	50	66	74	68
	中枢神経系の異常	39	67	69	76	59	54
	心停止蘇生後	7	15	8	3	5	2
	モニタリング	31	86	93	108	80	74
	その他	23	6	12	7	9	4
	治療内容	人工呼吸管理	280	452	381	415	367
INO	58	59	61	68	76	58	
ECMO	10	10	13	6	9	10	
CRRT	2	3	11	7	10	9	
PEX	3	7	4	8	12	2	
県外から直接入院	27	29	38	29	11	15	

* 中央値[IQR]. 2016年は8カ月間

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理などの周産期の病理診断、小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2021年の動向

神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の先生が2名、連携病院である当院病理診断科でそれぞれ週3日1ヵ月間の研修をされた。

兵庫県立こども病院小児科専攻医の先生が1名、病理診断科を3ヵ月間ローテートされた。

2021年2月18日に、当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例3例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科で第3回CPAカンファレンスをwebで行った。国立循環器病センター病理診断科医師、大阪大学の小児科医師、神戸大学法医学医師にも参加して頂いた。

2021年3月25日に2020年度院内CPCが行われ、臨床報告を血液腫瘍科の齋藤敦郎先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の清水祐里先生が担当された。

2021年12月7日に2021年度院内CPCが行われ、臨床報告を循環器内科の広田幸穂先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の西野彰悟先生が担当された。

2021年5月15日に第93回日本病理学会近畿支部学術集会オンラインのモデレーターを十三市民病院病理診断科と兵庫県立こども病院病理診断科で行い、小児脳腫瘍をテーマとした。

がんゲノム医療が開始され、兵庫県立こども病院では2021年は8件が対象となった。エキスパートパネルは神戸大学医学部附属病院で行われた。

大阪市立総合医療センター病理診断科が主催されているweb病理症例検討会に参加して、ヴァーチャルスライドを用いた症例提示にて、参加されている病理医との意見交換を行っている。大阪市立総合医療センターの他、淀川キリスト教病院、高槻病院、神戸市立医療センター中央市民病院、市立函館病院、九州大学病院、石川県立中央病院など全国多数の施設の病理医が参加されており、幅広い協議に参加させて頂いている。

2021年の件数

組織診断件数 1159件

（うち迅速54件、胎盤281件、腎生検35件、他院からの持ち込み40件、他院3件）

細胞診断件数 265件

剖検件数 2件（循環器科1件、新生児科1件）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「見る・護る・伝える・繋ぐ」で、“こどもと家族の輝く笑顔”“頑張る力”を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の特徴

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式を取り入れています。
- 患者さんが治療や検査を理解し、確実に出来るように、プレパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者さんの成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者さんに少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの方と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の質向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

【共働】

1. 連携・協働を強化し、互いに尊重し支え合うチームをつくる。専門性の高い看護実践でつなぐ。

【共育】

2. 全看護職が教え育む力を発揮し、共に成長する。

【共創】

3. 魅力ある職場を創る。

看護部の活動

5 階西病棟

小児外科・泌尿器科疾患を中心とした混合病棟として、周術期看護と内科系疾患の看護、確実な治療の提供、退院を見据えたセルフケアの支援など、短期入院、長期入院にかかわらず、診療科や多職種と協働し取り組んだ。泌尿器科のクリニカルパスを積極的に導入、新たに作成するなど看護の標準化を強化した。

5 階東病棟

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家族の面会制限、外泊禁止など在宅支援にも影響があった。その中でも感染防止に努め在宅支援を継続している。在宅移行患者数は少なかったが、患者、家族の状況に応じた支援を継続している。また、感染症病床として、新型コロナウイルス感染症対策にスタッフで取り組み、患者の受け入れを行った。感染拡大期では、COVID-19 感染病床として臨時的運用を行った。多職種と連携し、COVID-19 に罹患した患者の看護に努めると共に、職員の暴露リスクを考慮した環境整備や看護の提供を検討し、マニュアルの修正を行った。

6 階西病棟

安心で安全な看護の提供を目指し、互いに尊重し合い共に育つことを念頭に教育をすすめた。外科系患者の周術期看護の充実に向けての取り組みや、退院支援を要する患者支援のため多職種や病棟間、地域との連携強化に取り組んだ。また、先天性心疾患患者の移行期支援のための内服自己管理への取り組みも開始した。

6 階東病棟

内科外科混合病棟として代謝内科の糖尿病教育入院や腎臓病患者の看護、整形外科、脳神経外科の周術期看護、血液腫瘍科の陽子線治療の看護などこどものセルフケアの向上に向けた支援や退院支援に取り組んだ。安全で安心な看護を目指し、各診療科や他部門との勉強会やカンファレンスを実施した。

7 階西病棟

小児がん拠点病院として、血液腫瘍内科の患者を受け入れ、化学療法や造血細胞移植を安全に行い、患者、家族の不安や苦痛の軽減を図る看護ケアに取り組んでいる。多職種と協働しカンファレンスを開催し、患者の自立を目指した生活支援や復学カンファレンス、終末期の緩和ケアを実施した。

7 階東病棟

多職種と協働しながら、子どもにとっての最善を目指し、確実な治療と症状緩和、日常生活・療養環境の整備、きょうだい支援、退院・復学支援等に取り組んだ。中でも、陽子線治療においては、連絡ファイルの運用と定期カンファレンスの開催により、陽子線センターとの連携を強化した。また、多職種とともに地域との連携等を行い、在宅終末期ケアの調整にも努めた。

PICU

2020年9月からPICUとして一体化運用を開始し、内科系、外科系を問わず重篤な急性機能不全に陥った患者に、より質が高く効果的な集中治療・看護が行えるように、OJTの中でスタッフ全員が知識・技術の向上に取り組んでいる。また、日々医師とのベッドサイドカンファレンスを行い、理学療法士とともに早期リハビリテーションを実施している。精神科、心理士とも連携し、危機的状況にある患者家族の精神的支援も行うなど、チーム医療を推進している。

HCU

全診療科を対象に、超急性期から回復期に向かう状態が不安定な患者の受け入れをおこない、その子らしい生活ができるよう一般病棟と連携し継続看護を進めた。総合診療科管理を導入し、自部署から在宅移行を見据えた支援を行うことができた。また、PICUのCOVID-19患者の受け入れや重症患者増加により、HCUでの集中管理中患者の

受け入れや PICU へのリリーフを想定し、集中治療管理に対応できる看護師の育成として PICU 研修を行っている。

NICU

NICU での PNS 体制を見直し、ガイドラインに沿った実践と PNS マインドを再確認した。結果、教育支援が円滑に行えるようになり、実践経験が増えた。また、医師・GCU 病棟との話し合い・調整を重ねて面会時間の拡大を実現し、ファミリーセンタードケアの充実に努めた。

GCU

GCU での PNS の充実に向け、看護のリフレクションやリシャッフルを実施し、病棟全体で質の高い看護の提供ができるよう取り組んだ。面会制限がある中、家族が不安なく退院を迎えることができるよう、早期から計画的に退院支援を行った。また、産科、NICU、外来と連携し、新生児内科外来での患者支援の強化や地域とも連携し、継続看護の充実に努めることができた。児の成長発達への支援として、リハビリ科との連携を行い、「赤ちゃんに優しい 家族に優しい」看護ケアの提供ができるよう取り組んでいる。

産科

妊娠中から、母子への切れ目のない支援対策を行っている。出生前診断を受けた患者・家族に対し、新生児内科・循環器科と連携し、出生後の児の状態・育児に関する不安の軽減に繋がるようプレネイタルビジットを実施している。また、妊婦が主体的に分娩に臨めるよう、バースプランを聞き、ケアに繋いでいる。継続的に支援の必要な褥婦には、養育支援ネットを用いて地域へ繋いでいる。長期入院により、筋力低下した褥婦には、産後リハビリを行った。母乳外来では、他院で分娩された母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めている。

外来と連携し、思春期移行期支援対策として性教育を中心に指導や、新生児の 1 ヶ月健診での指導ができるよう取り組んだ。

手術室

WHO の指針に基づいた「手術室安全チェックリスト」を用い、安全な手術環境を整えると共に、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、他職種、他部門と協働し、手術後回復期の PACU 運用など、術前・術中・術後の安全と安心に繋がる看護を推進している。

外来

在宅療養中の患者・家族の安全と多様化するニーズに対応していくことを目標とし、安全な外来診療と患者・家族からの相談に対応できる人材育成を目指した。各診療科での移行期支援・看護相談のシステムを構築し、患者・家族への支援に向け取り組んでいる。

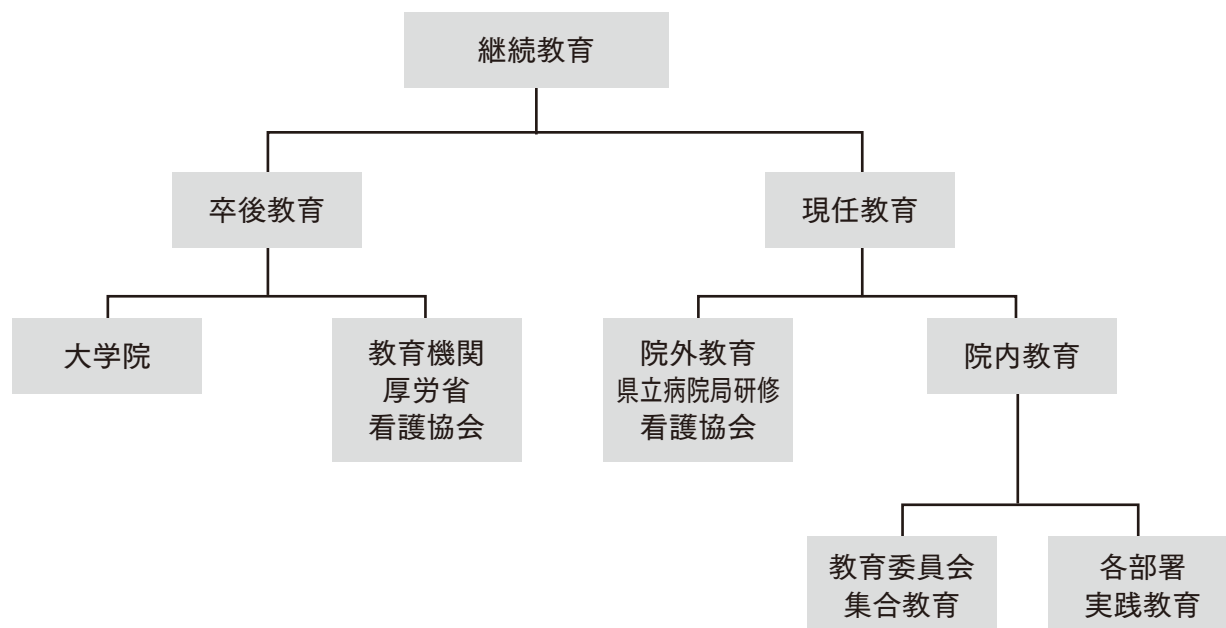
救急・HCU

救急外来患者及び救急・HCU 病棟に入院する患者・家族に対して、受診時から地域での生活を見据えながら必要なニーズ・支援を見だし、看護を提供することによって、子どもの安寧と健やかな成長発達を支援した。特に、保育士と協働し療養環境の整備にも取り組み、遊びを通して「一緒にがんばり、こどもたちを笑顔にする」ことを実践できている。また、多職種連携や他部署との連携を強化することで専門的な医療の提供を推進し、地域との連携を強めている。

こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

委員会名	開催回数	活動内容と結果
看護師長補佐会	12回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図ることができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSマインドを醸成しPNSの維持向上をはかる 2. 災害に対する維持向上が図れ、(シミュレーションでの)初動が取れる 3. スタッフ一人一人の接遇や看護サービスに対する意識向上を図り、患者・家族が安心して入院生活や外来受診の時間を過ごすための看護が提供できる 4. 部署間で連携し切れ目のない支援を行うことで、入院し手術を受けることも家族が心身共に安心できる看護を提供できる 5. こども病院の看護を発信することで就職後のリアリティショックを軽減することができる 6. リーダー育成に向けた基準を明確化し、院内で統一された資質を持ったリーダー看護師が育成できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSマインド研修を開催し、各部署でリフレクションを通してPNSマインドを深めることができるよう取り組んだ。また自主師長会のPNSグループと連携を図り、PNSの基本の維持と向上を目的にPNS自己監査と他者監査を行い、各部署の課題を明確化した。 2. 災害時における机上シミュレーション方法と周知に向けて動画を作成、各部署での活用に向けた。各病棟の防災設備保全に関しては、自主師長会の災害グループと連携し、持ち出し物品の確認や、記録の確認、チェックリスト活用の提案を行った。 3. 接遇チェックリストの内容を見直し、年間2回の自己評価・他者評価を実施した。評価毎に結果を分析し、電話対応についての啓蒙、身だしなみポスターの作成を行った。また、患者アンケート活用フロー・ハートメッセージ活用フローを運用し、看護師長補佐会内での共有と各部署へのフィードバックを行った。 4. 各部署での取組みを共有し、外来から病棟への入院の流れにおいて改善点を洗い出し継続した支援を検討した。 また、入院・手術がイメージできるよう「いっしょにがんばろうね」パンフレットを修正し、効果的な活用方法を検討した。 5. 新人へのアンケートを実施し、ニーズや情報収集の方法の現状について把握した。県立病院のLINEを活用し、定期的にこども病院の看護を配信、また病院のホームページの活用を検討した。 6. 各部署の教育計画の現状を把握した。それを基に「兵庫県立病院看護職キャリア開発ラダー」と照らし合わせながら、日勤リーダーに必要なスキル及び評価項目の選定を行い、ガイドライン及びスキルチェックシートを作成した。試行運用を経て評価・修正し、本格運用に向けた。
教育委員会	13回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の経験から看護実践を振り返り、共に学び成長する教育環境を作る 2. 研修-OJT-ラダーの連動を促進する支援ができる 3. 教育委員と教育担当者が互いに認め合い、共に成長する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 4. 全スタッフで新人看護師を育成し、また共に学び続ける風土づくり・体制整備 5. リフレクションの推進
教育担当者会	14回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の経験から看護実践を振り返り、共に学び成長する教育環境を作る 2. 研修-OJT-ラダーの連動を促進する支援ができる 3. 教育委員と教育担当者が互いに認め合い、共に成長する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 4. 全スタッフで新人看護師を育成し、また共に学び続ける風土づくり・体制整備 5. リフレクションの推進

<p>臨地実習指導者会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨地実習ができる</p> <p><目標> 臨地実習指導者は、学生が以下の項目を達成できるよう関わり指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護の対象（受けもち患者）を全人的かつ統合的に理解し、看護上の問題を把握出来る。 2)看護の対象(受けもち患者)と関係性を構築し、臨地実習を進めることができる。 3)臨地実習に対する意欲を向上させ、自らの考えを伝えることが出来るなど積極的に学ぶことが出来る。また自身の行動に責任を持つことができる。 4)現場の看護師を実践者としての役割モデルとして、プロフェッショナルとしての姿勢を学ぶことが出来る。 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学校と実習内容の調整や目的の共有を行い、各病棟で実習を受け入れた。COVID-19による影響で実習時間の短縮や中止がある中、リモートでのカンファレンスや質疑応答を取り入れ、可能な限り学生が学べる場を提供した。 2. 各病棟の特性に合わせたオリエンテーションPPを使用し、学生に対し統一関わりを行った。 3. 学生の状況を把握し継続した臨床指導を行うため、実習経過表を使用し、記載率の向上に努め効果的な実習が継続出来るようにした。 4. 「周手術期看護実習における取り決め」「手術室見学申し送り用紙」に沿い、手術室見学は41件と前年度より大幅に増加した。 集中系病棟の実習、術前訪問など周術期における実習体制について整備していく。
<p>看護の質向上委員会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> 看護の質向上に向けて、倫理綱領に基づき患者の安全と安楽、権利と尊厳を守るケアを提供に資する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自部署の身近な倫理に気付き、それをカテゴリーに分類できる（倫理的感受性） 2. 分類した身近な倫理問題を、倫理の言葉を用いて説明できる（倫理的推論） 3. 修正が必要な看護手順を見直し・修正できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各部署の身近な倫理場面を洗い出し、タイプ別にカテゴリー化することで部署の倫理問題の把握につなげた 2. 身近な倫理問題の典型例を幾つかのパターンに分け、倫理の言葉で説明する上での法則性を整理し、理解を深めた 3. 看護手順の定期的な見直しを行い、8つの手順の修正を行った

<p>感染対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 感染防止対策の周知徹底を図り、院内感染を防止する</p> <p><目標> 1. 感染症および耐性菌のアウトブレイクがー昨年より減少する 2. COVID-19における感染対策を継続して実施する 3. 感染対策における実践モデルとしての役割を發揮する</p> <p><活動内容> 1. 手指衛生遵守率80%以上維持することを目指し、手指衛生直接監査や手指消毒剤使用量調査を行い、感染対策推進員の育成を行った 2. 感染防止を考えて、オムツ交換のベストプラクティスの見直しを行い、遵守について監査を行い、結果を分析し、対策を考えた 3. 感染防止を考え適切な防護具の着脱ができるよう、着脱の手順を啓蒙し、遵守について監査を行い、各病棟の結果を分析し、対策を考えた 4. COVID-19患者の感染対策を実施できるようフルPPEの着脱テストを実施し、啓蒙した 5. 感染管理者認定看護師による3回/年のミニレクチャーの内容を各病棟に浸透させるよう活動した 6. 院内感染対策マニュアル（第5章：日常生活援助における感染対策）の改訂を行った 7. 全職員対象の感染対策研修会に向けて「感染性胃腸炎」について視覚的教材の作成を行った</p>
<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標> 1. リスク感性を高め、安全な療養環境の提供を行う 2. ヒヤリハット報告書の分析方法を学び、自部署の事故防止対策に活かす</p> <p><活動内容> 1. ヒヤリハット報告書を用いてRCA分析を行い、各部署で対策を立案し実践評価する 2. 各部署の問題や課題を委員会で情報共有し、自部署の対策立案の一助にする 3. ヒヤリハット件数の多い薬剤投与について監査し、自部署の傾向を知り対策を立案する</p>
<p>看護記録管理</p>	<p>委員会</p>	<p><目的> 1. 看護記録の質の管理を行い、看護実践の一連の過程の記録を実現する。 2. 看護記録の倫理的側面の管理を行い、適切な看護記録を実現する。 3. 診療録の一つの記録として、診療情報の提出及び開示の目的に適合する看護記録を実現する。</p> <p><目標> 1. 個別的な看護計画の立案ができ、質的監査の項目が上昇する。 2. 看護計画の質的向上とタイムリーで確実な記録が行える。 3. 看護記録記載マニュアルを修正し、看護記録を正しく理解し、記載することが出来る。</p> <p><活動内容> 1. 看護計画の新規で「先天性気管狭窄症術後」、「全身麻酔を受けた患者の看護」を作成、手術室と病棟看護の連携を推進した。 2. 看護記録の監査を機械的・質的・セキュリティ・タイムリールールの側面で各1回、計3回実施した。監査を行うことでスタッフ全員が記録を見直し、看護記録について考える機会にはなった。 3. 看護記録の定義を修正し、各部署で周知した。</p>

看護記録管理	部会	11回	<p><目的> 看護部看護記録管理・クリニカルパス推進委員会の下部組織として、業務上看護が取り扱う情報を以下の2点に基づき、委員会と連携し管理することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践用のシステム（看護支援システム・病院情報システム）を活用し、その改善に関わる。 2. 情報管理に関する法的遵守及び、施設のセキュリティポリシーに基づいたシステムの安全管理に関わる。 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部記録管理委員会と協働し、看護計画が実際に活用出来るよう、電子カルテのマスターメンテナンスを行った。 2. 看護記録質向上のための啓蒙新聞2刊発行した。 3. 皮膚排泄ケア委員会、緩和ケア部会と連携し、観察項目の追加、計画の修正を行った。 4. 外来、産科のテンプレートの作成を行った。 5. クリニカルパス作成、患者用パスの作成のサポートを行った。 6. クリニカルパスeラーニングの研修会の講義資料作成を行った。 7. 電子カルテのバージョンアップ時、の内容確認、検討と電子カルテリプレースに向けた検討を行った。
クリニカルパス推進部会		6回	<p><目的> 1. 医療の質改善に寄与するクリニカルパスを推進する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種と連携し、クリニカルパスの質が向上する。 2. クリニカルパスを推進するため、使用した手順（記載手順）の周知を行い、統一した記載が行える。 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各診療科と協働してクリニカルパスを18項目を新規作成し、106項目となった。入院診療計画書へ患者用パスの文言や書式を統一し、38/81項目作成した。 2. パスの教育ツール作成、記載手順の修正を行った。
地域連携委員会		5回	<p><目的> 退院支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアが必要な児の退院支援確認表の活用を推進することで、継続した退院支援ができる 2. 入退院支援を推進することで、患者・家族が安心して退院することができる 3. 家族に統一した指導を行うことで、家族が確実に手技を獲得することができ、患者に適切なケアを提供することができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアが必要な児の退院支援確認表の運用方法の修正を行い、推進活動の実施を実施した。 2. 入退院支援加算1について推進活動を行った。計画内容について監査を行い、課題に対して各部署で対策を検討し取り組んだ。 3. 経管栄養と胃瘻栄養に関する家族に渡すパンフレットについて、新規格（ISO）の物品採用に伴ってパンフレットの修正を行った。

<p>専門・認定看護師会</p>	<p>専門認定 合同会議 3回/年</p> <p>専門看護師 認定看護師 各7回/年</p>	<p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標> 【CNS】 1. 所属部署または依頼のあった部署を中心に課題の明確化と問題解決に向けての取り組みができる 2. 専門看護師として自身の実践能力を向上させ、現場の看護の質を向上させる</p> <p>【CN】 1. 各認定分野において組織・チームのリソースとなり、研修を通してスタッフの人材育成を行う 2. 認定看護師として自身の実践能力を向上させ現場のケアの成果を上げる 3. 各認定分野において地域のリソースとなる</p> <p><活動内容> 【CNS】 1. 依頼に応じて部署カンファレンスに参加した。倫理カンファレンスは院内倫理研修後、カンファレンスの支援を全例行った 2. CNSで院内・院外発表の研究の支援を行った</p> <p>【CN】 1. スキルアップ研修（ストーマケア/創傷ケア/感染管理/集中ケア/摂食嚥下障害ケア）の開催と教育委員主催院内研修を担当し行った 2. 委員会内で各領域毎の活動報告を全領域が行い情報共有ができた 3. コロナ禍での研修方法を検討しながら地域への研修を開催できた</p>
<p>研究支援委員会</p>	<p>6回</p>	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p>
<p>領域別・ 看護ケア向上 委員会</p>	<p>皮膚・排泄 ケア部会</p>	<p><目的> 皮膚・排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. 部会員が、皮膚・排泄ケアに関する知識を習得し部署に還元する 2. 褥瘡に関連するアセスメント記録の現状と適切な記録方法を発信し正しい記録ができるようになる 3. MDRPUの看護計画に基づいた標準化した看護が提供できる</p> <p><活動内容> 1. 皮膚・排泄ケア認定看護師が部会員対象に勉強会をし部会員は自部署のスタッフへ伝達講習を実施した。また、部会内で事例検討を実施した 2. 広報誌の発行と毎月の監査結果を公表し各部署での課題を委員が提示し改善するように部署のスタッフに働きかけたが、正しい記録には課題が残った 3. 肛門皮膚周囲炎の勉強会を開催し参加者の100%が理解できたとの回答であった（参加者28名コロナにより制限した）</p>

領域別・ 看護ケア向上 委員会	呼吸 ケア部会	6回	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸障害における専門知識を習得する 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸障害におけるリスク感性を高め安全な呼吸ケアを提供できる RST リンクナースとしての RST 活動の周知、知識の向上と定着化ができる 部会委員が呼吸ケアについての知識技術についての学びを部署内で還元できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 呼吸管理に関するヒヤリハット内容と各部署で実施した対策とともに結果を共有し、必要に応じて全体で事例検討を行った。前年度作成された呼吸器安全チェックリスト、気管カニューレ予定外抜去注意喚起票の使用について、監査と啓蒙活動を実施した。マジックテープ式気管切開カニューレ固定具を使用する際の基準と作成手順を修正し提示した RST 活動内容を共有し、部署内で啓蒙した 部会内で勉強会や ME と情報共有を行い、リンクナースとしての知識を深め、各部署で学びを還元した
	摂食障害 ケア部会	11回	<p><目的></p> <p>摂食障害における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 摂食に関する知識を学び、各委員がリンクナースとしての役割を担うことができる 事例検討を通して実際のケアを学び、病棟間及び外来との連携を充実させることで継続看護ができる 口腔ケアが摂食ケアの基本の一つであることを全看護師が理解できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 各委員が自主的に摂食ケアについて学び、部会内で委員が講師となって担当項目の講義を行った グループ活動として、①記録の充実に向けた啓蒙、②口腔ケア（間接訓練）、③トロミ剤について、各部署での啓蒙を行うためのツールの作成や勉強会を実施した 毎回の部会で、部署での取り組みを発表し情報の共有をはかった。事例検討を計画通りに実施したことで情報交換ができ、さらに知識向上に繋げることができた
	緩和 ケア部会	6回	<p><目的></p> <p>緩和における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 緩和に関する最新の知識を学び共有する 事例検討を行い、質の高い看護を提供する 院内緩和ケア部会、緩和ケアチームと連携し、院内の緩和ケアの向上を図る <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 部会内緩和ケア勉強会の開催と各部署への伝達 部会内事例検討の実施と各部署へのフィードバック 院内緩和ケアチーム事例検討会への参加と事例提供 グリーフケアのツール作成と疼痛スケール使用評価
	プレパレ ーション部会	5回	<p><目的></p> <p>プレパレーションについて検討を重ね、プレパレーションの質を高めることで看護の質向上を図る</p> <p><目標></p> <p>プレパレーションの専門的知識と技術を習得し実践に活かすことができる</p> <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 2回の勉強会とそれを踏まえた意見交換会を開催し、その学びを部署に還元した 3回的事例検討会を開催し、日々の実践を振り返り共有した 各部署で活用しているケアマップを持ち寄り、モデルケースを設けて見直しを開始した

令和3年度 看護部院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
	フォロー研修① 新生児・小児・母性看護の特徴	4月5日(月)	1日		54名	武田看護部次長、栗林 CNS、清水看護師長、教育担当
	フォロー研修② こどもの安全・感染	4月6日(火)	1日		52名	竹井医務安全課長兼看護部次長、新谷 CN、教育担当者
	フォロー研修③ こども病棟の看護を知らそう	4月7日～9日	3日		47名	放射線部、薬剤部、検査部、保育士、教育担当者
	フォロー研修④ 多職種との連携とこども病棟の看護	4月12日(月)	1日		48名	薬剤部、山下看護師長、中島 CN、教育担当者
	フォロー研修⑤ 静脈注射・看護技術演習	4月13日(火)	1日		55名	薬剤部、山下看護師長、中島 CN、教育担当者
	フォロー研修⑥ 栄養と褥瘡、ポンプ管理	4月23日(金)	1日		47名	栄養管理課、森本 CN、鎌田 CN、ME、教育担当者
	フォロー研修⑦ BLS・吸引・医療ガス・酸素療法	5月10日(月)	1日	1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	48名	藤原 CN、教育担当者、ME
	フォロー研修⑧ 周手術期看護・フィジカルアセスメント	5月21日(金)	1日		47名	新井 CN、吉村 CN、教育担当者
	フォロー研修⑨ 夜勤導入「報告・連絡・相談」	6月25日(金)	0.5日		48名	教育担当者
	フォロー研修⑩ 家族看護・リフレクション	7月26日(月)	0.5日		46名	浅井 CNS、越後看護師長、教育担当者
	フォロー研修⑪ ストレスマネジメント・PNS	8月26日(木)	0.5日		44名	長谷臨床心理士、教育担当者
	フォロー研修⑫ 看護過程1	10月22日(金)	1日		43名	栗林 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑬ 看護過程2	11月8日(月)	1日		43名	栗林 CNS、教育担当者
	フォロー研修⑭ 多重課題	11月26日(金)	PM0.5日		43名	教育担当者
	フォロー研修⑮ 看護おひろめ会	2月7日(月)	1日		42名	教育担当者
	フォロー研修⑯ 看護観発表	3月7日(月)	1日		43名	教育担当者
		12月16日				
		12月17日				
		12月20日				
	フィジカルアセスメント・救急蘇生研修	1月27日	各1日	1. 子どもの生理学的異常兆候を察知し、報告することができる 2. 小児の救急蘇生場面において、迅速な役割行動をとることができる	45名	藤原 CN、坂本 CN、インストラクター他
		1月28日				
		1月31日				
既卒	既卒者研修①	5月13日(木)	2時間		9名	松本看護部部長、長谷臨床心理士
	既卒者研修②	7月5日(月)	2時間		8名	浅井 CNS
	既卒者研修③	9月16日(木)	2時間半	1. 職場への早期適応を図り、ワークライフハーモニーを基盤とし、専門職としてキャリア開発に主体的に取り組むことができる	9名	深江家族支援地域連携部課長
	既卒者研修④	2月18日(金)	2時間		9名	教育委員
	メンバースhip	6月1日(火)	2時間		42名	武田看護部次長
	2年目 看護倫理	11月29日(月)	0.5日		34名	栗林 CNS
	フィジカルアセスメント研修	7月29日(木)	0.5日		43名	藤原 CN
	リフレクション研修	11月27日(土)	0.5日	1. 自らの看護実践を振り返り、自身がおこなった看護に興味を見出すことができる 2. 倫理問題に基づき、意識して行動でき、気づきを伝えることができる 3. フィジカルアセスメント能力を高め、看護実践に活用できる	22名	東めぐみ教授(外部講師)
	看護倫理		0.5日 ×2回	1. 患者・家族・医療者の立場による価値観の違いを理解し、問題提起することができ 2. 倫理問題に気づき、こどもを主体とした看護を考えることができる	32名	栗林 CNS
ラダーII 研修	退院支援研修	6月23日(水)	2時間	1. 退院後の生活を想定して、情報収集しアセスメントでき、助言を受けながら個別の看護計画を立案できる 2. 多職種と退院について情報共有ができる	15名	深江家族支援地域連携部課長
	3年目スタート	4月30日(金)	1.5時間	1. 主体的に学習活動に取り組む 2. 看護研究の基礎知識を習得しケーススタディに臨む	33名	濱田看護師長
	ケーススタディ発表	1月21日(金)	1日	1. 事例を通して自己の看護を振り返り、大切に行っている看護を明確化できる	29名	
	プリセプターフォロー研修①	6月7日(月)	2時間	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共有できる	30名	寺田看護師長
	プリセプターフォロー研修②	10月29日(金)	2時間	1. プリセプターとしての役割を理解し、アソシエイトプリセプターの支援のもと、プリセプティと共有できる	29名	伊丹看護師長
	実践力UP！「ポジショニング研修」	10月25日(月)	2時間	1. こども病棟に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	10名	福田PT

ラダーII 研修	実践力UP！「家族看護」	8月12日(木)	2時間	1. 子ども病院に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	19名	浅井 CNS
	実践力UP！「ストマケア」	7月7日(水)	2時間	1. 子ども病院に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	6名	鎌田 CN
	実践力UP！「摂食・嚥下障害看護」	11月18日(木)	2時間	1. 子ども病院に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	9名	森本 CN
	実践力UP！「発達障害児の理解」	10月12日(火)	2.5時間	1. 子ども病院に必要な知識を習得し、看護実践につなげる	21名	精神科 関口医師
	教育研修②	9月14日(火)	4時間	1. 実地指導者が役割を認識し、学習者の特徴を理解することができ、対象に合わせた学びの場を作ることもできる	19名	内正子 教授 (外部講師)
ラダーIII 研修	リーダーシップ	8月23日(月)	0.5日	1. 看護チームの中でリーダーシップが発揮できる	16名	清水看護師長
	シミュレーション研修	6月30日(水)	0.5日	2. 自部署のPNSにおけるロールモデルになることができる 2. シミュレーション教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる	24名	坂本 CN
	看護倫理	10月28日(木)	2時間	1. 倫理原則・倫理綱領に基づき、意識して行動でき、部署の倫理問題に気づき、支援を受けながら問題解決に向けて取り組むことができる	16名	中谷 CNS
	退院支援研修	8月24日(火)	2時間	1. 退院後の生活について、患者・家族と相談しながら個別性をふまえ、必要な介入を考え実践できる 2. 退院支援における意思決定に必要な情報提供や場の提供ができる	15名	深江家族支援地域連携部課長
	マネジメント研修	5月17日(月)	0.5日	1. 部署の課題を把握し、自己の役割に応じて解決策にむけた計画立案・実践・評価ができる	16名	松本看護部長
ラダーIV 研修	マネジメントフォローアップ研修	9月29日(水)	0.5日	1. 部署の課題を把握し、自己の役割に応じて解決策にむけた計画立案・実践・評価ができる	15名	松本看護部長
	リフレクション研修	11月28日(日)	1日	1. 看護リフレクションについて体験を通じて学び、ファシリテーションを学ぶことができる 2. 省察的実践者を育成していくための方法を知り、動機付けができる	24名	東めぐみ教授 (外部講師)
	アドバンス研修	6月22日(火)	2時間	1. 退院調整のプロセスを経験し、退院支援における病棟看護師の役割を理解する	11名	深江家族支援地域連携部課長
	アドバンス研修フォローアップ	2月22日(火)	2時間	2. 自身の課題と部署の課題を明確にし、部署における退院支援推進者としての役割を理解する	10名	深江家族支援地域連携部課長
	教育研修①	11月22日(月)	7時間	1. 学習者である若手看護師の特徴を理解し、相手に合わせた教育支援ができ、共に成長できる	22名	内藤知佐子先生 (外部講師)
全体研修	PNS マインド	9月30日 AM・PM 10月4日 AM・PM	各2時間	1. 日々の看護実践において、PNSがより円滑に機能するために、パートナーシップのマインドの醸成を図る	86名	看護師長補佐会
	摂食・嚥下障害看護	8月30日(月) 10月21日(木) 12月13日(月)	各0.5日	1. 摂食・嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとっての食の意図や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる	10名	森本 CN
スキル アップ 研修	創傷ケア	8月23日(月) 10月25日(月) 12月20日(月)	各0.5日	1. 小児によく見られるスキャントラブル(褥瘡・医療関連機器圧迫・創傷・肛門周囲皮膚炎・胃腸周囲皮膚炎・テープ貼付による皮膚炎)に適切に対処するために必要な知識と技術を習得する	11名	鎌田 CN、茨木 CN
	ストマケア	7月26日(月) 9月27日(月) 12月6日(月)	各0.5日	1. 小児のストマケアが適切にできるようになるために、小児のストマ造設をする疾患や術前術後のケア、ストーマ器具・皮膚保護剤、スキんケアの原則と社会保険について理解する	8名	鎌田 CN、茨木 CN
	集中ケア	7月13日(火) 9月13日(月) 11月30日(火)	各0.5日	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身に付け、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防することができる	15名	坂本 CN、吉村 CN
	感染管理	7月28日(水) 9月29日(水) 11月24日(水)	各0.5日	1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導ができる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について考えることができる	9名	中島 CN・新谷 CN

令和3年度 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師/発表者	所属
超緊急帝王切開のシミュレーション	産科/OP室	11月	15:00～16:00	産科・OP室・新生児	40	超緊急帝王切開のシミュレーション		産科担当者
小児がん教育プログラム	7 東	11月12日	17:45～18:45	講堂	27	小児がんの治療と栄養	鳥井管理栄養士	栄養課
小児がんプロジェクト研修	7 西	1月14日	17:45～18:45	講堂	25	陽子線治療の基礎知識 CAR-T療法の基本知識	庵邊看護師 岸本医師	陽子線センター 血液腫瘍内科
第1回医療安全研修会	医療安全管理室	12月3日～ 1月31日	e-learning	e-learning	882	e-ラーニング ①復唱 ②指差呼称 ③ダブルチェック	無し	無し
第2回医療安全研修会	医療安全管理室	3月1日～ 3月31日	e-learning	e-learning	857	コミュニケーションエラーに起因するヒヤリハット ～ グループワークから学ぶ ～	田中敬克 深江登志子 前田啓明	リスクマネジメント部会
接遇研修	患者サービス向上等推進委員会	11月4日	17:30～18:30	講堂	68	患者・家族と医療者をつなぐコミュニケーションの力	山口育子	認定NPO 法人 ささえあい医療人権センター COML
第2回院内AST研修会	感染対策部	12月～1月	e-learning	e-learning	66	兵庫子どもにおける感染症診療のトリセツ	松村治	総合診療科
第2回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会 (HART)	感染対策部	12月20日	10:30～12:15	オンライン	51	・行政を中心とした抗菌薬適正使用と市民教育 ・地域で取り組む小児AMR対策 - 初期救急施設の事例をもとに -	大竹正悟 木村誠	抗菌薬適正使用支援チーム 神戸子ども初期急病センター
新型コロナウイルス講義	感染対策部	2月2日～ 28日	e-learning	e-learning	329	新型コロナウイルスワクチンについて 知っておいてほしいこと	笠井正志	感染対策チーム
第2回全職員対象感染対策研修会	感染対策部	3月	e-learning	e-learning	733	着ければいいってもんじゃない	リンクナース	感染対策チーム 看護部感染対策 委員会
新規採用医師感染対策オリエンテーション	感染対策部	4月1日	10:00～10:30	講堂	60	感染対策のトリセツ	笠井正志 大竹正悟	感染対策チーム
新規採用看護師対象 新型コロナウイルス感染症レクチャー	看護部	4月1日	11:30～12:00	北館研修室	60	新型コロナウイルス感染症の感染対策	中島由佳	感染対策チーム
第1回院内AST研修会	感染対策部	6月～8月	e-learning	e-learning	213	兵庫子どもにおける感染症診療の原則とトリセツ	大竹正悟 松村治	抗菌薬適正使用支援チーム
第1回全職員対象感染対策研修会	感染対策部	10月	e-learning	e-learning	877	コロナばぬ先のコロナ対策	笠井正志 新谷茜 中島由佳	感染対策チーム

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

【転出者】次長	太田 あづさ	県立尼崎医療センター	(令和3年4月1日付)
職員	平岡 有貴子	県立西宮病院	(令和3年4月1日付)
職員	渡邊 稜子	県立淡路医療センター	(令和3年4月1日付)
【転入者】次長	藤原 康浩	県立がんセンター	(令和3年4月1日付)
主任	門倉 史枝	県立尼崎医療センター	(令和3年4月1日付)
職員	藤田 愛美	県立がんセンター	(令和3年4月1日付)
職員	芦原 まいか	新規採用者	(令和3年4月1日付)
職員	網代 千慧	新規採用者	(令和3年4月1日付)
職員	岡田 瑞希	新規採用者	(令和3年4月1日付)
職員	豊田 祥子	新規採用者	(令和3年4月1日付)
【退職】職員	高橋 美賀		(令和3年3月31日付)

2 2021年度活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 薬剤管理指導業務等の病棟業務による薬剤の適正使用の推進

薬剤管理指導を主とした病棟での活動を通じて、患者指導や医療従事者への情報提供を行うことで医薬品の適正使用を推進した。また、本年度から NICU・PICU にも担当薬剤師を配置した。コロナ禍及び薬剤師の確保が困難な中、薬剤管理指導業務の実施に努め、実施率は前年と同程度の約 60% を達成した。

(2) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) の事務局としての活動

平成 30 年度の抗菌薬適正使用加算の算定開始以来、薬剤師がチームリーダーを務め中心となって活動している。前年同様に院内外の勉強会の講師を務める等、抗菌薬の適正使用支援に努めた。また、新型コロナウイルス治療薬に対しては、情報の収集から医薬品の投与までの全般に渡って関与し、安全かつ適正な使用に貢献した。

(3) 薬物治療の安全確保のためのヒヤリハット防止への取り組み

ヒヤリハットが発生しにくい環境作りをめざし、より効果的な対策立案に努めた。引き続き音読照合の徹底を図るとともに、コミュニケーションエラー防止対策にも取り組んだ。処方時の単位選択間違い防止対策として注射薬のデフォルト単位の見直しや腎機能低下患者に対する用量チェック補助として院内処方箋への e GFR 印刷等を行った。

(4) 薬学生の長期実務実習の受け入れ

長期実務実習生 10 名を受け入れ、教育、指導を行った。

(5) 人材育成と自己研鑽の推進

部員の経験年数や適正に応じた業務分担を行い、必要な経験が得られ、また自主性を持って取り組めるよう配慮した。また、本年度からがん薬物療法認定暫定研修施設として認定された。

新たに以下の通り 3 名が認定資格を取得した。

日病薬病院薬学認定薬剤師	1 名
小児薬物療法認定薬剤師	2 名

3 今後の展望

小児薬物療法に必要な知識や技術の習得を推進し、病棟薬剤業務やチーム医療での積極的な活動と実践を通じて”臨床現場で活躍できる薬剤師”の育成を図る。また、引き続き業務改善による効率化を図るとともに医療安全を最優先しヒヤリハットの発生・再発防止に取り組む。

(1) 調剤件数

区 分	処 方 箋 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数	処 方 数	調 剤 数	延 調 剤 数
入 院	65,898	96,254	107,931	680,563	60,463	63,197	345,027	35,791	44,734	335,536
外 来	17,323	19,999	30,457	202,374	7,744	15,564	101,150	12,255	14,893	101,224
計	83,221	116,253	138,388	882,937	68,207	78,761	446,177	48,046	59,627	436,760
一日平均	342.5	478.4	569.5	3633.5	280.7	324.1	1836.1	197.7	245.4	1797.4

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処 方 箋 枚 数	延 本 数
入 院	123,770	772,987
外 来	11,027	19,566
計	134,797	792,553
一日平均	554.7	3,261.5

(3) 薬剤管理指導関係件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	555	518	615	443	432	703	721	833	704	717	718	705	7664
麻薬加算	0	3	6	2	1	5	2	4	8	1	5	6	43
退院指導	71	78	93	77	71	113	101	147	120	120	96	128	1215

(4) 薬剤情報提供料 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
診療科													
全 科	266	289	318	402	502	445	623	468	378	408	361	370	4830

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	383	379	459	475	385	502	476	407	395	414	439	439	5153
高カロリー	93	156	157	131	81	165	215	139	106	113	160	146	1662
計	476	535	616	606	466	667	691	546	501	527	599	585	6815

(6) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全件数	3	17	36	40	21	27	36	40	48	57	23	41	389

(7) 院内D I 業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2021.1.13	医薬品安全対策情報 No.294
2021.1.13	医薬品安全対策情報 No.295
2021.1.19	医薬品・医療機器等安全性情報 No.379
2021.3.3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.380
2021.3.21	医薬品安全対策情報 No.296
2021.5.6	医薬品安全対策情報 No.297
2021.5.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.381
2021.5.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.382
2021.6.3	医薬品安全対策情報 No.298
2021.7.2	医薬品安全対策情報 No.299
2021.7.2	医薬品安全対策情報 No.300
2021.8.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.383
2021.8.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.384
2021.10.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.385
2021.10.26	医薬品安全対策情報 No.301
2021.10.26	医薬品安全対策情報 No.302
2021.12.15	医薬品・医療機器等安全性情報 No.386
2021.12.22	医薬品・医療機器等安全性情報 No.387
2021.12.22	医薬品安全対策情報 No.303

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・注射薬配合変化について ・注射薬溶解後の安定性について ・注射薬のフィルター透過性について ・食品と薬剤の相互作用について ・内服薬の飲み易い飲み方について ・冷所保存医薬品の常温での安定性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の適切な投与方法について ・医薬品の副作用について ・血液製剤の投与方法について ・小児薬用量について ・錠剤の粉碎可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /mL)
内服用ルゴール液	180
0.1%ミダゾラムシロップ	9500

③ 外用液剤

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /ml)
アセモトール	8000
1/2 カプトドロップ	1920
25% グリセリン液	45100
30% 硝酸銀	50
10% ピオクタニン青液	160
0.2% ピオクタニン青液	300
ツェンテール液	50

② 軟 膏

製 剤 名	製 剤 量 (単 位 /g)
10% テストステロン軟膏	1500

④ 予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 /g)	製 剤 名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	0
0.01% ジゴシン散	1000	ヒドロクロチアジド散 (× 10)	500
(錠→散)		オキシブチニン散 (× 100)	0
インデラル散 (× 100)	900	コートリル散 (× 20)	1200
グリチロン散	900	デカドロン散 (× 1000)	0
ロンゲス散 (× 100)	700	カタプレス (75 μ g/g)	3500
レバチオ散 (× 50)	5500		

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動（令和3年4月1日付）

【転出者】	課長補佐	野口 啓子	加古川医療センターへ
	課長補佐	山本 正子	尼崎総合医療センターへ
	職員	芳井 佳奈	龍野健康福祉事務所へ

【転入者】	課長補佐	足立 綾	がんセンターより
	主査	笹倉 明子	尼崎総合医療センターより
	職員	藤田 友梨	西宮病院より
	職員	串田 桃香	新規採用

【退職】	主任（再任用）	笹川 のせ子
------	---------	--------

2. 活動報告

(1) 臨床検査業務の充実

新型コロナウイルス感染症の対策として、前年度に導入した抗原定性検査とPCR検査に加え、抗原定量検査を開始した。またPCR検査機器のモジュールを追加し、処理能力を高めた。

生化学免疫自動分析装置を更新し、感染症や甲状腺機能などの免疫検査について非特異反応が少ない2ステップ法を採用した。フローサイトメーターも更新を行ない、造血幹細胞移植や細胞治療に安定して対応出来る体制を整備した。

(2) ヒヤリハット防止への取り組み

ヒューマンエラーや環境・設備の不備に対する感受性を高めるため、危険予知トレーニング（KYT）を行い、行動目標を立案した。また、リスクマネージャー、医療安全リーダーを中心に「コミュニケーションエラーを防ぐ」を目標とし、医療安全の向上に努めた。

(3) 院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年12回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算I取得を継続している。また、耐性菌アウトブレイクへの備えとして、分子疫学解析（POT法）を導入した。

(4) 安全な輸血療法

輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年6回）した。適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り（RBC廃棄率1.1%）、輸血管理料I取得を継続している。また、アルブミン：RBC比が1.91となり輸血適正使用加算の基準2.0以下を満たすことから、2022年の取得に向け申請を行なった。

(5) 人材育成

昨年は新型コロナウイルス流行の影響により、多くの学会や研修会・セミナー等が中止となったが、今年は多くがWEBまたは現地開催され、これらに参加、視聴をすることで、検査技術の維持向上に努めた。

また、県立病院間の相互研修として検査システム見学、フローサイトメトリー等の研修を実施した。

(6) ISO 15189 認定継続

ISO 15189 とは、臨床検査室に特化した国際的な第3者認定で、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。また、がんゲノム医療連携病院の「望ましい要件」となっている。2021年1月22日付で認定を取得し、同年11月に第1回の定期サーベイランスを受審し、認定の継続が認められた。

〈認定・資格〉

超音波検査士（循環器）	4名	超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	1名	超音波検査士（血管）	1名
超音波検査士（産婦人科）	1名	超音波検査士（泌尿器）	1名
血管診療技師	1名	細胞検査士	2名
認定血液検査技師	2名	認定輸血検査技師	2名
臨床工学技士	1名	管理栄養士	2名
二級臨床検査士（微生物）	1名	二級臨床検査士（血液）	2名
有機溶剤作業主任者	1名		
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名		

3. 次年度の課題

引き続き新型コロナウイルス検査を実施し、診療および感染対策に貢献していく。また、小児がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院の検査部門として、ISO 15189 認定を継続する。2022年には第2回定期サーベイランスの受審が控えており、品質マネジメントシステムの継続的な改善に取り組む。

(1) 臨床検査実施状況 (件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	3,890	3,602	4,707	3,834	3,608	3,746	3,973	5,002	4,010	3,797	3,759	3,908	47,836
血液	14,702	12,803	16,392	16,082	14,951	15,820	16,755	16,363	15,155	16,221	15,454	16,541	187,239
細菌	1,652	1,349	1,685	1,770	1,878	2,155	2,359	1,974	1,976	1,954	1,754	1,763	22,269
血清	5,503	4,774	6,235	5,906	5,521	6,249	6,323	6,521	5,906	6,211	5,639	6,499	71,287
生化学	57,190	53,069	67,309	61,430	59,076	62,076	65,870	69,137	60,499	63,344	61,038	67,180	747,218
病理	168	138	145	183	153	146	202	181	175	198	164	222	2,075
生理	1,334	1,168	2,040	1,458	1,140	1,433	1,496	2,217	1,455	1,415	1,283	1,532	17,971
外部委託	4,409	4,005	5,457	5,397	4,566	4,711	4,842	7,279	4,512	4,696	4,285	5,196	59,355
合計	88,848	80,908	103,970	96,060	90,893	96,336	101,820	108,674	93,688	97,836	93,376	102,841	1,155,250

(2) 時間外(日、当直)検査実施状況 (件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
休日日勤帯	867	692	527	759	1,130	602	982	713	835	831	715	913	9,566
準夜帯	659	661	777	930	972	935	970	841	881	882	824	921	10,253
深夜帯	2,193	1,853	2,350	2,258	2,437	2,145	2,292	2,111	2,337	2,630	2,694	2,711	28,011
合計	3,719	3,206	3,654	3,947	4,539	3,682	4,244	3,665	4,053	4,343	4,233	4,545	47,830

(3) 血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RBC	使用量 単位数	228	165	292	273	299	270	297	248	246	314	262	301	3,195
	廃棄量 単位数	6	2	5	12	2	2	0	0	4	0	2	0	35
	廃棄率 %	2.6%	1.2%	1.7%	4.2%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.8%	0.0%	1.1%
FFP	使用量 単位数	95	69	176	114	113	97	124	111	149	171	147	223	1,589
	廃棄量 単位数	2	2	1	2	0	0	1	0	4	1	0	0	13
	廃棄率 %	2.1%	2.8%	0.6%	1.7%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	2.6%	0.6%	0.0%	0.0%	0.8%
PC	使用量 単位数	545	785	1,740	1,155	1,020	1,446	1,106	870	920	936	885	1,085	12,493
	廃棄量 単位数	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	廃棄率 %	0.0%	0.0%	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
ALB	単位数	554	501	512	689	719	530	531	411	339	432	350	537	6,103
FFP/RBC比		0.42	0.42	0.57	0.42	0.38	0.36	0.41	0.45	0.60	0.54	0.56	0.74	0.50
ALB/RBC比		2.43	3.04	1.75	2.52	2.40	1.95	1.79	1.66	1.38	1.26	1.33	1.78	1.91

(4) 血液培養検査

実施件数	3114件
陽性率	7.3%

(5) 薬剤耐性 (2021年の薬剤感受性試験実施株を対象)

黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率	40.8%
大腸菌に占めるESBL産生率	32.9%
緑膿菌のイミペネム耐性率	9.4%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 令和3年4月1日付

【転出者】	放射線技師長	岸本 欣也	加古川医療センターへ
	主任放射線技師	奥村 徹	加古川医療センターへ
	主査	廣瀬 悦子	西宮病院へ
【転入者】	放射線技師長	山崎 弘幸	尼崎総合医療センターより
	主任放射線技師	中原 誠	姫路循環器病センターより
	主査	三木 貴久子	西宮病院より
	主任	阿萬 光	尼崎総合医療センターより
	主任	前田 貴彦	尼崎総合医療センターより

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表1、2、3）

令和3年の放射線検査実績は、総検査人数47,914人で、前年より3,445人増加した。外来患者数が2,932人増加し、入院患者数が513人増加した。

時間外検査人数は5,508人で、前年より144人増加した。日勤帯で117人、準夜帯で92人増加し、深夜帯で65人減少した。

2) 機器の更新（表4）

MRI装置がSIGNA Architect 3.0T（GEヘルスケアジャパン）に更新された。

3) 医療事故防止の取り組み

- ①バーコードリーダーの使用、指さし呼称等、RISタブレット端末に表示されたID・患者名・撮影部位の確認についてさらなる徹底を図り、ポータブル撮影における患者・部位間違いの防止に取り組んでいる。
- ②MRI室への金属持ち込みの防止のため、金属探知機の適正使用に関する詳細な講義・実習を診療放射線技師や看護師に対して開催し、放射線部内ならびに院内リスクマネジメント部会、医療安全研修会でさらなる周知を行い、事故のない検査実施に努めている。
- ③造影剤投与時の安全確認の徹底に取り組み、担当医は、看護師と共に、輸液または生食シリンジを用いたルートテストを行う。診療放射線技師は、ルートテストの最終確認として声かけを行うようにし、安全性向上に努めている。

4) チーム医療の推進

チーム医療推進の一環として疑義照会や依頼内容の確認を積極的に行っている。本年度は全施設でパニック画像の確認テストを行った。

5) 資質向上と教育

今年も、学会・研修会（WEB 開催）へ積極的に参加している。

- ・学会・研修会発表 : 5演題
- ・学会・研修会等への参加 : 日本診療放射線技師学術大会、日本放射線技術学会学術大会、
日本放射線腫瘍学会学術大会等

<認定資格>

第1種放射線取扱主任者	1名	放射線機器管理士	2名
医療画像情報精度管理士	2名	臨床実習指導教員	1名
救急撮影認定技師	1名	放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理士	1名	X線 CT 認定技師	1名
肺がん CT 検診認定技師	1名	超音波検査士（循環器消化器）	1名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	3名		
診療情報管理士	1名		
血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1名		

3. 令和4年の課題

医療法施行規則の一部を改正する省令に基づき、診療用放射線に係る安全管理体制を整備した。現在は各施設に導入された医療被ばく線量管理システムを使用し継続的に被ばく線量データを集積している。今後は解析結果の見方や活用方法を検討していく。

放射線機器の更新、管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	X線撮影	外来	1,398	1,192	2,038	1,521	1,249	1,563	1,768	2,194	1,445	1,527	1,396	1,657	18,948
		入院	88	101	91	111	88	69	106	114	82	99	88	80	1,117
		計	1,486	1,293	2,129	1,632	1,337	1,632	1,874	2,308	1,527	1,626	1,484	1,737	20,065
	ポータブル	外来	28	32	49	50	51	41	79	57	31	54	46	44	562
		入院	787	636	761	974	976	1,018	1,056	1,020	1,064	1,137	1,046	1,155	11,630
		計	815	668	810	1,024	1,027	1,059	1,135	1,077	1,095	1,191	1,092	1,199	12,192
単純撮影合計		外来	1,426	1,224	2,087	1,571	1,300	1,604	1,847	2,251	1,476	1,581	1,442	1,701	19,510
		入院	875	737	852	1,085	1,064	1,087	1,162	1,134	1,146	1,236	1,134	1,235	12,747
		計	2,301	1,961	2,939	2,656	2,364	2,691	3,009	3,385	2,622	2,817	2,576	2,936	32,257
造影撮影	消化器	外来	32	30	35	36	30	36	31	30	32	43	35	41	411
		入院	11	17	12	16	14	17	11	10	12	17	15	16	168
		計	43	47	47	52	44	53	42	40	44	60	50	57	579
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	2	0	2	1	1	0	2	3	0	2	0	1	14
		計	2	0	2	1	1	0	2	3	0	2	0	1	14
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	28	23	29	21	16	25	35	30	28	33	26	32	326
		計	28	23	29	22	16	25	35	30	28	33	26	32	326
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
		計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	泌尿器系	外来	33	23	32	30	24	20	27	30	25	24	27	33	328
		入院	4	5	3	3	1	4	2	3	0	5	8	7	45
		計	37	28	35	33	25	24	29	33	25	29	35	40	373
	その他造影	外来	2	3	2	2	2	1	5	6	2	0	2	1	28
		入院	6	0	6	4	1	2	3	1	1	2	0	1	27
		計	8	3	8	6	3	3	8	7	3	2	2	2	55
造影撮影合計		外来	67	56	69	68	56	57	63	66	59	67	64	75	767
		入院	51	45	52	45	33	48	55	47	41	59	49	57	582
		計	118	101	121	113	89	105	118	113	100	126	113	132	1,349
CT検査		外来	90	78	136	121	97	106	134	122	109	113	97	109	1,312
		入院	82	80	95	101	85	69	96	107	128	102	91	91	1,127
		計	172	158	231	222	182	175	230	229	237	215	188	200	2,439
MRI検査		外来	136	137	189	280	214	224	268	315	258	239	219	230	2,709
		入院	45	50	51	58	68	60	57	65	79	93	71	56	753
		計	181	187	240	338	282	284	325	380	337	332	290	286	3,462
核医学検査		外来	15	16	20	14	7	8	19	24	14	6	15	21	179
		入院	3	6	8	6	6	4	4	8	8	8	9	8	78
		計	18	22	28	20	13	12	23	32	22	14	24	29	257
放射線治療		外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	6	6	16	8	13	12	26	10	1	19	40	20	177
		計	6	6	16	8	13	12	26	10	1	19	40	20	177
超音波検査		外来	505	410	681	529	396	524	570	746	545	516	468	569	6,459
		入院	93	118	109	102	88	99	99	106	108	95	93	98	1,208
		計	598	528	790	631	484	623	669	852	653	611	561	667	7,667
骨塩定量		外来	24	21	24	19	13	18	16	37	20	19	17	32	260
		入院	1	4	2	2	8	6	2	6	4	4	2	5	46
		計	25	25	26	21	21	24	18	43	24	23	19	37	306
総合計		外来	2,263	1,942	3,206	2,602	2,083	2,541	2,917	3,561	2,481	2,541	2,322	2,737	31,196
		入院	1,156	1,046	1,185	1,407	1,365	1,385	1,501	1,483	1,515	1,616	1,489	1,570	16,718
		計	3,419	2,988	4,391	4,009	3,448	3,926	4,418	5,044	3,996	4,157	3,811	4,307	47,914

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	248	203	167	226	339	186	272	238	258	298	262	326	3,023
業務時間(時)	40	31	27	34	50	28	44	37	38	44	41	47	461
準夜帯検査人数	104	120	146	195	199	166	187	195	151	192	174	184	2,013
業務時間(時)	31	38	46	57	63	50	83	61	45	53	56	55	638
深夜帯検査人数	34	32	40	35	48	24	58	37	34	36	53	41	472
業務時間(時)	17	15	19	17	22	12	26	20	18	17	25	19	227
検査人数(計)	386	355	353	456	586	376	517	470	443	526	489	551	5,508
業務時間(計)	88	84	92	108	135	90	153	118	101	114	122	121	1,326

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	321	243	250	339	428	277	372	348	365	379	370	434	4,126
一般撮影	40	78	68	65	102	67	93	67	55	100	72	74	881
C T	20	29	32	50	49	29	42	44	39	41	37	36	448
T V	4	2	2	2	6	1	8	7	2	3	7	5	49
M R I	1	3	1	0	1	2	2	4	2	3	2	2	23
アンギオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	386	355	353	456	586	376	517	470	463	526	489	551	5,528

(4) 新病院放射線機器 一覧表 (表 4)

機器名	製造・販売業者	装置名	購入年月
MRI 装置	フィリップス	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI 装置	GEヘルスケア・ジャパン	SIGNA Architect 3.0T	R3年3月
全身用CT装置(320列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用CT装置(80列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	フィリップス	Allura Xper FD20/20	H21年11月
FPDシステム(12式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺FPD装置(2台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用X線テレビ装置	東芝メディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用X線テレビ装置	日立メディコ	CUREVISTA	H24年9月
診断用X線撮影システム(2台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フイルムメディカル	VINCENT	H31年2月
被ばく線量管理システム	GEヘルスケア・ジャパン	Dose Watch	R2年3月
パノラマ・セファロX撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年3月
ガンマカメラ	GE横河メディカル	Infinia	H20年12月
リニアック	シーメンス旭メディテック	ONCOR Impression	H22年3月
治療計画装置	ELEKTA	Xio	H22年3月
移動型X線撮影装置(2台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型X線撮影装置(3台)	日立メディコ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国 Sun Nuclear	1137型 IVD2	H28年3月
RI対応安全キャビネット	日本エアーテック	BHC-1307 II A2-RI-S	H28年3月
X線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用X線Cアーム装置	シーメンス	SIREMOBIL Compact-L	H23年2月
外科用X線Cアーム装置	シーメンス	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器(アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	H21年12月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot GX	H19年11月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年3月
造影剤自動注入器(TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
キュリーメータ	アロカ	IGC-7E	H20年12月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. 栄養管理部

1. 人事異動 令和3年4月1日付

【転入者】 管理栄養士 吉田 里香 県立尼崎総合医療センターより

2. 主な活動報告

- ・令和3年4月より管理栄養士1名の増員を図り、食物アレルギー患者の増加に対する安全な病院給食の提供及び栄養指導の充実に努めている
- ・チーム医療の円滑な推進
- ・医療事故防止対策に関する取り組み（ヒヤリハット報告）
- ・褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・IT化の推進（給食オーダーリングシステムの安定稼働）
- ・患者給食のサービス向上のための給食イベント「病棟夏祭り」等の実施や産科の出産「ねぎらい膳」の提供を継続
- ・知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

3. これからの展望

令和4年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理部の基盤業務において医療事故防止の取り組みを強化すると共に診療部門との更なる連携を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

4. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)		1,259	1,095	1,376	1,457	1,457	1,648	1,522	1,634	1,531	1,793	1,669	1,731	18,172	77.4
調乳・食事人員：調乳(人)		45	35	50	53	43	46	44	32	38	45	37	40	508	2.2
小計		1,304	1,130	1,426	1,510	1,500	1,694	1,566	1,666	1,569	1,838	1,706	1,771	18,680	79.5
調乳・食事人員(食事)		369	387	466	398	371	514	584	292	355	323	378	368	4,805	20.5
計		1,673	1,517	1,892	1,908	1,871	2,208	2,150	1,958	1,924	2,161	2,084	2,139	23,485	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13% レーベンスミルク		6,840	6,559	8,143	8,085	7,610	9,349	9,616	8,088	8,674	8,951	9,190	8,399	99,504	56.5
15% LW		1,161	1,460	1,985	1,106	1,114	1,110	1,398	2,697	1,722	2,057	2,034	1,988	19,832	11.3
特 殊 乳	13% LW							10							
	7% レーベンスミルク										31				
	10% レーベンスミルク														0
	11% レーベンスミルク														0
	12% レーベンスミルク										54				
	14% レーベンスミルク				216	261	216			8	48	41	80	870	
	15% レーベンスミルク	875	349	291	735	1,033	362	110	225	252	604	418	691	5,945	
	16% レーベンスミルク	21									80	110	279	490	
	17% レーベンスミルク	374	408	728	938	793	737	803	795	705	844	692	658	8,475	
	18% レーベンスミルク	18						189	279	288	270	279	403	496	2,222
	19% レーベンスミルク									15					15
	20% レーベンスミルク									21	9				
	22% レーベンスミルク					16	16								
	12% E赤ちゃん			50	20		60	70					4	20	224
	13% E赤ちゃん	33		29	38		6	133	53	72	159		5	528	
	17% E赤ちゃん	28													28
	13% ARミルク	442	320	413	257	272	896	829	383	296	24	187	375	4,694	
	15% ARミルク		30	78			54	54	106						322
	17% ARミルク	27	45		128	44	217	74			57	102			694
	10% MA -1											17			
	13% MA -1											21			21
	14% MA -1														0
	15% MA -1	768	121	41	483	807	781	453	718	692	939	1,097	911	7,811	
	17% MA -1					36	132		17	136	153				474
18% MA -1														0	
19% MA -1								36	18						
10% MCTフォーミュラ														0	
14% MCTフォーミュラ	651	547	639	1,006	891	747	363	281	602	982	671	1,449	8,829		
15% MCTフォーミュラ	9														
16% MCTフォーミュラ	63		378	430	606	36	225		70	76	27	81	1,992		
17% MCTフォーミュラ	99													99	
18% MCTフォーミュラ	333	438	279	95	9	81								1,235	
14% 必脂MCT (721)				28	21										
14% 必脂MCT														0	
5% エレンタール													15		

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%	
特殊乳	7% エレンタール													0		
	10% エレンタール							8					20	28		
	13% エレンタール				44	34	32	159						269		
	15% エレンタール													0		
	18% エレンタール													0		
	20% エレンタール												34	34		
	26% エレンタール													0		
	27% エレンタール	124	27	56	21	50	18	24	15	8	60			403		
	5% エレンタールP					14	16	4	4							
	10% エレンタールP	27	4		85	17	157	135	181	108	279	252		1,245		
	12% エレンタールP						10								10	
	13% エレンタールP			133	66		36	43	174	171	205	45	108	981		
	15% エレンタールP		6					11	71	80	72	98	54	18	410	
	16% エレンタールP					63										
	17% エレンタールP					17				89					106	
	18% エレンタールP			27	45	36									108	
	20% エレンタールP		45	28			23	30	12					34	172	
	24% エレンタールP				22											
	25% エレンタールP								21						21	
	26% エレンタールP	146	292	151	136				106	26		6	42		905	
	27% エレンタールP			17												
	10% ケトンフォーミュラ											54				
	12% ケトンフォーミュラ													143	143	
	13% ケトンフォーミュラ											31		63		
	7% エレメンタルフォーミュラ												39			
	10% エレメンタルフォーミュラ												9	54	63	
	13% エレメンタルフォーミュラ											32	6	72	110	
	14% エレメンタルフォーミュラ	45													45	
	15% エレメンタルフォーミュラ											7			7	
	17% エレメンタルフォーミュラ	249	57	7	97	48	128	6		42	49	12	135	830		
	15% 低カリウム中リン						18	99							117	
	16% 低カリウム中リン		40		21	42	158	80	156	25	54				576	
	17% 低カリウム中リン														0	
18% 低カリウム中リン							18							18		
20% 低カリウム中リン														0		
15% ML-3	30													30		
15% MM-4 低カルシウム														0		
15% S-23 蛋白除											77	161	217			
17% S-23 蛋白除						16	16									
特殊乳 小計	4,362	2,729	3,367	4,969	5,071	5,243	4,062	3,663	3,556	5,212	4,211	5,741	52,186	29.6		
濃厚流動食	GFO	31	60	41	6	16	28	52	42	62	78	45	60	521		
	アイソカルジュニア	143	151	95	71	108	38	102	104	88	111	113	114	1,238		
	MA-ラクフィア	74	56	62	60	69	64	74	90	70	62	86	74	841		
	ペプチーノ (プレーン)	31	28	29	30	37	30	31	35	44	38	38	37	408		
	ペプタメン スタンダード											2			2	
	濃厚流動食 小計	279	295	227	167	230	160	259	271	264	291	282	285	3,010	1.7	
滅菌水	31	119	132	25	81	231	167	165	236	104	355	62	1,708	1.0		
合計	12,673	11,162	13,854	14,352	14,106	16,093	15,502	14,884	14,452	16,615	16,072	16,475	176,240	100.0		
空瓶 大 200 c c	7,286	6,015	5,986	5,332	7,186	5,218	6,720	7,280	7,535	7,279	7,194	7,221	80,252	52.4		
空瓶 小 100 c c	4,872	4,752	6,312	4,632	6,696	6,672	6,048	6,120	6,672	7,200	7,064	5,832	72,872	47.6		
合計	12,158	10,767	12,298	9,964	13,882	11,890	12,768	13,400	14,207	14,479	14,258	13,053	153,124	100.0		

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常食	学 童 食	2,367	2,595	2,694	2,471	2,223	2,222	2,694	3,261	2,429	2,787	2,373	2,363	30,479
	妊 産 婦 食	1,583	1,521	1,708	1,261	1,379	1,629	1,605	1,390	1,480	1,601	1,550	1,524	18,231
	小 計	3,950	4,116	4,402	3,732	3,602	3,851	4,299	4,651	3,909	4,388	3,923	3,887	48,710
軟菜・幼児・ 離乳	幼 児・ 離 乳 食	2,534	2,871	2,887	2,986	3,202	3,333	3,737	2,885	3,437	3,070	2,990	3,096	37,028
	軟 菜・ 流 動 食	975	970	1,010	752	803	721	897	1,004	1,064	985	849	821	10,851
	小 計	3,509	3,841	3,897	3,738	4,005	4,054	4,634	3,889	4,501	4,055	3,839	3,917	47,879
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	101	75	137	87	72	102	108	28	51	46	62	66	935
	ア レ ル ギ ー 食													0
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食	10	15	63	42	32	15	38	116	18	10			359
	扁 摘 術 後 食	74	54	88	82	15	78	112	92	50	109	125	80	959
	移 植 対 応 食	552	452	427	468	494	714	723	567	471	289	393	258	5,808
	ク ロ ー ン 病 食											54		54
	低 残 査 食	2								15	2			19
	肥 満 食				56	146	306	358	357	143	7		12	1,385
	ケ ト ン 食													0
	減 塩 食													0
	そ の 他 特 別 食	383	391	401	405	430	311	395	415	387	385	400	469	4,772
小 計	1,122	987	1,116	1,140	1,189	1,526	1,734	1,575	1,135	848	1,034	885	14,291	
加算特別食	腎 臓 食	11	88	122	70	134	52	28	89	1	47	271	97	1,010
	肝 臓 食	186	104	260	103	132	25	17	121	206	192	62	163	1,571
	糖 尿 病 食		82	91	86	104	99	12	49	40	36	43	34	676
	乳 び 胸 食		3				88	89	8				35	223
	心 臓 食													0
	低ナトリウム食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	100	101	67	36	12	6	17	2	35	37	75	4	492
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
	高 尿 酸 血 症 食													0
小 計	297	378	540	295	382	270	163	269	282	312	451	333	3,972	
合 計	8,878	9,322	9,955	8,905	9,178	9,701	10,830	10,384	9,827	9,603	9,247	9,022	114,852	
検食等	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 食	262	236	259	251	262	250	261	260	252	260	251	261	3,065
	合 計	448	404	445	431	448	430	447	446	432	446	431	447	5,255
総 合 計	9,326	9,726	10,400	9,336	9,626	10,131	11,277	10,830	10,259	10,049	9,678	9,469	120,107	

② 患者おやつ数

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,084	2,319	2,465	2,216	2,265	2,307	2,600	2,564	2,434	2,434	2,279	2,256	28,223

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	139	134	190	108	73	91	124	156	84	106	117	145	1,467

5. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		41	45	48	38	37	46	45	47	45	44	47	50	533
2型糖尿病		11	11	12	8	9	6	6	12	10	8	8	8	109
妊娠糖尿病					1									1
肥満		26	17	23	16	14	23	18	32	22	19	22	21	253
腎臓病		1	3	4	5	4	1	3	1	2	3	7	2	36
妊娠高血圧症候群		1							1					2
心臓病		5	5	4	5	8	7	6	3	5	4	6	7	65
肝臓病		1	1	1	2	1		1	2	3	2		1	15
膵臓病														0
フェニルケトン尿症		3		3	2		3		1	1	1		2	16
ガラクトース血症			1											1
脂質異常症		5	4	7	5	6	5	3	7	5	3	5	5	60
高尿酸血症		1		1	1		1	1	1		1	1		8
胃潰瘍食													2	2
低残渣食					1		1					1		3
小児食物アレルギー		57	40	59	57	36	62	62	66	65	56	61	61	682
貧血食		2								1				3
移植対応食		3	3	3	3	6	6	3	5	2	4		3	41
てんかん食(ケトン食)					1					2		1	1	5
がん		12	6	16	17	10	9	12	14	14	11	14	20	155
摂食・嚥下機能低下		3	4	1		1	2	3	1	1				16
ミキサー食(胃ろう)			2	1	1	1		2		1	1	3	1	13
低栄養		4	12	8	13	8	16	13	15	11	9	13	15	137
調乳(標準ミルク)								1						1
調乳(高濃度ミルク)		3	3			1	2		1			1	1	12
調乳(特殊ミルク)												1		1
その他		6	10	20	6	11	18	18	14	12	6	13	10	144
合計(件)		185	167	211	182	153	208	197	223	202	172	204	210	2,314
件数	外来	129	111	139	113	101	125	133	145	135	107	121	118	1,477
	入院	56	56	72	69	52	83	64	78	67	65	83	92	837
合計(件)		185	167	211	182	153	208	197	223	202	172	204	210	2,314
人数	外来	279	223	300	242	212	257	285	309	292	226	277	250	3,152
	入院	115	113	148	141	115	179	136	162	139	145	180	201	1,774
合計(人)		394	336	448	383	327	436	421	471	431	371	457	451	4,926

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

家族支援・地域医療連携部は、部長1名、課長兼看護師長1名、看護師4名、MSW3名 計9名で構成されており、入退院支援・患者サポート相談窓口・虐待関連事務局・がん相談・地域連携・前方後方支援等を担っている。また、予約センターとして委託事務員により紹介・逆紹介に関する業務、受診予約業務などを行っている。

部長	畠山 理（小児外科部長）
課長兼看護師長	深江登志子
看護師	渡邊千恵 坂本郁子 山田純子 藤定睦子
MSW	松尾さおり 中邨仁美 李 利香

II. 2021年活動

< 2021年の主な活動 >

1. 入退院支援・在宅療養支援の推進

- ① 入退院支援の充実
- ② 医療的ケア児の在宅移行支援
 - ・制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ・本人や家族の意思決定など精神面の支援
- ③ 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
- ④ 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
- ⑤ 生活支援センターや福祉事業所など地域関連機関との連携（カンファレンス開催）

2. 院内の診療支援

- ① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- ② 返書作成の支援
- ③ 家族背景へのケースワーク

3. 患者・家族の不安への対応

- ① 医療制度・福祉制度の説明
- ② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
- ③ 各種手続きのサポート
- ④ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

4. 発達支援・養育支援

- ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- ② 事故予防活動（事故予防相談、地域との連携）

③ 育児相談活動（評価、関わり方指導）

5. 教育・療育支援

① 教育・療育機関との連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする子どもと家族が安心して在宅生活を送れるように地域（医療・福祉・教育・行政）と連携し支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 患者相談窓口として患者・家族の不安の解消に努める
- ⑦ 入院時から退院後の生活を見据えた退院支援を行い、地域とともに子どもと家族の生活を支える
- ⑧ 広報活動を強化し、地域の医療機関との連携・信頼関係の構築に努める

家族支援・地域医療連携部

1. 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	309	308	366	222	216	281	289	243	214	306	261	272	3287	3359
2	退院援助	47	35	34	40	18	17	21	35	35	39	34	43	398	412
3	社会復帰援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4	受診・受療援助	17	23	13	20	25	31	27	15	12	15	29	10	237	206
5	経済的問題の解決・調整援助	46	27	54	61	48	59	57	67	63	74	53	48	657	695
6	地域活動	0	0	0	1	0	5	1	3	5	4	8	10	37	5
7	養育支援(虐待予防を省く)	1	1	2	3	0	2	4	8	14	8	8	13	64	72
8	虐待・虐待予防関連	9	3	5	20	22	26	18	20	21	25	28	47	244	68
9	一時保護	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	13
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	51	60	99	64	79	59	57	51	67	59	68	77	791	923
11	その他	0	0	1	0	0	1	2	2	2	1	0	0	9	6
	合 計	482	457	576	444	408	481	476	444	433	532	489	520	5742	5760

2. 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	教育機関	7	5	24	6	0	1	9	0	2	6	8	8	76	60
2	保健所・保健センター	49	60	47	17	29	53	54	36	22	72	53	56	548	609
3	福祉事務所	4	8	9	5	3	10	8	11	11	10	10	12	101	100
4	こども家庭センター(児童相談所)	28	36	26	18	14	21	19	20	10	24	28	37	281	284
5	児童福祉施設	6	9	7	13	11	11	10	12	3	11	14	5	112	158
6	訪問看護ステーション	82	72	99	72	71	65	67	63	67	77	62	74	871	784
7	地域医療機関	42	47	62	42	54	50	49	61	60	56	67	48	638	632
8	地域生活支援センター	3	7	2	0	4	5	2	2	4	2	2	6	39	37
9	相談支援専門員連携数	6	7	2	1	4	5	6	2	2	2	3	7	47	26
	合 計	227	251	278	174	190	221	224	207	181	260	247	253	2713	2690

3. 関係機関カンファレンス件数

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	被虐待児等症例検討会	2	1	0	9	5	5	1	1	7	4	2	7	44	14
2	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3	在宅病棟移行前カンファレンス	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	4
4	在宅病棟カンファレンス	0	11	4	12	8	20	22	23	21	15	10	11	157	160
5	外泊前カンファレンス	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	2
6	退院前カンファレンス	3	6	5	0	1	2	1	3	1	1	4	1	28	34
7	教育機関カンファレンス	0	0	3	2	1	0	0	2	0	0	0	0	8	1
8	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	0	1	4	0	0	2	1	3	1	1	1	2	16	7
	合 計	5	23	17	23	16	31	25	32	30	21	17	21	261	233

4. その他

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	入退院支援計画書作成数(I)					248	275	294	288	270	248	287	242	2152	
2	入退院支援計画書作成数(III)	39	23	36	35	34	39	41	39	35	44	26	32	423	440
3	患者サポート相談件数	36	12	28	48	27	61	37	35	29	29	31	28	401	325

2021年は入退院支援の推進に取り組み、対象者の拡大や支援内容の充実に努め、支援計画書の作成数が増加した。虐待関連では家庭内事故の増加と共に昨年度発足したCPTの活動も増加し、関連業務が増加している。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策の影響により対面による地域とのカンファレンスが困難な状況ではあるがリモートによるカンファレンスを取り入れながら各機関との連携に努めた。患者サポート相談件数も増加傾向にあり、今後も患者・家族の様々な相談に対応していきたい。

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、逆紹介業務、再診患者の予約業務などを行っている。

2021年度は新患患者の受付件数が増加し紹介元医療機関の新規登録件数、受診報告書の発送件数が増加している。反面、近日の予約がとりにくい状況があり新患のキャンセル件数も増加している。返書率については高い割合で維持できており、今後も返書管理を継続し地域医療機関とのより良い連携に努めたい。

1. 業務内容

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	前年度
メール相談対応数	5	5	7	3	8	9	5	8	18	8	8	12	96	79
（内訳）各科医師相談	2	2	2	1	3	3	3	5	6	5	3	7	42	11
地域医療連携・他 部署で返答	3	3	5	2	5	6	2	3	12	3	5	5	54	68
セカンドオピニオン数	1	1	4	3	2	3	2	3	2	2	1	5	29	29
受診報告書発送数 （紹介状件数）	457	402	578	508	426	562	538	616	488	455	532	563	6125	5479
紹介元医療機関新規登 録数	15	8	23	20	18	30	15	18	23	21	21	15	227	193
新患 FAX 予約受付件数	385	383	533	373	393	497	461	415	433	381	509	463	5226	4497
新患電話予約受付件数	282	219	305	265	234	317	290	311	287	336	292	260	3398	3064
新患予約キャンセル受 付件数	13	11	19	14	15	16	13	16	23	31	25	19	215	151
再診対面・電話予約件数	1898	1803	2119	1847	2160	2168	2075	1927	2152	2041	1821	1739	23750	25396
その他 予約日確認な どの電話件数	625	593	849	725	788	791	860	810	710	744	708	790	8993	8856
返書率	92.5	94.2	92.1	93.6	94.4	95.7	95.3	93.7	95.0	93.1	94.3	94.7	94.05	93.2

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

2. 地域別紹介元医療機関新規登録数

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年度
神戸市	3	2	7	3	4	7	5	5	6	2	7	4	55	46
阪神	1	1	6	3	7	6	5	2	4	2	3	3	43	31
西播	3	0	1	2	2	1	0	0	1	1	1	3	15	6
淡路	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
東播	1	0	2	1	1	3	0	4	4	2	2	1	21	14
丹波	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0
但馬	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
県外	7	5	7	10	4	12	5	6	7	13	8	4	88	93
合計	15	8	23	20	18	30	15	18	23	21	21	15	227	193

35. ME 室

【スタッフ紹介】

課長補佐 土井 一記 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 主任 往田 有理 3学会合同呼吸療法認定士 透析技術認定士
 植込みデバイス認定士 認定医療機器管理
 主任 木場 貴子 透析技術認定士
 三坂 勇介 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 秋山 正太 3学会合同呼吸療法認定士
 土谷 海雲
 橋本 健太郎
 川相 俊太
 西田 匡志
 阿部 翔吾
 大頭 弘章

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
医療機器修理	17	4	12	18	9	5	6	4	5	13	8	16	117
終業点検	1695	1493	1724	1843	1799	1843	2036	2069	1934	1694	1649	1642	21421
定期点検	329	306	361	184	345	331	395	365	356	310	337	252	3871
呼吸器ラウンド	279	112	217	270	279	240	248	279	210	279	270	273	2956
病棟ラウンド	8	8	9	7	4	8	6	5	9	7	7	4	82
NICU ラウンド	152	107	91	84	89	198	160	167	125	157	160	122	1612

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
体外循環	17	11	18	15	11	14	14	15	20	17	15	16	183
ECMO	1	1	1	1	0	2	4	1	3	4	1	2	21
人工心臓・ECMOスタンバイ	1	3	1	2	1	1	2	1	0	0	2	2	16
血液浄化	0	7	4	2	1	0	3	9	2	4	0	5	37
自己血回収	17	11	16	10	20	18	13	14	21	20	16	19	195
MEP	2	0	4	2	1	3	3	1	1	1	3	3	24
BCR	0	0	4	2	0	1	0	0	1	0	1	1	10
PBSCH	1	3	2	0	0	1	2	0	1	0	4	2	16
BMP	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	5
PE(遠心分離法)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3

各種委員会活動

仕様策定委員会 リスクマネジメント委員会
 感染対策委員会 手術室運営委員会
 集中治療室運営委員会 医療ガス安全管理委員会
 在宅医療機器検討委員会 呼吸療法委員会 (RST)
 呼吸ケア部会

36. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして12名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長兼総務課長で構成され、院内の安全管理を担っている。

Ⅰ. 主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策・周知について

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
 - 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。改善策を手順化し共有した。今年度医療安全の取り組みとして、「コミュニケーション不足によるヒヤリハットを減少させる」とした。各科・各部門でコミュニケーション不足に起因するヒヤリハットを検索し、1つあげてリスクマネジメント部会でグループワークを行い、その内容を院内で共有した。次年度も継続する。
 - 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を、医療事故防止対策委員会（1回/月）に報告した。
2. MET 部会を隔月開催し（計7回）、MET 事案の検討を行い、結果をリスクマネジメント部会で報告した。
3. 医療機器安全管理部会を隔月開催し（計5回）、より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図った。
4. 患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、MET コールを行い対応することで、コード99症例は今年度は2件でスムーズに対応できた。
5. ECPRも含めた蘇生チーム（ECMOチーム）招集コールは10件で、患者急変時に対応できた。そのうちECMO導入は6件で全て短時間での導入ができた。
6. 院内ラウンドは、昨年度はCOVID19により実施できなかったが、今年度は10月から第4木曜日16:00～16:30で行った。

7. ヒヤリハット報告

- 1) 2021年のヒヤリハット報告件数は、3918件で前年度より25件増加した。
- 2) レベル別報告数においては、レベル0は1063件27%（前年度より59件増）、レベル1は2384件61%（前年度より98件減）、レベル2は338件9%（前年度より45件増）、レベル3aは41件1.0%（前年度より5件増）であった。
- 3) レベル3b以上の医療事故報告はなかった。
- 4) 部門別にみると、看護部3050件78%（前年度より8件増）、診療部457件12%（前年度より43件増）、薬剤部48件1%（前年度より10件増）、放射線部181件4.6%（前年度より19件減）、検査部75件1.9%（前年度より11件減）、リハビリ62件1.5%（前年度より11件増）、栄養管理課29件0.7%（前年度と同じ）、臨床工学技士14件0.3%（前年度より11件減）、医事企画課2件0.05%であった。
- 5) ヒヤリハット報告において診療部の報告が12%（前年度10.6%）と上昇した。オカレンス報告も92件2%と報告件数は増加した。
- 6) ヒヤリハットについてリスクマネジメント部会で報告を行っているが、次年度はコミュニケーションエラーが要因の事例について各部門・各科を超えて検討する。

【レベル別報告件数】

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3 a	レベル3 b	オカレンス
1063 件 (27 %)	2384 件 (61%)	338 件 (9%)	41 件 (1%)	0 件	92 件 (2%)

【部門別ヒヤリハット報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課	医事課
457 件 (12%)	3050 件(78%)	75 件 (1.9%)	181 件(4.6%)	48 件 (1%)	14 件(0.3%)	62 件(1.5%)	29 件 (0.7%)	2 件 (0.05%)

8. 医療安全地域連携加算 相互評価

- 1) I - I 連携：川崎病院・三菱神戸病院（11月4日）WEB 会議実施
- 2) I - II 連携：2022 年 2 月 24 日みどり病院 WEB 会議実施

II . 主な改善に向けた取り組み

1. 今年度の医療安全の取り組みとして「コミュニケーション不足によるヒヤリハットを減少させる」とし、各科・各部門でコミュニケーション不足に起因するヒヤリハットを検索し、1つあげてリスクマネジメント部会で事例検討を行った。事例検討する中で要因・問題点・対策をあげ、その内容を部会で発表し情報共有した。その中から2つ選択し、医療安全研修会で全職員が視聴しコミュニケーションエラーについての意識を高めていくこととした。また、次年度に向けて各科・各部門でコミュニケーションに関する目標を立案し今後取り組む。
2. 胃チューブ位置確認フローチャートの見直し
3. 処方入力時の単位間違いによる過誤防止対策として薬剤部と共同し、注射薬（液体）処方時のデフォルト単位を「mg」に統一
4. 経腸栄養用ポンプの導入

III . 医療安全研修会、勉強会の開催

テーマ	開催日	参加者
第1回 医療安全研修会(eラーニング 3項目) ①復唱 ②指差呼称 ③ダブルチェック	12月3日～ 1月31日	全職員 882名(100%)
第2回 医療安全研修会(eラーニング) コミュニケーションエラーに起因するヒヤリハット ～ グループワークから学ぶ ～	3月1日～ 3月31日	全職員 857名(100%)
新採用医師安全教育	4月1日	43名
新採用看護師安全教育	4月6日	52名
	4月26日	1名
新採用保育士教育	5月1日	1名
新採用補助者教育	採用時	9名

IV . 医療安全情報の提供

日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。

37. 感染対策室

感染対策委員会は、委員長を感染症内科部長、副委員長を集中治療科科長および看護部次長とし、委員を院長、感染対策部長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師2名の他、診療部8名、看護部3名、検査部3名、薬剤部1名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名で構成され、院内感染予防対策に関する最高諮問機関としての役割を担っている。

感染対策チーム（Infection Control Team; ICT）は、看護部2名、診療部3名、検査部1名、薬剤部2名で、感染対策の実働部隊として活動している。

抗微生物薬適正使用チーム（AST）は、薬剤部4名、診療部9名、検査部1名、看護部2名で構成されている。そのうち薬剤部2名、診療部4名、検査部1名、看護部1名がコアメンバーとして抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊として活動している。

活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月開催。原則第2金曜日）

病原微生物の検出状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICTおよびAST活動などを報告し、その活動に対して助言や指示をしている。

2) ICT 関連

・ICT 会議（毎週木曜日）

病原微生物の検出状況、ICTラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討している。

・ICT ラウンド（毎週木曜日）

環境ラウンドを実施している。

・デバイスサーベイランスカンファレンス（毎週木曜日）

デバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価、改善策の検討と実施をPICUスタッフとともに実施している。

・微生物検査室ミーティング（毎日）

血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果、感染対策が必要な患者などについて情報共有している。

3) AST 関連

・AST 定例会議（毎月第1月曜日）

DOT、ケースカンファレンス、その他抗菌薬適正使用のための取り組みについて報告している。

・AST コアメンバー会議（第2・4木曜日）

抗菌薬適正使用のための取り組み、AST研修会の企画検討している。

・AST ケースカンファレンス（毎週月・水・金）

特定抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗MRSA薬）使用患者

及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討している。

2021実績（2021年4月～2022年2月）

抗緑膿菌薬使用症例	抗MRSA薬使用症例	抗菌薬長期使用症例	その他
228	53	60	44

2021 年度に取り組んだ事項

- 1 ショートカンファレンスによる抗 MRSA 薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
- 2 抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を 2 回開催した。
- 3 第 4 回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会を開催した。
- 4 抗菌薬供給制限に対応した。
- 5 薬剤耐性菌対策の推進をした。
- 6 ポイントサーベイランスを用いた横断的調査を実施した。

2. 職員教育

4 月	新規採用医師および看護師感染対策オリエンテーション
6 月～8 月	AST 研修会① e-learning
10 月～11 月	第 1 回全職員対象感染対策研修 e-learning
12 月	第 4 回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会 (HART) Web 開催
1 月～2 月	AST 研修会② e-learning
2 月～3 月	第 2 回全職員対象感染対策研修会 e-learning

3. 新型コロナウイルス感染症対策

診療関連	マニュアル ・ガイド ・各種フロー	COVID-19 対策 ロードマップ	2020/8/6	2020/8/6Ver.1 8/18Ver.1.1 8/27Ver.2 10/15Ver.3 12/3Ver.3.1 2021/1/12Ver.4.0 1/15Ver.4.1.1 3/1Ver.4.2 3/29Ver.4.3 4/29Ver.4.4 6/21Ver.5 8/20Ver.5.1 8/20Ver.5.4 9/17Ver.5.2 10/14Ver.5.3 10/25Ver.5.4 12/15Ver.5.5
		COVID-19 感染対策 ガイドライン	2020/3/6	2020/3/6、4/3、4/17、7/22、8/7、 9/7、11/27、2021/4/15、11/1
		COVID-19 感染対策 マニュアル	2020/3/12	2020/4/1Ver.2 5/1Ver.2.1 5/11Ver.2.2 7/22Ver.3 8/7Ver.3.1
		COVID-19 部署別マニュアル	2021/4	2021/11 改訂
		5E ズーニング	2021/4/30	2021/5/13Ver.2 2022/1/24Ver.3 2/1Ver.3.1 2/22Ver.3.2
		PICU ズーニング	2022/2	
		5 東入院診療マニュアル	2020/11/17	COVID-19 部署別マニュアルへ
		COVID-19 診断ガイド	2020/3/6	2020/3/19Ver.2 3/30Ver.3 4/14Ver.4 4/20Ver.5 5/29Ver.6 7/22Ver.7 8/5Ver.7.1 11/8Ver.8
		疑い症例分類 フローチャート	2020/4/23	2020/5/29Ver.2 7/22Ver.3 11/8Ver.4.0
		新型コロナウイルス 感染症の検査をしたい と思ったら	2020/8/6	2020/8/6Ver.1 8/11Ver.1.1 8/18Ver.1.2 8/27Ver.2 9/30Ver.2.1 2021/3/29Ver.3 10/29Ver.4 2022/2/15Ver.5
		新型コロナウイルス陽性例の入 院先決定までの フローチャート	2020/10/16	2021/6/23Ver.2 8/11Ver.2.1 2022/2/14Ver.3 3/4Ver.3.1
		職員の症状判断 フローチャート	2020/2/18	2020/3/2Ver.2 3/31Ver.3 4/7Ver.4 5/11Ver.5 5/29Ver.6 7/22Ver.7 7/31Ver.7.1 8/24Ver.8 2021/1/18Ver.9 6/23Ver.10 2022/2/3Ver.10.1
		職員の復職基準	2021/9/3	2022/2/2Ver.3 2022/1/26Ver.2 2/4Ver.4.0
		発生時の対応チェックリスト	2020/5/1	改訂 2020/11/20
		職員のコロナ陽性対応者 関連図 & ToDo	2020/12/28	改訂 2021/1/8、2021/12/17
職員のコロナ陽性対応ガイド ライン	2021/12/17			
職員の同居者に関する対応判 断フロー	2021/1/18	2021/2/22Ver.2 3/23Ver.2.1 8/11Ver.2.2 9/3Ver.3 2022/1/26Ver.4 1/28Ver.4.1		

診療関連	マニュアル ・ガイド ・各種フロー	COVID-19 陽性者発生時の検査適応フローチャート	2021/1/21	2021/6/21Ver.2
		職員の院内検査実施フローチャート	2021/1/21	2022/1/16Ver.1.16 2/2Ver.2.1
		新型コロナウイルス感染症外来問診チェックリスト	2020/8	改訂 2021/2/10、3/29
		兵庫県立こども病院におけるCOVID-19 陽性患者（面会者）の行動制限基準	2022/2/16	
		患者の外來受診に関する対応判断フロー	2022/1/26	2022/1/31Ver.1.1 2/7Ver.2 2/16Ver.3
		面会者に関する対応判断フロー	2022/1/26	2022/1/31Ver.1.1 2/7Ver.2 2/16Ver.3
		患者の手術時期に関する対応判断フロー	2021/8/27	改訂 2022/2/16
		兵庫県立こども病院で新型コロナウイルスワクチンを接種された方へ	2021/8/12	2021/8/20Ver.2 2022/2/24Ver.3
		小児への COVID-19 予防接種予約・問診・接種マニュアル	2022/2/18	
		医師へ向けた小児への COVID-19 ワクチン Q & A	2021/7/16	
		COVID-19 ワクチン接種プロジェクト 筋肉注射のコツ	2021/3/22	2022/1/11Ver.2
	病床管理	5 東 COVID-19 病床拡大	2022/2/1	COVID-19 対応病床 5 床→9 床へ拡大
	ワクチン接種	第 1 回接種	2021/4/5 ～ 4/23	集団接種（講堂）
第 2 回接種		2021/4/23 ～ 5/14	集団接種（講堂）	
COVID-19 ワクチン接種シミュレーション		2021/2/22		
COVID-19 ワクチン接種を受けられる職員の皆様へ		2021/2/24		
面会	面会制限（ルール変更）	2020/3/4	改訂 2020/4/13、6/1、6/10、6/24、11/20、11/26、12/8、2021/1/15、2/1、3/1、4/25、6/21、7/5、7/26、8/20、10/1、10/25、12/20、12/27	
情報	情報伝達	職員へのお知らせ週報	2020/1/9	毎週配信
		ホームページ更新	2020/2/13	随時
会議	会議、カンファレンス	対策本部会議	2020/4/10	月 1～4 回開催
		新型コロナワクチン会議		不定期開催

4. 手指衛生遵守率向上のための取り組み

看護部感染対策委員会と連携して直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。現場での直接指導は看護部感染対策委員が行った。並行して手指消毒剤の使用量調査も継続した。

手指衛生遵守率の推移 (%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
68	76	75	68	76	75	73	66	79	79	74	75

手指衛生使用量の推移 (ml/患者)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
30	31	31	39	39	38	36	40	38	33	40	37

5. 各種サーベイランスの実施

- ・PICUにおけるデバイスサーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000 デバイス日)				尿道留置カテーテル関連 尿路感染症発生率発生率 (/1000 デバイス日)				人工呼吸器関連肺炎発生率 (/1000 デバイス日)			
2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
0.0	0.4	0.0	0.7	4.0	6.3	5.6	8.2	4.6	4.4	2.8	2.6
2021				2021				2021			
1.0				5.8				2.3			

集中治療室、手術室とともに尿道留置カテーテル関連尿路感染症予防について連携して取り組んだ。要因分析、尿道留置カテーテル挿入時の手順見直し、挿入中の管理方法見直しを行い、尿道留置カテーテル関連尿路感染症は減少した。

- ・7F 病棟における中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000 デバイス日)	2019	2020	2021
	1.3	1.3	2.5

判定会議、病棟コアメンバーとの会議の定期的な開催を開始した。

- ・心臓血管外科 SSI サーベイランス

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
表皮 SSI (件)	0	0	0	0	3	0
深部 SSI (件)	1	1	0	2	0	1
体腔 SSI (件)	2	1	1	4	1	3

- ・一般外科消化器手術 SSI サーベイランス

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
発生件数 (件)	1	0	1	1	0	0
感染率 (%)	2.1	0	1.3	1.6	1	0

- ・その他：AUR サーベイランス

6. 感染症発生時の対応

- ・新生児病棟における MRSA 保菌アウトブレイク (3月)、6E 病棟における RS ウイルス感染症アウトブレイク (6月)、NICU・PICU におけるセラチア菌感染症 (8月)

飛沫感染予防策	312 件	呼吸器症状 310、風疹疑い 1、ムンプス疑い 1
接触感染予防策	48 件	CD 腸炎 2、ウイルス性胃腸炎 1、感染性胃腸炎疑い 33、耐性緑膿菌 2、腸管出血性大腸菌感染症 2、ノロウイルス胃腸炎 6、流行角結膜炎 1
空気・接触感染予防策	1 件	播種性帯状疱疹 1
飛沫・接触感染予防策	164 件	COVID-19 23、COVID-19 濃厚接触者 2、RS ウイルス感染症及び疑い 137、セラチア菌重症感染症 1、先天性風疹症候群疑い 1
標準予防策	3 件	限局性帯状疱疹 3

7. 感染対策に関する各種相談への随時対応

8. 各種啓発活動

職員へのお知らせ（毎週）、ICT NEWS の発行（14 回）、市中の感染症情報配信（毎週）

9. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化、

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席、清掃ラウンド結果のフィードバック

10. 職業感染防止の活動

- 新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	MR ワクチン
101 名	38 名	4 名	5 名	6 名

- 職員対象のインフルエンザワクチン接種（11 月）
- 職員対象の B 型肝炎ワクチン接種 42 名（新規 23 名、その他 19 名）
- 針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
32 件（針刺し 19 件、切創 4 件、血液・体液曝露 3 件、咬傷 6 件）

11. 院外活動

- 感染防止対策加算関連

加算 1：相互ラウンド実施（8 月に川崎病院が来院、10 月に神戸労災病院を訪問）

加算 2：みどり病院と施設間 Web カンファレンス開催（2 月、7 月、9 月、12 月）

- 小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種 Web 会議（10 月）

38. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として集中治療科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.71%（発生率は過去19年で6番目に低い値。過去の発生率は2.35%～4.0%）

褥瘡発生率＝褥瘡発生数÷総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.82%（過去15年で7番目に高い値 過去の発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率＝（調査日に褥瘡を保有する患者数－院外発生患者数）÷調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6781件（月平均565件）

4) 危険因子評価を実施した患者のうち褥瘡に関する危険因子を有す、或いは

既に褥瘡を有していた患者数 3136人（月平均261人）

5) 褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数（特定数）1122件（月平均94件）

6) 褥瘡予防治療計画件数 1122件（月平均94件）

7) 褥瘡ハイリスク患者実施件数 988件（月平均82件）

8) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 184件

褥瘡発生個数 223個（自重関連褥瘡は64個、医療関連機器圧迫創傷は159個）

褥瘡発生件数の多い部署（10件以上）

PICU（93）、NICU（19）、救急・HCU（13）、手術室（11）

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心に『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数46回 患者数232名（のべ）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

39. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がん医療センター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）
 看護師 栗林佑季、中谷扶美（小児看護専門看護師）
 医療福祉相談員（MSW） 中邨仁美、松尾さおり
 医師クラーク 坂井、水野、仲渡

令和3年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供 等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（COVID-19の影響により今年度は一部のみ開催）
 - ・県教育委員会との高校生の学習支援体制の検討、復学支援カンファレンスへの参加
 - ・相談室通信の発行（2か月に1回）
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画運営
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック4病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会（TV会議）への参加
 - ・兵庫県がん診療連携協議会情報・連携部会、神戸市がん相談支援センター連絡会への参加
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院及び連携病院グループメールへの参加

令和3年 がん相談支援室相談対応件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	83	78	110	98	88	106	107	106	130	118	118	103	1245
	1) 対面相談	77	69	105	91	85	100	104	103	128	116	109	95	1182
	2) 電話相談	6	9	5	7	3	6	3	3	2	2	9	8	363
院外電話相談		1	6	4	3	5	2	0	1	1	2	1	1	27
計		84	84	114	101	93	108	107	107	131	120	119	104	1272

40. 院内学級（神戸市立友生支援学校 病弱部門 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」として、こども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転（2016年）に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員が、こども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生で、入級を希望する児童生徒は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は、従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は、教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状から、ほとんどが、ベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。しかし、2020年度より、新型コロナウイルス感染拡大の影響から教室での活動が無くなり、ベッドサイドでの授業とオンラインによる授業が中心となっている。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては、主治医や病棟の紹介を経て、当部署が行っている。

2. 在籍状況

2021年度 みなと分教室 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	15	12	14	15	12	11	12	16	16	12	11	8
中学部	10	14	14	14	12	11	11	8	6	9	10	8
合計	25	26	28	29	24	22	23	24	22	21	21	16

※各月1日時点で在籍していた児童生徒数

3. 次年度の課題

2021年度にスタートしたGIGAスクール構想により、日本全国の子ども1人に1台の端末が用意され、ICTを活用した教育活動を行える環境が整ってきた。院内学級にも35台支給されたが、Wi-Fi環境などに課題もあり、神戸市教育委員会と相談しながら改善に取り組んでいる。

在籍している児童生徒の多くは教室登校が難しい状態にあることに加え、新型コロナウイルス感染拡大のために教室での授業が実施できない中で、端末を活用し、離れた病室を繋いで授業を行えることは、生徒同士のつながりや、学びの可能性を広げることに大いに役立っている。また、退院後すぐに原籍校へ登校できない児童生徒に対しても、オンライン授業を行うことで、継続して学習支援を行うことが可能となっている。

今後は、病室から原籍校の授業に参加する機会が増えてきて、近い将来、院内学級として、従来の対面授業だけではなく、原籍校とのオンライン授業も両立させた、ハイブリッドな学習支援が可能になると想定される。いずれにせよ、それぞれの児童生徒の状況に応じた柔軟な対応で、きめ細やかなサポートを行っていきたいと考えている。

41. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートしたが、2021年現在21名が在籍。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

特に2021年は新型コロナウイルス流行の影響により例年に比べ対面診察から電話診察への変更のご案内、手術・検査前の体調確認及び日程変更のご案内等患者様対応に時間を要した。

（業務内容）

・外来診療補助

電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約

患者様へのご説明、ご案内 等

診察・手術・検査に関する電話 等

・文書作成補助

診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等

・診療に関するデータ整理、管理に関する事務

新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等

・治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務

・院外、院内における症例登録や統計、調査に関する事務

・研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務

・その他所属長が必要と認める事務

症例検討会、講演会、抄読会等の準備

文献・画像等の取り込み、及び管理

医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
1急性腎障害(AKI)	救急科	田中亮二郎	共著	亀井宏一、伊藤秀一	小児急性血液浄化療法ハンドブック第2版	102	115	東京医学社	2021.4
小児救急 子どもを救うためのはじめの一步	救急科	竹井寛和	共著	坂本社	救急外来ドリル〜熱血指導!「ニガテ症候」を解決するエキスパートの思考回路を身につける	100	115	羊土社	2021.7.12
救急の超音波検査・手技のサポート・血管確保	救急科	竹井寛和	共著	日本小児超音波研究会	小児エコーの撮影法と異常像がぜんぶわかる! 腹部・体表・頭部・心臓・肺・救急を完全マスター	308	311	金芳堂	2021.7.12
救急の超音波検査・手技のサポート・気管挿管	救急科	竹井寛和	共著	日本小児超音波研究会	小児エコーの撮影法と異常像がぜんぶわかる! 腹部・体表・頭部・心臓・肺・救急を完全マスター	312	314	金芳堂	2021.7.12
経過良好(症例1)	リウマチ科	水田麻雄	共著	森雅亮、武井修治	若年性特発性関節炎 カナキスマップ治療の理論と実際	38	39	メデイカルレビュー社	2021.4
経過不良(症例2)	リウマチ科	中岸保夫	共著	森雅亮、武井修治	若年性特発性関節炎 カナキスマップ治療の理論と実際	70	71	メデイカルレビュー社	2021.4
関節型JIA患者の成人移行期における診療は成人RAと比べて異なる配慮が必要か?	リウマチ科	水田麻雄、中岸保夫	共著	一般社団法人日本リウマチ学会	関節リウマチ診療ガイドライン2020	204	206	診断と治療社	2021.4
小児リウマチ性疾患に伴うマクロファージ活性化症候群の疾患別サイトカインプロファイル	リウマチ科	水田麻雄、中岸保夫、清水正樹	共著	リウマチ科編集委員会	リウマチ科Vol166 No.5	504	511	科学評論社	2021.11
アレルギーとなりのウイルス なんでもウイルス相談室	アレルギー科	田中裕也	単著	岡藤郁夫、笠井正志	小児アレルギーのトリセツ	0	225	金原出版	2021.10
敵ともコロナボレーションするICT	感染症内科	大竹正悟	共著	日馬由貴	レシピアラス	53	57	南山堂	2021.4
新型コロナウイルスICTレポート	感染症内科	笠井正志	共著	笠井正志	INFECTION CONTROL	81	85	メデイカ出版	2021.1
	感染症内科	笠井正志	共著	笠井正志	INFECTION CONTROL	2	4	メデイカ出版	2021.2

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
となりのウイルス 新型コロナウイルスの最大 の副反応「集団心 理」	感染症内科	笠井正志	共著	日馬由貴	レシピプラス	91	96	南山堂	2021.4
となりのウイルス 子ども達への 眼差しと子ども達から の眼差し	感染症内科	笠井正志	共著	日馬由貴	レシピプラス	97	97	南山堂	2021.4
小児領域における薬剤 耐性対策	感染症内科	笠井正志	共著	関谷紀貴	臨床検査	557	563	医学書院	2021.5
トントン先生の乳幼児 健診	感染症内科	笠井正志	共著		レジデントノート	573	573	羊土社	2021.6
抗微生物薬適正使用 の手引き	感染症内科	笠井正志	共著		JOHNS	793	800	東京医学社	2021.8
小児の血流感染症と血 液培養	感染症内科	笠井正志	共著	小栗豊子	臨床と微生物	67	73	近代出版	2021.5
小児感染症－RSウイル ス、連鎖球菌感染症、 マイコプラズマ肺炎	感染症内科	笠井正志	共著		感染と抗菌薬	166	172	ヴァンメディカル	2021.12
第57回日本小児循環 器学会学術集市民 公開講座	感染症内科	笠井正志	共著		心臓をまもる	21	25	全国心臓病を 守る会	2021.11
コロナワクチン接種と感 染予防の注意点	感染症内科	笠井正志	共著		心臓をまもる	21	25	全国心臓病を 守る会	2021.12
ねころんで読めるワクチ ン	感染症内科	笠井正志	単著		ねころんで読めるワクチン			メディカ出版	2021.5
小児アレルギ－のトリセ ット	感染症内科	笠井正志	監修		小児アレルギ－のトリセツ			金原出版	2021.10
【小児遺伝子疾患事 典】先天異常症候群 EYAI(関連疾患：聴耳 腎症候群)	臨床遺伝科	森貞直哉	単著	山岸敬幸、三牧正和、古庄 知己	小児科診療	1447	1448	診断と治療社	2021.11
【新生児マススクリーニ ングと治療の最前線】 新生児マススクリーニン グと遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	洪本加奈、 森貞直哉、 山田崇弘	共著	中村公俊	遺伝子医学	88	92	メディカドゥ	2021.7

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【腎疾患の移行期医療】 移行期医療と遺伝カウ ンセリング	臨床遺伝科	森貞直哉、 洪本加奈	共著	腎臓内科編集委員会	腎臓内科	158	163	科学評論社	2021.8
【膀胱症候群（第3版）- その他の膀胱疾患を含 めて-】先天性膀胱変 Jeune症候群	臨床遺伝科	森貞直哉	単著	岡崎和一	別冊日本臨牀	80	82	日本臨牀社	2021.6
遺伝性腎疾患における 遺伝学的検査方法の 進歩	臨床遺伝科	野津寛大、 森貞直哉、 長野智那、 堀之内智子、 柳原菜々、 山村智彦、 飯島一誠	共著	腎臓内科編集委員会	腎臓内科	105	112	科学評論社	2021.1
言葉の発達の遅れと遺 伝性疾患	臨床遺伝科	森貞直哉	単著	伊藤保彦、中西敏雄、岡部 信彦、清水直樹、高橋孝雄	小児科診療	45	51	金原出版	2021.1
これからの出生前遺伝 学的検査を考える 確 定的な遺伝子解析法と その活用 出生前検査 におけるマイクロアレイ (chromosomal micro array:CMA)の活用	臨床遺伝科	洪本加奈、 西山深雪、 山田崇弘	共著	周産期医学編集委員会	周産期医学	723	726	東京医学社	2021.5
穿通性頭部外症	脳神経外科	阿久津宣行	共著	荒木尚	小児頭部外傷の診断と治療	126	130	中外医学者	2021.11.20
先天性脛骨列欠損症 先天性腓骨列欠損症	整形外科	薩摩眞一	共著	土屋弘行 など	今日の整形外科治療指針 第8版 第27章 下腿の疾患	828	829	医学書院	2021.1.1
先天性内反足	整形外科	薩摩眞一	共著	田中栄	今日の治療指針 2021年版	1164	1165	医学書院	2021
先天性内反足①診断	整形外科	薩摩眞一	共著	日本足の外科学会	明日の足診療シリーズⅡ 足の 腫瘍性病変・小児疾患の診かた	206	208	全日本病院 出版会	2021.11
滲出性中耳炎	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	福井次矢、高木誠、小室一 成	今日の治療指針2021	1605	1606	医学書院	2021.1
小児の扁桃摘出・アダ イド切除術	麻酔科	中山里穂、 香川哲郎	共著	新山幸俊	麻酔からの美しい抜管	105	110	克誠堂	2021.5
早期発症側弯症	麻酔科	内本明宏、 高辻小枝子、 香川哲郎	共著	川上紀明、宇野耕吉	小児脊柱変形治療の最前線	312	318	南江堂	2021.10
食道閉鎖	麻酔科	野田祐一、 香川哲郎	共著	加藤里絵	Challenge 緊急手術の麻酔	194	198	文光堂	2021.11

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
妊娠糖尿病の診断	産科	船越 徹	共著	藤井知行	週数別妊婦健診マニュアル第2版	136	139	株式会社 医学書院	2021.9
小児；先天性水腎症の鑑別	放射線診断科	赤坂好宣	共著	玉田勉、赤坂好宣	泌尿器領域画像診断の勘ドコロ neo	252	255	メジカルビュー	2021.4
小児；腎の発生異常	放射線診断科	赤坂好宣	共著	玉田勉、赤坂好宣	泌尿器領域画像診断の勘ドコロ neo	266	269	メジカルビュー	2021.4
小児；小児腎腫瘍の特徵	放射線診断科	杉岡勇典	共著	玉田勉ほか	泌尿器領域画像診断の勘ドコロ neo	262	265	メジカルビュー	2021.4
小児；尿管関連疾患	放射線診断科	乗本周平	共著	玉田勉ほか	泌尿器領域画像診断の勘ドコロ neo	259	261	メジカルビュー	2021.4
小児の蘇生(PLS)	小児集中治療科	黒澤寛史	共著		JRC 蘇生ガイドライン2020			医学書院	2021
給食提供におけるコスト管理	栄養管理部	鳥井隆志	共著	編)西條豪	入院時食事療養と給食経営管理業務の基礎と実践	25	31	メデイカ出版	2021.10
心筋梗塞・心不全	栄養管理部	鳥井隆志	共著	編)田中明、藤岡由夫	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学第3版	172	172	羊土社	2021.12
COPD	栄養管理部	鳥井隆志	共著	編)田中明、藤岡由夫	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学第3版	224	224	羊土社	2021.12

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Incidence of Kawasaki disease before and during the COVID-19 pandemic: a retrospective cohort study in Japan	総合診療科	Iio K, Matsubara K, Miyakoshi C, Ota K, Yamaoka R, Eguchi J, Matsumura O, Okutani T, Ueda I, Nishiyama M.	BMJ Pediatr Open	5	1	e001034		BMJ	2021.4.2
Improving survival in patients with trisomy 18	新生児科、 総合診療科	Tamaki S, Iwatani S, Izumi A, Hirayama K, Kataoka D, Ohyama S, Ikuta T, Takeoka E, Matsui S, Mimura H, Minamikawa S, Nakagishi Y, Yoshimoto S, Nakao H.	Am J Med Genet A	Epub				Wiley	2021.12.8
X-chromosome inactivation patterns in females with Fabry disease examined by both ultra-deep RNA sequencing and methylation-dependent assay	総合診療科	Rossanti R, Nozu K, Fukunaga A, Nagano C, Horinouchi T, Yamamura T, Sakakibara N, Minamikawa S, Ishiko S, Aoto Y, Okada E, Ninchoji T, Kato N, Maruyama S, Kono K, Nishi S, Iijima K, Fujii H.	Clin Exp Nephrol	25	11	1224	1230	Springer	2021.11.25
Bilateral Renal Hypoplasia with High β 2-Microglobulinuria in the Neonatal Period	総合診療科	Nagai S, Fujioka K, Minamikawa S, Nozu K, Iijima K.	Kobe J Med Sci	67	1	E34	E37	Kobe journal	2021.8.2
A Case of Influenza Virus-Induced Acute Cerebellitis Treated with Steroid Pulse Therapy	総合診療科、 神経内科	Hirota Y, Minamikawa S, Ishida Y, Maruyama A, Nakagishi Y.	J Pediatr Neurol	Epub				Thieme	2021.6.26

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
関節炎の鑑別に血液培養複数セット採取が有用であったA群β溶血性レンサ球菌感染後反応性関節炎の幼児例	総合診療科	遠藤理紗、大竹正悟、松村治、山口貴弘、笠井正志	小児科	62	11	1380	1384	金原出版	2021.10
Association between serum lactate level during cardiopulmonary resuscitation and survival in adult out-of-hospital cardiac arrest: a multicenter cohort study.	救急科	Nishioka N, Kobayashi D, Izawa J, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kiguchi T, Kishimoto M, Inoue T, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Hirayama A, Yoshimura S, Kimata S, Shimazu T, Kitamura T, Kawamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators.		15	11	1639	1639		2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Trends in In-Hospital Advanced Management and Survival of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Among Adults From 2013 to 2017 - A Multicenter, Prospective Registry in Osaka, Japan.	救急科	Yoshimura S, Hirayama A, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Inoue T, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Okada Y, Nishioka N, Kobayashi D, Matsui S, Kimata S, Shimazu T, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators.	Circ J.	85	10	1851	1859		2021
Target Temperature Management and Survival with Favorable Neurological Outcome After Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Children: A Nationwide Multicenter Prospective Study in Japan.	救急科	Matsui S, Hirayama A, Kitamura T, Sobue T, Hayashi T, Takei H, Tanizawa N, Ohnishi Y, Kuratani S, Sameshima T, Yoshino G, Kurosawa H, Tanaka R.	Ther Hypothermia Temp Manag.	12	1	16	23		2021
Long-Term Antihypertensive Drug Use and Risk of Cancer: The Japan Public Health Center-based Prospective Study.	救急科	Matsui S, Sobue T, Zha L, Kitamura T, Sawada N, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S.	Cancer Sci.	112	5	1997	2005		2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Development and validation of early prediction for neurological outcome at 90 days after return of spontaneous circulation in out-of-hospital cardiac arrest.	救急科	Nishioka N, Kobayashi D, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Kim SH, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators.	Resuscitation.	168		142	150		2021
Elevated Cytokine, Chemokine, and Growth and Differentiation Factor-15 Levels in Hemorrhagic Shock and Encephalopathy Syndrome: A Retrospective Observational Study.	救急科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Sakuma H, Tada H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Cytokine	137		PMID: 33032108			2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prediction of AESD and neurological sequelae in febrile status epilepticus.	救急科	Nishiyama M, Ishida Y, Yamaguchi H, Toku:616-625, 2021moto S, Tomioka K, Hongo H, Toyoshima D, Maruyama A, Kurosawa H, Tanaka R, Nozu K, Iijima K, Nagase H.	Brain Dev	43		616	625		2021
Early steroid pulse therapy for children with suspected acute encephalopathy: An observational study.	救急科	Ishida Y, Nishiyama M, Yamaguchi H, Tomioka K, Takeda H, Tokumoto S, Toyoshima D, Maruyama A, Seino Y, Aoki K, Nozu K, Kurosawa H, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Medicine (Baltimore)	100		PMDI: 34397692			2021
Growth and differentiation factor-15 as a potential prognostic biomarker for status-epilepticus-associated-with-fever: A pilot study.	救急科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tomioka K, Hongo H, Tokumoto S, Ishida Y, Toyoshima D, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Nagase H.	Brain Dev.			PMDI: 34716034			2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Identification of novel OCRL iso forms associated with phenotypic differences between Dent disease-2 and Lowe syndrome.	総合診療科、 救急科	Sakakibara R, Ijuin T, Horinouchi T, Yamamura T, Nagano C, Okada E, Ishiko S, Aoto Y, Rossanti R, Ninchoji T, Awano H, Nagase H, Minamikawa S, Tanaka R, Matsuyama T, Nagatani K, Kamei K, Jinnouchi K, Ohtsuka Y, Oka M, Araki Y, Tanaka T, Harada MS, Igarashi T, Kitahara H, Morisada N, Nakamura SI, Okada T, Iijima K, Nozu K.	Nephrol Dial Transplant.			PMID: 34586410			2021
Current management for foreign body and toxic agent ingestion in a paediatric primary emergency centre.	救急科	Ninchoji T, Nozu K, Kondo A, Ishiko S, Unzaki A, Nagano C, Yamaguchi H, Takeda H, Hayashi T, Tanaka R, Nagase H, Iijima K, Ishida A.	Minerva Pediatr(Torino)			PMID: 34515442			2021
四肢の外傷・肘内障も含めて	救急科	松井 颯	小児内科 必携！外傷と外科疾患への対応	53	2	200	205	東京医学社	2021
異物誤飲	救急科	竹井 寛和	小児科診療 特集 ～エキスパートの経験に学ぶ～ 小児科Decision Making	84	増刊号	60	63	診断と治療社	2021.4.9
外傷(頭部・体幹・四肢)	救急科	竹井 寛和	小児外科 2021年8月号	53	8	808	812	東京医学社	2021.8.25

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
第7回 子どもの頭蓋骨骨折, 意外とエコーでわかるってよ!	救急科	吉野豪, 竹井寛和	レジデントノート 2021年5月号	23	3	369	376	羊土社	2021.4.9
小児の呼吸困難	救急科	大西康裕, 竹井寛和	レジデントノート	23	12	1976	1984	羊土社	2021.10
RSウイルス感染症の新規入院施設数は定点報告数より早期に流行開始を予測しうる	救急科	鞍谷紗織, 笠井正志, 大竹正悟, 松井鋭, 田中亮二郎	日本小児科学会雑誌	125		805	808		2021
Mild progressive osseous heteroplasia overlap syndrome with PTH and TSH resistance appearing during adolescence and not early childhood	Department of Endocrinology and Metabolism	Ozaki K, Mituboshi A, Nagai M, Nishiyama A, Nishimura G, Morisada N, Iijima K.	Endocrine.	74	3	685	689	springernature	2021
Comparison of serum cytokine profiles in macrophage activation syndrome complicating different background rheumatic diseases in children.	リウマチ科	Mizuta M, Shimizu M, Irabu H, Usami M, Inoue N, Nakagishi Y, Wada T, Yachie A.	Rheumatology (Oxford)	60	1	231	238		2021.1.5
Successful treatment of spondyloenchondrodysplasia with baricitinib.	リウマチ科	Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Irabu H, Okajima M, Honda Y, Nihira H, Izawa K, Yachie A, Wada T.	Rheumatology (Oxford)	60	2	e44	e46		2021.2.1
Clinical significance of interleukin-18 for the diagnosis and prediction of disease course in systemic juvenile idiopathic arthritis.	リウマチ科	Mizuta M, Shimizu M, Inoue N, Ikawa Y, Nakagishi Y, Yasuoka R, Iwata N, Yachie A.	Rheumatology (Oxford)	60	5	2421	2426		2021.5.14
Serum insulin-like growth factor-binding protein 2 levels as an inhibitor for disease severity in enterohemorrhagic Escherichia coli induced hemolytic uremic syndrome.	リウマチ科	Tasaki Y, Inoue N, Shimizu M, Sugimoto N, Ishikawa S, Mizuta M, Yokoyama T, Kuroda M, Ohta K, Yachie A, Wada T.	Ren Fail.	43	1	382	387		2021.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
舌下免疫療法の小児適応拡大後の小児アレルギー性鼻炎患者における皮下免疫療法の必要性に関する検討	アレルギー科	大岩香梨、 岡藤郁夫、田中裕也、 伊藤環、李崇至、 奥立大樹、鶴田悟	アレルギー	70		1200	1206	日本アレルギー学会	2021
Fish allergy tolerance 16 months after diagnosis	アレルギー科	Mitsuhiro Okamoto, Satoru Takafuji, Shintaro Inoue, Yuya Tanaka	Allergol Immunopathol	49	5	25	27	he Spanish Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology	2021
CQ4 日本のIgE依存性牛乳アレルギー患者もしくはその疑いのある者において、食物経口負荷試験は完全除去回避に有用か？	アレルギー科	前田麻由、桑原優、 田中裕也、錦戸知喜、 平口雪子、 山本貴和子、 岡藤郁夫、二村昌樹、 山田佳之、海老澤元宏	日本小児アレルギー学会誌	35		503	514	日本小児アレルギー学会	2021
Elevated cytokine, chemokine, and growth and differentiation factor-15 levels in hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome: A retrospective observational study.	神経内科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Takeda H, Kurosawa H, Sakuma H, Tada H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Cytokine	137	155324				2021.1
Prediction of AESD and neurological sequelae in febrile status epilepticus.	神経内科	Nishiyama M, Ishida Y, Yamaguchi H, Tokumoto S, Tomioka K, Hongo H, Toyoshima D, Maruyama A, Kurosawa H, Tanaka R, Nozu K, Iijima K, Nagase H.	Brain Dev	43	5	616	625		2021.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Early non-convulsive seizures are associated with the development of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion.	神経内科	Maruyama A, Tokumoto S, Yamaguchi H, Ishida Y, Tanaka T, Tomioka K, Nishiyama M, Fujita K, Toyoshima D, Nagase H.	Brain Dev	43	4	548	555		2021.4
Early steroid pulse therapy for children with suspected acute encephalopathy: An observational study.	神経内科	Ishida Y, Nishiyama M, Yamaguchi H, Tomioka K, Takeda H, Tokumoto S, Toyoshima D, Maruyama A, Seino Y, Aoki K, Nozu K, Kurosawa H, Tanaka R, Iijima K, Nagase H.	Medicine	30	100				2021.7.1
Severe neurodevelopmental disorder caused by an MEI2C nonsense mutation	神経内科	Morisada M, Ishida Y, Tokumoto S, Maruyama A, Iijima K.	Pediatr Int	63	12	1536	1538		2021.12.1
Growth and differentiation factor-15 as a potential prognostic biomarker for status-epilepticus-associated -with-fever: A pilot study.	神経内科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tomioka K, Hongo Y, Tokumoto S, Ishida Y, Toyoshima D, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Nagase H.	Brain Dev	44	3	210	220		2021.10.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
AFP-L3 as a Prognostic Predictor of Recurrence in Hepatoblastoma: A Pilot Study.	血液・腫瘍内科	Kawahara I, Fukuzawa H, Urushihara N, Kosaka Y, Kuroda Y, Fujieda Y, Takeuchi Y, Uemura K, Iwade T, Samejima Y, Morita K, Maeda K.	J Pediatr Hematol Oncol.	43	1	e76	e79	Wolters Kluwer	2021.1
Early elevation of factor IX level in Japanese brothers with Haemophilia B Leyden who are carrying c. -35 g > a mutations in the promoter region of F9.	血液・腫瘍内科	Tamura A, Shinozawa K, Uemura S, Nakamura S, Fujiwara T, Tahara T, Yamamoto N, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Hasegawa D, Muramatsu T, Amano K, Fukutake K, Kosaka Y.	Haemophilia.					Wiley	2021.1
Seroepidemiological Survey of the Antibody for Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 with Neutralizing Activity at Hospitals: A Cross-sectional Study in Hyogo Prefecture, Japan.	血液・腫瘍内科	Furukawa K, Ariti J, Nishimura M, Tjan LH, Lystia Poetranto A, Ren Z, Aktar S, Huang JR, Sutandhio S, Kurahashi Y, Nishino A, Shigekuni S, Takeda Y, Uto K, Matsui K, Sato I, Inui Y, Endo K, Kosaka Y, Oota T, Saegusa J, Mori Y.	JMA J.	29	1	41	49	the Japan Medical Association	2021.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical outcome of patients with recurrent or refractory localized Ewing's sarcoma family of tumors: A retrospective report from the Japan Ewing Sarcoma Study Group.	血液・腫瘍内科	Umeda K, Miyamura T, Yamada K, Sano H, Hosono A, Sumi M, Okita H, Kumamoto T, Kawai A, Hirayama J, Jyoko R, Sawada A, Nakayama H, Hosoya Y, Maeda N, Yamamoto N, Imai C, Hasegawa D, Chin M, Ozaki T; Japan Ewing Sarcoma Study Group.	Cancer Rep.			e1329.		Wiley	2021.1
Post-induction MRD by FCM and GATA1-PCR are significant prognostic factors for myeloid leukemia of Down syndrome.	血液・腫瘍内科	Taga T, Tanaka S, Hasegawa D, Terui K, Toki T, Iwamoto S, Hiramatsu H, Miyamura T, Hashii Y, Moritake H, Nakayama H, Takahashi H, Shimada A, Taki T, Ito E, Hama A, Ito M, Koh K, Hasegawa D, Saito AM, Adachi S, Tomizawa D.	Leukemia.	35		2508	2516	Nature Publishing Group	2021.2
Prednisolone poor response is not an indication for HSCT in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia in first remission: results from JACLS ALL-02 study.	血液・腫瘍内科	Ishida H, Yano M, Hasegawa D, Hori T, Hashii Y, Kato K, Deguchi T, Saito A, Sato A, Hori H, Horibe K, Imamura T.	Int J Hematol.	113	6	893	902	Springer	2021.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Topoisomerase II β immunoreactivity (IR) co-localizes with neuronal marker-IR but not glial fibrillary acidic protein-IR in GLI3-positive medulloblastomas: an immunohistochemical analysis of 124 medulloblastomas from the Japan Children's Cancer Group.	血液・腫瘍内科	Miyahara H, Natsumeda M, Kanemura Y, Yamasaki K, Riku Y, Akagi A, Oohashi W, Shofuda T, Yoshioka E, Sato Y, Taga T, Naruke Y, Ando R, Hasegawa D, Yoshida M, Sakaïda T, Okada N, Watanabe H, Ozeki M, Arakawa Y, Yoshimura J, Fujii Y, Suenobu S, Ihara K, Hara J, Kakita A, Yoshida M, Iwasaki Y.	Brain Tumor Pathol.	38	2	109	121	Springer	2021.3
Effect of extramedullary disease on allogeneic hematopoietic cell transplantation for pediatric acute myeloid leukemia: a nationwide retrospective study.	血液・腫瘍内科	Sakaguchi H, Miyamura T, Tomizawa D, Taga T, Ishida H, Okamoto Y, Koh K, Yokosuka T, Yoshida N, Sato M, Noguchi M, Okada K, Hori T, Takeuchi M, Kosaka Y, Inoue M, Hashii Y, Atsuta Y.	Bone Marrow Transplant.	56	8	1859	1865	Nature Publishing Group	2021.3
Effect of high-dose chemotherapy plus stem cell rescue on the survival of patients with neuroblastoma modified by MYCN gene gain/amplification and remission status: a nationwide registration study in Japan.	血液・腫瘍内科	Saito Y, Urashima M, Takahashi Y, Ogawa A, Kiyotani C, Yuza Y, Koh K, Watanabe K, Kosaka Y, Goto H, Kikuta A, Okada K, Koga Y, Fujimura J, Inoue M, Sato A, Atsuta Y, Matsumoto K.	Bone Marrow Transplant	56		2173	2182	Nature Publishing Group	2021.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Proton beam therapy for children and adolescents and young adults (AYAs): JASTRO and JSPHO Guidelines.	血液・腫瘍内科	Mizumoto M, Fujii H, Miyachi M, Soejima T, Yamamoto T, Aibe N, Demizu Y, Iwata H, Hashimoto T, Moteji A, Kawamura A, Terashima K, Fukushima T, Nakao T, Takada A, Sumi M, Oshima J, Moriwaki K, Nozaki M, Ishida Y, Kosaka Y, Ae K, Hosono A, Harada H, Ogo E, Akimoto T, Saito T, Fukushima H, Suzuki R, Takahashi M, Matsuo T, Matsumura A, Masaki H, Hosoi H, Shigematsu N, Sakurai H.	Cancer Treat Rev	98				Elsevier	2021.4
Muscle Mass Change During Chemotherapy in Children with High-Risk Neuroblastoma : A Retrospective Case Series of 24 Patients.	血液・腫瘍内科	Nakamura N, Kishimoto K, Ishida T, Nakamura S, Tamura A, Kozaki A, Saito A, Hasegawa D, Kosaka Y.	Eur J Pediatr	180	11	3265	3271	Springer	2021.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Minimal residual disease in high-risk neuroblastoma shows a dynamic and disease burden-dependent correlation between bone marrow and peripheral blood.	血液・腫瘍内科	Lin KS, Uemura S, Thwin KKM, Nakatani N, Ishida T, Yamamoto N, Tamura A, Saito A, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nino N, Nagano C, Takafuji S, Iijima K, Nishimura N.	Transl Oncol	14	8	101019		Elsevier	2021.5
Limited correlation between tumor markers and minimal residual disease detected by seven neuroblastoma-associated mRNAs in high-risk neuroblastoma patients.	血液・腫瘍内科	Uemura S, LS Kyaw, Twin KKM, Nakatani N, Ishida Toshiaki, Yamamoto N, Tamura A, Saito A, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nino N, Nagano C, Takafuji S, Iijima K, Nishimura N.	Molecular and Clinical Oncology	15	1	137		Wolters Kluwer	2021.5
Phase III study of palonosetron for prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in pediatric patients.	血液・腫瘍内科	Hara J, Kosaka Y, Koh K, Matsumoto K, Kumamoto T, Fujisaki H, Ishida Y, Suzuki R, Mochizuki S, Goto H, Yuza Y, Koga Y.	Jpn J Clin Oncol	51	8	1204	1211	Oxford University Press	2021.5
Clinical characteristics and risk factors for mortality in children with Pseudomonas aeruginosa bacteraemia: A retrospective review at a paediatric tertiary centre.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Kasai M, Kawamura N, Otake S, Hasegawa D, Kosaka Y.	J Paediatr Child Health.	57	12	1976	1980	Wiley	2021.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Therapeutic options for CTLA-4 insufficiency.	血液・腫瘍内科	Egg D, Rump IC, Mitsuki N, Rojas-Restrepo J, Maccari ME, Schwab C, Gabrysch A, Wamatz K, Goldacker S, Patiño V, Wolf D, Okada S, Hayakawa S, Shikama Y, Kanda K, Imai K, Sotomatsu M, Kuwashima M, Kamiya T, Morio T, Matsumoto K, Mori T, Yoshimoto Y, Dybedal I, Kanariou M, Kucuk ZY, Chapelaine H, Petruzelkova L, Lorenz HM, Sullivan KE, Hemall J, Moutschen M, Litzman J, Rechter M, Albert MH, Hauck F, Seneviratne S, Pachlopnik Schmid J, Kolios A, Unglik G, Klemann C, Snapper S, Giulino-Roth L, Svaton M, Platt CD, Hambleton S, Neth O, Gosse G, Reinsch S, Holzinger D, Kim YJ, Bakhtiar S, Atschekzei F, Schmidt R, Sogkas G, Chandrakasan S, Rae W, Derfalvi B, Marquart HV, Ozen A, Kiykim A, Karakoc-Aydiner E, Králčková P, de Bree G, Kiritsi D, Seidel MG, Kobbe R, Dantzer J, Alsina L, Armangue T, Lougaris V, Agyeman P, Nystrom S, Buchbinder D, Atkinson PD, Grimbacher B.	J Allergy Clin Immunol.					Elsevier	2021.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prognostic value of the revised International Prognostic Scoring System five-group cytogenetic abnormality classification for the outcome prediction of hematopoietic stem cell transplantation in pediatric myelodysplastic syndrome.	血液・腫瘍内科	Yamamoto S, Kato M, Watanabe K, Ishimaru S, Hasegawa D, Noguchi M, Hama A, Sato M, Koike T, Iwasaki F, Yagasaki H, Takahashi Y, Kosaka Y, Hashii Y, Morimoto A, Atsuta Y, Hasegawa D, Yoshida N.	Bone Marrow Transplant.	56	12	3016	3023	Nature Publishing Group	2021.9
Genetic features of B-cell lymphoblastic lymphoma with TCF3-PBX1.	血液・腫瘍内科	Shirai R, Osumi T, Sato-Otsubo A, Nakabayashi K, Mori T, Yoshida M, Yoshida K, Kohri M, Ishihara T, Yasue S, Imamura T, Endo M, Miyamoto S, Ohki K, Sanada M, Kiyokawa N, Ogawa S, Yoshioka T, Hata K, Takagi M, Kato M.	Cancer Rep (Hoboken).			e1559		Wiley	2021.9
Effect of Monoammonium Glycyrrhizinate on the Development of Hepatotoxicity After Initial Intrathecal Chemotherapy for Leukemia.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Hasegawa D, Uemura S, Nakamura S, Kozaki A, Saito A, Ishida T, Mori T, Kosaka Y.	Anticancer Res.	41	12	6231	6236	HighWire Press	2021.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prospective validation of the provisional entity of refractory cytopenia of childhood, proposed by the World Health Organization.	血液・腫瘍内科	Hama A, Hasegawa D, Manabe A, Nozawa K, Narita A, Muramatsu H, Kosaka Y, Kobayashi M, Koh K, Takahashi Y, Watanabe K, Ohara A, Ito M, Kojima S.	Br J Haematol.	196	4	1031	1039	Wiley	2021.11
The incidence of symptomatic osteonecrosis is similar between Japanese children and children in Western countries with acute lymphoblastic leukaemia treated with a Berlin-Frankfurt-Münster (BFM)95-based protocol.	血液・腫瘍内科	Moriya K, Imamura T, Katayama S, Kaino A, Okamoto K, Yokoyama N, Uemura S, Kitazawa H, Sekimizu M, Hiramatsu H, Usami I, Ishida H, Hasegawa D, Hama A, Moriya-Saito A, Sato A, Sasahara Y, Suenobu S, Horibe K, Hara J; Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS).	Br J Haematol.	196	5	1257	1261	Wiley	2021.12
The Effect of Hypoxic Gas Therapy Using Nitrogen Before Bilateral Pulmonary Artery Banding on Hemodynamics and Pulmonary Artery Development	循環器内科	Nagao H, Tanaka T.	Pediatr Cardiol.	42	3	637	642	Springer	2021.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Mid-term outcomes of cor triatriatum repair: comparison of biventricular physiology and univentricular physiology	循環器内科	Nagao H, Tanaka T.	Cardiol Young	31	2	186	190	Cambridge University Press	2021.2
Surgical management of congenital lobar emphysema associated with CHD	循環器内科	Kubo S, Tanaka T, Oshima Y.	Cardiol Young	31	12	2025	2027	Cambridge University Press	2021.12
心腔内エコーガイド下にNykanen RF wireで行った自然閉鎖した開窓の再作成	循環器内科	三木康暢、田中敏克、堀口祥	Journal of JCIC	6	1	1	4	日本先天性心疾患インターベンション学会	2021.6
繰り返す咯血の治療中に脳梗塞を発症したFontan術後例	循環器内科	三木康暢、田中敏克、堀口祥	日本成人先天性心疾患学会雑誌	10	2	20	24	日本成人先天性心疾患学会	2021.8
肥大型心筋症を合併した心房中隔欠損症に対して開窓付閉鎖術が奏功した1例	循環器内科	林賢、長谷川智巳、堀口祥、田中敏克	日本小児循環器学会雑誌	37	1	44	50	日本小児循環器学会	2021.4
短腸症候群に合併したカルニチン欠乏性心筋症	循環器内科	三木康暢、田中敏克、松岡道生、亀井直哉、小川慎治、富永健太、堀口祥	日本小児循環器学会雑誌	37	1	51	56	日本小児循環器学会	2021.4
An "old and new" complication in a child with nephrotic syndrome: Questions.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Horinouchi T, Ogawa Y, Yoshida M, Yoshikawa N, Tanaka R.	Pediatr Nephrol	36	7	epub		International Pediatric Nephrology Association	
An "old and new" complication in a child with nephrotic syndrome: Answers.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Horinouchi T, Ogawa Y, Yoshida M, Yoshikawa N, Tanaka R.	Pediatr Nephrol	36	7	epub		International Pediatric Nephrology Association	
Clinicopathological significance of glomerular capillary IgA deposition in childhood IgA nephropathy.	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Mukaiyama H, Tanaka Y, Wada T, Tanaka R, Kaito H, Nozu K, Sako M, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol	36	4	899	908		

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Examination of the predicted prevalence of Gitelman syndrome by ethnicity based on genome databases.	腎臓内科	Kondo A, Nagano C, Ishiko S, Omori T, Aoto Y, Rossanti R, Sakakibara N, Horinouchi T, Yamamura T, Nagai S, Okada E, Shima Y, Nakanishi K, Ninchoji T, Kaito H, Takeda H, Nagase H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Sci Rep	9	11	epub			
Mycophenolate Mofetil after Rituximab for Childhood-onset Complicated Frequently-relapsing or Steroid-dependent Nephrotic Syndrome.	腎臓内科	Iijima K, Sako M, Oba M, Tanaka S, Hamada R, Sakai T, Ohwada Y, Ninchoji T, Yamamura T, Machida H, Shima Y, Tanaka R, Kaito H, Araki Y, Morohashi T, Kumagai N, Gotoh Y, Ikezumi Y, Kubota T, Kamei K, Fujita N, Ohtsuka Y, Okamoto T, Yamada T, Tanaka E, Shimizu M, Horinouchi T, Konishi A, Omori T, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Nozu K.	J Am Soc Nephrol			epub		American Society of Nephrology	
Moyamoya disease with refractory hypertension associated with peripheral arterial stenosis in the renal parenchyma.	腎臓内科	Inaguma Y, Kaito H, Yoshida M, Hara S, Tanaka R.	CEN Case Rep.	10	4	506	509	Japanese society of Nephrology	

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical features of autosomal recessive polycystic kidney disease in the Japanese population and analysis of splicing in PKHD1 gene for determination of phenotypes.	腎臓内科	Ishiko S, Morisada N, Kondo A, Nagai S, Aoto Y, Okada E, Rossanti R, Sakakibara N, Nagano C, Horinouchi T, Yamamura T, Ninchoji T, Kaito H, Hamada R, Shima Y, Nakanishi K, Matsuo M, Iijima K, Nozu K.	Clin Exp Nephrol			epub		Japanese society of Nephrology	
Contact with a snake leading to testicular necrosis due to Salmonella Saintpaul infection	感染症内科	Otake S, Ajiki J, Yoshida M and Koriyama T and Kasai M.	Pediatr Int.	63	1	119	121		2021.1.1
Infant Pyogenic Liver Abscess Complicated With Autoimmune Neutropenia: Two Cases.	感染症内科	Otake S and Tamashiro R and Morisada N and Kasai M.	Pediatr Infect Dis J	40	2	151	153		2021.2.1
The JAID/JSC guidelines for management of infectious diseases 2017 - Sepsis and catheter-related bloodstream infection	感染症内科	Arakawa S and Kasai M and Kawai S and Sakata H and Mayumi T.	J Infect Chemother.	27	5	657	677		2021.5.1
Effects of a nudge-based antimicrobial stewardship program in a pediatric primary emergency medical center	感染症内科	Shishido A and Otake S and Kimura M and Tsuzuki S and Fukuda A and Ishida A and Kasai M and Kusama Y.	Eur J Pediatr.	180	6	1933	1940		2021.7.1
False-positive results in SARS-CoV-2 antigen test with rhinovirus-A infection	感染症内科	Otake S and Miyamoto S and Mori A and Iwamoto T and Kasai M.	Pediatr Int.	63	9	1135	1137		2021.9.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Meningitis and brain abscess formation caused by Cronobacter malonaticus sequence type 440 in a full-term neonate	感染症内科	Otake S and Okada Y and Forsythe SJ and Kasai M.	J Infect Chemother.	27	11	1648	1652		2021.11.1
Infectious complications after tracheoplasty for congenital tracheal stenosis: a retrospective comparative study	感染症内科	Fujieda Y and Morita K and Otake S and Kasai M and Hatakeyama T.	Pediatr Surg Int.	37	12	1737	1741		2021.12.1
Clinical characteristics and risk factors for mortality in children with Pseudomonas aeruginosa bacteraemia: A retrospective review at a paediatric tertiary centre.	感染症内科	Kishimoto K and Kasai M and Kawamura N and Otake S and Hasegawa D and Kosaka Y.	J Paediatr Child Health.	57	12	1976	1980		2021.12.1
適切な培養検査の必要性を示唆した新生児淋菌性結膜炎の一例	感染症内科	亀山和明、大竹正悟、市牟田健、高橋英之、森田昌知、大西真、清水悠衣、大上朋子、笠井正志	臨床微生物学会雑誌	31	1	22	26		2021.1.1
反復性肺炎球菌性髄膜炎の原因が経篩骨型頭蓋底髄膜瘤であった学童	感染症内科	野谷梨紗子、笠井正志、三星アカリ、張慶哲、倉橋幸也、伊藤雄介	日児誌	125	3	472	477		2021.3.1
小児における薬剤耐性菌対策と抗菌薬適正使用(日本小児感染症学会推薦総説)	感染症内科	大竹正悟、宮入烈、笠井正志	日児誌	125	4	569	578		2021.4.1
RSウイルス感染症の新規入院施設数は定点報告数よりも早期に流行開始を予測しうる	感染症内科	鞆谷沙織、笠井正志、大竹正悟、松井鋭、田中亮二郎	日児誌	125	5	805	808		2021.5.1
小児専門病院で診療した術後発症膿胸の3例	感染症内科	楠本耕平、笠井正志	小児感染免疫	33	1	47	50		2021.5.1
本邦における小児敗血症診療の現在と未来予測	感染症内科	笠井正志	小児感染免疫	33	1	66	72		2021.5.1
コロナウイルス感染症2019流行に伴う急患センターにおける小児診療状況の変化	感染症内科	籾下広樹、大竹正悟、木村誠、神吉直宙、笠井正志	日児誌	125	10	1471	1474		2021.10.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
兵庫県で実施したおたふくかぜワクチン安全性調査	感染症内科	吉田元嗣、岡藤隆夫、鶴田悟、八若博司、飯尾潤、笠井正志、小林謙、桃田哲也、山本千尋、熊谷直樹、藤田位	小児感染免疫	33	3	211	216		2021.10.1
Vancomycinの薬剤熱によりDaptomycinで治療し得た心臓血管外科術後MRSA縦隔炎の乳児例	感染症内科	石田貴裕、大竹正悟、笠井正志	小児感染免疫	33	3	232	236		2021.10.1
関節炎の鑑別に血液培養複数セット採取が有用であったA群β溶血性連鎖球菌感染後反応性関節炎の幼児例	感染症内科	遠藤理沙、大竹正悟、松村治、山口貴弘、笠井正志	小児科	62	11	1380	1384		2021.11.1
グラム染色画像の供覧によって起きた「抗菌薬」および「子どもの罹患」に対する保護者の認識と行動の変化	感染症内科	前田雅子、前田稔彦、浦水理恵、西垣佳織、齊藤匡、笠井正志、黒木春郎	外来小児科	24	3	189	196		2021.11.1
Severe neurodevelopmental disorder caused by an MEF2C nonsense mutation.	臨床遺伝科	Morisada N, Ishida Y, Tokumoto S, Maruyama A, Iijima K.	Pediatrics International	63	12	1536	1538	Wiley	2021.12
Examination of the predicted prevalence of Gitelman syndrome by ethnicity based on genome databases	臨床遺伝科	Kondo A, Nagano C, Ishiko S, Omori T, Aoto Y, Rossanti R, Sakakibara N, Horinouchi T, Yamamura T, Nagai S, Okada E, Shima Y, Nakanishi K, Ninchoji T, Kaito H, Takeda H, Nagase H, Morisada N, Iijima K, Nozu K.	Scientific Reports	11	1	16099		Nature Publishing	2021.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Mild progressive osseous heteroplasia overlap syndrome with PTH and TSH resistance appearing during adolescence and not early childhood	臨床遺伝科	Ozaki K, Mituboshi A, Nagai M, Nishiyama A, Nishimura G, Morisada N, Iijima K.	Endocrine	74	3	685	689	SpringerLink	2021.12
A case of 17q12 deletion syndrome that presented antenatally with markedly enlarged kidneys and clinically mimicked autosomal recessive polycystic kidney disease	臨床遺伝科	Nakamura M, Kanda S, Kajicho Y, Morisada N, Iijima K, Harita Y.	CEN Case Reports	10	4	543	548	SpringerLink	2021.11
Phenotypes of SMA patients retaining SMN1 with intragenic mutation	臨床遺伝科	Wijaya YOS, Ar Rohmah M, Niba ETE, Morisada N, Noguchi Y, Hidaka Y, Ozasa S, Inoue T, Shimazu T, Takahashi Y, Tozawa T, Chiyonobu T, Inoue T, Shiroshita T, Yokoyama A, Okamoto K, Awano H, Takeshima Y, Saito T, Saito K, Nishio H, Shinohara M.	Barin & Development	43	7	745	758	Elsevier	2021.8
Infantile spasms and early-onset progressive polycystic renal lesions associated with TSC2/PKDI contiguous gene deletion syndrome	臨床遺伝科	Matsubara Y, Akamine S, Chong PF, Kawakami S, Maehara K, Kaku Y, Kurokawa M, Morisada N, Iijima K, Kira R.	Seizure	86		82	84	Elsevier	2021.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
A woman with a dual genetic diagnosis of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease and KBG syndrome	臨床遺伝科	Tanaka Y, Morisada N, Suzuki T, Ohashi Y, Ye MJ, Nozu K, Tsuruta S, Iijima K.	CEN Case Reports	10	2	184	188	SpringerLink	2021.5
Infant Pyogenic Liver Abscess Complicated With Autoimmune Neutropenia: Two Cases	臨床遺伝科	Otake S, Tamashiro R, Morisada N, Kasai M.	The Pediatric Infectious Disease Journal	40	2	151	153	Wolters Kluwer	2021.2
医療としての腎疾患遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、洪本加奈	日本小児腎臓病学会雑誌	34	2	109	114	日本小児腎臓病学会	2021.11
低カリウム血症を契機に見られたMAPKBPI遺伝子変異を伴うネフロン癆の11歳女児例	臨床遺伝科	白鳥孝俊、 三浦健一郎、 白井陽子、安藤太郎、 池野かおる、金子直人、 藪内智朗、 石塚喜世伸、 森貞直哉、飯島一誠、 服部元史	日本小児体液研究会誌	13		45	50	日本小児体液研究会	2021.7
アレイCGHで15q11.2q13.1欠失を同定後にDNAメチル化解析で Angelman症候群と確定診断した女児の遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	洪本加奈、森貞直哉、 沖田空、飯島一誠	小児科	62	3	282	285	金原出版	2021.3
こどもたちのための遺伝医療	臨床遺伝科	森貞直哉	日本小児科学会雑誌	125	12	1633	1639	日本小児科学会	2021.12
【出生前診断された小児外科疾患の鑑別と周産期管理】肺分画症・気管支肺前腸奇形 bronchopulmonary vascular forgut malformation	小児外科	横井暁子、吉田牧子	小児外科	53	2	146	151	東京医学社	2021.2
鎖肛を伴わない男児肛門尿道瘻の1例	小児外科	鯨島由友、森田圭一、 植村光太郎、 河原仁守、春名晶子、 杉多良文、前田真作、 畠山理	日本小児外科学会雑誌	57	1	44	47	日本小児外科学会	2021.2
胆嚢床を有する肝副葉捻転の1例	小児外科	藤枝悠希、福澤宏明、 岩出珠幾、竹内雄毅、 畠山理	日本小児外科学会雑誌	57	3	690	694	日本小児外科学会	2021.4
【消化管重複症のすべて】胸部食道重複症	小児外科	横井暁子	小児外科	53	9	914	918	東京医学社	2021.9

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【LPECの現状と課題】出生体重1,500g未満の乳児期発症鼠径ヘルニアに対するLPEC	小児外科	宮内玄徳、大片祐一、尾藤祐子、中谷太一、會田洋輔、富岡雄一郎、中井優美子、福澤宏明、島山理	小児外科	53	10	1052	1056	東京医学社	2021.10
【LPECの現状と課題】LPECの日帰り手術	小児外科	黒田精浩、岩出珠幾、島山理	小児外科	53	10	1083	1086	東京医学社	2021.10
先天性気管狭窄症の労作時呼吸苦の評価に6分間歩行が有用であった年長児2例	小児外科	横井暁子	日本小児外科学会雑誌	57	6	981	985	日本小児外科学会	2021.10
【小児外科疾患の家族内発生】停留精巢	小児外科	島山理	小児外科	53	12	1310	1311	東京医学社	2021.12
Colonic diverticulitis in children: A retrospective study of 16 patients.	小児外科	Hatakeyama T, Okata Y, Miyauchi H, Hisamatsu C, Nakatani T, Nakai Y, Bitoh Y.	Pediatr Int.	63	12	1510	1513		2021.12
Parotid lipoma in a child: Focus on preoperative diagnosis.	小児外科	Tsuji E, Hisamatsu C, Hatakeyama T, Tachibana T.	Pediatr Int.	63	1	114	115		2021.1
Infectious complications after tracheoplasty for congenital tracheal stenosis: a retrospective comparative study.	小児外科	Fujieda Y, Morita K, Otake S, Kasai M, Hatakeyama T.	Pediatr Surg Int.	37	12	1737	1741		2021.12
Histological features of complete tracheal rings in congenital tracheal stenosis.	小児外科	Fujieda Y, Morita K, Fukuzawa H, Maeda K.	Pediatr Surg Int.	37	2	257	260		2021.2
The usefulness of olive oil enema in children with severe chronic constipation.	小児外科	Yokoi A, Kamata N.	J Pediatr Surg	56	7	1141	1144		2021.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Prognosis of conventional vs. high-frequency for congenital diaphragmatic hernia: a retrospective cohort study.	小児外科	Fuyuki M, Usui N, Taguchi T, Hayakawa M, Masumoto K, Kanamori Y, Amari S, Yamoto M, Urushihara N, Inamura N, Yokoi A, Okawada M, Okazaki T, Toyoshima K, Furukawa T, Terui K, Ohfuji S, Tazuke Y, Uchida K, Okuyama H; Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group.	J Perinatol	41	4	814	823		2021.4
Thoracoscopic repair of congenital diaphragmatic hernia in neonates: findings of a multicenter study in Japan.	小児外科	Okawada M, Ohfuji S, Yamoto M, Urushihara N, Terui K, Nagata K, Taguchi T, Hayakawa M, Amari S, Masumoto K, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Inoue M, Furukawa T, Yokoi A, Kanamori Y, Usui N, Tazuke Y, Saka R, Okuyama H; Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group.	Surg Today	51	10	1694	1702		2021.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Characteristics and treatment of congenital esophageal stenosis: A retrospective collaborative study from three Japanese children's hospitals.	小児外科	Mochizuki K, Yokoi A, Urushihara N, Yabe K, Nakashima H, Kitagawa N, Maeda K, Fukumoto K, Shinkai M.	J Pediatr Surg	56	10	1771	1775		2021.10
AFP-L3 as a Prognostic Predictor of Recurrence in Hepatoblastoma: A Pilot Study.	小児外科	Kawahara I, Fukuzawa H, Urushihara N, Kosaka Y, Kuroda Y, Fujieda Y, Takeuchi Y, Uemura K, Iwade T, Samejima Y, Morita K, Maeda K.	J Pediatr Hematol Oncol	43	1	e76	e79		2021.1
Epithelial and ganglionic distribution at the distal rectal end in anorectal malformations: could it play a role in anastomotic adaptation?	小児外科	Uemura K, Fukuzawa H, Morita K, Okata Y, Yoshida M, Maeda K.	Pediatr Surg Int.	37	2	281	286		2021.2
Unicuspid aortic valve repair with bicuspidization in the paediatric population	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Alexander Heß, Julia Renata Lämmerzahl, Irem Karliova, Hashim Abdul-Khalilq, Hans-Joachim Schäfers.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	59	1	253	261	OXFORD ACADEMIC	2021.01.04
Evaluation of Ductal Tissue in Coarctation of the Aorta Using X-Ray Phase-Contrast Tomography	心臓血管外科	Iwaki R, Matsuhisa H, Minamisawa S, Akaike T, Hoshino M, Yagi N, Morita K, Shinohara G, Kaneko Y, Yoshitake S, Takahashi M, Tsukube T, Oshima Y.	Pediatr Cardiol	42	3	654	661	Springer	2021.1.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Bilateral Bidirectional Glenn Anastomosis in an Adult Patient with Aneurysmal Degeneration after an Original Blalock-Taussig Shunt 術後の鎖骨下動脈瘤を伴った成人期単心室症例に対する両側両方向性グレン手術	心臓血管外科	村上優、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	日本心臓血管外科学会雑誌	50	4	231	234	日本心臓血管外科学会	2021.07.01
Ross operation after failure of aortic valve repair	心臓血管外科	Karen B. Abeln, Vincent Chauvette, Nancy Poirier, Shunsuke Matsushima, Ismail El-Hamamsy, Hans-Joachim Schäfers.	Annals of Cardiothoracic Surgery	10	4	476	484	AME	2021.07.01
Mid-term outcomes of Congrega implantation for the reconstruction of the right ventricular outflow tract to proximal branch pulmonary arteries: Japan multicentre study	心臓血管外科	Hoashi T, Ichikawa H, Hirose K, Horio N, Sakurai T, Matsuhisa H, Ohsima Y, Sakurai H, Kasahara S, Sakamoto K.	Interact Cardiovasc Thorac Surg	33	2	227	236	Oxford University Press	2021.7.26
Selective Lesser Curvature Augmentation With Geometric Study for Repair of Aortic Arch Obstruction	心臓血管外科	Shota Hasegawa, Shunsuke Matsushima, Hironori Matsuhisa, Tomonori Higuma, Yuson Wada, Yoshihiro Oshima.	The Annals of Thoracic Surgery	112	5	1523	1531	ELSEVIER	2021.11.01
Identification of the atrioventricular conduction axis and its positional relationship with anatomical landmarks of a heart with tricuspid atresia	心臓血管外科	Yuson Wada, Hironori Matsuhisa, Naoki Yoshimura, Yoshihiro Oshima.	JTCVS Open	8		557	600	American Association for Thoracic Surgery	2021.12.01
後進へ伝えたいこと	心臓血管外科	大嶋義博	日本小児循環器学会雑誌	37	3	251	252	日本小児循環器学会	2021.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Anatomical variation of the internal carotid artery and its implication to the endoscopic endonasal translacrum approach.	脳神経外科	Umehara T, Taniguchi M, Akutsu N, Kimura H, Uozumi Y, Nakai T, Kishima H, Kohmura E.	Head Neck.	43	5	1535	1544	WILEY	44317
Pediatric takotsubo syndrome caused by hydrocephalus after posterior fossa tumor surgery.	Neurosurgery	Koyama J, Akutsu N, Kawamura A.	Childs Nerv Syst.	37	12	3957	3961	Springer	2021.12
発生学的分類に基づいた腰仙部脊髄脂肪腫の術後長期成績の比較	脳神経外科	小山淳二、河村淳史、阿久津宣行	小児の脳神経	47	1	34	39	一般社団法人日本小児神経外科学会	2021
Proton beam therapy for children and adolescents and young adults (AYAs): JASTRO and JSPHO Guidelines.	Dept. of Neurosurgery (脳神経外科)	Kawamura A (分担共著)	Cancer Treat Rev.	98		107209	https://doi.org/10.1016/j.ccr.2021.102209	Elsevier Inc.	2021
特集【埋没耳の治療2—外科的治療—】 「猫耳皮弁法を用いる方法」	形成外科	河合恵、小野田素大、西村恵理子、久保盾貴	形成外科	64	12	1440	1445	克誠堂出版	2021.12
骨接合術を要した小児大腿骨頸部疲労骨折の2例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、尾ノ井勇磨	中日本整形形成外科災害外科学会誌	64	4	591	592	中日本整形形成外科災害外科学会誌	2021.7
先天性脛骨列欠損症(Jones分類1b型、両側例)に対し再建手術を行い、歩行能力を獲得した1例	整形外科	衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、河本和泉、山本哲也、尾ノ井勇磨	日本小児整形形成外科学会雑誌	30	1	12	16	日本小児整形形成外科学会	2021.6
総排泄腔外反症の腹壁閉鎖に際し腸骨前方骨切り術と創外固定を行った1例	整形外科	劉正夫、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、河本和泉	日本小児整形形成外科学会雑誌	30	1	90	94	日本小児整形形成外科学会	2021.6
小児期の眼内レンズ挿入術	眼科	野村耕治	IOL & RS	35	1	67	72	日本白内障屈折矯正手術学会	2021.3.25
検査のツボ 小児の視力検査	眼科	野村耕治	眼科医マルチアインダー	39		4	4	参天製薬	2021.1.31
脈絡膜新生血管様の黄斑変性を認めた道化師魚鱗癩の1例	眼科	松野裕樹、野村耕治	眼科臨床紀要	14	5	305	308	眼科臨床紀要会	2021.5.1
子どものココモンな微徴候・微症状 目やに	眼科	野村耕治	小児科	62	10	10	13	金原出版	2021.9.24
小児の後天性麻痺性斜視	眼科	牧仁美、野村耕治	あたらしい眼科	38	9	1013	1020	メディアカル葵出版	2021.9.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Genetic background in late-onset sensorineural hearing loss patients	耳鼻咽喉科	Natsumi Uehara, Takeshi Fujita, Daisuke Yamashita, Jun Yokoi, Sayaka Katsunuma, Akinobu Kakigi, Shin-Ya Nishio, Ken-Ichi Nibu, Shin-Ichi Usami.	J Hum Genet	doi: 10.1038/ s10038- 021- 00990-2.				Japan Society of Human Genetics	2021.11
A High Risk of Missing Congenital Cytomegalovirus-Associated Hearing Loss through Newborn Hearing Screening in Japan.	耳鼻咽喉科	Minami SB, Yamanobe Y, Nakano A, Sakamoto H, Masuda S, Takiguchi T, Katsunuma S, Sugiuchi T, Morita N, Kaga K, Matsunaga T.	J Clin Med	10	21	5056	5056	MDPI	2021.10
Investigation of the hearing levels of siblings affected by a single GJB2 variant: Possibility of genetic modifiers	耳鼻咽喉科	Makoto Hosoya, Masato Fujioka, Kiyomitsu Nara, Noriko Morimoto, Sawako Masuda, Tomoko Sugiuchi, Sayaka Katsunuma, Akira Takagi, Noriko Morita, Kaoru Ogawa, Kimitaka Kaga, Tatsuo Matsunaga.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol	149		110840	110840	Elsevier	2021.10
尿道下裂の治療	泌尿器科	神野雅	泌尿器科	13	2	127	134	科学評論社	2021.2.28
尿路anomalyに対する形成術	泌尿器科	杉多良文	泌尿器科	13	6	678	684	科学評論社	2021.6.28
小児周術期の血管外漏出	麻酔科	原翔平、香川哲郎	LISA	28	1	63	65	メディカルサイエンスイ ンターナショナル	2021.1
総肺静脈還流異常症を合併した先天性気管狭窄に対し、気管・心臓同時手術を行った乳児の麻酔経験	麻酔科	長谷川達也、 鹿原史寿子、香川哲郎	日本臨床麻酔学会雑誌	41	2	134	139	日本臨床麻酔学会	2021.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Tracheobronchial complications in a preterm infant with agnathia-otocephaly	新生児科	Shoko Tamaki, Sota Iwatani, Ayako Izumi, Makiko Yoshida, Seiji Yoshimoto.	Pediatr Int.	63	10	1262	1263	Japan Pediatric Society	2021.10
Cytomegalovirus-related sepsis-like syndrome in very premature infants in Japan	新生児科	Namba F, Nakagawa R, Haga M, Yoshimoto S, Tomobe Y, Okazaki K, Nakamura K, Seki Y, Kitamura S, Shimokaze T, Ikegami H, Nishida K, Mori S, Tamai K, Ozawa J, Tanaka K, Miyahara N.	Pediatr Int.					Japan Pediatric Society	2021.9
Rapid changes in serum IL-6 levels in preterm newborns with Gram-negative early-onset sepsis	新生児科	Kobayashi T, Iwatani S, Hirata A, Yamamoto M, Yoshimoto S.	Cytokine	138				Elsevier	2021.2
Improving survival in patients with trisomy 18	新生児科	Tamaki S, Iwatani S, Izumi A, Hirayama K, Kataoka D, Ohyama S, Ikuta T, Takeoka E, Matsui S, Mimura H, Minamikawa S, Nakagishi Y, Yoshimoto S, Nakao H.	Am J Med Genet A	188	4	1048	1055	Wiley	2021.12
Histopathological evaluation of food protein-induced enterocolitis syndrome	新生児科	Kataoka D, Iwatani S, Tanaka Y, Yoshida M, Yoshimoto S.	Pediatr Int	63	11	1384	1386	Japan Pediatric Society	2021.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Postnatally cytomegalovirus-infected infant with repeated bacterial sepsis	新生児科	Yamauchi T, Iwatani S, Hirota Y, Yokota T, Yoshimoto S.	Pediatr Int	63	4	480	482	Japan Pediatric Society	2021.4
Lower birth weight in newborns with trisomy 18 and esophageal atresia	新生児科	Hasebe M, Iwatani S, Ohyama S, Tamaki S, Yoshimoto S, Nakao H.	Am J Med Genet A	182	8	2593	2596	Wiley	2021.8
<特集NEO Speciality>ドクター&ナースが使える新生児のエコーと画像検査 総論 エコー、画像検査の基本	新生児科	岩谷壮太	with NEO	34	1	88	92	メディアカ出版	2021.1
<特集NEO Speciality>ドクター&ナースが使える新生児のエコーと画像検査 頭部エコー	新生児科	平山健太郎, 岩谷壮太	with NEO	34	1	101	108	メディアカ出版	2021.1
<特集NEO Speciality>ドクター&ナースが使える新生児のエコーと画像検査 腹部エコー	新生児科	片岡大, 岩谷壮太	with NEO	34	1	109	116	メディアカ出版	2021.1
【新生児蘇生法 図解でみえる手順とケア NCPDRガイドライン2020知っておくべき改訂ポイント】こんな時どうする?! 事例でNCPDR解説編 初めて早産児の蘇生処置に遭遇!	新生児科	芳本誠司	ペリネイタルケア	40	6	577	581	メディアカ出版	2021.6
【ガイドラインの狭間で-ガイドラインには対応が示されていない症例にどう対応するか?】妊娠編 妊娠20週 細菌性胎膜炎の診断と治療は?	産科	船越徹	周産期医学	51	6	827	830	株式会社東京医学社	2021.6
一絨毛膜三羊膜性胎盤の一例	産科	岩田隆一、窪田詩乃、金子めぐみ、荻野美智、松本培世、平久進也、船越徹	周産期医学	51	7	1073	1076	株式会社東京医学社	2021.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Retrospective details of false-positive and false-negative results in non-invasive prenatal testing for fetal trisomies 21, 18 and 13.	産科	Suzumori N, Sekizawa A, Takeda E, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, Wada S, Hamanoue H, Hirahara F, Sawai H, Nakamura H, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Nakayama S, Kamei Y, Namba A, Murotsuki J, Yamaguchi M, Tairaku S, Maeda K, Kaji T, Okamoto Y, Endo M, Ogawa M, Kasai Y, Ichizuka K, Yamada N, Ida A, Miharu N, Kawaguchi S, Hasuo Y, Okazaki T, Ichikawa M, Izumi S, Kuno N, Yotsumoto J, Nishiyama M, Shirato N, Hirose T, Sago H.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol.	256		75	81		2021.1

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Evaluation of the clinical performance of noninvasive prenatal testing at a Japanese laboratory.	産科	Sasaki Y, Yamada T, Tanaka S, Sekizawa A, Hirose T, Suzumori N, Kaji T, Kawaguchi S, Hasuo Y, Nishizawa H, Matsubara K, Hamanoue H, Fukushima A, Endo M, Yamaguchi M, Kamei Y, Sawai H, Miura K, Ogawa M, Tairaku S, Nakamura H, Sanui A, Mizuuchi M, Okamoto Y, Kitagawa M, Kawano Y, Masuyama H, Murotsuki J, Osada H, Kurashina R, Samura O, Ichikawa M, Sasaki R, Maeda K, Kasai Y, Yamazaki T, Neki R, Hamajima N, Katagiri Y, Izumi S, Nakayama S, Miharu N, Yokohama Y, Hirose M, Kawakami K, Ichizuka K, Sase M, Sugimoto K, Nagamatsu T, Shiga T, Tashima L, Taketani T, Matsumoto M, Hamada H, Watanabe T, Okazaki T, Iwamoto S, Katsura D, Ikenoue N, Kakinuma T, Hamada H, Egawa M, Kasamatsu A, Ida A, Kuno N, Kiji N, Ito M, Morisaki H, Tanigaki S, Hayakawa H, Miki A, Sasaki S, Saito M, Yamada N, Sasagawa T, Tanaka T, Hirahara F, Kosugi S, Sago H, Japan N. I. P. T. Consortium.	J Obstet Gynaecol Res.	47	10	3437	3446		2021.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
The Current Challenges in Developing Biological and Clinical Predictors of Congenital Cytomegalovirus Infection.	産科	Tanimura K, Uchida A, Imafuku H, Tairaku S, Fujioka K, Morioka I, Yamada H.	Int J Mol Sci.	22	24	13487			2021.12
日常診療に役立つ小児画像診断の コツ・透視・造影検査-上部消化管造 影	放射線診断科	赤坂好宣	小児内科	53	9	1463	1468	東京医学社	2021.9
日常診療に役立つ小児画像診断の コツ・透視・造影検査-注腸造影	放射線診断科	赤坂好宣	小児内科	53	9	1469	1475	東京医学社	2021.9
小児救急疾患の画像診断・頭頸部、 上気道の小児救急疾患	放射線診断科	杉岡勇典、赤坂好宣	臨床放射線	66	5	437	443	金原出版株式会社	2021.5
地力が伸ばせる小児画像診断-知っ ておきたい小児領域の救急疾患- 消化管・救急外来で遭遇する消化器 疾患	放射線診断科	杉岡勇典、乗本周平、 赤坂好宣	臨床画像	37	8	982	992	メジカルビュー社	2021.8
Traumatic Brain Injury Outcomes in 10 Asian Pediatric ICUs: A Pediatric Acute and Critical Care Medicine Asian Network Retrospective Study.	小児集中治療科	Chong SL, Dang H, Ming M, Mahmood M, Zheng C, Gan C, Lee O, Ji J, Chan L, Ong J, Kurosawa H, Lee JH.	Pediatr Crit Care Med	22	4	401	411		2021
Early Coagulopathy in Pediatric Traumatic Brain Injury: A Pediatric Acute and Critical Care Medicine Asian Network (PACCMAN) Retrospective Study	小児集中治療科	Chong SL, Ong GY, Zheng CQ, Dang H, Ming M, Mahmood M, Chan L, Chuah S, Lee O, Qian S, Fan L, Konoike Y, Lee J.	Neurosurgery	89	2	283	290		2021
Early posttraumatic seizures in pediatric traumatic brain injury: a multicenter analysis	小児集中治療科	Chong SL, Qian S, Yao SHW, Allen J, Dang H, Chan L, Ming M, Gan C, Ong J, Kurosawa H, Lee JH.	J Neurosurg Pediatr			1	7		2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Conventional risk prediction models fail to accurately predict mortality risk among patients with coronavirus disease 2019 in intensive care units: a difficult time to assess clinical severity and quality of care	小児集中治療科	Endo H, Ohbe H, Kumasawa J, Uchino S, Hashimoto S, Aoki Y, Asaga T, Hashiba E, Hatakeyama J, Hayakawa K, Ichihara N, Irie H, Kawasaki T, Kurosawa H, et al.	J Intensive Care	9	1	42			2021
A case of infant intracranial hemorrhage using an infrared pupillometer	小児集中治療科	Kaneko N, Aoki K, Kurosawa H.	Pediatr Int	63	4	470	472		2021
Target Temperature Management and Survival with Favorable Neurological Outcome After Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Children: A Nationwide Multicenter Prospective Study in Japan	小児集中治療科	Matsui S, Hirayama A, Kitamura T, Sobue T, Hayashi T, Takei H, Tanizawa N, Ohnishi Y, Kuratani S, Sameshima T, Yoshino G, Kurosawa H, Tanaka R.	Ther Hypotheria Temp Manag						2021
Successful resuscitation with shallow chest compression depth: A pediatric case	小児集中治療科	Miyashita N, Kurosawa H, Aoki K.	Pediatr Int						2021
Prediction of AESD and neurological sequelae in febrile status epilepticus	小児集中治療科	Nishiyama M, Ishida Y, Yamaguchi H, Tokumoto S, Tomioka K, Hongo H, Toyoshima D, Maruyama A, Kurosawa H, Tanaka R, Nozu K, Iijima K, Nagase H.	Brain Dev	43	5	616	625		2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Ethical and Social Issues for Health Care Providers in the Intensive Care Unit during the Early Stages of the COVID-19 Pandemic in Japan: a Questionnaire Survey	小児集中治療科	Seino Y, Aizawa Y, Kogetsu A, Kato K.	Asian Bioeth Rev			1	17		2021
Elevated cytokine, chemokine, and growth and differentiation factor-15 levels in hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome: A retrospective observational study	小児集中治療科	Yamaguchi H, Nishiyama M, Tomioka K, Hongo H, Tokumoto S, Ishida UY, Toyoshima D, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Nagase H.	Brain Dev						2021
遠心型血液成分分離装置を用いて血漿交換を安全に施行できた血栓性血小板減少性紫斑病の小児例	小児集中治療科	當間圭一郎、 制野勇介、宮下徳久、 長井勇樹、青木一憲、 長谷川智巳、黒澤寛史	日本集中治療医学会雑誌	28	6	556	557		2021
フライデルフリア小児病院シミュレーション・フェローシップ	小児集中治療科	黒澤寛史	小児科	62	4	322	327	金原出版株式会社	2021.4
小児重症COVID-19の診療体制	小児集中治療科	黒澤寛史	小児科	62	7	662	667	金原出版株式会社	2021.7
小児科専門医を目指す人のためのQ&Aで読み解く 分野別誌上セミナー	小児集中治療科	黒澤寛史	小児科臨床	74	9	1158	1160	日本小児医事出版社	2021.9
新生児・小児蘇生法の不易流行ーガイドライン改訂を支える研究論文	小児集中治療科	長井勇樹、黒澤寛史	小児内科	53	12	1993	1996	東京医学社	2021
こどものことをもっと知ろう	小児集中治療科	青木一憲	LISA	28	3	228	232	メディアカル・サイエンス・インターナショナル	2021

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Complete androgen insensitivity syndrome with accelerated onset of puberty due to a Sertoli cell tumor	1Department of Endocrinology and Metabolism, Aichi Children's Health and Medical Center, Aichi, Japan 2Department of Urology, Aichi Children's Health and Medical Center, Aichi, Japan 3Department of Pathology, Kobe Children's Hospital, Hyogo, Japan 4Department of Pediatrics, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 5Department of Molecular Endocrinology, National Research Institute for Child Health and Development, Tokyo, Japan	Masako Izawa ¹ , Eiji Hisamatsu ² , Kaoru Yoshino ² , Makiko Yoshida ³ , Takeshi Sato ⁴ , Satoshi Narumi ^{4,5} , Tomonobu Hasegawa ⁴ , and Takashi Hamajima ¹ .	Clinical Pediatric Endocrinology	Vol.30	No.2	99	104	The Japanese Society for Pediatric Endocrinology	2021.4.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
「眠る」「休む」に関連する症状・不眠・せん妄	看護部 7東	濱田米紀	小児看護	44	12	1555	1558	へるす出版	2021.1
特殊な治療下の安全の確保とケアの要点 動脈圧ラインの固定②	看護部 PICU	吉村尚輝	小児看護	44	5	578	581	へるす出版	2021.5
小児がんチームのベストプラクティス	看護部 外来	中谷扶美	小児看護	44	7	800	806	へるす出版	2021.7
介入の難しい科にメスを入れる!診療科別 指導&マニュアル作成 パワーアップブック 特集6小児科	看護部	中島由佳	INFECTION CONTROL	30	12	49	54	メディアカ出版	2021.12
小児看護における認定看護師の役割と活動の実際 ④感染管理認定看護師	看護部	中島由佳	小児看護	44	13	1677	1682	へるす出版	2021.12
突然の事故により看取りとなった子どもへの家族へのケア	看護部 PICU	坂本佳津子	看護研究	55	1	15	17	医学書院	2022.2
移行期医療における管理栄養士のかかわり 小児腎臓病患者	栄養管理部	鳥井隆志	小児科臨床	74	6	781	785	日本小児医事出版社	2021.6.5

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
繰り返す緑膿菌肺炎に対してトブラマイシン吸入が有効であった非菌性線維症の気管切開児の1例	総合診療科	佐藤聖子、南川将吾、合田由香利、仲嶋健吾、松村治、上月愛瑠、石田悠介、水田麻雄、中岸保夫	第53回	日本小児感染症学会	東京都新宿区	2021.10.9-10.10
長座体前屈による稀な合併症とその治療	総合診療科 麻酔科	朝貝芳貴、南川将吾、斎藤麗、須藤穂子、岡崎沙也香、合田由香利、仲嶋健吾、松村治、佐藤聖子、石田悠介、水田麻雄、上嶋江利、中岸保夫	第284回	日本小児科学会兵庫県地方会	Web開催	2021.9.25
ボグリボース(α -Glucosidase Inhibitor: α -GI)が著効した後期ダンピング症候群による難治性低血糖の2例	総合診療科	松本泰右、南川将吾、太田亮、近藤友里子、大竹結衣、吉野豪、松村治、佐藤聖子、石田悠介、中岸保夫	第283回	日本小児科学会兵庫県地方会	Web開催	2021.5.15
小児専門病院における COVID-19 入院患者の臨床的特徴	総合診療科	松村治、南川将吾、合田由香利、仲嶋健吾、佐藤聖子、石田悠介、上月愛瑠、水田麻雄、中岸保夫	第23回	日本病院総合診療医学学会術総会	Web開催	2021.9.18-9.19
高安静脈炎の治療中に発熱と頻脈がみられた8か月女児	総合診療科	松村治、仲嶋健吾、合田由香利、上月愛瑠、佐藤聖子、南川将吾、石田悠介、水田麻雄、中岸保夫	第30回	日本小児リウマチ学会学術集会	Web開催	2021.10.15-10.17
SIADHによる難治性低Na血症に対しトルバプタンが奏効した重症心身障害児の1例	総合診療科	儀間加南子、南川将吾	第46回	日本重症心身障害学会学術集会	Web開催	2021.12.10-12.11
小児の腸重積症におけるPOCUSの説明書	救急科	竹井寛和	第10回	POCUS研究会	Web開催	2021.1.9-1.10
各部門でどのようにPOCUSを取り入れていますか - 小児救急外来でのPOCUS-	救急科	竹井寛和、林卓郎、松井鋭、谷澤直子、大西康裕、鞍谷沙織、鯨島智大、田中亮二郎	第94回	日本超音波医学会	神戸市	2021.5.21-5.23
【Caseカンファレンス】救急(POCUS・横断)-小児の急性虫垂炎-	救急科	竹井寛和、林卓郎、松井鋭、谷澤直子、大西康裕、鞍谷沙織、鯨島智大、田中亮二郎	第94回	日本超音波医学会	神戸市	2021.5.21-5.23
2時間で学ぶ全身POCUSのオイシイところ FAST/ERAST	救急科	竹井寛和	第94回	日本超音波医学会	神戸市	2021.5.21-5.23
エコーハンズオン 令和時代進化し続ける POCUSの使いかた	救急科	竹井寛和	第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
著明な乳酸アシドーシスと重症貧血を呈した急性リンパ性白血病によるOncologic emergency の1例	救急科	大西康裕、多賀谷真史、植松悟子、西村奈穂、辻本信一、富澤大輔、松本公一	第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
小児院外心停止後患者の病院内後での特徴、管理、長期予後について 一大阪の多施設前向きレジストリより一	救急科	松井鋭、黒澤寛史、鞍谷沙織、鯨島智大、谷澤直子、染谷真紀、梶原伸介、林卓郎、田中亮二郎、祖父江友孝、石見拓、北村哲久	第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
急性陰嚢症における小児救急医による超音波検査の有効性の検討	救急科	梶原伸介、田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、鞍谷沙織、谷澤直子、鯨島智大、染谷真紀、梶原伸介、松井鋭、谷澤直子、染谷真紀、梶原伸介、田中亮二郎	第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
精巣上体炎に対する抗菌薬処方の現状調査と有効性の検討	救急科	吉野豪、田中亮二郎、林卓郎、松井鋭、竹井寛和、谷澤直子、鯨島智大、大西康裕、鞍谷沙織	第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
当院救急外来を受診した脳震盪の小児107例の臨床像	救急科		第34回	日本小児救急医学会学術集会	奈良市	2021.6.19-6.20

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県内夜間休日急病センター8施設における小児救急患者の推移	救急科	田中亮二郎、伊東利幸、中迫博英	第34回	日本小児救急医学学会 術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
乳幼児急性胃腸炎患者の入院転帰に関連するトリアージ評価項目の検討	救急科	鯨島智大、鞍谷沙織、大西康裕、谷澤直子、竹井寛和、松井颯、林卓郎、田中亮二郎	第34回	日本小児救急医学学会 術集会	奈良市	2021.6.19-6.20
小児の腹部POCUS	救急科	竹井寛和	第11回	POCUS研究会	Web開催	2021.7.10-7.11
急性の下腹部痛を訴えた思春期女子	救急科	竹井寛和	第11回	POCUS研究会	Web開催	2021.7.10-7.11
鞍上部胚細胞腫瘍治療前後のデksamethasone補充量の変化	代謝内分科	三星アカリ、松本真明、永井正志、尾崎佳代	第94回	日本内分科学会	Web開催	2021.4.22-4.24
Mini-pubertyの遷延を認めた新規SF-1遺伝子変異を有する男児の1例	代謝内分科	池谷紀衣子、三星アカリ、松本真明、永井正志、尾崎佳代	第54回	日本小児内分科学会	Web開催	2021.10.28-10.30
小児2型糖尿病患者の肥満有無別の治療予後	代謝内分科	松本真明、三星アカリ、永井正志、尾崎佳代	第54回	日本小児内分科学会	Web開催	2021.10.28-10.30
尿中有機酸分析がHMG-CoA合成酵素欠損症の発症早期診断に有用であった乳児の1例	代謝内分科	Ryo Ota, Akari Mitsuboshi, Masaaki Matsumoto, Masashi Nagai, Ryoosuke Bo, Naoya Morisada, Hiroyuki Awano, Kazumoto Iijima, Kayo Ozaki.	第62回	日本先天代謝異常学会	愛知県	2021.11.4-11.6
脳弓下器官(Subfornical Organ)特異的抗体反応陽性のROHHAD症候群の1例	代謝内分科	岡崎沙也香、三星アカリ、永井正志、松本真明、宇都宮朱里、尾崎佳代	第31回	臨床内分科代謝Update	大阪府	2021.11.26-11.27
「知りたいいねん JIAの最新医療について」	リウマチ科	中岸保夫		あすなろ会サマーカーキヤ ンブ	Web開催	2021.8.21
Distinct roles of IL-18 and IL-1 β in macrophage activation syndrome: lessons from a new MAS mouse model	リウマチ科	Mizuta M, Inoue N, Shimizu M, Yokoyama T, Sakumura N, Kuroda R, Ikawa Y, Sugimoto N, Yachie A, Wada T.	第23回	Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress	Kyoto	2021.8.28-8.31
Lecture1 ディスカッション「テーマ:全身型JIAとMAS」	リウマチ科	水田麻雄		小児リウマチ研修会 2021	Web開催	2021.9.23
トシリズマブ投与中の全身型若年性特発性関節炎における病勢把握マーカーとしての血清インターロイキン-6の有用性の検討	リウマチ科	合田由香利、水田麻雄、中岸保夫	第30回	日本小児リウマチ学会 学術集会	東京都 渋谷区	2021.10.15-10.17
全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群に対する治療～Dexamethasone palmitateの有用性～	リウマチ科	清水正樹、西村謙一、岩田直美、八角高裕、梅林宏明、中岸保夫、大倉有加、岡本奈美、金城紀子、水田麻雄、八代将登、安村純子、脇口宏之、久保田知洋、毛利万里子、森雅亮	第30回	日本小児リウマチ学会 学術集会	東京都 渋谷区	2021.10.15-10.17
サイトカイン持続注入による新規MASモデルマウスの確立-MAS病態におけるIL-18/IL-1 β の役割の検討-I	リウマチ科	水田麻雄、井上なつみ、清水正樹、横山忠史、作村直人、黒田梨絵、伊川泰広、杉本直俊、谷内江昭宏、和田泰三	第30回	日本小児リウマチ学会 学術集会	東京都 渋谷区	2021.10.15-10.17
イラリス研修会 CAPS/PFS, s-JIA におけるカナキマブ有効性&安全性の知見	リウマチ科	中岸保夫	第30回	日本小児リウマチ学会 学術集会	東京都 渋谷区	2021.10.15-10.17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
IL-18及びIL-1β持続注入モデラマウスを用いたマクロファージ活性化症候群の病態解析	リウマチ科	水田麻雄、井上なつみ、清水正樹、横山忠史、作村直人、黒田梨絵、伊川泰広、杉本直俊、谷内江昭宏、和田泰三	第49回	日本臨床免疫学会総会	東京都新宿区	2021.10.28-10.30
小児1型糖尿病患者におけるアレルギー疾患罹患状況とスギ舌下免疫療法	アレルギー科	百々菜月、田中裕也	第58回	日本小児アレルギー学会	横浜市	2021.11.13-11.14
長時間作用性抗コロナ薬(LAMA)を導入した小児気管支喘息症例	アレルギー科	百々菜月、田中裕也	第58回	日本小児アレルギー学会	横浜市	2021.11.13-11.14
小児重症喘息への生物学的製剤の使用経験	アレルギー科	田中裕也	第58回	日本小児アレルギー学会	横浜市	2021.11.13-11.14
診断に難渋した小麦と米による消化管アレルギーの双子例	アレルギー科	田中裕也、百々菜月	第37回	日本小児臨床アレルギー学会	Web開催	2021.5.31
アセトアミノフェン(APAP)に対する薬剤リンパ球刺激試験(DLST)陽性であった3例	アレルギー科	百々菜月、田中裕也	第37回	日本小児臨床アレルギー学会	Web開催	2021.5.31
精神運動発達遅滞の精査で診断し得たSCN8A遺伝子変異をもつ発達性てんかん性脳症の1例	神経内科	本郷裕斗、豊嶋大作、石田悠介、森貞直哉、丸山あずさ	第63回	日本小児神経学会総会	WEB/福岡	2021.5.27-5.29
Growth and differentiation factor 15 出血性ショック脳症候群と他の有熱性けいれん性疾患の早期鑑別マーカーとしての検討	神経内科	山口宏、西山将広、本郷裕斗、徳元翔一、石田悠介、富岡和美、中川卓、高見勇一、豊嶋大作、丸山あずさ、飯島一誠、永瀬裕朗	第63回	日本小児神経学会総会	WEB/福岡	2021.5.27-5.30
急性脳症・有熱性けいれん重積の前向き多施設レジストリより算出した有熱性けいれん重積に占めるAESD発症頻度	神経内科	西山将広、本林光雄、福山哲広、服部有香、丸山あずさ、親里嘉展、高見勇一、永瀬裕朗	第63回	日本小児神経学会総会	WEB/福岡	2021.5.27-5.31
有熱性けいれん重積症例におけるAESD発症リスク	神経内科	石田悠介、西山将広、本郷裕斗、徳元翔一、山口宏、富岡和美、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗	第63回	日本小児神経学会総会	WEB/福岡	2021.5.27-5.31
コロナ禍における感染対策で熱性けいれんの発症が減少する	神経内科	豊嶋大作、本郷裕斗、石田悠介、田中亮二郎、丸山あずさ	第63回	日本小児神経学会総会	WEB/福岡	2021.5.27-5.31
波形律動解析法による小児意識障害患者の非けいれん性発作自動検出	神経内科	丸山あずさ、永瀬雄朗、保多隆裕、羅志偉	第54回	日本てんかん学会学術集会	WEB/名古屋市	2021.9.23-9.25
締膜様でてんかん発作が誘発されるRHOBTB2変異をもつ女児例	神経内科	丸山あずさ、本郷裕斗、石田悠介、豊嶋大作、才津浩智、永瀬裕朗	第16回	日本てんかん学会近畿地方会	WEB/大阪	2021.1.17
遺伝子診断が適切な抗てんかん薬の選択につながったSCN8A遺伝子変異をもつ発達性てんかん性脳症の一例	神経内科	本郷裕斗、豊嶋大作、上田拓耶、石田悠介、森貞直哉、丸山あずさ	第17回	日本てんかん学会近畿地方会	WEB/神戸市	2021.7.18
高リスク神経芽腫における微小残存病変(MRD)と腫瘍マーカーの相関に関する臨床的検討	血液腫瘍内科	植村優、KYAW SAN LIN、KHIN KYAE MON THWIN、中谷尚子、石田敏章、山本暢之、田村篤広、斉藤敦郎、森健、長谷川大一郎、小阪嘉之、二野菜々子、青砥悠哉、長野智那、高藤哲、飯島一誠、西村範行	第124回	日本小児科学会学術集会	京都市	2021.4.16-4.18

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
再発T細胞性リンパ芽球性リンパ腫に対するromidepsinによる移植後維持療法	血液腫瘍内科	Ryunosuke Tojo, Sayaka Nakamura, Kenji Kishimoto, Akihiro Nishimura, Shotaro Inoue, Jun Noguchi, Machiko Miyamoto, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Makiko Yoshida, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第83回	日本血液学会学術集会	Web開催	2021.9.23-9.25
単一施設における小児・思春期の第一再発急性リンパ性白血病の検討	血液腫瘍内科	Rin Tamashiro, Atsuro Saito, Akihiro Nishimura, Shotaro Inoue, Ryunosuke Tojo, Jun Noguchi, Machiko Miyamoto, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第83回	日本血液学会学術集会	Web開催	2021.9.23-9.25
小児同種造血幹細胞移植患者におけるウイルス再活性化の後方視的検討	血液腫瘍内科	Shotaro Inoue, Akihiro Tamura, Akihiro Nishimura, Ryunosuke Tojo, Jun Noguchi, Machiko Miyamoto, Sayaka Nakamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第83回	日本血液学会学術集会	Web開催	2021.9.23-9.25
血友病AにFallot四徴症を合併し周術期管理を要した1例	血液腫瘍内科	Machiko Miyamoto, Atsuro Saito, Akihiro Nishimura, Shotaro Inoue, Ryunosuke Tojo, Jun Noguchi, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第83回	日本血液学会学術集会	Web開催	2021.9.23-9.25
肺炎を発症しL-Asparaginaseを中止した急性リンパ芽球性白血病の予後の検討	血液腫瘍内科	Akihiro Nishimura, Toshiaki Ishida, Jun Noguchi, Shotaro Inoue, Ryunosuke Tojo, Machiko Miyamoto, Sayaka Nakamura, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第83回	日本血液学会学術集会	Web開催	2021.9.23-9.25
静注 monoammonium glycyrrhizinate が急性白血病患者における初回髄注後の肝障害発生に及ぼす影響	血液腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Daichiro Hasegawa, Tomoko Fujikawa, Suguru Uemura, Sayaka Nakamura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
脊髄圧迫症状で発症した急性骨髄性白血病の1例	血液腫瘍内科	Tomoko Fujikawa, Kenji Kishimoto, Suguru Uemura, Sayaka Nakamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
全脳全脊髄照射による急性毒性について：陽子線治療とX線治療の比較検討	血液腫瘍内科	Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Toshiaki Ishida, Kenji Kishimoto, Takeshi Mori, Atsufumi Kawamura, Yusuke Demizu, Nobuyoshi Fukumitsu, Toshinori Soejima, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
血縁者間骨髄移植を行い良好な経過をたどった小児大脳型副腎白質ジストロフィーの1例	血液腫瘍内科	Ryunosuke Tojo, Sayaka Nakamura, Kenji Kishimoto, Atsuro Saito, Daisaku Toyoshima, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Azusa Maruyama, Daiichiro Hasegawa, and Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
当院における小児・AYA世代患者の再発軟部肉腫に対するエリブリン維持療法法の検討	血液腫瘍内科	Akihiro Nishimura, Toshiaki Ishida, Suguru Uemura, Sayaka Nakamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
難治性小児がんに対するがんゲノム検査の現状：単一施設での経験	血液腫瘍内科	Atsuro Saito, Sayaka Nakamura, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Naoya Morisada, Makiko Yoshida, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
末梢血の微小残存病変が再発を示唆した高リスク神経芽腫の一例	血液腫瘍内科	Shotaro Inoue, Kyaw San Lin, Suguru Uemura, Akihiro Tamura, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Noriyuki Nishimura.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
小児脳腫瘍における好中球/リンパ球比率	血液腫瘍内科	Akihiro Tamura, Shotaro Inoue, Nobuyuki Yamamoto, Suguru Uemura, Sayaka Nakamura, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Masanori Miyamishi, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
微小残存病変を認めた混合性白血病に対し、骨髄破壊的前処置による同種移植を施行した一例	血液腫瘍内科	Shuji Manabe, Sayaka Nakamura, Ryunosuke Tojo, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Kenji Kishimoto, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka.	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
女性医師活躍支援委員会 特別企画：女性医師キャリア支援セッション指定発言	血液腫瘍内科	長谷川大一郎	第63回	日本小児血液・がん学会学術集会	大阪市/ Web	2021.11.25-12.17
早期検出でのPTAVを選択したcritical ASの一例	循環器内科 心臓血管外科	永尾宏之、田中敏克、大嶋義博	第35回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	Web開催	2021.3.7
肺血管拡張薬3剤の併用により症状が改善したASD合併alveolar capillary dysplasia with misalignment of pulmonary veinsの1例	循環器内科	田中敏克、久保慎吾、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第124回	日本小児科学会学術集会	京都	2021.4.16-4.18

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児における最適な門脈造影に関する検討 - 当科で行った逆行性門脈造影からの考察 -	循環器内科	松本泰右、田中敏克、近藤亜耶、永尾宏之、堀口祥、三木康暢、松岡道生	第124回	日本小児科学会学術集会	京都	2021.4.16-4.18
新生児期に重症血友病Aと診断されたフアロー四徴症の患者の複数科での連携により周術期に出血をコントロールできた1例	循環器内科	近藤亜耶、永尾宏之、堀口祥、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第124回	日本小児科学会学術集会	京都	2021.4.16-4.18
フォトン術後症例における transpulmonary pressure gradient (TPG) の変化	循環器内科	田中敏克、城戸佐知子、三木康暢、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
体位性頻脈症候群小児患者へのイブプロフェン投与	循環器内科	小川禎治、松岡道生、三木康暢、亀井直哉、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
フォトン患者の妊娠出産管理における計画的早期娩出の是非	循環器内科	城戸佐知子、亀井直哉、三木康暢、富永健太、松岡道生、小川禎治、堀口祥、枕賢、田中敏克	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
Structural heart disease 既往なく急性心不全にて当院PICU入室に至るも補助循環を要しなかった症例の検討	循環器内科	富永健太、田中敏克、城戸佐知子、小川禎治、堀口祥、松岡道生、三木康暢、堀口祥、永尾宏之、近藤亜耶	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
左側相同におけるフォトンタン術前の門脈体循環シャント評価の重要性	循環器内科	三木康暢、田中敏克、近藤亜耶、永尾宏之、堀口祥、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
下心臓型総肺静脈流異常症の早産・低出生体重児の1例〜ステント留置をチャレンジするべきだったか？〜	循環器内科	亀井直哉、田中敏克、堀口祥、三木康暢、松岡道生、小川禎治、富永健太、城戸佐知子	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
Amplatzer Cribriform Multi-Fenestrated Septal Occluder 留置の際にPTA用バルーンで欠損孔を拡張しデリバリーション通過を可能とした多孔性心房中隔欠損の1例	循環器内科	広田幸穂、田中敏克、三木康暢、松岡道生、堀口祥、松岡道生、三木康暢、堀口祥、永尾宏之、近藤亜耶、田中敏克、城戸佐知子、三木康暢、富永健太、富永健太	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
当院で経験した左肺動脈近位部欠損症の2例—術後肺動脈狭窄に対する治療方針の検討—	循環器内科	近藤亜耶、田中敏克、城戸佐知子、三木康暢、松岡道生、堀口祥、松岡道生、三木康暢、富永健太、永尾宏之	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良	2021.7.9-7.11
軽微な症状を契機に巨大静脈血栓症と肺動脈血栓症を指摘しえたネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、田中亮二郎	第56回	日本小児腎臓病学会	高知	2021.7
尿蛋白再燃を認め追加治療を要した組織学的軽症紫斑病性腎炎症例における臨床病理学的検討	腎臓内科	永井貞之、堀之内智子、近藤淳、青砥悠哉、榎原菜々、忍頂寺毅史、石森真吾、藤村順也、神吉直宙、貝藤裕史、田中亮二郎、島友子、中西浩一、吉川徳茂、野津寛大、飯島一誠	第56回	日本小児腎臓病学会	高知	2021.7
ネフローゼ症候群で発症した重症紫斑病性腎炎に対する治療反応性と予後に関する検討	腎臓内科	忍頂寺毅史、堀之内智子、近藤淳、永井貞之、青砥悠哉、榎原菜々、石森真吾、藤村順也、神吉直宙、貝藤裕史、田中亮二郎、島友子、中西浩一、吉川徳茂、飯島一誠、野津寛大	第56回	日本小児腎臓病学会	高知	2021.7
軽微な症状を契機に巨大静脈血栓症と肺動脈血栓症を指摘しえたネフローゼ症候群の1例	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、田中亮二郎	第51回	日本小児腎臓病学会	高知	2021.7

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Oxford分類を用いた小児IgA腎症・紫斑病性腎炎の臨床病理学的所見の比較	腎臓内科	島友子、中西浩一、田中侑、向山弘展、和田卓三、浜武継、佐藤匡、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂、鈴木啓之	第124回	日本小児科学会	京都	2021.4
低体重児に対する腹膜透析導入における現状と問題点	腎臓内科	大竹結衣、貝藤裕史、矢谷和也、稲熊祐祐、田中亮二郎	第34回	日本小児PD・HD研究会	埼玉	2021.11
造血幹細胞移植後の長期的な腎予後の検討	腎臓内科	稲熊洋祐、貝藤裕史、青砥悠哉、齋藤敦郎、長谷川大一郎、小坂嘉之、田中亮二郎	第55回	日本小児腎臓病学会	オンライン	2021.1
Oxford分類を用いた小児IgA腎症・紫斑病性腎炎の臨床病理学的所見の比較	腎臓内科	島友子、中西浩一、浜武継、向山弘展、佐藤匡、田中侑、和田卓三、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、鈴木啓之、吉川徳茂	第55回	日本小児腎臓病学会	オンライン	2021.2
小児慢性腎炎における糖鎖不全IgA1(Gd-IgA1)免疫染色の有用性の検討	腎臓内科	石河慎也、野津寛大、近藤淳、永井貞之、青砥悠哉、楠原菜々、長野智那、堀之内智子、山村智彦、石森真吾、貝藤裕史、田中亮二郎、島友子、中西浩一、吉川徳茂、飯島一誠	第55回	日本小児腎臓病学会	オンライン	2021.3
クレアチニンクリアランスによる分腎機能評価が治療方針決定に有用であった1例	腎臓内科	矢谷和也、貝藤裕史、大竹結衣、稲熊祐祐、春名晶子、杉多長文、田中亮二郎	第42回	日本小児腎不全学会	オンライン	2021.12
出生時ニューキノロン系点眼薬使用の再検討と妊婦検診での細菌検査の必要性が示唆された新生児淋菌性結膜炎の一例	感染症内科	亀山和明、大竹正悟、志幸田健、高橋英之、清水悠衣、大上朋子、笠井正志	第32回	日本臨床微生物学会総会・学術集会	Online	2021.1.29
国内で分離されたクロノバクター属菌の病原遺伝子保有状況及び薬剤耐性	感染症内科	岡田由美子、中山達哉、大竹正悟、笠井正志、鈴木穂高、荻原博和、Stephen James Forsythe	第94回	日本細菌学会総会	Online	2021.3.23-25
Effect of a nudge-based antimicrobial stewardship program in a pediatric primary emergency medical center	感染症内科	Shogo Otake, Shishido Ayumi, Kusama Yoshiaki, Tsuzuki Shinya, Fukuda Akiko, Kimura Makoto, Ishida Akihito, Masashi Kasai.	the 39th	the 39th Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases	Online	2021.5.28
新型コロナウイルス感染症流行に伴う複数の休日・夜間急患センターにおける小児診療状況の変化	感染症内科	藪下広樹、大竹正悟、木村誠、石田明人、神吉直徳、宅見徹、上谷良行、笠井正志	第283回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2021.5.15
乳幼児健診を通じて行政とともに取り組む抗菌薬適正使用	感染症内科	柏坂舞、大竹正悟、日馬由貴、都築慎也、三品浩基、宮入烈、笠井正志	第283回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2021.5.15
急患センターにおける経口抗菌薬採用中止から見えたと狭域抗菌薬適正使用の課題	感染症内科	福田明子、大竹正悟、木村誠、夏木茜、石田明人、笠井正志	第283回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2021.5.15
姫路市休日・夜間急病センター耳鼻咽喉科における小児への経口広域抗菌薬処方量減少	感染症内科	岡田侑、大竹正悟、直井勇人、橋智靖、久呉真草、笠井正志	第283回	日本小児科学会兵庫県地方会	Online	2021.5.15
姫路市休日・夜間急病センター耳鼻咽喉科における経口広域抗菌薬処方量の減少	感染症内科	大竹正悟、岡田侑、直井勇人、橋智靖、久呉真草、笠井正志	第16回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会	大阪市	2021.7.8
小児集中治療室におけるカテーテル関連尿路感染症発生の後方視的観察研究	感染症内科	守谷奈保美、大竹正悟、中島由佳、新谷茜、中野舞夜、伊藤由作、笠井正志	第36回	日本環境感染症学会総会・学術集会	Online	2021.9.19
FilmArray® 髄膜炎・脳炎パネル導入による小児へのアシクロピルビルの適正使用	感染症内科	大竹正悟、笠井正志	第53回	日本小児感染症学会・学術集会	Online	2021.10.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
急患センターにおける経口広域抗菌薬採用中止から見えた狭域抗菌薬適正使用の課題	感染症内科	夏木茜、大竹正悟、木村誠、福田明子、石田明人、笠井正志	第53回	日本小児感染症学会・学術集会	Online	2021.10.8-10.9
乳幼児健診を通じて行政とともに取り組む抗菌薬適正使用 中間報告	感染症内科	柏坂舞、大竹正悟、日馬由貴、都築慎也、三品浩基、笠井正志	第53回	日本小児感染症学会・学術集会	Online	2021.10.8-10.9
小児の専門領域における抗菌薬適正使用：外来における内服抗菌薬適正使用～薬剤師との連携で進める取り組み～	感染症内科	大竹正悟、笠井正志	第48回	小児臨床薬理学学会学術集会	神戸市	2021.10.23
小児感染症は苦手ですか(パネルディスカッション)	感染症内科	笠井正志、他	第48回	日本集中治療医学会学術集会	Online	2021.2.13
小児専門病院における抗菌薬適正使用の実践と評価、その現状と課題(教育セミナー)	感染症内科	笠井正志	第95回	日本感染症学会学術集会	Online	2021.5.7
外来診療における抗菌薬適正使用(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第332回	小児科学会北陸地方会	Online	2021.6.13
小児 COVID-19(市民講座 - シンポジウム)	感染症内科	笠井正志	第57回	日本小児循環器学会学術集会	Online	2021.7.11
一本でどう学ぶか？(教育講演)	感染症内科	笠井正志	第53回	日本小児感染症学会・学術集会	Online	2021.10.1
新型コロナウイルス感染症流行期のRSV感染症	感染症内科	笠井正志	第53回	日本小児感染症学会・学術集会	東京	2021.10.10
小児感染症で知るべきたったこれだけ	感染症内科	笠井正志	第91回	日本感染症学会西日本地方会学術集会	Online	2021.11.5
当院で遺伝学的に診断された骨系統疾患の検討	臨床遺伝科	森貞直哉、河本和泉、衣笠真紀、坂田亮介、小林大介、尾崎佳代、洪本加奈、片桐岳信、西村玄、池川志郎、山田崇弘、飯島一誠、薩摩真一	第43回	日本小児遺伝学会	Web開催	2021.1.8-1.9
こどもたちのための遺伝医療	臨床遺伝科	森貞直哉	第124回	日本小児科学会	京都市	2021.4.16-18
遺伝学的解析が囊胞性腎疾患診療に与えてきたインパクトと課題	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第64回	日本腎臓学会	Web/ 横浜市	2021.6.18-6.20
当科でPKD1遺伝子変異を同定した小児15例の臨床・遺伝学的特徴	臨床遺伝科	岡田絵里、森貞直哉、白井丈一、山縣邦宏、野津寛大	第64回	日本腎臓学会	Web/ 横浜市	2021.6.18-6.20
医療としての腎疾患遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	第56回	日本小児腎臓病学会	Web/ 高知市	2021.7.9-7.10
腎疾患分野のゲノム医療と遺伝カウンセリング	臨床遺伝科	森貞直哉	第51回	日本腎臓学会東部大会	Web開催	2021.9.25-9.26
囊胞性腎疾患の包括的遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、洪本加奈、近藤淳、Rini Rossanti、石河博也、青砥裕哉、岡田絵里、榊原奈々、長野智那、山村智彦、堀之内智子、貝藤裕史、飯島一誠、野津寛大	第66回	日本人類遺伝学会	Web/ 横浜市	2021.10.14-10.16

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
MLPA法で診断したTSC2-PKD1隣接遺伝子欠失症候群7例の検討	臨床遺伝科	森貞直哉、花房宏昭、山口宏、岡田絵里、 洪本加奈、長岡由修、鈴木宏、郭義胤、 福田智文、下野九理子、本郷裕斗、貝藤裕史、 飯島一誠、野津寛大	第44回	日本小児遺伝学会	Web開催	2021.11.12-11.13
最近報告された新しいDysmorphology関連疾患	臨床遺伝科	森貞直哉	第37回	Dysmorphologyのタベ	Web開催	2021.11.12
生殖細胞系列の網羅的遺伝子解析によって副腎白質ジストロフィーの原因遺伝子ABCD1のバリエーションが二次的に見つかった1例	臨床遺伝科	洪本加奈、森貞直哉、飯島一誠	第45回	日本遺伝カウンセラー学会	Web開催	2021.7.2-7.4
小児期に発見されたクラインフェルター症候群に対する遺伝カウンセラーの検討	臨床遺伝科	洪本加奈、森貞直哉	第66回	日本人類遺伝学会	Web/ 横浜市	2021.10.14-10.16
父親の加齢に関する遺伝カウンセラーの現状調査	臨床遺伝科	西山深雪、長谷川冬雪、佐々木愛子、小川浩平、 井野元茜、洪本加奈、左合治彦	第7回	日本産科婦人科遺伝診療学会	Web/ 豊中市	2021.12.17-12.18
腹部膨満を主訴に来院した肝静脈血栓・大量乳び腹水を認めた2歳男児例	小児外科	黒田靖浩、河原仁守、高成田祐希、矢下博輝、 藤枝悠希、中谷太一、竹内雄毅、森田圭一、 津川二郎、横井暁子、畠山理	第83回	小児外科かわらん会	大阪市	2021.3.6
先天性横隔膜ヘルニアの周産期管理における第一啼泣の影響	小児外科	竹内雄毅、横井暁子	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
複数のネオオジウム磁石誤飲に対する外科的治療	小児外科	黒田靖浩、津川二郎、高成田祐希、矢下博輝、 藤枝悠希、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、 森田圭一、横井暁子、畠山理	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
当院における乳児喉頭血管腫の治療経験	小児外科	中谷太一、黒田靖浩、高成田祐希、矢下博輝、 藤枝悠希、竹内雄毅、河原仁守、森田圭一、 津川二郎、横井暁子、畠山理	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
3日間の挿管管理後に発症した高度な後天性気管狭窄症の1例	小児外科	津川二郎、藤枝悠希、高成田祐希、矢下博輝、 黒田靖浩、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、 森田圭一、横井暁子、畠山理	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
C型食道閉鎖、左主気管支狭窄を合併したBPFMの一例	小児外科	矢下博輝、畠山理、横井暁子、津川二郎、 森田圭一、河原仁守、竹内雄毅、中谷太一、 藤枝悠希、黒田靖浩、高成田祐希	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
先天性気管狭窄症に対する気管形成術後の感染性合併症	小児外科	藤枝悠希、森田圭一、矢下博輝、高成田祐希、 黒田靖浩、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、 津川二郎、横井暁子、畠山理	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
小児がんに対し、陽子線治療前に腹腔鏡下卵巣移動術を施行した8例の検討	小児外科	高成田祐希、河原仁守、福澤宏明、矢下博輝、 黒田靖浩、藤枝悠希、中谷太一、竹内雄毅、 森田圭一、横井暁子、畠山理	第58回	日本小児外科学会学会集	横浜市	2021.4.28-4.30
総排泄腔外反症に対して回腸ストーマ造設術後のストーマ管理に難渋し思春期に遺残後腸切除術を施行した1例	小児外科	黒田靖浩、津川二郎、高成田祐希、矢下博輝、 藤枝悠希、中谷太一、竹内雄毅、森田圭一、 津川二郎、横井暁子、畠山理	第35回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	松本市	2021.6.26
学童期以降における二分脊椎の排便管理の現状と課題	小児外科	森田圭一	第35回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	松本市	2021.6.26

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
新生児緊急気管切開術の1例	小児外科	矢下博輝、植松綾乃、黒田靖浩、高成田祐希、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、森田圭一、横井暁子、畠山理	第57回	日本小児外科学会近畿 地方会	吹田市	2021.8.28
緊急手術となった内ヘルニアの1例	小児外科	植松綾乃、森田圭一、黒田靖浩、高成田祐希、矢下博輝、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、横井暁子、畠山理	第57回	日本小児外科学会近畿 地方会	吹田市	2021.8.28
出生前診断された先天性胆道拡張症における新生児・乳児早期の黄疸発症	小児外科	森田圭一、植松綾乃、矢下博輝、高成田祐希、黒田靖浩、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、横井暁子、畠山理	第44回	日本膵・胆管合流異常 研究会	静岡市	2021.9.11
当科における先天性胆道拡張症手術時の肝管空腸吻合における工夫	小児外科	畠山理、植松綾乃、矢下博輝、高成田祐希、黒田靖浩、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、森田圭一、横井暁子	第40回	日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会	東京都	2021.10.28-10.29
当科における食道閉鎖症術後吻合部狭窄予防に対する根治術時の工夫	小児外科	畠山理、植松綾乃、矢下博輝、高成田祐希、黒田靖浩、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、森田圭一、横井暁子	第40回	日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会	東京都	2021.10.28-10.29
喉頭気管形成術後再狭窄に対してPartial cricotracheal resectionを行った声門下腔狭窄症の2例	小児外科	矢下博輝、森田圭一、津川二郎、植松綾乃、黒田靖浩、高成田祐希、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、横井暁子、畠山理	第31回	日本小児呼吸器外科研 究会	東京都	2021.10.28
左肺基底動脈大動脈起始症に対する外科的治療戦略	小児外科	黒田靖浩、森田圭一、植松綾乃、高成田祐希、矢下博輝、宮内玄徳、中谷太一、竹内雄毅、河原仁守、横井暁子、畠山理	第31回	日本小児呼吸器外科研 究会	東京都	2021.10.28
状腸間膜動脈症候群に対してジェジュナルボタンで管理中に腸重積をきたし、十二指腸空腸ダイアモンド吻合術を施行した筋強直性ジストロフィーの一例	小児外科	横井暁子	第31回	日本小児外科QOL研 究会	Web	2021.11.6
小児がんにおける腹腔鏡下両側卵巣移動術の工夫	小児外科	高成田祐希、河原仁守、福澤宏明、矢下博輝、黒田靖浩、藤枝悠希、中谷太一、竹内雄毅、森田圭一、横井暁子、畠山理	第34回	日本内視鏡外科学会総 会	神戸市	2021.12.2-12.4
borderline RVを有する純型肺動脈閉鎖の長期予測：RV-TV index再考	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星、圓尾文子、山口眞弘	第51回	日本心臓血管外科学会 学術総会	京都市	2021.2.19-2.21
狭小肺動脈に対するmain pulmonary artery translocationを用いた肺動脈形成術の成績	心臓血管外科	日隈智恵、長谷川翔大、和田侑星、松島峻介、松久弘典、大嶋義博	第51回	日本心臓血管外科学会 学術総会	京都市	2021.2.19-2.21
左心低形成症候群での房室形成術	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智恵、長谷川翔大、和田侑星	第36回	日本小児循環器学会近 畿・中四国地方会	大阪市	2021.3.7
MRI血流解析により手術適応を決定した先天性心疾患術後遠隔期再手術の1例	心臓血管外科	和田侑星、松久弘典、日隈智恵、松島峻介、長谷川翔大、山口眞弘、大嶋義博	第35回	日本小児循環器学会 近畿中四国地方会	大阪市	2021.3.7
小児病院におけるACHD手術の現状と問題点	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智恵、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星	第64回	関西胸部外科学会学術 集会	Web開催	2021.6.17-6.19
小児大動脈弁閉鎖不全症に対するcusp-based geometric height-oriented repair	心臓血管外科	松島峻介、松久弘典、長谷川翔大、和田侑星、日隈智恵、大嶋義博	第67回	関西胸部外科学会学術 集会	岡山県 倉敷市	2021.6.17-6.19
術前より左気管支軟化を呈したAP window, IAA(B)に対する修復術	心臓血管外科	和田侑星、松久弘典、長谷川翔大、松島峻介、日隈智恵、大嶋義博	第64回	関西胸部外科学会学術 集会	岡山県 倉敷市	2021.6.17-6.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
速隔期にL5心室修復となった高度の右室低形成を伴う純型肺動脈閉鎖の1成人例	心臓血管外科	和田侑星、松久弘典、松島峻介、日隈智憲、川端良、大嶋義博	第70回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸市	2021.6.25
小児ECPRに係る体制整備とその効果	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、長谷川翔大、和田侑星、長谷川智巳、黒澤寛史、田中敏克	第57回	日本小児循環器学会学術集会	奈良市	2021.7.9-7.11
大動脈弓閉塞性病変を伴った完全大血管転位またはTaussig-Bing奇形に対する両側肺動脈絞扼を用いた二期的修復	心臓血管外科	松島峻介、松久弘典、日隈智憲、長谷川翔大、和田侑星、大嶋義博	第57回	日本小児循環器学会総会・学術集会	奈良市	2021.7.9-7.11
フアロー四徴症に対する姑息術式選択	心臓血管外科	和田侑星、松久弘典、長谷川翔大、松島峻介、日隈智憲、田中敏克、大嶋義博	第57回	日本小児循環器学会	奈良市	2021.7.9-7.11
シンポジウム 07 両側肺動脈絞扼 (b PAB) からの二心室修復	心臓血管外科	座長 大嶋義博、櫻井一	第57回	日本小児循環器学会	奈良市	2021.7.10
Pulmonary Artery Sling with Right Lung Agenesis or Hypoplasia: Anatomical Features and Surgical Implications	Cardiovascular surgery (心臓血管外科)	Yuson wada, Hironori Matsuhisa, Keiichi Morita, Shota Hasegawa, Shunsuke Matsushima, Tomonori Higuma, Yoshihiro Oshima.	35th	European Association for Cardio-Thoracic Surgery	Barcelona	2021.10.13-10.16
全次損型AP window およびB型大動脈離断に対する肺動脈パッチを用いた修復術	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、松島峻介、和田侑星、川端良	第74回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2021.10.31-11.3
Muscular VSDの閉鎖法における術後急性期心機能の検討	心臓血管外科	日隈智憲、川端良、和田侑星、松島峻介、松久弘典、大嶋義博	第74回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2021.10.31-11.3
右側相同心13標本の位相差X線CT法を用いたMyocardial Fiber Orientation解析	心臓血管外科	松島峻介、松久弘典、和田侑星、篠原玄、森田紀代造、高橋昌、金子幸裕、築部卓郎、大嶋義博	第74回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2021.10.31-11.3
術前より左気管支軟化を呈したAP window, IAA(B)に対する修復術	心臓血管外科	和田侑星、松久弘典、川端良、松島峻介、日隈智憲、大嶋義博	第74回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2021.10.31-11.3
Coronary Sinus Type Total Anomalous Pulmonary Venous Connection: Surgical Results and Anatomical Assessment	心臓血管外科	川端良、和田侑星、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第74回	日本胸部外科学会定期学術集会	東京都港区	2021.10.31-11.3
バルーンカテーテルによる下行大動脈送血を用いたNorwood術後のAortic extension	心臓血管外科	川端良、和田侑星、松島峻介、日隈智憲、松久弘典、大嶋義博	第71回	神戸心臓外科研究会	神戸市	2021.12.1
小児頭部外傷に対する脳神経外科医の関わり	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第44回	日本脳神経外傷学会	高松市	2021.2.25
小児の外傷性髄液鼻漏に対して人工硬膜(DuraGen)の使用が有効であった1症例	脳神経外科	梶本 裕人、阿久津宣行、三浦伸一、小山淳二、河村淳史	第79回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	WEB	2021.4.3
脳幹から小脳に進展したDiffuse midline gliomaの報告	脳神経外科	東野真志、小山淳二、斧淵夏那、阿久津宣行、河村淳史	21年度4月	北大阪医小児脳神経外科症例検討会	WEB	2021.4.10
小児急性硬膜下血腫に対する脳神経外科医の役割	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第49回	日本小児脳神経外科学会学術集会	福島 (ハイブロット)	2021.6.4-6.5
小児脳神経外科領域における神経内視鏡手術	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第49回	日本小児脳神経外科学会学術集会	福島 (ハイブロット)	2021.6.4-6.5
脊髄円錐部脂肪腫術後排尿機能の長期成績	脳神経外科	小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第49回	日本小児脳神経外科学会学術集会	福島 (ハイブロット)	2021.6.4-6.5

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の外傷性髄液鼻漏に対して人工硬膜(DuraGen)の使用が有効であった1症例	脳神経外科	梶本裕人、阿久津宣行、三浦伸一、小山淳二、河村淳史	第49回	日本小児神経外科学会 学術集会	福島 (ハイブリット)	2021.6.4-6.5
当施設における Optic Pathway Glioma の長期予後	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、梶本裕人、奔瀧夏那	第49回	日本小児神経外科学会 学術集会	福島 (ハイブリット)	2021.6.4-6.6
当院における頭の形外来の現状について	脳神経外科	阿久津宣行	第6回	頭蓋形状矯正療法研究会	WEB	2021.6.25
頭蓋縫合早期癒合症に対する縫合切除術と術後ヘルメット療法	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第17回	craniosynostosis 研究会	WEB	2021.6.26
KIAA1549-BRAF 融合遺伝子陽性の Optic glioma と BRAF(V600E)陽性の Ganglioglioma の症例報告	脳神経外科	東野真志、小山淳二、藤田健嗣、阿久津宣行、河村淳史	21年度7月	北大阪医小児脳神経外科症例検討会	WEB	2021.7.31
前頭縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切除術	脳神経外科	阿久津宣行	第24回	関西ニューロエドスコープ研究会	WEB	2021.8.28
lipomyelomeningocele に余剰下肢を合併した症例	脳神経外科	奔瀧夏那、東野真志、小山淳二、阿久津宣行、河村淳史	第80回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	WEB	2021.9.4
小児頭部外傷における脳神経外科医の役割	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史、篠山隆司	第80回	日本脳神経外科学会学術総会	横浜市 (ハイブリット)	2021.10.27-10.30
脊髄空洞症を伴った小児キアリア奇形1型に対する手術の工夫	脳神経外科	小山淳二、河村淳史、阿久津宣行、東野真志、奔瀧夏那	第80回	日本脳神経外科学会学術総会	横浜市 (ハイブリット)	2021.10.27-10.30
当施設における Optic Pathway Glioma の長期治療成績と Salvage 療法—兵庫県立こども病院—	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、東野真志、奔瀧夏那	第80回	日本脳神経外科学会学術総会	横浜市 (ハイブリット)	2021.10.27-10.30
術後脳血管攣縮を起こした類上皮腫の1例	脳神経外科	東野真志、小山淳二、藤田健嗣、阿久津宣行、河村淳史	21年度11月	北大阪医小児脳神経外科症例検討会	WEB	2021.11.6
小児難治性後頭蓋窩腫瘍(脳幹部腫瘍)3例について 小児神経外科医の役割を踏まえて	脳神経外科	東野真志、奔瀧夏那、藤田健嗣、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第38回	日本こども病院神経外科医会	WEB	2021.11.7
小児脳神経外科領域における神経内視鏡手術	脳神経外科	阿久津宣行、小山淳二、河村淳史	第28回	日本神経内視鏡学会学術総会	名古屋市	2021.11.19
当施設における Optic Pathway Glioma の長期生存例の治療経過—兵庫県立こども病院—	脳神経外科	河村淳史、小山淳二、阿久津宣行、東野真志、藤田健嗣	第48回	日本脳腫瘍学会	神戸市	2021.12.5-12.7
The principle of ponseti method: radiographic evaluation of achilles tenotomy	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Izumi Komoto, Tetsuya Yamamoto, Ryoma Onoi.	13th	APSS-APPOS	Kobe	2021.6.9-6.12
乳児股関節脱臼マネージメントの A to Z	整形外科	薩摩真一	第18回	九州山口地区小児整形外科研修会	福岡市	2021.2.11
内反足治療の歴史的変遷と Ponseti 法	整形外科	薩摩真一	第28回	徳小児整形・外傷疾患研究会	徳島県	2021.4.3
こどもの股関節疾患とその対応	整形外科	薩摩真一	第136回	中部日本整形外科学会	神戸市	2021.4.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
こどものスपोर्टとロコモティブシンドローム	リハビリテーション科、整形外科	小林大介	第27回	運動器の10年 骨と関節の日	Web	2021.10.8
不安定型大腿骨頭すべり症の治療 - 早期愛護的整復、ピンニングと除圧 -	リハビリテーション科、整形外科	小林大介、薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀	第94回	日本整形外科学会	東京都 Web	2021.5.21
先天股脱に対するソルター骨盤骨切り術と観血的整復術の同時手術の治療成績	リハビリテーション科、整形外科	小林大介、薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀	第32回	日本小児整形外科学会	Web	2021.12.2
Primary acetabular dysplasia - Can we predict acetabular growth? -	リハビリテーション科、整形外科	Daisuke Kobayashi, Shinichi Satsuma, Ryosuke Sakata, Maki Kinugasa.	13th	APSS-APPOS	Kobe Web	2021.6.9-12
The predictive value of Lateralization Index for future congruence of the hip following successful Pavlik Harness treatment for Developmental Dysplasia of the Hip Prevalence of developmental dysplasia of the hip in the patients with Turner syndrome	整形外科	Ryosuke Sakata, Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki Kinugasa, Tetsuya Yamamoto, Yuma Onoi.	13th	APSS-APPOS	Kobe Web	2021.6.9-12
小児内転中足変形に対する低侵襲治療の試み	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀	第46回	日本足の外科学会学術集会	東京都 Web	2021.11.11-12
先天性下腿偽関節症に対する Masquelet 法を用いた治療経験	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀、八尋俊輔、北澤大也	第32回	日本小児整形外科学会学術集会	Web	2021.12.3-4
日常スपोर्टで起きやすい病気やケガ(小児編)	整形外科	坂田亮介	第1回	日本スポーツ救護看護学会	Web	2021.12.11-31
違和感から見る小児整形外科	整形外科	坂田亮介		神戸市整形外科医会共催学術講演会	神戸市	2021.5.12
骨接合術を要した小児大腿骨頸部疲労骨折の2例	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、尾ノ井勇磨	第136回	中部日本整形外科学会災害外科学会	Web	2021.4.9-10
母趾 claw toe 変形に対し母趾基節骨に骨孔を作製し腫移行術を行った1例	整形外科	坂田亮介、薩摩眞一、劉正夫、尾ノ井勇磨、山本哲也、河本和泉、衣笠真紀、小林大介	第35回	近畿足の外科学会	Web	2021.2.27
Prevalence of developmental dysplasia of the hip in the patients with Turner syndrome	整形外科	Maki Kinugasa, Ryosuke Sakata, Daisuke Kobayashi, Shinichi Satsuma.	13th	APSS-APPOS	Kobe Web	2021.6.9-6.12
10歳代後半に変形を来した麻痺性内反足に対する中足骨手術の3例	整形外科	衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、河本和泉	第46回	日本足の外科学会学術集会	東京都	2021.11.11-11.12
DDHの超音波画像に対する深層学習によるAI診断の試み	整形外科	衣笠真紀、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、河本和泉、北澤大也	第32回	日本小児整形外科学会学術集会	オンライン	2021.12.3-12.4
右上腕骨病的骨折と下肢麻痺を来した胸椎病変を伴う骨原発悪性リンパ腫の1例	整形外科	八尋俊輔、坂田亮介、北澤大也、衣笠真紀、小林大介、薩摩眞一	第66回	近畿小児整形外科懇話会	オンライン	2021.7.24
多中心性手根骨足根骨溶解症候群 (multicentric carpotarsal osteolysis syndrome) の2例	整形外科	八尋俊輔、小林大介、北澤大也、衣笠真紀、坂田亮介、薩摩眞一	第33回	日本整形外科学会骨系統疾患研究会	オンライン	2021.12.2-2022.1.15
脆弱性骨折を繰り返したSBCに対して髓内釘で治療した1例	整形外科	北澤大也、坂田亮介、八尋俊輔、衣笠真紀、小林大介、薩摩眞一	第66回	近畿小児整形外科懇話会	オンライン	2021.7.24
整形外科を初診として受診し膿血病の診断となった症例	整形外科	北澤大也、坂田亮介、八尋俊輔、衣笠真紀、小林大介、薩摩眞一	第32回	日本小児整形外科学会	オンライン	2021.12.2-12.3

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
兵庫県立病院における言語聴覚士のヒヤリハット報告～傾向と分析～	リハビリテーション科	住友亜佐子、森義統、小松岳、森香代子、片山慶一、下之園俊隆	第22回	日本言語聴覚学会	名古屋市	2021.6.19
器質疾患における弱視管理	眼科	野村耕治	第31回	兵庫臨床眼科研究会	西宮市	2021.1.9
当院での超低出生体重児における未熟児網膜症の発症と治療	眼科	橋本祐子、松野裕樹、中野由美子、野村耕治	第46回	日本小児眼科学会総会	北九州	2021.6.5
小児の眼科疾患 専門医に紹介するポイント	眼科	野村耕治	第12回	神戸市小児科医会学術集会	神戸市	2021.7.31
当院における先天性外眼筋纖維維症 (Congenital fibrosis of extraocular muscles:CFEOM) 4例の手術成績	眼科	中野由美子、野村耕治、河原佳奈、牧仁美	第75回	日本臨床眼科学会	福岡	2021.10.30
弱視の診断と治療	眼科	野村耕治	第67回	京滋眼科臨床懇話会	大津市	2021.11.27
当院における小児鼻腔異物の臨床統計的検討	耳鼻咽喉科	勝沼紗矢香、大津雅秀	第16回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	大阪市	2021.7.8-7.9
新型コロナウイルス感染症の当科診療に対する影響	耳鼻咽喉科	大津雅秀、勝沼紗矢香	第16回	日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	大阪市	2021.7.8-7.9
兵庫県における新生児聴覚スクリーニングの現状と課題	耳鼻咽喉科	大津雅秀		兵庫県教育委員会難聴児支援の在り方検討会議	神戸市	2021.7.16
視覚聴覚二重障害患者に関する実態調査の報告	耳鼻咽喉科	和佐野浩一郎、松永達雄、廣瀬正幸、岡崎諭代、御任一光、近松一朗、角木拓也、高野寛一、勝沼紗矢香、大津雅秀、菅原一真、江崎友子、太田有美、矢間敬章	第31回	日本耳科学会総会・学術講演会	東京都港区	2021.10.17-10.21
VUR の腎機能温存における予防的治療戦略：VUR 防止術	泌尿器科	杉多良文	第29回	日本腎泌尿器疾患予防医学研究会シンポジウム	京都(ハイアット)	2021.1.29
総排泄腔遺残に対する膈形成術の検討	泌尿器科	春名晶子	第29回	日本小児泌尿器科学会総会	東京(Web)	2021.2.1
就学児における VUR と OAB	泌尿器科	波越朋也	第29回	日本小児泌尿器科学会総会	東京(Web)	2021.2.1
急性陰嚢腫で発症したサルモネラ菌による精巣膿瘍に1例	泌尿器科	安食淳	第29回	日本小児泌尿器科学会総会	東京(Web)	2021.2.1
小児における上部尿路結石治療の初期経験	泌尿器科	神野雅	第29回	日本小児泌尿器科学会総会	東京(Web)	2021.2.1
VUR の根治手術 Pros and Cons : 開放手術	泌尿器科	杉多良文	第30回	日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	大阪	2021.7.3
Elastography, Strain ratio を用いた精索捻転症の評価の初期経験	泌尿器科	松崎和畑	第30回	日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	大阪	2021.7.3
腎盂形成周術期において感染関連因子は手術アウトカムへ影響を与えるか	泌尿器科	松崎和畑	第30回	日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	大阪	2021.7.3

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
異所性尿管瘤に対する経尿道的尿管穿孔手術の治療成績	泌尿器科	松崎和炯	第30回	日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会	大阪	2021.7.3
小児鼠径ヘルニア手術後精巣固定術を行った8例の臨床的検討	泌尿器科	高瀬雄太	第30回	日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会	大阪	2021.7.4
左陰囊無形成、左停留精巣に対して、包皮内板有茎皮弁を用いて陰囊形成、精巣固定術を一期的に施行した1例	泌尿器科	松崎和炯	第30回	日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会	大阪	2021.7.2-7.4
当院で行った腹腔鏡下2期的Powler-Stephens法の臨床的検討	泌尿器科	神野雅	第30回	日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会	大阪	2021.7.2-7.4
尿管膀胱移行部通過障害に対して新生児・乳児期に腎臓造設を行った症例	泌尿器科	神野雅	第30回	日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会	大阪	2021.7.2-7.4
尿管膀胱移行部狭窄症に対して新生児・乳児期に腎臓造設を行った症例の検討	泌尿器科	神野雅	第71回	日本泌尿器科学会 中部総会	名古屋	2021.10.7
海綿状血管腫及びリンパ管腫を伴った尿管遺残の1例	泌尿器科	高瀬雄太	第71回	日本泌尿器科学会 中部総会	名古屋	2021.10.7
先天性水腎症に関する新しい知見と取り組みに関して	泌尿器科	神野雅	第71回	日本泌尿器科学会 中部総会	名古屋	2021.10.8
単一腎盂尿管の腹腔鏡下腎摘除術：腎の固定の工夫	泌尿器科	神野雅	第35回	日本泌尿器内視鏡学会 総会	横浜市	2021.11.13
経尿道的尿管穿孔手術における異所性尿管瘤の治療成績	泌尿器科	松崎和炯	第35回	日本泌尿器内視鏡学会 総会	横浜市	2021.11.11-11.13
Reduced port surgeryによる小児腹腔鏡下腎摘除術	泌尿器科	高瀬雄太	第35回	日本泌尿器内視鏡学会 総会	横浜市	2021.11.11-11.13
Testicular dysgenesis syndromeの診断アプローチ	泌尿器科	春名晶子	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.7
Koyanagi technique for the single stage repair of proximal hypospadias	泌尿器科	Akiko Haruna	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.8
異所性尿管瘤に対する経尿道的尿管穿孔手術の治療成績	泌尿器科	松崎和炯	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.9
当院における腹腔鏡下精巣固定術の臨床的検討	泌尿器科	神野雅、三田淑恵、松崎和炯、春名晶子、杉多良文	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.9
小児鼠径ヘルニア手術後精巣固定術を行った8例の臨床的検討	泌尿器科	三田淑恵、松崎和炯、春名晶子、神野雅、杉多良文	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.9
Validation of testicular workup for ischemia and suspected torsion score in patients with acute scrotum	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Akiko Haruna, Yoshifumi Sugita.	第109回	日本泌尿器科学会総会	横浜市	2021.12.9
上顎正中部逆生理伏過剰歯における臨床的検討	小児歯科	曾根由美子	第59回	日本小児歯科学会学術大会	Web開催	2021.6.6-6.20
小児腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(LPEPC)において腰方形筋ブロックは有効か：後方視的検討	麻酔科	佐藤史弥、香川哲郎	第68回	日本麻酔科学会	Web開催	2021.6.3

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
肝外門脈閉塞症に伴う血小板輸血不応患者に対するRexシャント手術の麻酔経験	麻酔科	内本明宏、上嶋江利、渡邊亮太、香川哲郎	第26回	日本小児麻酔学会	宮城県仙台市	2021.10.16
多項目遺伝子関連検査を用いた術前発熱小児患者の手術実施可否の判断について	麻酔科	林大貴、末田彩、香川哲郎	第26回	日本小児麻酔学会	宮城県仙台市	2021.10.16
タナフトオロリック骨異形成症の長期生存患者に対する試験開腹術の麻酔経験	麻酔科	岡綾乃、藤原孝志、香川哲郎	第26回	日本小児麻酔学会	宮城県仙台市	2021.10.16
窒素吸入療法中に腸管穿孔を来した先天性心疾患新生児に対する同時手術(開腹術と肺動脈絞扼術)の麻酔経験	麻酔科	渡邊亮太、香川哲郎、野田祐一、藤原孝志、鹿原史寿子、大西広泰	第26回	日本心臓血管麻酔学会	Web開催	2021.10.23
13トリソミーを有する両大血管右室起始症の児に対する肺動脈絞扼術の際に大動脈基部損傷を来した症例	麻酔科	藤原孝志、南遼平、小西麻恵、田中康智、大西広泰、香川哲郎	第26回	日本心臓血管麻酔学会	Web開催	2021.10.23
重症血友病Aを合併したフローアロー四徴症の乳児に対する心内修復術の麻酔経験	麻酔科	渡邊亮太、池島典之、野田祐一、藤原孝志、大西広泰、香川哲郎	第26回	日本心臓血管麻酔学会	Web開催	2021.10.23
小児の区域麻酔の現状	麻酔科	香川哲郎	第41回	日本臨床麻酔学会	北海道札幌市	2022.11.6
Anesthesia for Pediatric Day Surgery	麻酔科	末田彩		KoreAnesthesia2021(韓国麻酔学会)	Busan, South Korea	2022.11.6
皮膚びららが全身に拡大した先天性ヘルペスウイルス感染症の超早産児例	新生児科	岩谷壮太、片岡大、平山健太郎、泉絢子、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第124回	日本小児科学会学術集会	京都市	2021.4.16-4.18
UnaGを用いた新たなアンパウンドピリルビン測定法の開発	新生児科	岩谷壮太	第124回	日本小児科学会学術集会	京都市	2021.4.16-4.18
在宅移行した18トリソミー27例の長期予後	新生児科	玉置祥子、芳本誠司、平山健太郎、泉絢子、大山正平、片岡大、生田寿彦、松井紗智子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第124回	日本小児科学会学術集会	京都市	2021.4.16-4.18
食道閉鎖症を合併した18トリソミーの臨床背景因子-単一施設27年間の検討-	新生児科	長谷部匡毅、岩谷壮太、西藤知城、柏坂舞、平山健太郎、泉絢子、片岡大、大山正平、生田寿彦、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第124回	日本小児科学会学術集会	京都市	2021.4.16-4.18
SGA児では臍帯静脈血および動脈血COHbが低値である	新生児科	岩谷壮太、片岡大、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第65回	日本新生児育成医学会	web	2021.5.7-5.9
新基準を用いて管理した早産児黄疸管理の実際	新生児科	片岡大、岩谷壮太、山内貴未、松井紗智子、玉置祥子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第65回	日本新生児育成医学会	web	2021.5.7-5.9
日齢28に後天性サイトメガロウイルス感染症を発生した在胎22週の超早産児	新生児科	山内貴未、岩谷壮太、片岡大、玉置祥子、松井紗智子、横田知之、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第65回	日本新生児育成医学会	web	2021.5.7-5.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
神戸市内の総合周産期母子医療センター2施設における新生児敗血症の発生動向調査	新生児科	生田寿彦、藤岡一路、芳本誠司、飯島一誠	第65回	日本新生児成育医学会	web	2021.5.7-5.9
心室中隔欠損症を合併した出生体重500g未満の超早産児2例	新生児科	玉置祥子、芳本誠司、片岡大、山内貴未、松井紗智子、岩谷壮太、三村仁美、中尾秀人	第65回	日本新生児成育医学会	web	2021.5.7-5.9
Early changes of serum IL-6 levels in preterm infants with culture-proven early-onset sepsis	新生児科	Takao Kobayashi, Sota Iwatani, Dai Kataoka, Takami Yamauchi, Sachiko Matsui, Shoko Tamaki.	第65回	日本新生児成育医学会	web	2021.5.7-5.9
超早産児における入院時低体温の予防	新生児科	原田晋二、岩谷壮太、平山健太郎、泉絢子、片岡大、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
早産児における高アンパウンドビリルビン血症の遷延	新生児科	平山健太郎、岩谷壮太、泉絢子、片岡大、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
回腸組織における好酸球増加から診断した食物蛋白誘発胃腸炎の超早産児1例	新生児科	片岡大、岩谷壮太、平山健太郎、泉絢子、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、前田真作、中尾秀人	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
急性期のオピオイドによる持続鎮静と動脈管閉鎖遷延の関連	新生児科	玉置祥子、芳本誠司、平山健太郎、泉絢子、大山正平、片岡大、生田寿彦、松井紗智子、三村仁美、中尾秀人	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
在胎週数毎の臍帯血アルブミン(UV-Alb)値の分布	新生児科	生田寿彦、岩谷壮太、平山健太郎、泉絢子、大山正平、片岡大、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、奥谷貴弘、中尾秀人	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
日本における新生児領域のNO吸入療法	新生児科	芳本誠司	第57回	日本周産期新生児学会 学術集会	宮崎市/ web	2021.7.11-7.13
超早産児における高アンパウンドビリルビン血症の遷延	新生児科	平山健太郎、岩谷壮太、泉絢子、片岡大、大山正平、生田寿彦、松井紗智子、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第19回	日本新生児黄疽管理研究会	web	2021.10.02
当院で周産期管理を行なった総排泄腔遺残症術後の自然妊娠の一例	産科	船越徹、窪田詩乃、金子めぐみ、荻野美智、松本培世、平久進也	第73回	日本産科婦人科学会学術講演会	新潟市	2021.4.22-4.25
双胎1児死産後4日目にdelayed interval deliveryとなつた1例	産科	松本培世、船越徹、平久進也、金子めぐみ、窪田詩乃、荻野美智	第144回	近畿産科婦人科学会学術集会	神戸市	2021.6.19-6.20
妊娠母体の子宮頸管粘液中におけるマイコプラズマ・ホモニースの検出	産科	窪田詩乃、松本培世、金子めぐみ、荻野美智、平久進也、船越徹	第57回	日本周産期新生児医学会	宮崎市	2021.7.11-7.13
完全第Ⅲ管転位症(transposition of the great arteries: TGA)の出生前診断の重要性	産科	平久進也、金子めぐみ、窪田詩乃、松本培世、荻野美智、船越徹、亀井直哉(同循環器内科)	第95回	兵庫県産科婦人科学会学術集会	神戸市	2021.8.1
子宮口全開大時に前置血管を認めた1例	産科	大和奈津子、船越徹、平久進也、荻野美智、松本培世、金子めぐみ、窪田詩乃	令和3年度	位育会臨床セミナー	神戸市	2021.8.21
過去5年間に当科で管理した胎児発育不全(FGR)182例の検討	産科	船越徹、大和奈津子、内山美穂子、金子めぐみ、窪田詩乃、荻野美智、松本培世、平久進也	第145回	近畿産科婦人科学会学術集会周産期研究部会	神戸市	2021.10.24

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
腸骨骨膜下血腫が発見の契機となった壊血病の1例	放射線診断科	杉岡勇典、堀内克俊、赤坂好宣	第57回	日本小児放射線学会学術集会	埼玉県さいたま市	2021.6.12
先天性嚢胞性肺疾患との鑑別に苦慮した肺内リンパ管腫の1例	放射線診断科	乗本周平、赤坂好宣、伊藤秀一、梅花優貴、岡野拓、田中宏明、松原菜穂子、川端和奈、金柁光憲、渡邊健太郎	第57回	日本小児放射線学会学術集会	埼玉県さいたま市	2021.6.12
新型コロナウイルス流行下で、小児集中治療はどのような影響を受けたのか	小児集中治療科	黒澤寛史(座長)	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.12
小児終末期医療の課題 小児患者は特別なのか	小児集中治療科	黒澤寛史(座長)	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.12
小児集中治療医からみた小児終末期医療の課題	小児集中治療科	制野勇介	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.12
JIPADへの小児症例登録の推進	小児集中治療科	黒澤寛史	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.14
小児集中治療の基礎の基礎	小児集中治療科	黒澤寛史(座長)	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.14
医療資源分解を医療者の立場から	小児集中治療科	制野勇介	第48回	日本集中治療医学会	オンライン	2021.2.14
最新の小児蘇生科学	小児集中治療科	黒澤寛史	第34回	日本小児救急医学会	奈良市	2021.6.19
血液浄化療法・ECMO・ECMOによる低体温療法	小児集中治療科	黒澤寛史(座長)	第34回	日本小児救急医学会	奈良市	2021.6.20
当科におけるECPR症例の後方視的検討	小児集中治療科	宮下徳久、青木一憲、黒澤寛史	第34回	日本小児救急医学会	奈良市	2021.6.18
先天性気管狭窄を例としたICU管理の質の向上	小児集中治療科	黒澤寛史、青木一憲	第43回	日本呼吸療法医学会	横浜市	2021.7.3
右肺腫瘍	兵庫県立こども病院 1)病理診断科、 2)小児外科、 3)新生児科、 4)血液腫瘍科、 5)放射線診断科、 神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科6)、神奈川県立こども医療センター 病理診断科7)	西野彰悟1)6)、黒田靖浩2)、島山理2)、玉置祥子3)、芳本誠司3)、長谷川大一郎4)、小阪嘉之4)、杉岡勇典5)、赤坂好宣5)、田中水緒7)、吉田敦子1)	2021年度	2021年度小児腫瘍症例検討会	オンライン	2021.9.4

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
皮膚腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、形成外科2)、血液腫瘍科3)、放射線診断科4)、神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科5)、高砂市市民病院 形成外科6)、九州大学大学院医学研究院 形態機能病理学7)、九州大学病院 病理診断科病理部8)、慶応義塾大学医学部 病理診断学部9)	西野彰悟1)5)、吉田牧子1)、平山泰樹2)6)、小野田素大2)、斎藤敦郎3)、長谷川大一郎3)、小坂嘉之3)、杉岡勇典4)、赤坂好宣4)、孝橋寛一7)、木下伊寿美7)8)、大喜多肇9)	第94回	日本病理学会近畿支部 学術集会症例検討会	オンライン	2021.9.11
骨髄腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科1)、血液腫瘍科2)、放射線診断科3)、神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科4)	西野彰悟1)4)、清水祐里1)4)、吉田牧子1)、西村明紘2)、石田敏章2)、長谷川大一郎2)、小坂嘉之2)、杉岡勇典3)、赤坂好宣3)	第95回	日本病理学会近畿支部 学術集会症例検討会	オンライン	2021.12.4
小児上行結腸に発生した Perivascular epithelioid cell tumor (PEComa) の1例 A case of Perivascular epithelioid cell tumor (PEComa) in the pediatric ascending colon	兵庫県立こども病院 1)病理診断科、2)小児外科、3)血液腫瘍科、4)放射線診断科、神奈川県立こども医療センター 病理診断科5)	吉田牧子1)、鮫島由友2)、森田圭一2)、石田敏章3)、小坂嘉之3)、赤坂好宣4)、田中水緒5)、田中祐吉5)	第110回	日本病理学会春の総会	ハイブリッド 東京都 新宿区/ オンライン	2021.4.22-6.28
デュピルマブ在宅自己注射を要する思春期患者の治療継続を支えるケア	看護部 外来	堀井佳奈子	第37回	小児臨床アレルギ学会	Web開催	2021.6.14
二分脊椎の子どもの自分からだと健康管理行動を結びつけて理解する体験	看護部 6東	碓定永里雅	第31回	日本小児看護学会	Web開催	2021.6.26-27 7.1-30
COVID-19パンデミックにより小児集中治療室で行われた面会禁止の影響と遠隔面会の有用性の検討	看護部 PICU	坂本佳津子	第5回	日本集中治療医学会 西支部会	Web開催	2021.7.24

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
反回神経麻痺のある左心低形成の乳児の経口摂取獲得への支援	看護部(5F病棟)	森本葉子	第26・27回合同開催	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	名古屋 (Web開催)	2021.8.19-21
集中治療室におけるカテーテル関連尿路感染症発生の後方視的観察研究	手術室	筆頭・守谷奈保美(共同研究者:新谷茜)	第36回	日本環境感染症学会総会・学術集会	名古屋 (Web開催)	2021.9.19-20
家族支援の困難事例を読み解く!〜家族システムの視点から支援の糸口を見出す〜家族内システムのアセスメント	看護部 外来	浅井桃子	第28回	日本家族看護学会学術集会	Web開催	2021.10.2-3
看護交流セッション「どうした・どうする? コロナ禍の面会と家族ケア〜文献やデータから見るPICUにおけるコロナ禍の家族面会と家族ケア〜」	看護部 PICU	坂本佳津子	第28回	小児集中治療ワークショップ	埼玉	2021.10.23
長期フォローアップ外来における乳幼児期発症の小児がん経験者と家族への支援	看護部 外来	小澤一美	第19回	小児がん看護学会学術集会	Web開催	2021.11.26-27
子ども・家族中心ケアを考えよう	看護部 外来	中谷扶美	第19回	小児がん看護学会学術集会	Web開催	2021.11.26-27
小児がん患者のきょうだいにに対する支援ツールの効果の検討	看護部 7東	今真優、殿垣内彩紗、濱田米紀	第19回	日本小児がん看護学会学術集会	Web開催	2021.12.2-17
小児のスキケンケア〜低出生体重児のスキケンケア	看護部	鎌田直子	第11回	近畿小児WOCケア勉強会	神戸市	2021.12.18
子どもと家族にエールをおくるWOCナース活動	看護部	鎌田直子	第31回	近畿小児WOCケア勉強会	神戸市	2021.12.18
小児がんを罹患した高校生と家族が入院治療中に求める学習支援	看護部 外来	栗林佑季	第4回	AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会	Web開催	2022.3.20-21
当院における無輸血小児開心術中の輸血に関する検討	看護部 臨床工学士	三坂勇介	第46回	日本体外循環技術医学大会	東京都	2021.10.16-17
小児領域における人工心肺開始前のヘパリン初回投与量の検討	看護部 臨床工学士	土井一記	第46回	日本体外循環技術医学大会	東京都	2021.10.16-17
小児専門病院集中治療室におけるバンコマイシン初期投与設計マニュアル導入による効果	薬剤部	磯元啓吾、大竹正悟、藤田愛美、多々見俊輔、陣田剛志、藤原康浩、垣尾尚美、黒澤寛史、笠井正志、合田泰志	第48回	日本小児臨床薬理学会学術集会	兵庫県 神戸市	2021.10.23-24
小児の発熱性好中球減少症における緑色連鎖球菌血症に対する最適治療	薬剤部	多々見俊輔、藤田愛美、陣田剛志、垣尾尚美、石原奈央子、齋藤あゆみ、井上真帆、岡本沙央理、藤原康浩、垣尾尚美、合田泰志、百々菜月、田中裕也	第69回	日本化学療法学会西日本支部総会	岐阜県 岐阜市	2021.11.5-7
薬剤師によるアドレナリン自己注射(エピペン®)薬剤指導の有効性	薬剤部	松谷春花、石原奈央子、齋藤あゆみ、門倉史枝、磯元啓吾、藤原康浩、垣尾尚美、合田泰志	第58回	日本小児アレルギー学会学術大会	神奈川県 横浜市	2021.11.13-14
小児薬用量に関する情報収集方法の検討	薬剤部	山田怜奈、高橋美賀、研真梨子、多々見俊輔、陣田剛志、磯元啓吾、藤原康浩、垣尾尚美、合田泰志	第43回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	滋賀県 大津市	2022.1.29-30
疑義照会事例実態調査に基づき注射薬処方箋単位間違い対策の検討	薬剤部	山田怜奈、高橋美賀、研真梨子、多々見俊輔、陣田剛志、磯元啓吾、藤原康浩、垣尾尚美、合田泰志	第43回	日本病院薬剤師会近畿学術大会	滋賀県 大津市	2022.1.29-30

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児がん患者におけるシスプラチンの腎毒性の発現状況について	薬剤部	研真梨子、池啓伸、藤原康浩、垣尾尚美、合田泰志	第11回	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022	宮城県 仙台市	2022.3.12-13
小児期発症慢性腎臓病患者のトランジションを見据えた管理栄養士の関わり	栄養管理部	鳥井隆志	第36回	日本臨床栄養代謝学会学術総会	神戸市 Web	2021.7.22
低脂質食の継続により20年間急性性肺炎を発症していないLPL欠損症の1例	栄養管理部	鳥井隆志、深津章子、川脇恵、下浦佳之	第53回	日本動脈硬化学会総会・学術総会	京都市 Web	2021.10.23
造影剤の漏出事例についてーデイスカッションー	放射線部	前田啓明	第4回	イメージングびあ	Web開催	2021.2.6
X線CTにおける造影剤の血管外漏出の現状と再発防止に関する提言！	放射線部	前田啓明	第55回	兵庫県放射線技術師会 西播支部学術講演会	Web開催	2021.3.13
ダイヤモンド線量計を用いた電子線PDD測定	放射線部	前田貴彦	第49回	日本放射線技術師学会秋季学術大会	Web開催	2021.10.16
造影剤の漏出事例についてー県立病院における実態調査ー	放射線部	前田啓明	第37回	日本診療放射線技術師学術大会	Web開催	2021.11.12
前立腺癌IMRTのIGRTにおける石灰化有無での照合制度の比較	放射線部	前田貴彦	第34回	日本放射線腫瘍学会	Web開催	2021.11.13

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
突然の幼児の傷、ヘアターニケットかも 紺野あさ美さん投稿で話題に	救急科	竹井寛和	朝日新聞 (https://www.asahi.com/articles/ASPC14RKCPCB0PTIL00G.html?ref=pc_photo_gallery_breadcrumb)	2021.11.4
赤ちゃんの指がうっ血する「ヘアターニケット症候群」。機嫌が悪い、泣き止まないときは要注意！	救急科	竹井寛和	HugKum (はぐくむ) (https://hugkum.sho.jp/303993)	2021.12.9
食物依存性運動誘発アナフィラキシー	アレルギー科	田中裕也	読売新聞	2021.11.16
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	ニュースキャスト (朝日放送)	2021.5.15
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	あさチャン！ (TBS)	2021.5.11
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	よんちゃんTV (MBS)	2021.5.14
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	ZIP! (日本テレビ)	2021.5.20
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	かんさい情報ネット ten! (読売テレビ)	2021.8.20
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	報道ランナー (関西テレビ)	2021.8.24
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	情報ライブミヤネ屋 (読売テレビ)	2021.8.24
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	報道ステーション (テレビ朝日)	2021.8.24
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	よんちゃんTV (MBS)	2021.8.25
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	あさチャン！ (TBS)	2021.8.25
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	ニュースキャスト (朝日放送)	2021.8.27
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	聖教新聞	2021.8.30
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	神戸新聞	2021.8.28
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	やさしいニュース (テレビ大阪)	2021.9.7
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	神戸新聞	2021.10.10
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	毎日新聞	2021.10.10
小児の COVID-19	感染症内科	笠井正志	かんさい情報ネット ten! (読売テレビ)	2021.11.15
mRNA ワクチン	感染症内科	笠井正志	大阪日日新聞	2021.12.1

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫教育大学	公認心理師実習	2	2021.10.19～12.7(8～9日間)	精神科
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	2021.6.22～7.9	歯科外来・他
兵庫歯科衛生士学院		1	2021.9.1～9.29	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	2021.10.14～10.22	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科		2	2021.11.1～11.19	歯科外来・他

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	統合看護 (中止)	8	6/11	WEBカンファレンス参加 (7東5西)
		17	7/5～7/15(9日間)	病棟 (7東 6東 5西 救急・HCU)
	18	10/4～10/14(9日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	18	10/18～10/28(9日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	18	11/1～11/11(9日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	18	11/15～11/25(8日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	18	11/29～12/9(9日間)	病棟 (7東 6東 5東 救急・HCU)	
	総合看護 (母性) (中止)	9	6/8	WEB 講義 (産科師長)
	生涯広域看護 (母性)	9	6/21～6/30(8日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
		9	7/5～7/15(9日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
		9	10/18～10/28(9日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
	生涯広域看護 (母性)	9	11/1～11/11(9日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
		9	11/15～11/25(8日間)	病棟 (産科 NICU GCU)
9		11/29～12/9(9日間)	病棟 (産科 NICU GCU)	
実践研究 WEB インタビュー	2	8/8・8/13・8/19・8/23・8/27・8/30 (6日間)	病棟 (産科 NICU)	
関西医科大学 看護学部	統合実習 (中止)	9	5/24～6/3	

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学（看護学科定時制）（中止）	5	8/23～9/3	
		5	9/6～9/17	
		5	9/21～10/1	
神戸常磐大学	助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅲ（中止） 総合実習	3	1/18～1/20(3日間)	病棟（NICU GCU）
		3	1/25～1/27	
		8	6/21～6/25(5日間)	病棟（7西 6西）
神戸常磐短期大学部	短期大学通信制課程 総合実習	4	6/28～7/2(5日間)	病棟（6西）
		10	8/5～8/6(2日間)	病棟（7東 5西 5東 救急・HCU）
		5	6/22～7/1(8日間)	病棟（5西）
姫路大学	小児看護学実習	5	10/5～10/8(4日間)	病棟（5西）
		5	10/19～10/22(4日間)	病棟（5西）
		5	10/26～10/29(4日間)	病棟（5西）
		4	11/9～11/12(4日間)	病棟（5西）
		4	11/16～11/19(4日間)	病棟（5西）
		4	12/14～12/17(4日間)	病棟（5西）
		4	2/1～2/4	
		4	2/7～2/10	
		8	6/21～6/25(5日間)	病棟（7東 救急・HCU）
		4	7/5～7/9(5日間)	病棟（7西）
関西国際大学	統合看護実習（小児看護学） 統合看護実習（母性看護学）	5	7/26～7/28 8/10～8/19(10日間)	病棟（産科）
		5	7/26～8/5 8/10～8/17（14日間）	病棟（産科）
		5	8/2～8/13(9日間)	病棟（産科 NICU GCU）
神戸市看護大学	ウイメンズヘルス看護 （中止 WEB） ウイメンズヘルス看護	3	9/28	WEB オンライン参加（GCU）
		3	9/30	WEB オンライン参加（GCU）
		3	10/4～10/5(2日間)	病棟（NICU GCU）
		3	10/6～10/7(2日間)	病棟（NICU GCU）
		3	10/12～10/13(2日間)	病棟（NICU GCU）
		3	10/14～10/15(2日間)	病棟（NICU GCU）

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸女子大学 小児	総合実習 (中止 WEB)	6	5/10-5/19・5/20-5/21・6/1・6/3 (6日間)	WEBカンファレンス参加 (7西 6西)
	成育看護実習Ⅱ (小児)	6	5/24-5/26・5/27・5/28・6/8・6/10(6日間)	WEBカンファレンス参加 (7西 6西)
	成育看護実習Ⅱ (小児) (短縮)	11	7/26～8/5(9日間)	病棟 (7西 6西)
	課題探求 (中断)	11	10/1～10/7(5日間)	病棟 (7西 6西)
	課題探求 (中止 WEB)	3	8/16～8/27(4日間)	病棟 (7西 6西)
	課題探求 (中止 WEB)	6	インタビュー-7西2人 保育士1人(7日間)	病棟 (7西 6西)
神戸女子大学 助産	総合実習 (中止 WEB)	3	9/24	WEBカンファレンス参加 (産科 NICU)
関西看護医療大学			9/27～9/30	
	小児看護学実習 (中止)		1/24～1/27	
			2/7～2/10	
姫路獨協大学	小児看護学実習	3	10/25～10/27(3日間)	病棟 (6西)
	小児看護学実習 (中止)		2/14～2/16	
兵庫医療大学	小児看護学実習	6	1/11～1/14(4日間)	病棟 (7西 救急・HCU)
		6	1/17～1/21(5日間)	病棟 (7西 救急・HCU)
			1/24～1/28	
			1/31～2/4	
	小児看護学実習 (中止)		2/7～2/10	
			2/14～2/18	
甲南女子大学	母子看護実習Ⅱ小児看護学領域 (中止 WEB)	8	9/1	WEBカンファレンス参加 (7西6西)
		8	9/8	WEBカンファレンス参加 (7西6西)
大手前大学	母子看護実習Ⅱ小児看護学領域	5	11/8～11/12(5日間)	病棟 (7西 6西)
		7	11/15～11/19(5日間)	病棟 (7西 6西)
	小児看護学実習	4	R4/1/17～1/21(5日間)	病棟 (6西)
	小児看護学実習 (中止)		1/24～1/28	
			1/31～2/48	

病院見学実習

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
平成淡路看護専門学校	小児看護学実習	36	10/26 1/24 中止	病院内見学

大学院生

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸市看護大学大学院	看護学研究科 博士前期課程 実践看護学領域小児看護学分野研究コース	30	8/16～8/30	NICU GCU
		1	10/4～12/24	救急・HCU
		1	8/16～8/30	NICU GCU
		1	10/6～12/24	5東
大阪府立大学大学院看護学研究科	博士前期課程家族看護学分野 家族看護学実習Ⅰ	1	8/23～8/27	外来 浅井 CNS が調整
		1		外来 浅井 CNS が調整
神戸女子大学大学院	博士前期課程家族看護学分野 家族看護学研究科専門看護師コース小児看護学実習Ⅲ	1	R4/2/28～3/4	外来 5西病棟
		1	7/5～9/30	5東
		1	10/6～11/24	外来 5東
兵庫県立大学大学院	小児高度実践看護学実習Ⅰ	1	10/4～R4/2/8	6西 5東

社会人

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
社会福祉法人 養徳会 医療福祉センターのぎく	日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師認定要件のための研修	1	R4/1/28	NICU
社会福祉法人 養徳会 医療福祉センターきずな		1		

薬剤部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大学	実務実習	3	2021.5.24～2021.8.8	薬剤部・病棟
大阪医科薬科大学	実務実習	1	2021.5.24～2021.8.8	薬剤部・病棟
神戸学院大学	実務実習	2	2021.8.23～2021.11.7	薬剤部・病棟
兵庫医療大学	実務実習	1	2021.8.23～2021.11.7	薬剤部・病棟
同志社女子大学	実務実習	1	2021.8.23～2021.11.7	薬剤部・病棟
神戸学院大学	実務実習	2	2021.11.22～2022.2.13	薬剤部・病棟

栄養管理部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	4	3/8～3/12	栄養管理部
兵庫県立大学	臨床栄養学 給食経営管理 臨地実習	7	3/8～3/12	栄養管理部
神戸学院大学	管理栄養士 臨地実習	3	8/23～8/27(1) 8/30～9/3(3) 9/6～9/10(1)	栄養管理部
武庫川女子大学	臨床栄養学 臨地実習	2	5/17～5/21 10/4～10/8	栄養管理部
神戸松蔭女子学院大学	臨床栄養学 臨地実習	2	5/17～5/21 10/4～10/8	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学 臨地実習	2	10/11～10/22	栄養管理部
甲南女子大学	臨床栄養学 臨地実習	2	10/18～10/29	栄養管理部

検査・放射線部（検査）

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大学 栄養学部	臨床検査 臨地実習	2	8.16～8.19	検査部
神戸大学 医学部 保健学科	臨床検査 臨地実習	2	10.26～11.12	検査部

リハビリテーション部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
大阪人間科学大学 理学療法学科	理学療法実習 I	1	2021.9.21～9.22	リハビリテーション室
神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科	言語聴覚療法実習 II	1	2021.8.23～9.13	リハビリテーション室、耳鼻咽喉科外来

②研修生
診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県立尼崎総合医療センター	初期臨床研修医	1	2021.9.1～9.30	兵庫県立こども病院総合診療科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科専攻医プログラム	1	2021.3.4～2021.3.31(週3日、月～水)	病理診断科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科	神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科専攻医プログラム	1	2021.8.1～2021.8.31(週3日、月～水)	病理診断科

6) 研修 (2021年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者 / 担当	所属科名
令和3年度 兵庫県立こども病院 周産期医療センター 研修会	産科・新生児 内科・小児外 科	12月11日	14:00～17:00	2階講堂	21	74	95	1) 要 (四) 胎妊娠の帝王切開術におけるチーム医療の取り組み シミュレーションを実施して一妊娠中からのEPDSを開始して母乳栄養確立に向けた取り組みと母乳外来の受診状況 2) 胎児期より異常所見の指摘があり、生後に診断に至った奇形症候群の3例 3) これからの出生前遺伝学的検査の提供体制	1) 寺澤美展、津田佳織、日浅奈々 2) 大山正平 3) 山田崇弘	1) 産科病棟助産師 2) 新生児内科 3) 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部 / 倫理支援部 特定准教授
第4回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会 (HART)	当院 ICC.AST	12月12日	10:30～12:15	Web 開催	15	89	104	多職種に知ってもらいたい急性中耳炎～診断から治療まで～	大竹正悟医師	感染症内科
第28回こども病院院内研修会	研修教育委員会	11月25日	17:45～18:30	2階講堂	43	12 (WEB)	55	『心電図の読み方』 『心電図モニターの見方』	池田百香 加藤泰弘	検査部 フリップス・ジャパン

V ボランティア

令和3年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティアの状況

ボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	1～2/月 (7～3月)	3人	ボランティア室

イベントボランティアの状況

イベントボランティア	内容	活動頻度	活動人数	活動場所
ワンダーアートプロダクション 代表 高橋 雅子	「ハッピードールプロジェクト」 “ハッピードール”の制作を通して、患者・家族の心を応援する	1回	院内保育士が協力	一般病棟

*今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、院内の「新型コロナウイルスマップ」に準じて患者に接触する個人ボランティア、イベントボランティアの活動は実施していない

